

SEWB+/標準サブルーチン ライブラリリファレンス

手引書

3020-3-B86-10

前書き

■ 対象製品

P-2451-F244 S EWB + / 標準サブルーチン 04-03 (適用 OS : Windows Server 2003, Windows Server 2008, Windows Server 2012, Windows Server 2016)

P-2651-F244 S EWB + / 標準サブルーチン 04-03 (適用 OS : Windows XP, Windows Vista, Windows 7, Windows 8, Windows 10)

P-2951-F144 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4) 04-03 (適用 OS : Windows 10)

P-2951-F244 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4) 04-03 (適用 OS : Windows Server 2012, Windows Server 2016)

P-1M51-FC31 S EWB + / 標準サブルーチン 03-02 (適用 OS : AIX 5L V5.3, AIX 6.1, AIX 7.1, AIX 7.2)

P-1M51-FD31 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4) 03-02 (適用 OS : AIX 7.1, AIX 7.2)

P-9W51-FD31 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4) 03-02 (適用 OS : RHEL 5 AP (EM64T), RHEL 5 (EM64T), RHEL 6 (EM64T), RHEL 7 (EM64T))

■ 輸出時の注意

本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法の規制並びに米国輸出管理規則など外国の輸出関連法規をご確認の上、必要な手続きをお取りください。

なお、不明な場合は、弊社担当営業にお問い合わせください。

■ 商標類

HITACHI, SEWB は、株式会社 日立製作所の商標または登録商標です。

IBM, AIX は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

AMD は、Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Intel は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Itanium は、アメリカ合衆国および / またはその他の国における Intel Corporation の商標です。

Linux は、Linus Torvalds 氏の日本およびその他の国における登録商標または商標です。

Microsoft は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Red Hat は、米国およびその他の国で Red Hat, Inc. の登録商標もしくは商標です。

UNIX は、The Open Group の米国ならびに他の国における登録商標です。

Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windows Vista は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

その他記載の会社名、製品名などは、それぞれの会社の商標もしくは登録商標です。

■ マイクロソフト製品の表記について

このマニュアルでは、マイクロソフト製品の名称を次のように表記しています。

表記			正式名称
Windows または PC	Windows Server 2016	Windows Server 2016 Standard	Microsoft Windows Server 2016 Standard 日本語版
		Windows Server 2016 Datacenter	Microsoft Windows Server 2016 Datacenter 日本語版
	Windows Server 2012	Windows Server 2012 Standard	Microsoft Windows Server 2012 Standard 日本語版
		Windows Server 2012 Datacenter	Microsoft Windows Server 2012 Datacenter 日本語版
		Windows Server 2012 R2 Standard	Microsoft Windows Server 2012 R2 Standard 日本語版
		Windows Server 2012 R2 Datacenter	Microsoft Windows Server 2012 R2 Datacenter 日本語版
	Windows Server 2008	Windows Server 2008 Standard	Microsoft Windows Server 2008 Standard 32-bit 日本語版
		Windows Server 2008 Enterprise	Microsoft Windows Server 2008 Enterprise 32-bit 日本語版
		Windows Server 2008 R2 Standard	Microsoft Windows Server 2008 R2 Standard 日本語版
		Windows Server 2008 R2 Enterprise	Microsoft Windows Server 2008 R2 Enterprise 日本語版
		Windows Server 2008 R2 Datacenter	Microsoft Windows Server 2008 R2 Datacenter 日本語版
	Windows Server 2003	Windows Server 2003 Standard	Microsoft Windows Server 2003, Standard Edition 日本語版
		Windows Server 2003 Enterprise	Microsoft Windows Server 2003, Enterprise Edition 日本語版

表記			正式名称	
Windows または PC	Windows Server 2003	Windows Server 2003 R2 Standard	Microsoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition 日本語版	
		Windows Server 2003 R2 Enterprise	Microsoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版	
	Windows 10	Windows 10 Pro	Windows 10 Pro 日本語版(64 ビット版)	Windows 10 Pro 日本語版(64 ビット版)
			Windows 10 Pro 日本語版(32 ビット版)	Windows 10 Pro 日本語版(32 ビット版)
		Windows 10 Enterprise	Windows 10 Enterprise 日本語版(64 ビット版)	Windows 10 Enterprise 日本語版(64 ビット版)
			Windows 10 Enterprise 日本語版(32 ビット版)	Windows 10 Enterprise 日本語版(32 ビット版)
	Windows 8	Windows 8.1 Pro	Windows 8.1 Pro 日本語版(64 ビット版)	Windows 8.1 Pro 日本語版(64 ビット版)
			Windows 8.1 Pro 日本語版(32 ビット版)	Windows 8.1 Pro 日本語版(32 ビット版)
		Windows 8.1 Enterprise	Windows 8.1 Enterprise 日本語版(64 ビット版)	Windows 8.1 Enterprise 日本語版(64 ビット版)
			Windows 8.1 Enterprise 日本語版(32 ビット版)	Windows 8.1 Enterprise 日本語版(32 ビット版)
		Windows 8 Pro	Windows 8 Pro 日本語版(32 ビット版)	Windows 8 Pro 日本語版(32 ビット版)
	Windows 8 Enterprise	Windows 8 Enterprise 日本語版(32 ビット版)	Windows 8 Enterprise 日本語版(32 ビット版)	
	Windows 7	Windows 7 Professional	Microsoft Windows 7 Professional 日本語版(32 ビット版)	Microsoft Windows 7 Professional 日本語版(32 ビット版)
		Windows 7 Enterprise	Microsoft Windows 7 Enterprise 日本語版(32 ビット版)	Microsoft Windows 7 Enterprise 日本語版(32 ビット版)
		Windows 7 Ultimate	Microsoft Windows 7 Ultimate 日本語版(32 ビット版)	Microsoft Windows 7 Ultimate 日本語版(32 ビット版)
	Windows Vista	Windows Vista Ultimate	Microsoft Windows Vista Ultimate 日本語版	Microsoft Windows Vista Ultimate 日本語版
		Windows Vista Enterprise	Microsoft Windows Vista Enterprise 日本語版	Microsoft Windows Vista Enterprise 日本語版
Windows Vista Business		Microsoft Windows Vista Business 日本語版	Microsoft Windows Vista Business 日本語版	
Windows XP	Windows XP Home Edition	Microsoft Windows XP Home Edition Operating System	Microsoft Windows XP Home Edition Operating System	
	Windows XP Professional	Microsoft Windows XP Professional Operating System	Microsoft Windows XP Professional Operating System	



■ 発行

2018年8月 3020-3-B86-10

■ 著作権

All Rights Reserved. Copyright (C) 2014, 2018, Hitachi, Ltd.

変更内容

変更内容 (3020-3-B86-10) S E W B + / 標準サブルーチン

追加・変更内容	変更箇所
次に示す製品形名の追加に伴い、形名の記述を追加した。 • P-2951-F144	—
次に示す製品形名の廃止に伴い、形名および HP-UX に関する記述を削除した。 • P-1J51-FD31	—
適用 OS に Windows Server 2016 および AIX 7.2 を追加した。	—
年号および祝祭日区分の変更への対応に関する記述を追加した。	1.5, 3 章, 付録 C.1, 付録 E

単なる誤字・脱字などはお断りなく訂正しました。

変更内容 (3020-3-B86-01) S E W B + / 標準サブルーチン

追加・変更内容
環境変数 CBLLANG から EUC 対応版の記述を削除した。

変更内容 (3020-3-B86) S E W B + / 標準サブルーチン

追加・変更内容
製品名を次のように変更した。 [変更前] SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE [変更後] S E W B + / 標準サブルーチン これに伴い、マニュアル名およびマニュアル資料番号を次のように変更した。 [変更前] SEWB+/STANDARD-SUBROUTINE 標準サブルーチン ライブラリリファレンス (3020-3-B85) [変更後] SEWB+/標準サブルーチン ライブラリリファレンス (3020-3-B86)
次に示す製品形名の追加に伴い、形名の記述を追加した。 • P-2951-F244 • P-1M51-FD31
適用 OS に Windows 10 および RHEL 7 (EM64T) を追加した。
山の日にに関する記述を追加した。

はじめに

このマニュアルは、次に示す製品の機能と使い方について説明したものです。

- P-2451-F244 S EWB + / 標準サブルーチン
- P-2651-F244 S EWB + / 標準サブルーチン
- P-2951-F144 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4)
- P-2951-F244 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4)
- P-1M51-FC31 S EWB + / 標準サブルーチン
- P-1M51-FD31 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4)
- P-9W51-FD31 S EWB + / 標準サブルーチン (6 4)

■ 対象読者

このマニュアルは、COBOL2002 を使用したアプリケーションプログラムを作成する方を対象としています。また、COBOL の基本文法を理解していることを前提としています。

目次

前書き	2
変更内容	6
はじめに	7

1 標準サブルーチンの概要 16

1.1	標準サブルーチンの特徴	17
1.1.1	標準データ項目に対する処理を行う部品（COBOL 外部サブルーチン）の提供	17
1.1.2	プラットフォーム間で互換性のあるサブルーチンの提供	17
1.1.3	データ中心アプローチに基づく部品化・再利用の推進	18
1.2	標準サブルーチンの適用方法	19
1.2.1	Windows 用標準サブルーチンの適用方法	19
1.2.2	AIX 用標準サブルーチンの適用方法	24
1.2.3	Linux(EM64T)用標準サブルーチンの適用方法	28
1.3	標準サブルーチンの呼び出し方法	34
1.4	標準サブルーチンの分類と命名基準	36
1.5	標準サブルーチンの年号および祝祭日区分の変更への対応	37
1.5.1	標準サブルーチンが取り込む設定情報の変更に必要なファイル	37
1.5.2	年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの概要	38
1.5.3	カスタマイズ情報設定ファイルのチェックの概要	40

2 標準サブルーチンの仕様 41

	標準サブルーチンの一覧	42
	標準サブルーチン仕様書	50
LXRPIA01	文字コードチェック	52
LXRPIA03	文字属性チェック	54
LXRPIA05	文字列シフト	56
LXRPIA06	文字列左詰め	58
LXRPIA07	文字列右詰め	60
LXRPIA08	文字列中央揃え	62
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	64
LXRPIA10	数字文字列チェック／入力編集	66
LXRPIA11	数字チェック／右詰め編集	68
LXRPIA12	数字文字列コンマ挿入	70
LXRPIA13	文字列前後反転	72
LXRPIA14	指定文字削除	74
LXRPIA15	空白削除	76
LXRPIA16	不要空白削除	78

LXRPIA17	第1文字列取得	80
LXRPIA19	文字列交互挿入	82
LXRPIA20	EBCDIK/KEIS 混在文字列出力編集	84
LXRPIA21	後方スペース機能キャラクタ置換	86
LXRPIA22	半角カナ文字入力チェック	88
LXRPIA23	混在文字列チェック	90
LXRPIA24	混在文字列チェック (含外字)	92
LXRPIA25	英数字チェック/編集	94
LXRPIA26	数字チェック/数値変換	96
LXRPIA27	数字範囲チェック/数値変換	99
LXRPIA28	文字列切断	103
LXRPIB01	漢字コードチェック	105
LXRPIB02	漢字コードチェック (含外字)	107
LXRPIB03	漢字シフト	109
LXRPIB04	漢字データ左詰め	111
LXRPIB05	漢字データ右詰め	113
LXRPIB06	漢字データ中央揃え	115
LXRPIB07	漢字データ有効桁数算出	117
LXRPIB08	空白削除 (漢字データ)	119
LXRPIB09	不要空白削除 (漢字データ)	121
LXRPIB10	漢字交互挿入	123
LXRPIB11	不当漢字コード置換	125
LXRPIB12	機能キャラクタ削除	127
LXRPIB13	全角空白→半角空白置換	129
LXRPIB14	半角空白→全角空白置換	131
LXRPIB15	漢字交互挿入 (含外字)	133
LXRPIB16	不当漢字コード置換 (含外字)	135
LXRPIC01	半角→全角変換	137
LXRPIC02	全角→半角変換	140
LXRPIC03	EBCDIK→JIS 変換	142
LXRPIC04	JIS→EBCDIK 変換	144
LXRPIC05	JIS 漢字→KEIS 変換	146
LXRPIC06	KEIS→JIS 漢字変換	148
LXRPIC07	16進文字列→バイナリ変換	150
LXRPIC08	バイナリ→16進文字列変換	152
LXRPIC09	2進文字列→バイナリ変換	153
LXRPIC10	バイナリ→2進文字列変換	154
LXRPIC11	KEIS83→KEIS78 変換	155
LXRPIC12	KEIS78→KEIS83 変換	157
LXRPID01	実在日チェック (西暦)	159
LXRPID02	実在日チェック (和暦)	161
LXRPID03	年月日範囲内チェック (西暦)	163
LXRPID04	年月日範囲内チェック (和暦)	165
LXRPID05	年月日変換 (西暦→和暦)	167
LXRPID06	年月日変換 (和暦→西暦)	170

LXRPID07	年月日算出 (西暦年月日±年数)	172
LXRPID08	年月日算出 (和暦年月日±年数)	174
LXRPID09	年月日算出 (西暦年月日±月数)	176
LXRPID10	年月日算出 (和暦年月日±月数)	178
LXRPID11	年月日算出 (西暦年月日±日数)	180
LXRPID12	年月日算出 (和暦年月日±日数)	182
LXRPID13	期間算出 (西暦年月日間日数)	184
LXRPID14	期間算出 (和暦年月日間日数)	186
LXRPID15	期間算出 (西暦年月日間年月日)	188
LXRPID16	期間算出 (和暦年月日間年月日)	190
LXRPID17	月末日算出 (西暦年月日)	192
LXRPID18	月末日算出 (和暦年月日)	193
LXRPID19	通算週算出 (年始～西暦年月日)	195
LXRPID20	通算週算出 (年始～和暦年月日)	196
LXRPID21	年月日分類 (西暦)	198
LXRPID22	年月日分類 (和暦)	200
LXRPID23	年月日出力編集 (西暦)	202
LXRPID24	年月日出力編集 (和暦)	204
LXRPID25	うるう年判定 (西暦)	206
LXRPID26	うるう年判定 (和暦)	208
LXRPID27	年月日 (西暦) →一貫日変換	210
LXRPID28	年月日 (和暦) →一貫日変換	212
LXRPID29	一貫日→年月日 (西暦) 変換	214
LXRPID30	一貫日→年月日 (和暦) 変換	216
LXRPID31	日数算出 (西暦年月日～月末日)	218
LXRPID32	日数算出 (和暦年月日～月末日)	220
LXRPID33	年月日 (西暦) →曜日算出	222
LXRPID34	年月日 (和暦) →曜日算出	223
LXRPID35	曜日コードチェック／編集	225
LXRPID36	年号コードチェック／編集	227
LXRPID37	年号コード変換 (英字→数字)	229
LXRPID38	年号コード変換 (数字→英字)	231
LXRPID39	年齢計算 (慣習)	233
LXRPID40	年齢計算 (法律)	235
LXRPID41	年月日 (西暦) 過去チェック	237
LXRPID42	年月日 (和暦) 過去チェック	239
LXRPID43	年月日 (西暦) 未来チェック	242
LXRPID44	年月日 (和暦) 未来チェック	244
LXRPID45	年月日 (西暦) 編集	247
LXRPID46	年月日 (和暦) 編集	249
LXRPID47	年月日変換 (西暦→和暦) 編集	252
LXRPID48	年月 (西暦) チェック	254
LXRPID49	年月 (和暦) チェック	256
LXRPID50	年月 (西暦) 過去チェック	258
LXRPID51	年月 (和暦) 過去チェック	260

LXRPID52	年月 (西暦) 未来チェック	262
LXRPID53	年月 (和暦) 未来チェック	264
LXRPID54	年月 (西暦) 編集	266
LXRPID55	年月 (和暦) 編集	268
LXRPID56	年月変換 (西暦→和暦) 編集	270
LXRPID57	年月変換 (西暦→和暦)	272
LXRPID58	年月変換 (和暦→西暦)	274
LXRPID59	年度 (西暦) チェック	276
LXRPID60	年度 (和暦) チェック	278
LXRPID61	年度 (西暦) 過去チェック	280
LXRPID62	年度 (和暦) 過去チェック	282
LXRPID63	年度 (西暦) 未来チェック	284
LXRPID64	年度 (和暦) 未来チェック	286
LXRPID65	年度 (西暦) 編集	288
LXRPID66	年度 (和暦) 編集	290
LXRPID67	年度変換 (西暦→和暦) 編集	293
LXRPID68	年度変換 (西暦→和暦)	295
LXRPID69	年度変換 (和暦→西暦)	297
LXRPID70	年 (西暦) チェック	299
LXRPID71	年 (和暦) チェック	301
LXRPID72	年 (西暦) 過去チェック	303
LXRPID73	年 (和暦) 過去チェック	305
LXRPID74	年 (西暦) 未来チェック	307
LXRPID75	年 (和暦) 未来チェック	309
LXRPID76	年変換 (西暦→和暦) 編集	311
LXRPID77	年変換 (西暦→和暦)	313
LXRPID78	年変換 (和暦→西暦)	315
LXRPID80	年度基準日取得	317
LXRPID81	年基準日取得	318
LXRPID88	システム日付取得変換 (8桁)	319
LXRPID90	処理期限年月日算出 (西暦)	321
LXRPID91	処理期限年月日算出 (和暦)	323
LXRPID92	通算日算出 (年始～西暦年月日)	325
LXRPID93	通算日算出 (年始～和暦年月日)	327
LXRPID94	年齢 (年月) 算出 (慣習)	329
LXRPID95	年齢 (年月) 算出 (法律)	331
LXRPIE01	時刻妥当性チェック (24時間)	333
LXRPIE02	時刻妥当性チェック (12時間)	335
LXRPIE05	24時間単位→12時間単位時刻変換	337
LXRPIE06	12時間単位→24時間単位時刻変換	339
LXRPIE07	経過時間算出 (24時間単位)	341
LXRPIE08	経過時間算出 (12時間単位)	343
LXRPIE09	時間加算	345
LXRPIE10	時間差算出	347
LXRPIE11	時刻編集	349

LXRPIE12	日時加減算 (西暦 12 時間単位)	352
LXRPIE13	日時加減算 (西暦 24 時間単位)	354
LXRPIE14	日時加減算 (和暦 12 時間単位)	356
LXRPIE15	日時加減算 (和暦 24 時間単位)	358
LXRPIE16	時間チェック	360
LXRPIE17	時間 (秒) →時間変換編集	362
LXRPIE18	時間→時間 (秒) 変換	365
LXRPIE19	時間 (秒) →時間変換	367
LXRPIE20	時間編集	369
LXRPIF01	氏名 (漢字) チェック	371
LXRPIF02	氏名 (半角カナ) チェック	373
LXRPIF03	氏名 (漢字) 分離編集	375
LXRPIF04	氏名 (半角カナ) 分離編集	377
LXRPIF05	氏名 (漢字) 結合編集	379
LXRPIF06	氏名 (半角カナ) 結合編集	381
LXRPIF07	郵便番号チェック/入力編集	383
LXRPIF08	郵便番号チェック/出力編集	385
LXRPIF09	金額編集	387
LXRPIF10	郵便番号チェック/入力編集 (5 桁および 7 桁)	390
LXRPIF11	郵便番号チェック/出力編集 (5 桁および 7 桁)	392
LXRPIF12	郵便番号チェック/入力編集 (7 桁)	394
LXRPIF13	郵便番号チェック/出力編集 (7 桁)	396
LXRPIF14	氏名 (漢字) チェック (含外字)	398
LXRPIF15	氏名 (漢字) 分離編集 (含外字)	400
LXRPIF16	氏名 (漢字) 結合編集 (含外字)	402
LXRPIG01	性別コードチェック/変換	404
LXRPIG02	学歴区分コードチェック/変換	406
LXRPIG04	地目コードチェック/変換	408
LXRPIG05	勘定科目コードチェック/変換	409
LXRPIG09	フラグチェック/変換	410
LXRPIG10	都道府県コードチェック/変換	412
LXRPIG11	有無チェック/変換	414
LXRPIG12	可否チェック/変換	416
LXRPIZ01	電話番号編集	418
LXRPIZ03	平方根算出	420
LXRPIZ04	チェックディジット計算	421
LXRPIZ05	インチ→センチメートル変換	423
LXRPIZ06	センチメートル→インチ変換	424
LXRPIZ07	ヤード→メートル変換	425
LXRPIZ08	メートル→ヤード変換	426
LXRPIZ09	キログラム→ポンド変換	427
LXRPIZ10	ポンド→キログラム変換	428
LXRPIZ11	パラメータ解析	429

3	標準サブルーチンで年号および祝祭日の変更に対応する方法	432
3.1	年号および祝祭日の変更で考慮する内容	433
3.1.1	年号の追加	433
3.1.2	祝祭日の変更	434
3.1.3	休日の変更	435
3.2	年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズ	436
3.2.1	年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れ	436
3.2.2	カスタマイズの準備	438
3.2.3	カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更	439
3.2.4	カスタマイズ情報設定ファイルのチェック	442
3.2.5	カスタマイズ情報設定ファイルの設定例	453
3.3	設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンの一覧	462
3.3.1	入力項目に和暦新年号コード（数字および英字）が追加されるサブルーチン	462
3.3.2	入力項目に和暦年号コード（数字）が追加されるサブルーチン	463
3.3.3	出力項目に和暦年号コード（数字）が追加されるサブルーチン	463
3.3.4	出力項目に和暦年号コード（英字）が追加されるサブルーチン	464
3.3.5	出力項目に年号（漢字）が追加されるサブルーチン	464
3.3.6	出力用項目の年号（漢字）または年号コードをユーザが選択出力できるサブルーチン	465
3.3.7	祝祭日区分を出力するサブルーチン	465
3.4	設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチン	466
3.4.1	LXRPID02（実在日チェック（和暦））	466
3.4.2	LXRPID04（年月日範囲内チェック（和暦））	468
3.4.3	LXRPID05（年月日変換（西暦→和暦））	469
3.4.4	LXRPID06（年月日変換（和暦→西暦））	471
3.4.5	LXRPID08（年月日算出（和暦年月日±年数））	473
3.4.6	LXRPID10（年月日算出（和暦年月日±月数））	474
3.4.7	LXRPID12（年月日算出（和暦年月日±日数））	475
3.4.8	LXRPID14（期間算出（和暦年月日間日数））	476
3.4.9	LXRPID16（期間算出（和暦年月日間年月日））	477
3.4.10	LXRPID18（月末日算出（和暦年月日））	477
3.4.11	LXRPID20（通算週算出（年始～和暦年月日））	478
3.4.12	LXRPID21（年月日分類（西暦））	479
3.4.13	LXRPID22（年月日分類（和暦））	479
3.4.14	LXRPID24（年月日出力編集（和暦））	480
3.4.15	LXRPID26（うるう年判定（和暦））	481
3.4.16	LXRPID28（年月日（和暦）→一貫日変換）	481
3.4.17	LXRPID30（一貫日→年月日（和暦）変換）	483
3.4.18	LXRPID32（日数算出（和暦年月日～月末日））	484
3.4.19	LXRPID34（年月日（和暦）→曜日算出）	484

3.4.20	LXRPID36	(年号コードチェック／編集)	485
3.4.21	LXRPID37	(年号コード変換 (英字→数字))	486
3.4.22	LXRPID38	(年号コード変換 (数字→英字))	488
3.4.23	LXRPID42	(年月日 (和暦) 過去チェック)	490
3.4.24	LXRPID44	(年月日 (和暦) 未来チェック)	491
3.4.25	LXRPID46	(年月日 (和暦) 編集)	492
3.4.26	LXRPID47	(年月日変換 (西暦→和暦) 編集)	493
3.4.27	LXRPID49	(年月 (和暦) チェック)	493
3.4.28	LXRPID51	(年月 (和暦) 過去チェック)	495
3.4.29	LXRPID53	(年月 (和暦) 未来チェック)	496
3.4.30	LXRPID55	(年月 (和暦) 編集)	498
3.4.31	LXRPID56	(年月変換 (西暦→和暦) 編集)	498
3.4.32	LXRPID57	(年月変換 (西暦→和暦))	499
3.4.33	LXRPID58	(年月変換 (和暦→西暦))	500
3.4.34	LXRPID60	(年度 (和暦) チェック)	501
3.4.35	LXRPID62	(年度 (和暦) 過去チェック)	502
3.4.36	LXRPID64	(年度 (和暦) 未来チェック)	504
3.4.37	LXRPID66	(年度 (和暦) 編集)	506
3.4.38	LXRPID67	(年度変換 (西暦→和暦) 編集)	507
3.4.39	LXRPID68	(年度変換 (西暦→和暦))	507
3.4.40	LXRPID69	(年度変換 (和暦→西暦))	508
3.4.41	LXRPID71	(年 (和暦) チェック)	510
3.4.42	LXRPID73	(年 (和暦) 過去チェック)	511
3.4.43	LXRPID75	(年 (和暦) 未来チェック)	513
3.4.44	LXRPID76	(年変換 (西暦→和暦) 編集)	514
3.4.45	LXRPID77	(年変換 (西暦→和暦))	514
3.4.46	LXRPID78	(年変換 (和暦→西暦))	516
3.4.47	LXRPID91	(処理期限年月日算出 (和暦))	517
3.4.48	LXRPID93	(通算日算出 (年始～和暦年月日))	517
3.4.49	LXRPID14	(日時加減算 (和暦 12 時間単位))	518
3.4.50	LXRPID15	(日時加減算 (和暦 24 時間単位))	519
3.5		新年号情報に設定変更した場合に影響があるリターンコード	521
3.5.1		新年号情報に設定変更した場合に追加および変更になるリターンコード	521
3.5.2		情報設定ファイルに起因するエラーリターンコード	522

付録 523

付録 A	EUC 対応版の仕様	524
付録 A.1	SJIS 対応版との処理の違い	524
付録 A.2	インタフェーステーブルの変更	526

付録 A.3	注意事項	527
付録 B	Unicode 対応版の仕様	528
付録 B.1	SJIS 対応版との処理の違い	528
付録 B.2	インタフェーステーブルの変更	530
付録 B.3	注意事項	531
付録 C	祝祭日・休日の有効期間	532
付録 C.1	祝祭日・休日	532
付録 C.2	春分の日・秋分の日	533
付録 C.3	国民の休日	535
付録 C.4	山の日	535
付録 C.5	そのほかの休日	536
付録 D	一部製品に含まれる旧仕様ライブラリ	538
付録 D.1	各製品に含まれる旧仕様ライブラリ	538
付録 D.2	現在システム日付を扱うサブルーチン一覧	538
付録 E	ファイルおよびエラーコード追加	540
付録 F	このマニュアルの参考情報	542
付録 F.1	関連マニュアル	542
付録 F.2	このマニュアルでの表記	542
付録 F.3	KB (キロバイト) などの単位表記について	543

索引 544

1

標準サブルーチンの概要

標準サブルーチンは、データ項目単位のチェック処理、入力編集処理、出力編集処理を行う COBOL 外部サブルーチンです。

この章では、標準サブルーチンの特徴、適用方法、呼び出し方法、分類と命名基準、標準サブルーチンの年号および祝祭日区分の変更への対応について説明します。

1.1 標準サブルーチンの特徴

標準サブルーチンの特徴を次に示します。

1.1.1 標準データ項目に対する処理を行う部品（COBOL 外部サブルーチン）の提供

データ項目に対応するチェック処理，入力編集処理，出力編集処理を COBOL 外部サブルーチンとして提供しています。これらを利用することでサブルーチンの設計・製造の手間を省くことができ，さらには単体テスト工程からサブルーチンを連動してテストできます。これによって，プログラム開発の生産性および品質を向上できます。

1.1.2 プラットフォーム間で互換性のあるサブルーチンの提供

プラットフォームによる差異（文字コードやエンディアンの違い，機能キャラクタの有無）を吸収した形で COBOL 外部サブルーチンを提供しています。したがって，開発環境が Windows で，実行環境が UNIX という場合でも，容易に移行できます。標準サブルーチンが対応しているプラットフォームを次に示します。

1. Windows

Windows Server 2016, Windows 10, Windows 8, Windows Server 2012, Windows 7, Windows Server 2008, Windows Vista, Windows Server 2003, Windows XP

2. UNIX

AIX 5L V5.3, AIX 6.1, AIX 7.1, AIX 7.2, RHEL 5 AP, RHEL 5, RHEL 6, RHEL 7

標準サブルーチンがサポートする文字コードを次の表に示します。

表 1-1 標準サブルーチンがサポートする文字コード

形名	プラットフォーム	文字コード			
		KEIS	EUC	SJIS	Unicode
P-2451-F244 P-2651-F244 P-2951-F144 P-2951-F244	Windows	×	○	○	○
P-1M51-FC31 P-1M51-FD31	AIX (32 ビットモード) AIX (64 ビットモード)	×	○	○	×
P-9W51-FD31	Linux(EM64T)	×	×	×	○

1.1.3 データ中心アプローチに基づく部品化・再利用の推進

データ項目単位に処理を実行するように設計してあるので、データ中心アプローチに基づく部品化・再利用を推進できます。

1.2 標準サブルーチンの適用方法

標準サブルーチンの適用方法について説明します。

1.2.1 Windows 用標準サブルーチンの適用方法

(1) 提供形態

Windows 用標準サブルーチンは、シングルスレッド対応版ライブラリを提供しており、文字コード形式の SJIS 対応版と EUC 対応版ではそれぞれにビッグエンディアン形式用（WS 版）とリトルエンディアン形式用（PC 版）、ライブラリファイル形式と DLL 形式の 4 種類（文字コード形式 SJIS/EUC と合わせ全 8 種類）が提供されます。また、文字コード形式の Unicode 対応版では文字データとバイナリデータのエンディアンの組み合わせで、ライブラリファイル形式と DLL 形式についてそれぞれ 4 種類（全 8 種類）のライブラリが提供されます。Windows 用標準サブルーチンのライブラリの種類一覧について、次の表に示します。

なお、SJIS 対応版/EUC 対応版/Unicode 対応版の全 16 種類のライブラリに対し、それぞれの種類ごとに（和暦）規格の標準版と JIS 規格版の 2 種類が提供されます。

これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合があるので、ご注意ください。

表 1-2 Windows 用標準サブルーチンのライブラリの種類一覧

ライブラリの種類	種類詳細
文字コード形式	SJIS/EUC/UNI_BIG/UNI_LITTLE*の 4 種類
バイナリデータのエンディアン形式	BIG/LITTLE の 2 種類
ファイル形式	ライブラリファイル形式/DLL 形式の 2 種類
（和暦）規格	標準版と JIS 規格版の 2 種類

注※

UNI_BIG/UNI_LITTLE は Unicode 対応版ライブラリの UTF-16 文字データのエンディアン（UNI_BIG = UTF-16BE/UNI_LITTLE = UTF-16LE）を示します。

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では標準版に対して、実在日チェック（和暦）[LXRPID02]、年月日変換（西暦→和暦）[LXRPID05] で各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、「標準サブルーチン仕様書」を参照してください。

それぞれの提供形態を次に示します。なお、各ライブラリは次の場所を基点に格納されています。

（インストールパスは C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥とする）

- SJIS 対応版 : C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥
- EUC 対応版 : C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥EUC

- Unicode 対応版：C:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB\UNICODE

表 1-3 SJIS 対応版の提供形態

格納場所	構成物	提供形態
└─COPY	コピークローズ	テキストファイル
└─BIG └─BIN └─LIB	ビッグエンディアン形式のライブラリ	ライブラリファイル または DLL
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─LITTLE └─BIN └─LIB	リトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	

表 1-4 EUC 対応版の提供形態

格納場所	構成物	提供形態
EUC └─COPY	コピークローズ (EUC エンコード)	テキストファイル
└─CopySjis	コピークローズ (SJIS エンコード) ※	
└─BIG └─BIN └─LIB	ビッグエンディアン形式のライブラリ	ライブラリファイル または DLL
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─LITTLE └─BIN └─LIB	リトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	

注※

COBOL エディタでの参照用で、コンパイルには利用しません。

表 1-5 Unicode 対応版の提供形態

格納場所	構成物	提供形態
UNICODE └─COPY	コピークローズ	テキストファイル

格納場所	構成物	提供形態
└─UNI_BIG └─BIG └─BIN └─LIB	文字データ、バイナリデータが共にビッグエンディアン形式のライブラリ	ライブラリファイル または DLL
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─LITTLE └─BIN └─LIB	文字データがビッグエンディアン、バイナリデータがリトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─UNI_LITTLE └─BIG └─BIN └─LIB	文字データがリトルエンディアン、バイナリデータがビッグエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	
└─LITTLE └─BIN └─LIB	文字データ、バイナリデータが共にリトルエンディアン形式のライブラリ	
└─JISBIN └─JISLIB	上記の JIS 規格版	

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

(b) ビッグエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、ビッグエンディアン環境で実行するときに使用します。

(c) リトルエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを、リトルエンディアン環境で実行するときに使用します。

(d) 文字データ、バイナリデータ (Unicode 対応版だけ)

ここでの文字データとは日本語文字列定数、バイナリデータとは 2 進および浮動小数点のデータ項目を示します。文字データおよびバイナリデータの形式は、コンパイルオプションの使用によって変わります。詳細については、「[1.2.1\(2\)\(c\) コンパイル・リンケージ](#)」を参照してください。

(2) 適用方法

Windows 用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を次に示します。

(a) 前提条件

Windows 用標準サブルーチンで Unicode 対応版を利用する場合、次に示すソフトウェアのどちらか 1 つが必要となります。

- 日立コード変換 - Server Runtime
- 日立コード変換 - Client Runtime

(b) 環境変数の設定

- PATH, LIB

環境変数 PATH に標準サブルーチンの DLL 格納パス、環境変数 LIB に標準サブルーチンのスタティックライブラリ、およびインポートライブラリの格納パスを追加する必要があります。格納パスについては、インストール時にユーザが任意に決定できるので、インストールした場所を指定してください。追加する環境変数の例を次に示します。

(例 1) SJIS 対応版ビッグエンディアン形式のライブラリを使用する場合

(格納パスは C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥)

```
PATH=%PATH%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥BIG¥BIN
```

```
LIB=%LIB%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥BIG¥LIB
```

(例 2) EUC 対応版リトルエンディアン形式のライブラリを使用する場合

(格納パスは C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥)

```
PATH=%PATH%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥EUC¥LITTLE¥BIN
```

```
LIB=%LIB%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥EUC¥LITTLE¥LIB
```

- CBLLIB

環境変数 CBLLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。したがって、CBLLIB に追加するパスは、そのインタフェーステーブルを格納した場所になります。

(例) SJIS 対応版を使用する場合

(格納パスは C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥)

```
CBLLIB=%CBLLIB%;C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥COPY
```

- CBLLANG, CBLUNIENDIAN

Unicode 対応版を使用する場合、環境変数 CBLLANG に'UNICODE'を指定してください。さらに、環境変数 CBLUNIENDIAN に'BIG', または'LITTLE'を指定してください。

(例) Unicode 対応版 (文字データがリトルエンディアン形式) の場合

```
CBLLANG=UNICODE
```

```
CBLUNIENDIAN=LITTLE
```

(c) コンパイル・リンケージ

• コンパイル

「開発マネージャ for COBOL2002」を使用して、メニューから [ビルド] - [ビルド] をクリックしてコンパイルおよびリンケージを行います。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって、リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと、リンクの対象となるライブラリファイルの対応を次の表に示します。

コンパイルオプションの設定方法、および各コンパイルオプションの機能については、マニュアル「COBOL2002 操作入門」, 「COBOL2002 操作ガイド」を参照してください。また、Unicode 対応版をご利用の場合は、マニュアル「COBOL2002 ユーザーズガイド」もあわせて参照してください。

表 1-6 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応

オプション名	SJIS		EUC		UNI_BIG		UNI_LITTLE	
	BIG	LITTLE	BIG	LITTLE	BIG	LITTLE	BIG	LITTLE
-JPN,Alnum	—	—	○	○	×	×	×	×
-UniObjGen	×	×	×	×	○	○	○	○
-UniEndian,Big	×	×	×	×	○	○	×	×
-UniEndian,Little	×	×	×	×	×	×	○	○
-BigEndian,Bin	○	×	○	×	○	×	○	×
-BigEndian,Float	○	×	○	×	○	×	○	×

(凡例)

- ：指定する
- ×
- ：問わない

表 1-7 コンパイルオプションと標準サブルーチンのライブラリファイル形式の対応

オプション名	ライブラリファイル形式	DLL 形式
-StdCall	×	○※2
-StdCallFile stdcall 呼び出し指示ファイル名	×	○※2

(凡例)

- ：指定する
- ×

注※1

標準サブルーチン以外に使用するライブラリが stdcall 呼び出し規約で作成しており、COBOL ソースファイル中に呼び出し属性を指定していない場合は必要です。

注※2

標準サブルーチンの呼び出し属性を COBOL ソースファイル中で指定している場合は不要です。

• リンケージ

「開発マネージャ for COBOL2002」のメニューから [プロジェクト] - [プロジェクトの設定] を選択し、[リンク] タブで使用するライブラリを指定します。標準サブルーチンをリンクする際に指定するライブラリを次に示します。

- DLL をリンクする場合：lxdl.lib (インポートライブラリ)
- スタティックライブラリを指定する場合：lxsl.lib

ただし、リンクするライブラリを指定する際、そのライブラリの格納されているパスが環境変数 LIB に記述されていない場合は、ライブラリをフルパスで指定してください。

(例) DLL をリンクする場合

(インポートライブラリの格納パスが C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥BIG¥LIB)
C:¥Program Files¥Hitachi¥SEWB+STD_SUB¥BIG¥LIB¥lxdl.lib

1.2.2 AIX 用標準サブルーチンの適用方法

(1) 提供形態

AIX 用標準サブルーチンは、スレッド種別 (シングルスレッド対応用とマルチスレッド対応用)、文字コード形式 (SJIS 対応版と EUC 対応版)、およびライブラリ形式 (アーカイブ形式と共用ライブラリ形式) の組み合わせによって、全 8 種類のライブラリが提供されます。AIX 用標準サブルーチンのライブラリの種類一覧について、次の表に示します。

なお、SJIS 対応版/EUC 対応版の全 8 種類のライブラリに対し、それぞれの種類ごとに (和暦) 規格の標準版と JIS 規格版の 2 種類が提供されます。

これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合があるので、注意してください。

表 1-8 AIX 用標準サブルーチンのライブラリの種類一覧

ライブラリの種類	種類詳細
スレッド種別	シングルスレッド対応用/マルチスレッド対応用の 2 種類
文字コード形式	SJIS/EUC の 2 種類
ファイル形式	アーカイブ形式/共用ライブラリ形式の 2 種類
(和暦) 規格	標準版と JIS 規格版の 2 種類

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では標準版に対して、実在日チェック (和暦) [LXRPID02]、年月日変換 (西暦→和暦) [LXRPID05] で、各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、「標準サブルーチン仕様書」を参照してください。

AIX 対応版の提供形態を次に示します。

表 1-9 AIX 用標準サブルーチンの提供形態

格納場所	構成物	提供形態
< 32 ビットモード版の場合 > /opt/SEWB3 < 64 ビットモード版の場合 > /opt/SEWB64	—	—
└─Ja_JP └─COMMON └─RTSP └─Cbl_Source	SJIS 対応版のコピークローズ	テキストファイル
└─ja_JP └─COMMON └─RTSP └─Cbl_Source	EUC 対応版のコピークローズ	テキストファイル
└─lib	シングルスレッド対応ライブラリ	「表 1-10 lib ディレクトリの内容」を参照
└─mthread └─lib	マルチスレッド対応ライブラリ	

表 1-10 lib ディレクトリの内容

ファイル名	文字コード形式	形式	ライブラリ形式
libLx2000.a	SJIS	標準版	アーカイブ形式
libLx2000_sh.a			共用ライブラリ形式
libLxJIS.a		JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxJIS_sh.a			共用ライブラリ形式
libLxeuc2000.a	EUC	標準版	アーカイブ形式
libLxeuc2000_sh.a			共用ライブラリ形式
libLxeucJIS.a		JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxeucJIS_sh.a			共用ライブラリ形式

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

(b) シングルスレッド対応ライブラリ

シングルスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。

(c) マルチスレッド対応ライブラリ

マルチスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。

(2) 適用方法

AIX 用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を次に示します。AIX (64 ビットモード) 版の場合は、「/opt/SEWB3」を「/opt/SEWB64」に読み替えてください。

(a) 環境変数の設定

- PATH, LIBPATH

環境変数 PATH および LIBPATH に標準サブルーチンのライブラリの格納パスを追加する必要があります。sh (Bourne シェル) を例に、環境変数の設定例を次に示します。

(例 1) シングルスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB3/lib
LIBPATH=${LIBPATH}:/opt/SEWB3/lib
export PATH LIBPATH
```

(例 2) マルチスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB3/mthread/lib
LIBPATH=${LIBPATH}:/opt/SEWB3/mthread/lib
export PATH LIBPATH
```

- CBLLIB

環境変数 CBLLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。

(例) SJIS 対応版を使用する場合

```
CBLLIB=${CBLLIB}:/opt/SEWB3/Ja_JP/COMMON/RTSP/CbL_Source
export CBLLIB
```

- LANG

環境変数 LANG に使用するロケールを設定する必要があります。

(例) SJIS 対応版を使用する場合

```
LANG=Ja_JP
export LANG
```

(b) コンパイル・リンケージ

ccbl2002 コマンドを使用して、コンパイルおよびリンケージを行います。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって、リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと、リンクの対象となるライブラリファイルの対応を次の表に示します。

コンパイルオプションの設定方法、および各コンパイルオプションの機能については、マニュアル「COBOL2002 使用の手引 手引編」を参照してください。

表 1-11 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応

オプション名	シングルスレッド				マルチスレッド			
	アーカイブライブラリ		共用ライブラリ		アーカイブライブラリ		共用ライブラリ	
-MultiThread	×	×	×	×	○	○	○	○
-lpthreads	×	×	×	×	○	○	○	○

(凡例)

- ：指定する
- ×：指定しない

コンパイルオプションの指定例を次に示します。

(例 1) シングルスレッド対応版，文字データが SJIS 版のアーカイブ形式ライブラリを使用する場合

(a) 標準サブルーチン呼び出すメインプログラムをコンパイルする場合

```
ccbl2002 -Main, System ABC.cbl -OutputFile ABC
-L/opt/SEWB3/lib -lLx2000
```

(b) 標準サブルーチン呼び出すメインプログラムがコンパイル済みの場合

```
ccbl2002 -OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB3/lib -lLx2000
```

(例 2) シングルスレッド対応版，文字データが SJIS 版の共用ライブラリを使用する場合

(a) 標準サブルーチン呼び出すメインプログラムをコンパイルする場合

```
ccbl2002 -Main, System ABC.cbl -OutputFile ABC
-L/opt/SEWB3/lib -lLx2000_sh
```

(b) 標準サブルーチン呼び出すメインプログラムがコンパイル済みの場合

```
ccbl2002 -OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB3/lib -lLx2000_sh
```

(例 3) マルチスレッド対応版，文字データが EUC 版の共用ライブラリを使用する場合

(a) 標準サブルーチン呼び出すメインプログラムをコンパイルする場合

```
ccbl2002 -MultiThread -Main, System ABC.cbl -OutputFile ABC
-L/opt/SEWB3/mthread/lib -lLxeuc2000_sh -lpthreads
```

(b) 標準サブルーチン呼び出すメインプログラムがコンパイル済みの場合

```
ccbl2002 -MultiThread -OutputFile ABC ABC.o
-L/opt/SEWB3/mthread/lib -lLxeuc2000_sh -lpthreads
```

1.2.3 Linux(EM64T)用標準サブルーチンの適用方法

(1) 提供形態

Linux(EM64T)用標準サブルーチンは、スレッド種別（シングルスレッド対応用とマルチスレッド対応用）、ライブラリ形式（アーカイブ形式と共用ライブラリ形式）、および文字コード形式とバイナリデータのエンディアン格納形式の組み合わせによって、全 16 種類のライブラリが提供されます。Linux(EM64T)用標準サブルーチンのライブラリの種類一覧について、次の表に示します。

なお、上記に加えてそれぞれの種類ごとに（和暦）規格の標準版と JIS 規格版の 2 種類が提供されます。これらを正しく使い分けないと、サブルーチンが正常に動作しない場合があるので、注意してください。

表 1-12 Linux(EM64T)用標準サブルーチンのライブラリの種類一覧

ライブラリの種類	種類詳細
スレッド種別	シングルスレッド対応用/マルチスレッド対応用の 2 種類
文字コード形式	UNI_BIG/UNI_LITTLE*の 2 種類
バイナリデータのエンディアン形式	BIG/LITTLE の 2 種類
ファイル形式	アーカイブ形式/共用ライブラリ形式の 2 種類
（和暦）規格	標準版と JIS 規格版の 2 種類

注※

UNI_BIG/UNI_LITTLE は Unicode 対応版ライブラリの UTF-16 文字データのエンディアン（UNI_BIG = UTF-16BE/UNI_LITTLE = UTF-16LE）を示します。

なお、各ライブラリにある JIS 規格版では標準版に対して、実在日チェック（和暦）[LXRPID02]、年月日変換（西暦→和暦）[LXRPID05] で各年号の期間が異なります。年号の詳細な期間については、「標準サブルーチン仕様書」を参照してください。

Unicode 対応版の提供形態を次に示します。

表 1-13 Linux(EM64T)用標準サブルーチンの提供形態

格納場所	構成物	提供形態
/opt/SEWB64	—	—
├─ja_JP.UTF-8 ┌─COMMON ┌─RTSP ┌─Cbl_Source	コピークローズ	テキストファイル
├─lib	シングルスレッド対応ライブラリ	「表 1-14 lib ディレクトリの内容」を参照
┌─mthread ┌─lib	マルチスレッド対応ライブラリ	

表 1-14 lib ディレクトリの内容

ファイル名	形式	ライブラリ形式
libLxUniBSB.a	文字データ, バイナリデータが共にビッグエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniBSB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniBJB.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniBJB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniBSL.a	文字データがビッグエンディアン, バイナリデータがリトルエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniBSL.so		共用ライブラリ形式
libLxUniBJL.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniBJL.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLSB.a	文字データがリトルエンディアン, バイナリデータがビッグエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniLSB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLJB.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniLJB.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLSL.a	文字データ, バイナリデータが共にリトルエンディアン形式のライブラリ	アーカイブ形式
libLxUniLSL.so		共用ライブラリ形式
libLxUniLJL.a	上記の JIS 規格版	アーカイブ形式
libLxUniLJL.so		共用ライブラリ形式

(a) コピークローズ

標準サブルーチンのインタフェーステーブルが記述されています。標準サブルーチンを使用して作成したプログラムをコンパイルするときに使用します。

(b) シングルスレッド対応ライブラリ

シングルスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。

(c) マルチスレッド対応ライブラリ

マルチスレッド対応プログラムで標準サブルーチンを使用するときに使用します。

(d) ビッグエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを, ビッグエンディアン環境で実行するときに使用します。

(e) リトルエンディアン形式のライブラリ

標準サブルーチンを使用して作成したプログラムを, リトルエンディアン環境で実行するときに使用します。

(f) 文字データ, バイナリデータ

ここでの文字データとは日本語文字列定数, バイナリデータとは2進および浮動小数点のデータ項目を示します。文字データおよびバイナリデータの形式は, コンパイルオプションの使用によって変わります。詳細については, 「1.2.3(2)(c) コンパイル・リンケージ」を参照してください。

(2) 適用方法

Linux(EM64T)用標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成する手順を次に示します。

(a) 前提条件

Linux(EM64T)用標準サブルーチンで Unicode 対応版を利用する場合, 次に示すソフトウェアが必要となります。

- 日立コード変換 - Runtime(64)

(b) 環境変数の設定

- PATH, LD_LIBRARY_PATH

環境変数 PATH および LD_LIBRARY_PATH に標準サブルーチンのライブラリの格納パスを追加する必要があります。sh (Bourne シェル) を例に, 環境変数の設定例を次に示します。

(例 1) シングルスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/lib
LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:/opt/SEWB64/lib
export PATH LD_LIBRARY_PATH
```

(例 2) マルチスレッド対応版ライブラリを使用する場合

```
PATH=${PATH}:/opt/SEWB64/mthread/lib
LD_LIBRARY_PATH=${LD_LIBRARY_PATH}:/opt/SEWB64/mthread/lib
export PATH LD_LIBRARY_PATH
```

- CBLLIB

環境変数 CBLLIB に標準サブルーチンのインタフェーステーブル格納パスを設定する必要があります。

(例) Unicode 対応版を使用する場合

```
CBLLIB=${CBLLIB}:/opt/SEWB64/ja_JP.UTF-8/COMMON/RTSP/CbL_Source
export CBLLIB
```

- LANG

環境変数 LANG に使用するロケールを設定する必要があります。

(例) Unicode 対応版を使用する場合

```
LANG=ja_JP.UTF-8
```

export LANG

- CBLLANG, CBLSRCENCODING, CBLUNIENDIAN

Unicode 対応版を使用する場合は、環境変数 CBLLANG に'UNICODE'、環境変数 CBLSRCENCODING に'SJIS'を指定し、さらに、環境変数 CBLUNIENDIAN に'BIG'、または 'LITTLE'を指定する必要があります。

(例) Unicode 対応版 (文字データがリトルエンディアン形式) を使用する場合

```
CBLLANG=UNICODE
export CBLLANG
CBLSRCENCODING=SJIS
export CBLSRCENCODING
CBLUNIENDIAN=LITTLE
export CBLUNIENDIAN
```

(c) コンパイル・リンケージ

ccbl2002 コマンドを使用して、コンパイルおよびリンケージを行います。

ユーザアプリケーションでのコンパイルオプションの使用の有無によって、リンクの対象となる標準サブルーチンのライブラリファイルが変わります。使用するコンパイルオプションと、リンクの対象となるライブラリファイルの対応を次に示します。

コンパイルオプションの設定方法、および各コンパイルオプションの機能については、マニュアル「COBOL2002 使用の手引 手引編」を参照してください。

表 1-15 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応 (シングルスレッド対応ライブラリの場合)

オプション名	UNI_BIG				UNI_LITTLE			
	BIG		LITTLE		BIG		LITTLE	
	.a	.so	.a	.so	.a	.so	.a	.so
-UniObjGen	○	○	○	○	○	○	○	○
-UniEndian,Big	○	○	○	○	×	×	×	×
-UniEndian,Little	×	×	×	×	○	○	○	○
-BigEndian,Bin	○	○	×	×	○	○	×	×
-BigEndian,Float	○	○	×	×	○	○	×	×

(凡例)

○：指定する

×：指定しない

UNI_BIG：文字データがビッグエンディアン

UNI_LITTLE：文字データがリトルエンディアン

BIG：バイナリデータがビッグエンディアン
 LITTLE：バイナリデータがリトルエンディアン

表 1-16 コンパイルオプションとリンク対象ライブラリファイルとの対応（マルチスレッド対応ライブラリの場合）

オプション名	UNI_BIG				UNI_LITTLE			
	BIG		LITTLE		BIG		LITTLE	
	.a	.so	.a	.so	.a	.so	.a	.so
-UniObjGen	○	○	○	○	○	○	○	○
-UniEndian,Big	○	○	○	○	×	×	×	×
-UniEndian,Little	×	×	×	×	○	○	○	○
-BigEndian,Bin	○	○	×	×	○	○	×	×
-BigEndian,Float	○	○	×	×	○	○	×	×
-MultiThread	○	○	○	○	○	○	○	○
-lpthread	○	○	○	○	○	○	○	○

(凡例)

- ：指定する
- ×：指定しない
- UNI_BIG：文字データがビッグエンディアン
- UNI_LITTLE：文字データがリトルエンディアン
- BIG：バイナリデータがビッグエンディアン
- LITTLE：バイナリデータがリトルエンディアン

コンパイルオプションの指定例を次に示します。

(例 1) シングルスレッド対応版，文字データがリトルエンディアン，バイナリデータがビッグエンディアン形式のアーカイブ形式ライブラリを使用する場合

(a)標準サブルーチン呼び出すメインプログラムをコンパイルする場合

```
ccbl2002 -UniObjGen -UniEndian,Little -BigEndian,Bin -BigEndian,Float
-Main,System ABC.cbl -OutputFile ABC -L/opt/SEWB64/lib -Link,-Bstatic
-LLxUniLSB -Link,-Bdynamic
```

(b)標準サブルーチン呼び出すメインプログラムがコンパイル済みの場合

```
ccbl2002 -UniObjGen -UniEndian,Little -BigEndian,Bin -BigEndian,Float
-OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/lib -Link,-Bstatic
-LLxUniLSB -Link,-Bdynamic
```

(例 2) シングルスレッド対応版，文字データがリトルエンディアン，バイナリデータがビッグエンディアン形式の共有ライブラリを使用する場合

(a)標準サブルーチン呼び出すメインプログラムをコンパイルする場合

```
ccbl2002 -UniObjGen -UniEndian, Little -BigEndian, Bin -BigEndian, Float -Main, System ABC.cbl -OutputFile ABC -L/opt/SEWB64/lib -LLxUniLSB
```

(b)標準サブルーチンを呼び出すメインプログラムがコンパイル済みの場合

```
ccbl2002 -UniObjGen -UniEndian, Little -BigEndian, Bin -BigEndian, Float -OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/lib -LLxUniLSB
```

(例 3) マルチスレッド対応版，文字データがビッグエンディアン，バイナリデータがリトルエンディアン形式の共用ライブラリを使用する場合

(a)標準サブルーチンを呼び出すメインプログラムをコンパイルする場合

```
ccbl2002 -MultiThread -UniObjGen -UniEndian, Big -Main, System ABC.cbl -OutputFile ABC -L/opt/SEWB64/mthread/lib -LLxUniBSL -lpthread
```

(b)標準サブルーチンを呼び出すメインプログラムがコンパイル済みの場合

```
ccbl2002 -MultiThread -UniObjGen -UniEndian, Big -OutputFile ABC ABC.o -L/opt/SEWB64/mthread/lib -LLxUniBSL -lpthread
```

1.3 標準サブルーチンの呼び出し方法

標準サブルーチンの呼び出しをソースプログラム中に直接コーディングする場合は、次のように記述してください。

```
(WORKING-STORAGE SECTIONに)
COPY インタフェースID PREFIXING プレフィックス-.

(PROCEDURE DIVISIONに)
MOVE ..... TO プレフィックス-I-xxx
MOVE ..... TO プレフィックス-I-yyy
      :
CALL 'サブルーチンID' USING プレフィックス-TBL
IF プレフィックス-0-RTN-CD = SPACE
THEN
MOVE プレフィックス-0-zzz TO .....
      :
```

(例) 年月日変換 (西暦→和暦) (LXRPID05) を呼び出す場合

```
(WORKING-STORAGE SECTIONに)
COPY LXRCID05 PREFIXING D05-.

(PROCEDURE DIVISIONに)
MOVE ..... TO D05-I-YMD
CALL 'LXRPID05' USING D05-TBL
IF D05-0-RTN-CD = SPACE
THEN
MOVE D05-0-YMDWA TO .....
      :
```

標準サブルーチンの呼び出しでは、次の点に注意して記述してください。

- 提供しているインタフェーステーブル以外を使用して呼び出した場合、またはインタフェーステーブルの 01 レベルの項目名 (プレフィックス-TBL) 以外に引数を指定した場合、結果は保証しません。

(例 1) 不正な利用例：提供しているインタフェーステーブル以外を使用した場合

```
(WORKING-STORAGE SECTIONに)
COPY LXRCIX99 PREFIXING X99-.

(PROCEDURE DIVISIONに)
CALL 'LXRPID01' USING X99-TBL.
```

(例 2) 不正な利用例：01 レベル以外の項目名を引数に使用した場合

```
(WORKING-STORAGE SECTIONに)
COPY LXRCID05 PREFIXING D05-.

(PROCEDURE DIVISIONに)
MOVE ..... TO D05-I-YY
CALL 'LXRPID05' USING D05-I-YY.
      :
```

- 提供しているインタフェーステーブルの 01 レベルの項目名はすべて'TBL'なので、標準サブルーチンを 2 つ以上使うときは、COPY 文に異なるプレフィックスを指定してください。

1.4 標準サブルーチンの分類と命名基準

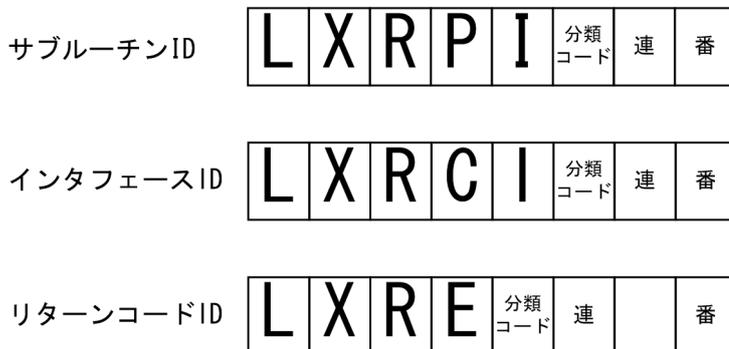
標準サブルーチンの分類を次の表に示します。

表 1-17 標準サブルーチンの分類

分類	分類コード	機能
文字列チェック／編集	A	半角の文字列に対するチェック，編集処理
漢字チェック／編集	B	全角の文字列に対するチェック，編集処理
文字列コード変換	C	文字コードの変換
日付チェック／編集	D	日付（年月日，年月など）のチェック，編集処理
時間チェック／編集	E	時刻，時間のチェック，編集処理
項目チェック／編集	F	データ項目（日付，時刻，コードは除く）のチェック，編集処理
コードチェック／編集	G	業務に用いるコードのチェック，編集処理
その他の変換編集	Z	その他の変換，編集処理

標準サブルーチンのサブルーチン ID（プログラム ID），インタフェース ID（コピークローズ名），リターンコードの命名基準を次の図に示します。

図 1-1 標準サブルーチンの命名基準



備考

サブルーチン ID とインタフェース ID は 1 : 1 で対応しています。

サブルーチン ID の 4 桁目を 'P' → 'C' とすると，そのサブルーチンのインタフェース ID になります。

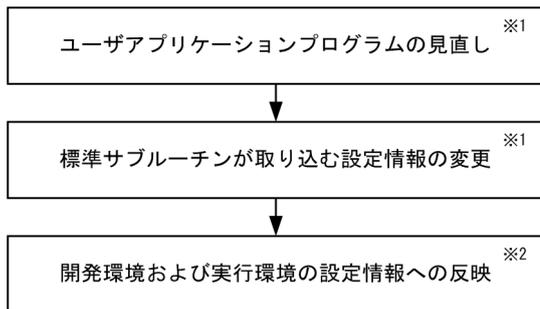
1.5 標準サブルーチンの年号および祝祭日区分の変更への対応

改元に伴う新年号への移行、祝祭日の変更などがあると、標準サブルーチンの年号および祝祭日区分に影響があります。

標準サブルーチンは COBOL 外部サブルーチンであるため、標準サブルーチンを使用してユーザアプリケーションプログラムを作成している場合は、標準サブルーチンへの影響が、ユーザアプリケーションにも影響しないか見直す必要があります。

年号および祝祭日の変更の流れを次に示します。

図 1-2 年号および祝祭日の変更の流れ



注※1

ユーザアプリケーションプログラムの見直し、および標準サブルーチンが取り込む設定情報を変更する方法については、「[3. 標準サブルーチンで年号および祝祭日の変更に対応する方法](#)」を参照してください。

注※2

プラットフォームが異なる場合でも、開発環境で作成したファイル（設定情報）を、アスキーモード転送で実行環境へ反映できます。

1.5.1 標準サブルーチンが取り込む設定情報の変更に必要なファイル

年号および祝祭日区分を変更するには、情報設定ファイルの変更が必要です。

情報設定ファイルには、次の 2 種類があります。

- デフォルト情報設定ファイル (adsubinf.txt)

製品インストール時に作成される情報設定ファイル。

デフォルト情報設定ファイルの設定情報の変更や削除はできません。設定情報の変更や削除をした場合、動作は保証されません。

なお、元号や祝日関連の法律改正があった場合、製品エンハンスによって、デフォルト情報設定ファイルの内容が変更になることがあります。

- カスタマイズ情報設定ファイル (adsubinf_custom.txt)

デフォルト情報設定ファイルから複写することで作成する情報設定ファイル。

デフォルト情報設定ファイルの設定情報の変更や削除ができないため、標準サブルーチンが取得する設定情報は、カスタマイズ情報設定ファイルで変更します。

標準サブルーチンが取得する設定情報は、カスタマイズ情報設定ファイルの有無によって取得先が異なります。カスタマイズ情報設定ファイルの有無による設定情報の取得先の差異を次の表に示します。

表 1-18 カスタマイズ情報設定ファイルの有無による設定情報の取得先の差異

カスタマイズ情報設定ファイルの有無	設定情報の取得先
あり	カスタマイズ情報設定ファイルを参照後、標準サブルーチンの処理対象となる年号や日付に対する祝祭日情報が無ければ、製品内部で保持している情報 ^{*1} を使用します。
なし	デフォルト情報設定ファイル ^{*2} を参照後、標準サブルーチンの処理対象となる年号や日付に対する祝祭日情報が無ければ、製品内部で保持している情報 ^{*1} を使用します。

注※1

製品内部では、年号の情報および平成 19 年 1 月 1 日施行の「国民の祝日に関する法律」に記載されている祝祭日の情報を保持しています。製品内部で保持している年号情報については「LXRPID05 年月日変換（西暦→和暦）」の「[処理基準](#)」を、祝祭日情報については「[付録 C 祝祭日・休日の有効期間](#)」を参照してください。

注※2

デフォルト情報設定ファイルでは、平成 19 年 1 月 1 日施行の「国民の祝日に関する法律」から、変更のある次の祝祭日の情報を保持しています。

祝祭日	期間	内容
山の日	2016 年～2100 年	2020 年以外は 8 月 11 日に祝日を追加。 2020 年だけ 8 月 10 日に祝日を追加。
海の日	2020 年	7 月 20 日から 7 月 23 日に祝日を移動。
スポーツの日	2020 年	10 月 12 日から 7 月 24 日に祝日を移動。
天皇誕生日	2019 年～2100 年	2019 年は 12 月 23 日の祝日を削除。 2020 年以降は 12 月 23 日から 2 月 23 日に祝日を移動。

1.5.2 年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの概要

標準サブルーチンが取得する設定情報をカスタマイズ情報設定ファイルで変更することで、年号および祝祭日の設定を変更できます。

カスタマイズ情報設定ファイルによる標準サブルーチンが取得する設定情報（年号情報および祝祭日区分情報）のカスタマイズの例を次に示します。

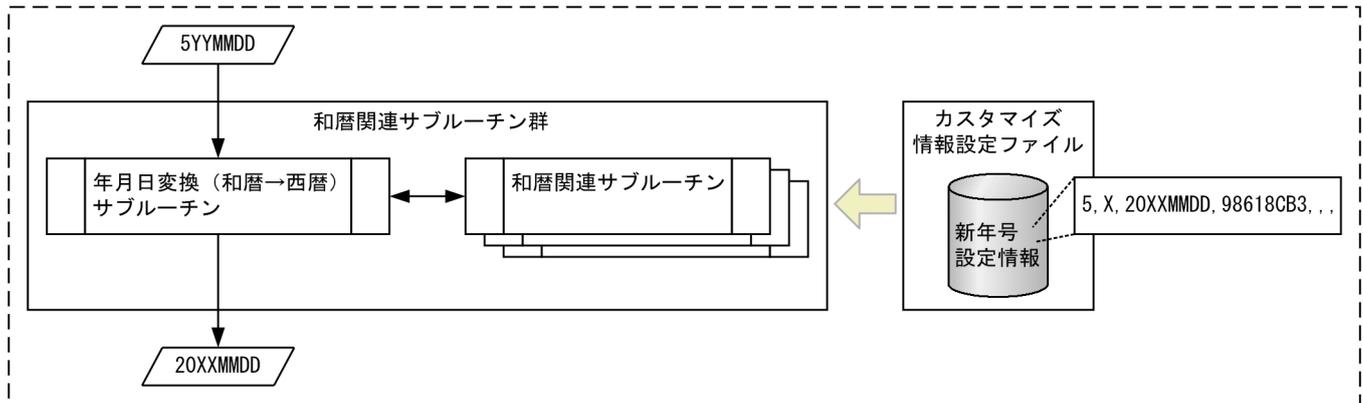
なお、年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れの詳細については、「[3.2.1 年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れ](#)」を参照してください。

(1) 新年号設定情報のカスタマイズの例

新年号設定情報を追加することで、これまでの「平成」までのデータ処理に加えて、「平成」以降の新年号のデータ処理も可能になります。

新年号設定情報のカスタマイズの例として和暦日付を西暦日付に変換するサブルーチンを使用した処理の流れを次に示します。

図 1-3 新年号設定情報のカスタマイズの例



カスタマイズ情報設定ファイルの設定情報（新年号情報）をサブルーチンが取り込むことで、和暦で設定された入力データ（和元^{*}YY年MM月DD日）が、西暦のデータ（20XX年MM月DD日）に変換されます。

注※

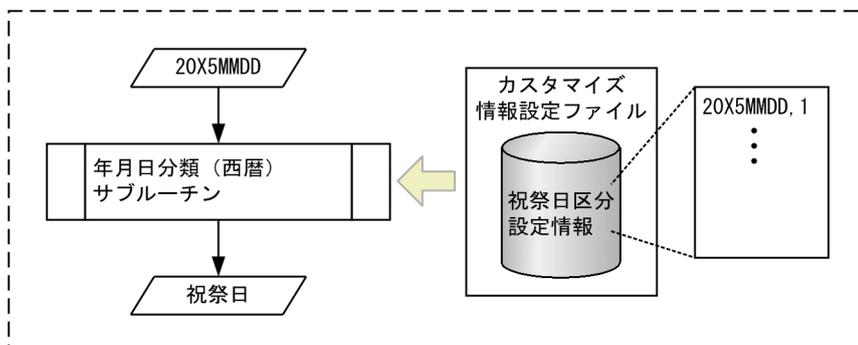
ここでは、新年号を「和元」と仮定し、その年号コード（数字）を'5'として説明しています。

(2) 祝祭日区分情報のカスタマイズの例

祝祭日区分情報の追加および変更をすることで、今まで祝祭日でなかった日を祝祭日に変更できます。また、祝祭日区分情報の変更および削除をすることで、祝祭日から祝祭日以外への変更もできます。

祝祭日区分設定情報のカスタマイズの例として西暦日付を平日、土曜、日曜および祝祭日に分類するサブルーチンを使用した処理の流れを次に示します。

図 1-4 祝祭日区分設定情報のカスタマイズの例



カスタマイズ情報設定ファイルの設定情報（祝祭日区分情報（20X5年MM月DD日を祝祭日として追加））をサブルーチンが取り込むことで、これまで平日に分類されていた入力データ（20X5年MM月DD日）が、祝祭日に分類されます。

1.5.3 カスタマイズ情報設定ファイルのチェックの概要

作成したカスタマイズ情報設定ファイルは、カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール（LXRPIDCK）でチェックします。

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール（LXRPIDCK）には、次の機能があります。

- カスタマイズ情報設定ファイルの内容チェック機能
カスタマイズ情報設定ファイルのフォーマットおよび指定内容をチェックします。
- 設定情報確認リストの出力機能
カスタマイズ情報設定ファイルの内容をチェックし、エラーがなければ設定情報確認リストに出力します。設定情報確認リストに出力される内容は次のとおりです。
 - 新年号
カスタマイズ情報設定ファイルに指定された新年号名を漢字で表示します。
表示することによって、指定した16進文字列に誤りがないかを確認できます。
 - 祝祭日
標準サブルーチン内部で保持している祝祭日情報とカスタマイズ情報設定ファイルで指定された祝祭日情報をマージした結果を表示します。
表示することによって、カスタマイズ情報設定ファイルへ祝祭日（振替休日および国民の休日を含む）の追加、削除および変更の登録漏れがないかを確認できます。

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール（LXRPIDCK）のチェック結果に問題が無ければ、開発環境および実行環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルを格納します。

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール（LXRPIDCK）を利用したカスタマイズ情報設定ファイルのチェック方法については、「[3.2.4 カスタマイズ情報設定ファイルのチェック](#)」を参照してください。

2

標準サブルーチンの仕様

この章では、標準サブルーチンで提供しているサブルーチンの一覧および仕様を説明します。

標準サブルーチンの一覧

標準サブルーチンの一覧を次に示します。

表 2-1 文字列チェック／編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIA01	文字コードチェック	入力されたデータがすべて半角文字であるかチェックする
LXRPIA03	文字属性チェック	入力データの属性をチェックし、チェック結果を返す
LXRPIA05	文字列シフト	文字データの内容を指定文字数分指定方向へシフトする
LXRPIA06	文字列左詰め	文字データを左に詰める
LXRPIA07	文字列右詰め	文字データを右に詰める
LXRPIA08	文字列中央揃え	文字データをセンタリング編集する
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	文字データの有効桁数を求める
LXRPIA10	数字文字列チェック／入力編集	Xタイプの数字文字列をチェックし、内部 10 進数値に変換する
LXRPIA11	数字チェック／右詰め編集	入力エリア中の文字を NUMERIC チェックし右詰めに編集する
LXRPIA12	数字文字列コンマ挿入	数値データをコンマ付きの文字列に変換し、右詰めにする
LXRPIA13	文字列前後反転	文字列データの前後を反転する
LXRPIA14	指定文字削除	文字データの中から指定された文字を削除し左または右に詰める
LXRPIA15	空白削除	文字データ中の空白を削除する
LXRPIA16	不要空白削除	文字データ中の不要な空白を削除する
LXRPIA17	第 1 文字列取得	スペースで区切られた第 1 文字列とその長さを取得する
LXRPIA19	文字列交互挿入	文字列 1 のスペースに文字列 2 の文字列を順次セットし編集する
LXRPIA20	EBCDIK/KEIS 混在文字列出力編集	入力文字データを指定データ長に合わせて編集する
LXRPIA21	後方スペース機能キャラクタ置換	文字列の後方のスペースを機能キャラクタに置換する
LXRPIA22	半角カナ文字入力チェック	入力された文字が半角カナ文字であるかをチェックする
LXRPIA23	混在文字列チェック	入力された文字が半角、全角の混在文字であることをチェックする
LXRPIA24	混在文字列チェック (含外字)	LXRPIA23 の外字対応
LXRPIA25	英数字チェック／編集	入力された文字に対し、パラメータで指定されたチェック／編集を行う

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIA26	数字チェック／数値変換	入力された文字に対し、パラメータで指定されたチェック／変換を行う
LXRPIA27	数字範囲チェック／数値変換	入力された文字に対し、パラメータで指定された範囲チェック／変換を行う
LXRPIA28	文字列切断	文字データを指定された長さで切断する

表 2-2 漢字チェック／編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIB01	漢字コードチェック	入力されたデータがすべて全角文字であるかチェックする
LXRPIB02	漢字コードチェック (含外字)	LXRPIB01 の外字対応
LXRPIB03	漢字シフト	漢字データの内容を指定文字数分指定方向へシフトする
LXRPIB04	漢字データ左詰め	漢字データを左に詰める
LXRPIB05	漢字データ右詰め	漢字データを右に詰める
LXRPIB06	漢字データ中央揃え	漢字データをセンタリング編集する
LXRPIB07	漢字データ有効桁数算出	漢字データの有効桁数を求める
LXRPIB08	空白削除 (漢字データ)	漢字データ中の空白を削除する
LXRPIB09	不要空白削除 (漢字データ)	漢字データ中の不要な空白を削除する
LXRPIB10	漢字交互挿入	全角文字列 1 のスペースに全角文字列 2 の文字列を順次セットし編集する
LXRPIB11	不当漢字コード置換	全角文字列の不当な文字コードを指定された文字コードに置換する
LXRPIB12	機能キャラクタ削除	全角文字列の機能キャラクタを削除する
LXRPIB13	全角空白→半角空白置換	入力された漢字データの中の全角空白を半角空白に置換する
LXRPIB14	半角空白→全角空白置換	入力された漢字データの中の半角空白を全角空白に置換する
LXRPIB15	漢字交互挿入 (含外字)	LXRPIB10 の外字対応
LXRPIB16	不当漢字コード置換 (含外字)	LXRPIB11 の外字対応

表 2-3 文字列コード変換サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXPIC01	半角→全角変換	半角文字を対応する全角文字に変換する
LXPIC02	全角→半角変換	全角文字を対応する半角文字に変換する
LXPIC03	EBCDIK→JIS 変換	EBCDIK コードを JIS8 単位文字コードに変換する
LXPIC04	JIS→EBCDIK 変換	JIS8 単位文字コードを EBCDIK コードに変換する

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXPIC05	JIS 漢字→KEIS 変換	JIS 漢字コードを KEIS コードに変換する
LXPIC06	KEIS→JIS 漢字変換	KEIS コードを JIS 漢字コードに変換する
LXPIC07	16 進文字列→バイナリ変換	16 進文字列をキャラクタ文字列に変換する
LXPIC08	バイナリ→16 進文字列変換	キャラクタ文字列を 16 進文字列に変換する
LXPIC09	2 進文字列→バイナリ変換	2 進文字列を内部 2 進数値に変換する
LXPIC10	バイナリ→2 進文字列変換	内部 2 進数値を 2 進文字列に変換する
LXPIC11	KEIS83→KEIS78 変換	KEIS83 の漢字コードを KEIS78 に変換する
LXPIC12	KEIS78→KEIS83 変換	KEIS78 の漢字コードを KEIS83 に変換する

表 2-4 日付チェック／編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXPID01	実在日チェック (西暦)	西暦日付の妥当性をチェックし、リターンコードを返す
LXPID02	実在日チェック (和暦)	和暦日付の妥当性をチェックし、リターンコードを返す
LXPID03	年月日範囲内チェック (西暦)	西暦日付が指定された開始日付と終了日付の間の日付かチェックする
LXPID04	年月日範囲内チェック (和暦)	和暦日付が指定された開始日付と終了日付の間の日付かチェックする
LXPID05	年月日変換 (西暦→和暦)	西暦日付を和暦日付に変換する
LXPID06	年月日変換 (和暦→西暦)	和暦日付を西暦日付に変換する
LXPID07	年月日算出 (西暦年月日±年数)	西暦日付と年数の加減算を行い、西暦日付を返す
LXPID08	年月日算出 (和暦年月日±年数)	和暦日付と年数の加減算を行い、和暦日付を返す
LXPID09	年月日算出 (西暦年月日±月数)	西暦日付と月数の加減算を行い、西暦日付を返す
LXPID10	年月日算出 (和暦年月日±月数)	和暦日付と月数の加減算を行い、和暦日付を返す
LXPID11	年月日算出 (西暦年月日±日数)	西暦日付と日数の加減算を行い、西暦日付を返す
LXPID12	年月日算出 (和暦年月日±日数)	和暦日付と日数の加減算を行い、和暦日付を返す
LXPID13	期間算出 (西暦年月日間日数)	2 つの西暦日付の期間を日数で求める
LXPID14	期間算出 (和暦年月日間日数)	2 つの和暦日付の期間を日数で求める
LXPID15	期間算出 (西暦年月日間年月日)	2 つの西暦日付の期間を年月日で求める
LXPID16	期間算出 (和暦年月日間年月日)	2 つの和暦日付の期間を年月日で求める
LXPID17	月末日算出 (西暦年月日)	西暦年月の月末日を求める
LXPID18	月末日算出 (和暦年月日)	和暦年月の月末日を求める
LXPID19	通算週算出 (年始～西暦年月日)	西暦日付が入力された西暦年の通算第何週か求める

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPID20	通算週算出（年始～和暦年月日）	和暦日付が入力された和暦年の通算第何週か求める
LXRPID21	年月日分類（西暦）	西暦日付を平日，土曜，日曜および祝祭日に分類する
LXRPID22	年月日分類（和暦）	和暦日付を平日，土曜，日曜および祝祭日に分類する
LXRPID23	年月日出力編集（西暦）	西暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID24	年月日出力編集（和暦）	和暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID25	うるう年判定（西暦）	その年がうるう年かどうかを判定する
LXRPID26	うるう年判定（和暦）	その年がうるう年かどうかを判定する
LXRPID27	年月日（西暦）→一貫日変換	西暦1年1月1日から西暦日付までの一貫日を求める
LXRPID28	年月日（和暦）→一貫日変換	西暦1年1月1日から和暦日付までの一貫日を求める
LXRPID29	一貫日→年月日（西暦）変換	指定された一貫日に対応する西暦年月日を求める
LXRPID30	一貫日→年月日（和暦）変換	指定された一貫日に対応する和暦年月日を求める
LXRPID31	日数算出（西暦年月日～月末日）	西暦日付から月末日までの日数を求める
LXRPID32	日数算出（和暦年月日～月末日）	和暦日付から月末日までの日数を求める
LXRPID33	年月日（西暦）→曜日算出	西暦日付に対応する曜日を求める
LXRPID34	年月日（和暦）→曜日算出	和暦日付に対応する曜日を求める
LXRPID35	曜日コードチェック／編集	曜日コードをチェックし，曜日名に変換する
LXRPID36	年号コードチェック／編集	年号コードをチェックし，年号名に変換する
LXRPID37	年号コード変換（英字→数字）	年号（M, T, S, H）を年号コード（1～4）に変換する
LXRPID38	年号コード変換（数字→英字）	年号コード（1～4）を年号（M, T, S, H）に変換する
LXRPID39	年齢計算（慣習）	入力された生年月日および現在年月日から年齢を求める（誕生日当日に1歳増）
LXRPID40	年齢計算（法律）	入力された生年月日および現在年月日から年齢を求める（誕生日前日に1歳増）
LXRPID41	年月日（西暦）過去チェック	システム日付と比較し，過去である事をチェックする
LXRPID42	年月日（和暦）過去チェック	システム日付と比較し，過去である事をチェックする
LXRPID43	年月日（西暦）未来チェック	システム日付と比較し，未来である事をチェックする
LXRPID44	年月日（和暦）未来チェック	システム日付と比較し，未来である事をチェックする
LXRPID45	年月日（西暦）編集	西暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID46	年月日（和暦）編集	和暦日付を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID47	年月日変換（西暦→和暦）編集	西暦を和暦に変換し，指定された処理形式に従い編集する
LXRPID48	年月（西暦）チェック	年月（西暦）の妥当性チェックを行う

2. 標準サブルーチンの仕様

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPID49	年月（和暦）チェック	年月（和暦）の妥当性チェックを行う
LXRPID50	年月（西暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID51	年月（和暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID52	年月（西暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID53	年月（和暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID54	年月（西暦）編集	年月（西暦）を、指定された処理形式に従い編集する
LXRPID55	年月（和暦）編集	年月（和暦）を、指定された処理形式に従い編集する
LXRPID56	年月変換（西暦→和暦）編集	西暦年月を和暦年月に変換し、指定された処理形式に従い編集する
LXRPID57	年月変換（西暦→和暦）	西暦年月を和暦年月に変換する
LXRPID58	年月変換（和暦→西暦）	和暦年月を西暦年月に変換する
LXRPID59	年度（西暦）チェック	年度（西暦）の妥当性チェックを行い、リターンコードを返す
LXRPID60	年度（和暦）チェック	年度（和暦）の妥当性チェックを行い、リターンコードを返す
LXRPID61	年度（西暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID62	年度（和暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID63	年度（西暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID64	年度（和暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID65	年度（西暦）編集	年度（西暦）を指定された処理形式に従い編集する
LXRPID66	年度（和暦）編集	指定された処理形式に従い編集する
LXRPID67	年度変換（西暦→和暦）編集	西暦年度を和暦年度に変換し、指定された処理形式に従い編集する
LXRPID68	年度変換（西暦→和暦）	西暦年度を和暦年度に変換する
LXRPID69	年度変換（和暦→西暦）	和暦年度を西暦年度に変換する
LXRPID70	年（西暦）チェック	年（西暦）の妥当性チェックを行う
LXRPID71	年（和暦）チェック	年（和暦）の妥当性チェックを行う
LXRPID72	年（西暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID73	年（和暦）過去チェック	システム日付と比較し、過去である事をチェックする
LXRPID74	年（西暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID75	年（和暦）未来チェック	システム日付と比較し、未来である事をチェックする
LXRPID76	年変換（西暦→和暦）編集	西暦年を和暦年に変換し、指定された処理形式に従い編集する

2. 標準サブルーチンの仕様

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPID77	年変換（西暦→和暦）	西暦年を和暦年に変換する
LXRPID78	年変換（和暦→西暦）	和暦年を西暦年に変換する
LXRPID80	年度基準日取得	西暦→和暦年度変換を行う際に必要な年度基準日を取得する
LXRPID81	年基準日取得	西暦→和暦年変換を行う際に必要な年基準日を取得する
LXRPID88	システム日付取得変換（8桁）	システム日付を取得し、8桁に変換する
LXRPID90	処理期限年月日算出（西暦）	入力された締日から次の締日を西暦年月日で取得する
LXRPID91	処理期限年月日算出（和暦）	入力された締日から次の締日を和暦年月日で取得する
LXRPID92	通算日算出（年始～西暦年月日）	1月1日から入力した西暦年月日までの通算日を算出する
LXRPID93	通算日算出（年始～和暦年月日）	1月1日から入力した和暦年月日までの通算日を算出する
LXRPID94	年齢（年月）算出（慣習）	入力された生年月日および現在年月日から年齢を年月単位で求める（誕生日当日に1歳増）
LXRPID95	年齢（年月）算出（法律）	入力された生年月日および現在年月日から年齢を年月単位で求める（誕生日前日に1歳増）

表 2-5 時間チェック／編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIE01	時刻妥当性チェック（24時間）	24時間単位の時刻の妥当性をチェックする
LXRPIE02	時刻妥当性チェック（12時間）	12時間単位の時刻の妥当性をチェックする
LXRPIE05	24時間単位→12時間単位時刻変換	24時間単位の時刻を12時間単位の時刻に変換する
LXRPIE06	12時間単位→24時間単位時刻変換	12時間単位の時刻を24時間単位の時刻に変換する
LXRPIE07	経過時間算出（24時間単位）	入力された2つの時刻（24時間単位）の差を時分秒で求める
LXRPIE08	経過時間算出（12時間単位）	入力された2つの時刻（12時間単位）の差を時分秒で求める
LXRPIE09	時間加算	入力された2つの時間の加算を行う
LXRPIE10	時間差算出	入力された2つの時間の差を時分秒で求める
LXRPIE11	時刻編集	時刻を指定された処理形式に従い編集する
LXRPIE12	日時加減算（西暦12時間単位）	12時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE13	日時加減算（西暦24時間単位）	24時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE14	日時加減算（和暦12時間単位）	12時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE15	日時加減算（和暦24時間単位）	24時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う
LXRPIE16	時間チェック	時間の妥当性をチェックする
LXRPIE17	時間（秒）→時間変換編集	秒単位の時間を時間に変換し、指定された処理形式に従い編集する

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIE18	時間→時間（秒）変換	時間を秒単位の時間に変換する
LXRPIE19	時間（秒）→時間変換	秒単位の時間を時間に変換する
LXRPIE20	時間編集	時間を指定された処理形式に従い編集する

表 2-6 項目チェック／編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIF01	氏名（漢字）チェック	氏名（漢字）のチェックをする
LXRPIF02	氏名（半角カナ）チェック	氏名（半角カナ）のチェックをする
LXRPIF03	氏名（漢字）分離編集	氏名（漢字）の分離編集をする
LXRPIF04	氏名（半角カナ）分離編集	氏名（半角カナ）の分離編集をする
LXRPIF05	氏名（漢字）結合編集	氏名（漢字）の結合編集をする
LXRPIF06	氏名（半角カナ）結合編集	氏名（半角カナ）の結合編集をする
LXRPIF07	郵便番号チェック／入力編集	郵便番号のチェックを行い格納形式に変換する
LXRPIF08	郵便番号チェック／出力編集	郵便番号のチェックを行い表示形式に変換する
LXRPIF09	金額編集	金額を指定された処理形式に従い編集する
LXRPIF10	郵便番号チェック／入力編集（5桁および7桁）	郵便番号のチェックを行い格納形式に変換する（5桁および7桁）
LXRPIF11	郵便番号チェック／出力編集（5桁および7桁）	郵便番号のチェックを行い表示形式に変換する（5桁および7桁）
LXRPIF12	郵便番号チェック／入力編集（7桁）	郵便番号のチェックを行い格納形式に変換する（7桁）
LXRPIF13	郵便番号チェック／出力編集（7桁）	郵便番号のチェックを行い表示形式に変換する（7桁）
LXRPIF14	氏名（漢字）チェック（含外字）	LXRPIF01の外字対応
LXRPIF15	氏名（漢字）分離編集（含外字）	LXRPIF03の外字対応
LXRPIF16	氏名（漢字）結合編集（含外字）	LXRPIF05の外字対応

表 2-7 コードチェック／編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIG01	性別コードチェック／変換	JISコード表に基づいて性別コードを変換する（JIS X 0303）
LXRPIG02	学歴区分コードチェック／変換	JISコード表に基づいて学歴区分コードを変換する（旧 JIS X 0407）
LXRPIG04	地目コードチェック／変換	JISコード表に基づいて地目コードを変換する（JIS X 0411）
LXRPIG05	勘定科目コードチェック／変換	JISコード表に基づいて勘定科目コードを変換する（JIS X 0406）

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIG09	フラグチェック／変換	入力されたフラグ（スペース、0、1）を英字、漢字に変換する
LXRPIG10	都道府県コードチェック／変換	入力された都道府県コードを都道府県名に変換する（JIS X 0401）
LXRPIG11	有無チェック／変換	入力された有無（スペース、0、1）を漢字に変換する
LXRPIG12	可否チェック／変換	入力された可否（スペース、0、1）を英字、漢字に変換する

表 2-8 そのほかの変換編集サブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	処理概要
LXRPIZ01	電話番号編集	電話番号の市外局番、市内局番、加入者番号をハイフンで編集する
LXRPIZ03	平方根算出	入力された数値データの平方根を求める
LXRPIZ04	チェックディジット計算	入力された数字文字列のチェックディジットを求める
LXRPIZ05	インチ→センチメートル変換	インチ単位の数値データをセンチメートル単位の数値データに変換する
LXRPIZ06	センチメートル→インチ変換	センチメートル単位の数値データをインチ単位の数値データに変換する
LXRPIZ07	ヤード→メートル変換	ヤード単位の数値データをメートル単位の数値データに変換する
LXRPIZ08	メートル→ヤード変換	メートル単位の数値データをヤード単位の数値データに変換する
LXRPIZ09	キログラム→ポンド変換	キログラム単位の数値データをポンド単位の数値データに変換する
LXRPIZ10	ポンド→キログラム変換	ポンド単位の数値データをキログラム単位の数値データに変換する
LXRPIZ11	パラメータ解析	入力パラメータを解析し、各項目とその値を出力する

標準サブルーチン仕様書

標準サブルーチン仕様書に記載してある項目と内容を次の表に示します。VOS3 版と PC 版・UNIX 版で処理が異なるサブルーチンの場合、それぞれどのような処理を行うかを説明しています。

表 2-9 標準サブルーチン仕様書の記載内容

項目		内容
サブルーチン ID		サブルーチンのプログラム ID
機能分類		サブルーチンの機能分類
サブルーチン名		サブルーチンの日本語名
テーブル名		インタフェーステーブル ID
入力		呼び出し前に設定すべきデータ項目とその説明
	レベル	データ項目のレベル番号
	項目名	データ項目名
	属性	データ項目のタイプと桁数
	説明および設定値	データ項目の説明
	区分	I : INPUT-PARM C : CONSTANT IL : INPUT-IN-LENGTH IT : INPUT-IN-TYPE OL : INPUT-OUT-LENGTH OT : INPUT-OUT-TYPE
出力		サブルーチンが設定するデータ項目とその説明
	レベル	データ項目のレベル番号
	項目名	データ項目名
	属性	データ項目のタイプと桁数
	説明および設定値	データ項目の説明およびリターンコードの設定値
	区分	O : OUTPUT-PARM R : RTN-CODE
処理基準		サブルーチンの処理内容 リターンコードの設定値（出力の欄に入らない場合）
例		サブルーチンの使用例 特に断りのないかぎり、SJIS 対応版の例を掲載しています。
注意事項		使用上の注意事項 全角文字列を入力した機能キャラクタに関する処理は、VOS3 環境と PC・UNIX 環境とで動作が異なることがあります。

項目	内容
注意事項	各サブルーチンのインタフェーステーブルは SJIS 対応版のものを基準に掲載しています。

LXRPIA01 文字コードチェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA01	文字列処理	文字コードチェック	LXRCIA01

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA007: 半角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—

処理基準

1. 入力されたデータが半角文字コードであるかチェックする (チェックする文字コードの範囲は付録 A および付録 B を参照のこと)。

例 1

```
I-STR   : 'ABCDEF'  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-STR   : X' 00'  
↓  
O-RTN-CD : 'LXREA007'
```

例 3

```
I-STR   : SPACE  
↓  
O-RTN-CD : 'LXREA008'
```

注意事項

なし。

LXRPIA03 文字属性チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA03	文字列処理	文字属性チェック	LXRCIA03

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR	X(200)	入力文字列	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-BN	X(5)	チェック結果	O
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

処理基準

- 入力文字列の属性をチェックし、チェック結果を返す。
 - 英字 (英大文字 A~Z および空白。英小文字は除く)
 - 数字 (0~9)
 - 半角カナ (ア~ン, 濁点, 半濁点, 長音符。特殊な半角カナ (ヤヨツアイウエオカ「」・、。) は除く)
 - COBOL 特殊文字 (+-*/=¥,;:."')(<>)
 - その他 (上記以外。特殊な半角カナ, 英小文字, 非文字含む)
- チェック結果は次の形式とする。

X(5)

英 字	数 字	半 角 カ ナ	特 殊 文 字	そ の 他

1: 入力文字列中にその属性が存在する。

0： 入力文字列中にその属性が存在しない。

例 1

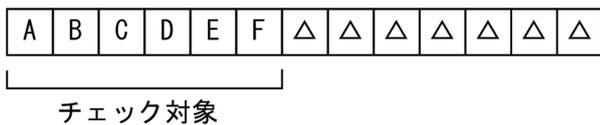
```
I-STR   : 'ABC123'  
↓  
O-STR-BN : '11000'
```

例 2

```
I-STR   : 'アイ/*:'  
↓  
O-STR-BN : '00110'
```

注意事項

1. 入力文字列の属性は X(200)とする。
2. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
3. チェックは右の空白を除いた部分に対して行う。



4. 入力文字列がすべて数字であることのチェックに使用する場合は、性能の観点からこのサブルーチンを呼び出すよりも COBOL 言語が提供する IS NUMERIC 命令を使用することを推奨する。

LXRPIA05 文字列シフト

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA05	文字列処理	文字列シフト	LXRCIA05

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-SHFT-LENG	P(3)	シフトする文字数	C
—	—	—	正数 : 右方向にシフト	—
—	—	—	負数 : 左方向にシフト	—
—	—	—	ゼロ : シフトしない	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	出力文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREA024 : NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020 : シフトする文字数が範囲外	—

処理基準

1. 入力文字列の内容を指定文字数シフトする。
 - 1.1 シフトする文字数 (I-SHFT-LENG) によって、次の処理を行う。
 - 正数 : I-SHFT-LENG の値だけ、右方向にシフトする。
 - 負数 : I-SHFT-LENG の絶対値だけ、左方向にシフトする。
 - ゼロ : 入力文字列をそのまま出力文字列とする。

例 1

```
I-STR      : 'ABCDE'  
I-SHFT-LENG : 2  
↓  
O-STR      : '△△ABCDE'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-STR      : 'ABCDE'  
I-SHFT-LENG : -2  
↓  
O-STR      : 'CDE'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. I-SHFT-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でない時はエラーコード'LXREA024'をリターンコードとして返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
2. $-200 \leq \text{I-SHFT-LENG} \leq 200$ でなければ、I-SHFT-LENG を 200 として処理を続行する。エラーコード'LXREA020'をリターンコードとして返す。
3. シフトした結果が出力文字列 X(200)の範囲からはみだす時は切り捨てる。リターンコードには、スペースを出力する。
4. EUC 対応版、Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字数は実バイト長（EUC：2バイト/文字、Unicode：3バイト/文字）で指定する。

LXRPIA06 文字列左詰め

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA06	文字列処理	文字列左詰め	LXRCIA06

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力文字列を左に詰める。
 - 1.1 (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) によって, 入力文字列の最右文字位置を求める。
 - 1.2 入力文字列の最左文字位置 (半角空白以外の最初の文字の位置) を求める。
 - 1.3 入力文字列の最左文字位置から最右文字位置までの文字を, 出力文字列の第 1 文字目から右側へ転送する。
 - 1.4 編集結果文字列が, 出力フィールドの長さより長い場合は, エラーコード'LXREA018'をリターンコードとして返し, 処理を続行する。出力文字列の切り捨てはしない。

例 1

```
I-STR      : '△△△△△AB△C△△DE△F'  
I-LENG     : 13  
↓  
O-STR      : 'AB△C△△DE△F'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-STR      : '△△△△12345'  
I-LENG     : 3  
↓  
O-STR      : '12345'  
O-RTN-CD   : 'LXREA018'
```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でなければエラーコード'LXREA024'をリターンコードとして返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければエラーとし、エラーコード'LXREA020'をリターンコードとして返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
3. 入力文字列がスペースの場合、エラーコード'LXREA008'をリターンコードとして返す。出力はスペースとする。
4. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
5. EUC 対応版、Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字列長は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA07 文字列右詰め

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA07	文字列処理	文字列右詰め	LXRCIA07

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREA024 : NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020 : 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008 : 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018 : 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力文字列を右に詰める。
 - 1.1 (文字列有効桁数算出 : LXRPIA09) によって、入力文字列の最右文字位置を求める。
 - 1.2 入力文字列の最左文字位置 (半角空白以外の最初の文字の位置) を求める。
 - 1.3 入力文字列の最右文字位置から最左文字位置までの文字を、出力フィールドの長さによって示される出力文字列の最後の文字の位置から左側へ転送する。
 - 1.4 出力文字列の左側が余る場合は、半角空白によって充填する。
 - 1.5 入力文字列をすべて転送できない場合は、そこまでの文字列を出力文字列とする。エラーコード 'LXREA018' をリターンコードとして返す。

2. 標準サブルーチンの仕様

例 1

```
I-STR      : 'AB△C△△DE△F'  
I-LENG    : 13  
↓  
O-STR      : '△△△AB△C△△DE△F'  
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 2

```
I-STR      : '△△△12345'  
I-LENG    : 3  
↓  
O-STR      : '345'  
O-RTN-CD  : 'LXREA018'
```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でなければエラーコード'LXREA024'をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければエラーとし、エラーコード'LXREA020'をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。
3. 入力文字列がスペースの場合、エラーコード'LXREA008'をリターンコードとして返す。出力はスペースとする。
4. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
5. EUC 対応版、Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字列長は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA08 文字列中央揃え

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA08	文字列処理	文字列中央揃え	LXRCIA08

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	出力フィールドの長さ	OL
03	I-STR	X(200)	入力文字列	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	出力文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREA024: NUMERIC エラー	-
-	-	-	LXREA020: 入力長が範囲外	-
-	-	-	LXREA008: 入力文字列がスペース	-
-	-	-	LXREA018: 切り捨てが発生した	-

処理基準

1. 入力文字列をセンタリング編集する。
 - 1.1 (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) によって, 入力文字列の最右文字位置を求める。
 - 1.2 入力文字列の最左文字位置 (半角空白以外の最初の文字の位置) を求める。
 - 1.3 入力文字列の最右文字位置と最左文字位置から実文字数を求め, (出力フィールドの長さ: I-LENG) に収まらなければ, エラーコード'LXREA018'をリターンコードとして返し, 左詰めを行う。
 - 1.4 (出力フィールドの長さ - 実文字数) を 2 で割り (余り切り捨て), その商で表される出力文字列上の位置に入力文字列の最左文字位置からの文字列を転送する。

例 1

```
I-STR      : 'A△B△C△△△△△△△'  
I-LENG     : 10  
↓  
O-STR      : '△△A△B△C△△△△'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. 左右の空白が等しくならないときは、左側の空白を1つ少なくする。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でなければエラーコード'LXREA024'をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。
3. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければエラーとし、エラーコード'LXREA020'をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。
4. 入力文字列がスペースの場合、エラーコード'LXREA008'をリターンコードとして返す。出力はスペースとする。
5. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
6. EUC 対応版、Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字列長は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA09 文字列有効桁数算出

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA09	文字列処理	文字列有効桁数算出	LXRCIA09

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-LENG	P(3)	長さ	O
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力文字列の後方の半角空白を除いた長さを有効桁数として求める。
2. 入力文字列の前方の空白は有効桁数に含む。

例 1

```
I-STR : '△△ABC△D△EFG△△'  
↓  
O-LENG : 11
```

例 2

```
I-STR : SPACE  
↓  
O-LENG : 0
```

注意事項

1. 半角空白以外のすべての文字を有効桁数として数える。
2. EUC 対応版, Unicode 対応版で入力文字列に半角カナが存在する場合, 出力される有効桁数は実バイト長 (EUC : 2 バイト/文字, Unicode : 3 バイト/文字) で返される。

LXRPIA10 数字文字列チェック／入力編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA10	文字列処理	数字文字列チェック／入力編集	LXRCIA10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-NU	X(24)	文字列 (数字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NUM	P(12,6)	数値	O
03	O-INTP	P(2)	整数部	O
03	O-DECP	P(2)	小数部	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

- X タイプの小数, コンマ, 符号付きの数字文字列をチェック後, 表意記号通りの内部 10 進数数値に変換する。
 - NUMERIC チェック処理 (0~9,.,+-および SPACE)
 - 符号変更
 - コンマ読みとばし
 - 10 進変換
 - 小数部処理 (仮想小数への変換)
 - リターンコード, 小数桁数, 整数桁数の出力

No.	リターンコード	意味
1	SPACE	正常終了

No.	リターンコード	意味
2	LXREA009	'+'の後に', '+', '-', '!'がある
3	LXREA010	'-'の後に', '+', '-', '!'がある
4	LXREA011	'!'の後に','がある
5	LXREA013	'!'の後に', '+', '-', '!', '!'がある
6	LXREA014	'!'の後に', '+', '-', '!', '!'がある
7	LXREA015	数字の後に'+', '-'がある
8	LXREA016	0~9,+,+および SPACE 以外の文字がある
9	LXREA017	整数部が 13 桁以上または小数部が 7 桁以上ある
10	LXREA018	入力文字列がスペース

例 1

```

I-STR-NU : '+123.4567'
↓
O-NUM    : +123.4567
O-INTP   : +3
O-DECP   : +4
O-RTN-CD : SPACE

```

注意事項

- 出力される数値の属性およびサイズは S9(12)V9(6) COMP-3 とする。
- エラーとなった場合、出力数値、整数部、小数部は 0 を返す。

LXRPIA11 数字チェック／右詰め編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA11	文字列処理	数字チェック／右詰め編集	LXRCIA11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-NU	X(15)	文字列 (数字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-NU	X(15)	文字列 (数字)	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA026: 第一文字列内に数字以外のデータあり	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力文字列中の初めの文字列群に対して、NUMERIC チェックを行い、数値以外のものがあれば O-STR-NU にスペースを送り、リターンコードに'LXREA026'を送る。
2. 文字列群が数字であれば、右詰めに編集して出力エリアにセットする。
3. ゼロサプレスを行う。

例 1

```
I-STR-NU : ' △△12345△△67'  
↓  
O-STR-NU : ' △△△△△△△△△12345'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-STR-NU : '010101'  
↓  
O-STR-NU : '△△△△△△△△△△10101'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-STR-NU : '△△A12△△34'  
↓  
O-STR-NU : SPACE  
O-RTN-CD : 'LXREA026'
```

注意事項

1. 文字列群の位置は入力文字列中のどこでもよいが、文字列群が複数個存在する場合、前方の文字列群についてだけ解析を行う。
2. 入力文字列がスペースだった時は、リターンコードに'LXREA008'を送る。
3. エラーとなった場合、出力文字列にはスペースを返す。

LXRPIA12 数字文字列コンマ挿入

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA12	文字列処理	数字文字列コンマ挿入	LXRCIA12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NUM	P(18)	数値	I
03	I-LENG	P(2)	長さ	OL
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-NU	X(24)	文字列 (数字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力された数値データを右詰めに編集する。
2. 編集の際、3桁おきにコンマ (,) を挿入する。

例 1

I-NUM : 1234567 I-LENG : 19 ↓ O-STR-NU : ' △△△△△△△△△△1,234,567'
--

注意事項

1. このサブルーチンから (文字列右詰め: LXRPIA07) を呼び出す。

2. I-NUM, I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときは、リターンコードに 'LXREA024' を返し、出力文字列にスペースを転送する。
3. $1 \leq I-LENG \leq 24$ 以外の時はリターンコードに 'LXREA020' を返し、出力文字列にスペースを転送する。
4. 編集結果が I-LENG で指定した長さに入り切らないときは、リターンコードに 'LXREA018' を返し、出力文字列の 1 文字目に * を、2 文字目以降に編集結果を左詰めで転送する。

LXRPIA13 文字列前後反転

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA13	文字列処理	文字列前後反転	LXRCIA13

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 出力フィールド範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 文字列データの前後を置換する。
 - 1.1 エラーチェックを行う。
 - 1.2 入力文字列の有効桁数を取得し,
 - 入力文字列 (有効桁数) → 出力文字列 (1)
 - 入力文字列 (有効桁数-1) → 出力文字列 (2)

・
・
・

2. 標準サブルーチンの仕様

入力文字列 (1) →出力文字列 (有効桁数)
のようにして出力文字列を得る。

例 1

```
I-STR   : 'ABCD'  
I-LENG  : 4  
↓  
O-STR   : 'DCBA'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-STR   : 'ABCDEF'  
I-LENG  : 4  
↓  
O-STR   : 'FEDCBA'  
O-RTN-CD : 'LXREA018'
```

例 3

```
I-STR   : 'アイウエ'  
I-LENG  : 5  
↓  
O-STR   : 'オエウイア'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコードに'LXREA024'を返し、出力文字列にスペースを転送する。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ 以外の時はリターンコードに'LXREA020'を返し、出力文字列にスペースを転送する。
3. 入力文字列がスペースの場合はリターンコードに'LXREA008'を返す。出力文字列にスペースを転送する。
4. 入力文字列の有効桁数 $> I-LENG$ のとき、リターンコードに'LXREA018'を返す。出力文字列には処理基準に従って編集した結果を返す。
5. このサブルーチンから (文字列有効桁数算出 : LXRPIA09) を呼び出す。
6. EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナ含む場合でも例と同一の結果が得られる。
7. EUC 対応版, Unicode 対応版で半角カナを編集する場合、文字列長は実バイト長 (EUC : 2 バイト/文字, Unicode : 3 バイト/文字) で指定する。

LXRPIA14 指定文字削除

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA14	文字列処理	指定文字削除	LXRCIA14

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-DEL-STR	X(200)	削除文字	C
03	I-DEL-LENG	P(3)	削除文字数	C
03	I-SHFT-KBN	X(1)	シフト方向	C
—	—	—	'L' : 左詰め	—
—	—	—	'R' : 右詰め	—
—	—	—	上記以外 : シフトしない	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREA024 : NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020 : 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008 : 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018 : 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力文字列中から指定された文字を削除する。シフトする方向が指定された場合、左または右に詰める。

1.1 削除する方向は、次のとおり。

シフトする方向が、

'L'のとき

削除対象文字より右の文字列を左に詰める。

'R'のとき

2. 標準サブルーチンの仕様

削除対象文字より左の文字列を右に詰める。

上記以外

削除対象文字を半角空白 1 個に置換する（置換した空白は、編集結果の文字列長に含む）。

例 1

```
I-STR      : '¥123△456,789.12'  
I-LENG     : 15  
I-DEL-STR  : '△¥,.'  
I-DEL-LENG : 4  
I-SHFT-KBN : 'R'  
↓  
O-STR      : '△△△△12345678912'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. 削除文字は、入力文字列から削除する文字を直接指定する（上記の例では、'A¥,.'と指定する）。
2. I-LENG および I-DEL-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREA024'を返す。出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
3. $1 \leq I-LENG \leq 200$ かつ $1 \leq I-DEL-LENG \leq 200$ でなければ、リターンコードに'LXREA020'を返す。出力文字列には入力文字列をそのまま転記する。
4. 編集結果の文字列長が、I-LENG より長いとき、エラーコード'LXREA018'を返す。出力文字列には編集結果を返す。
5. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
6. EUC 対応版、Unicode 対応版で文字列、削除文字に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA15 空白削除

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA15	文字列処理	空白削除	LXRCIA15

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 文字データ中の半角空白を削除する。

例 1

I-STR	:	'A△△B△C△△△D'
I-LENG	:	10
	↓	
O-STR	:	'ABCD△△△△△'
O-RTN-CD	:	SPACE

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREA024'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければ、エラーコードに'LXREA020'を返し、処理を続行する。
3. 編集結果の文字列長が、I-LENG より長いとき、エラーコード'LXREA018'を返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。
4. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
5. EUC 対応版、Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA16 不要空白削除

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA16	文字列処理	不要空白削除	LXRCIA16

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 文字データ中の 2 個以上連続する空白を 1 個の空白に置き換える。
2. 先頭の空白も同様に 1 個の空白とする。

例 1

I-STR	:	'A△△B△C△△△D'
I-LENG	:	10
↓		
O-STR	:	'A△B△C△D△△△'
O-RTN-CD	:	SPACE

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREA024'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければ、エラーコードに'LXREA020'を返し、処理を続行する。
3. 編集結果の文字列長が、I-LENG より長いとき、エラーコード'LXREA018'を返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。
4. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
5. EUC 対応版、Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA17 第1文字列取得

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA17	文字列処理	第1文字列取得	LXRCIA17

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-LENG	P(3)	長さ	O
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力文字列からスペースで囲まれた第一文字列を取得し、その長さと文字をセットする。

例 1

```
I-STR   : ' ABCDEFGH△△IJK'  
I-LENG  : 14  
↓  
O-LENG  : 8  
O-STR   : ' ABCDEFGH'  
O-RTN-CD : SPACE
```

2. 標準サブルーチンの仕様

例 2

```
I-STR   : '12345△ABC'  
I-LENG  : 3  
↓  
O-LENG  : 5  
O-STR   : '12345'  
O-RTN-CD : 'LXREA018'
```

注意事項

1. 入力でエラーが発生した場合は、該当するリターンコードを返し、O-STR と O-LENG にスペースと 0 を返す（下記 5. は例外）。
2. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
3. 出力フィールドの長さと文字列有効桁数を比較する時の文字列有効桁数の長さは、第一文字列の長さとする。
4. 初めがスペースの時、スペースの次の文字列を取得する。
5. 出力で文字の切り捨てが発生した場合、第一文字列をそのまま出力してリターンコード'LXREA018'を返す。
6. EUC 対応版、Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字数は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIA19 文字列交互挿入

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA19	文字列処理	文字列交互挿入	LXRCIA19

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-1ST-LENG	P(3)	第1文字列長	IL
03	I-1ST-STR	X(200)	第1文字列	I
03	I-2ND-LENG	P(3)	第2文字列長	IL
03	I-2ND-STR	X(200)	第2文字列	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA007: 半角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 第1文字列のスペースエリアに第2文字列の文字（スペース以外）を順次セットし、編集する。
2. スペースの文字への置き換えは、第2文字列の文字数（スペースを除く）分だけ行い処理を終了する。
3. 入力文字列の先頭がスペースの場合は、入力文字列の先頭がスペースでなくなった所から始める。

例 1

```
I-1ST-LENG : 7
I-1ST-STR  : 'カンジ△カ'
I-2ND-LENG : 1
I-2ND-STR  : 'ト'
```

↓
0-STR : 'カンヅトカ'
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. 第 1 文字列長, 第 2 文字列長のそれぞれについて NUMERIC チェックを行い, 数字でなければリターンコード'LXREA024'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
2. $1 \leq$ 第 1 (第 2) 文字列長 ≤ 200 以外はエラーとし, 出力文字列にスペースを返し, リターンコードに'LXREA020'を返す。
3. 第 1 文字列, 第 2 文字列のそれぞれについてサブルーチン'LXRPIA01'を用いてチェックを行い, エラーの場合はリターンコード'LXREA007'または'LXREA008'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
4. 第 1 (第 2) 文字列長よりそれぞれの文字列の有効桁数が長い場合と, 出力文字列が 200 を超えた場合は, リターンコードに'LXREA018'を返す。処理は続行する。
5. このサブルーチンから (文字コードチェック:LXRPIA01), (文字列有効桁数算出:LXRPIA09) を呼び出す。
6. EUC 対応版, Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合, 文字数は実バイト長 (EUC: 2 バイト/文字, Unicode: 3 バイト/文字) で指定する。

LXRPIA20 EBCDIK/KEIS 混在文字列出力編集

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA20	文字列処理	EBCDIK/KEIS 混在文字列出力編集	LXRCIA20

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA018: 切り捨てが発生した	—

処理基準

PC・UNIX 版

- NUMERIC チェックで、エラーの場合は、リターンコードに'LXREA024'を返し、出力文字列にはスペースを返す。
- $1 \leq I-LENG \leq 200$ とし、それ以外の場合は、リターンコードに'LXREA020'、出力文字列にはスペースを返す。
- エラーでない場合はリターンコードにスペースを返し、入力文字列を出力文字列に転記する。

VOS3 版

- PC・UNIX 版の 1.および 2.の処理を行う。

2. エラーでない場合は、入力文字列を実データ長^{*}が指定した長さと同しくなるように編集し、出力文字列に入れる。

入力文字列の実データ長が、指定した長さより短い場合は、後ろに X'40'を追加して調整する。

入力文字列の実データ長が、指定した長さより長い場合は、X'0A41'で置換して調整する。

出力文字列の最後は必ず1個以上の'0A41'で終わるようにする。

注※ 機能キャラクタ分を除いたバイト数のこと

例 1

```
I-LENG      : 6  
I-STR       : X' 0A42A3B10A41F10A42A3B10A41F1F140404040.....'  
↓  
O-STR       : X' 0A42A3B10A41F10A42A3B10A41F10A41.....0A41'  
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 2

```
I-LENG      : 198  
I-STR       : X' 0A42B0ABB0AB.....B0ABB0AB0A41'  
↓  
O-STR       : X' 0A42B0ABB0AB.....B0ABB0AB0A41'  
O-RTN-CD    : 'LXREA018'
```

注意事項

1. 処理基準に従った編集結果文字列の実データ長が指定した長さより短くなった場合は、リターンコード'LXREA018'を返す。出力文字列には編集結果を返す。

LXRPIA21 後方スペース機能キャラクタ置換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA21	文字列処理	後方スペース機能キャラクタ置換	LXRCIA21

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR	X(200)	入力文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	出力文字列	O
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

PC・UNIX 版

1. 置換処理は行わず，入力文字列を出力文字列に転記する。

VOS3 版

1. 入力文字列中に空白 (X'A1A1', X'40') よりも後方にある機能キャラクタ (X'0A41') を前方に置き換える。処理方法を次に示す。
 - 1.1 入力文字列中の X'400A41', X'A1A10A41'を検索し，無くなるまで次の処理を繰り返す。
 - 1.1.1 X'400A41'を X'0A4140'に置き換える。
 - 1.1.2 X'A1A10A41'を X'0A414040'に置き換える。

例 1

```
I-STR : X' D8D8D8404040A41'  
↓  
O-STR : X' D8D8D80A41404040'
```

例 2

```
I-STR : X' 0A42A3D8A3D8A1A10A41'  
↓  
O-STR : X' 0A42A3D8A3D80A414040'
```

注意事項

1. 置換対象が複数存在していてもすべて置換する。

LXRPIA22 半角カナ文字入力チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA22	文字列処理	半角カナ文字入力チェック	LXRCIA22

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-KN	X(200)	文字列 (半角カナ)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1': 半角カナ小文字をエラーにしない	—
—	—	—	'2': 半角カナ小文字をエラーとする	—
—	—	—	上記以外は, '1'と見なす	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA025: 半角カナ以外	—
—	—	—	LXREA008: 入力データなし	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力文字列 (半角カナ) 中に半角カナ以外の文字が含まれているかを判定する。

例 1

```
I-STR-KN   : 'サブルーチン'  
I-SHR-KBN  : '1'  
↓  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-STR-KN   : 'コード△チェック'  
I-SHR-KBN  : '2'
```

↓
O-RTN-CD : 'LXREA025'

例 3

I-STR-KN : SPACE
I-SHR-KBN : '1'
↓
O-RTN-CD : 'LXREA008'

例 4

I-STR-KN : 'コホル2'
I-SHR-KBN : '1'
↓
O-RTN-CD : 'LXREA025'

注意事項

1. 入力文字列（半角カナ）の中で半角カナ文字と半角スペースの混在は許される。
2. 入力文字列（半角カナ）の中でスペースしか存在しない場合はリターンコードに'LXREA008'を返す。
3. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
4. 半角カナ小文字とは特殊な半角カナ（ヤヨヅアィウヱヲ「」、。・）のことを指す。

LXRPIA23 混在文字列チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA23	文字列処理	混在文字列チェック	LXRCIA23

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LGC-LENG	P(3)	論理長さ	C
03	I-PHSC-LENG	P(3)	物理長さ	IL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA022: 入力論理長誤り	—
—	—	—	LXREA021: 入力物理長誤り	—
—	—	—	LXREA023: 機能キャラクタ誤り	—

処理基準

PC・UNIX 版

1. NUMERIC チェック, 長さ範囲チェック, スペースチェックだけ行う。

VOS3 版

1. 次のチェックを行い, 該当するエラーコードまたはスペースをリターンコードに返す。

- 1.1 入力文字列の論理長と物理長が, 入力論理長, 入力物理長を超えていないことをチェックする。
- 1.2 入力文字列の中で, X'0A42'がある (KEIS 状態になる) と, その後方には X'0A42'よりも前に必ず 1 つ以上の X'0A41'がある (EBCDIK 状態に戻る) ことをチェックする。

2. 標準サブルーチンの仕様

- 1.3 処理区分が'N'の場合、入力文字列の先頭から X'0A41'の直前までの文字と、X'0A42'~X'0A41'間の文字に対して KEIS コードチェックを行う。
- 1.4 項番 1.3 の KEIS コードチェックで、対象となる文字列が奇数個である場合エラーとなり、リターンコードに'LXREB001'を返す。
- 1.5 処理区分が'N'以外の場合、入力文字列の先頭から X'0A42'の直前までの文字と、X'0A42'~X'0A41'間の文字に対して EBCDIK コードチェックを行う。

例 1

```
I-LGC-LENG : 6  
I-PHSC-LENG : 5  
I-STR      : X' 414243444546'  
↓  
O-RTN-CD   : 'LXREA021'
```

例 2

```
I-LGC-LENG : 5  
I-PHSC-LENG : 1  
I-STR      : X' 0A42A1A10A42'  
↓  
O-RTN-CD   : 'LXREA022'
```

例 3

```
I-LGC-LENG : 4  
I-PHSC-LENG : 2  
I-STR      : X' 0A42A1A1'  
↓  
O-RTN-CD   : 'LXREA023'
```

注意事項

1. 入力論理長、入力物理長の妥当性をチェックし、該当するリターンコードを返す。
2. KEIS コードチェックで、エラーと判明した場合、'LXREB001'をリターンコードに転送する。
3. EBCDIK コードチェックで、エラーと判明した場合、'LXREA007'をリターンコードに転送する。
4. このサブルーチンから（文字コードチェック：LXRPIA01）、（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）、（漢字コードチェック：LXRPIB01）を呼び出す。
5. X'40'は、KEIS コードチェックの対象となる文字列中に、奇数個存在することを許される。

LXRPIA24 混在文字列チェック (含外字)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA24	文字列処理	混在文字列チェック (含外字)	LXRCIA24

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LGC-LENG	P(3)	論理長さ	C
03	I-PHSC-LENG	P(3)	物理長さ	IL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA022: 入力論理長誤り	—
—	—	—	LXREA021: 入力物理長誤り	—
—	—	—	LXREA023: 機能キャラクタ誤り	—

処理基準

PC・UNIX 版

1. NUMERIC チェック, 長さ範囲チェック, スペースチェックだけ行う。

VOS3 版

1. 次のチェックを行い, 該当するエラーコードまたはスペースをリターンコードに返す。

- 1.1 入力文字列の論理長と物理長が, 入力論理長, 入力物理長を超えていないことをチェックする。
- 1.2 入力文字列の中で, X'0A42'がある (KEIS 状態になる) と, その後方には X'0A42'よりも前に必ず 1 つ以上の X'0A41'がある (EBCDIK 状態に戻る) ことをチェックする。

2. 標準サブルーチンの仕様

1.3 処理区分が'N'の場合、入力文字列の先頭から X'0A41'の直前までの文字と、X'0A42'~X'0A41'間の文字に対して、KEIS コードチェックを行う。

1.4 処理区分が'N'以外の場合、入力文字列の先頭から X'0A42'の直前までの文字と、X'0A42'~X'0A41'間の文字に対して、EBCDIK コードチェックを行う。

例 1

```
I-LGC-LENG : 6
I-PHSC-LENG : 5
I-STR      : X' 414243444546'
↓
O-RTN-CD   : 'LXREA021'
```

例 2

```
I-LGC-LENG : 5
I-PHSC-LENG : 1
I-STR      : X' 0A42A1A10A42'
↓
O-RTN-CD   : 'LXREA022'
```

例 3

```
I-LGC-LENG : 4
I-PHSC-LENG : 2
I-STR      : X' 0A42A1A1'
↓
O-RTN-CD   : 'LXREA023'
```

注意事項

1. 入力論理長、入力物理長の妥当性をチェックし、該当するリターンコードを返す。
2. KEIS コードチェックで、エラーと判明した場合、'LXREB006'をリターンコードに転送する。
3. EBCDIK コードチェックで、エラーと判明した場合、'LXREA007'をリターンコードに転送する。
4. このサブルーチンから（文字コードチェック：LXRPIA01）、（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）、（漢字コードチェック（含外字）：LXRPIB02）を呼び出す。
5. X'40'は、KEIS コードチェックの対象となる文字列中に、奇数個存在することを許される。

LXRPIA25 英数字チェック／編集

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA25	項目編集	英数字チェック／編集	LXRCIA25

インタフェース

入力 (区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	IL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
03	I-CHK-PARM	X(50)	チェック条件パラメータ	C
—	'ENT=入力モード指定, CHK=(文字指定 [,文字指定])'			—
—	—	—	(詳細は LXRPIZ11 および LXRPIA27 の補足説明を参照のこと)	—
03	I-EDIT-PARM	X(50)	編集条件パラメータ	C
—	'CHG=変換指定, SHT=シフト指定'		(詳細は LXRPIZ11 および LXRPIA27 の補足説明を参照のこと)	—
—	—	—	—	—

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXREA024：NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020：入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008：入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA027：全桁満たされていない	—
—	—	—	LXREA030：指定以外の文字あり	—

処理基準

1. 注意事項 1.~3.に従ってチェックする。
2. I-STR を次のように変換した結果を作業領域 W-STR-1, W-STR-2(ともに PIC X(200))にセットする。
 - 2.1 LOW-VALUE を SPACE に置き換えて、その結果を W-STR-1 にセットする。

- 2.2 さらに左詰め処理を行った結果を W-STR-2 にセットする。
3. W-STR-1 に対して I-EDIT-PARM で指定した編集を行い、結果を O-STR にセットする。
4. I-CHK-PARM に 'ENT=MENT' または 'ENT=MFILL' の指定があり、かつ W-STR-1 が SPACE の時、O-RTN-CD に 'LXREA008' を返す。
5. そのほかの時、次の処理を行う。
- 5.1 I-CHK-PARM に 'ENT=MFILL' の指定があり、かつ I-LENG が W-STR-2 の有効桁数より大きい時、O-RTN-CD に 'LXREA027' を返す。
- 5.2 そのほかの時、W-STR-2 (1:有効桁数) に対して I-CHK-PARM の CHK パラメータで指定したチェックを行う。
- 5.2.1 エラーの時、O-RTN-CD に 'LXREA030' を返す。
- 5.2.2 エラーでない時、O-RTN-CD に SPACE を返す。

例 1

```

I-LENG      : 6
I-STR       : ' ΔA11ΔΔ '
I-CHK-PARM  : ' CHK=(ALPHA, ALNUM) '
I-EDIT-PARM : ' SFT=LEFT '
↓
O-STR       : ' A11ΔΔΔ '
O-RTN-CD    : SPACE

```

例 2

```

I-LENG      : 6
I-STR       : ' Δa11ΔΔ '
I-CHK-PARM  : ' CHK=CAPS, ENT=MENT '
I-EDIT-PARM : ' SET=LEFT, CHG=STOC '
↓
O-STR       : ' A11ΔΔΔ '
O-RTN-CD    : ' LXREA030 '

```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコードに 'LXREA024' を返す。O-STR には SPACE をそのまま返す。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければリターンコードに 'LXREA020' を返す。O-STR には SPACE を返す。
3. (パラメータ解析: LXRPIZ11) を呼び出して I-CHK-PARM, I-EDIT-PARM をチェックする。エラーの時は、リターンコードをそのまま返し、O-STR には SPACE を返す。
4. I-STR の中の LOW-VALUE は、半角空白と同様に扱う。
5. このサブルーチンから、3.の他に (文字列左詰め: LXRPIA06), (文字列右詰め: LXRPIA07), (文字列有効桁数算出: LXRPIA09) を呼び出す。

LXRPIA26 数字チェック／数値変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA26	項目編集	数字チェック／数値変換	LXRCIA26

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(2)	長さ	IL
03	I-STR-NU	X(18)	文字列 (数字)	I
03	I-CHK-PARM	X(50)	チェック条件パラメータ	C
—	—	—	'ENT=入力モード指定'	—
—	—	—	(詳細は LXRPIZ11 および LXRPIA27 の補足説明を参照のこと)	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NUM	9(18)	数値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREA024 : NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020 : 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREA008 : 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREA027 : 全桁満たされていない	—
—	—	—	LXREA026 : 指定以外の文字あり	—

処理基準

1. 注意事項 1.~3.に従ってチェックする。
2. I-STR-NU を次のように変換した結果を作業領域 W-STR-NU-1, W-STR-NU-2 (共に PIC X(18)) にセットする。
 - 2.1 LOW-VALUE を SPACE に置き換えて, その結果を W-STR-NU-1 にセットする。
 - 2.2 さらに右詰め処理を行い, 前方の SPACE を'0'に置き換えた結果を W-STR-NU-2 にセットする。

3. I-CHK-PARM に 'ENT=MENT' または 'ENT=MFILL' の指定があり、かつ W-STR-NU-1 が SPACE の時、O-NUM に 0 を、O-RTN-CD に 'LXREA008' を返す。
4. そのほかの時、次の処理を行う。
 - 4.1 I-CHK-PARM に 'ENT=MFILL' の指定があり、かつ I-LENG が W-STR-NU-1 の有効桁数より大きい時、O-NUM に 0 を、O-RTN-CD に 'LXREA027' を返す。
 - 4.2 そのほかの時、W-STR-NU-2 に対して NUMERIC チェックを行う。
 - 4.2.1 エラーの時、O-NUM に 0 を、O-RTN-CD に 'LXREA026' を返す。
 - 4.2.2 エラーでない時、W-STR-NU-2 を O-NUM に転送し、O-RTN-CD に SPACE を返す。

例 1

```
I-LENG      : 6
I-STR-NU    : ' △123△△'
I-CHK-PARM  : ' ENT=MENT'
↓
O-NUM       : 123
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 2

```
I-LENG      : 2
I-STR-NU    : ' △123456'
I-CHK-PARM  : ' ENT=MMENT'
↓
O-NUM       : 123456
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 3

```
I-LENG      : 6
I-STR-NU    : ' 123△△△'
I-CHK-PARM  : ' ENT=MFILL'
↓
O-NUM       : 0
O-RTN-CD    : ' LXREA027'
```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコードに 'LXREA024' を返す。O-NUM には 0 を返す。
2. $1 \leq I-LENG \leq 18$ でなければリターンコードに 'LXREA020' を返す。O-NUM には 0 を返す。
3. (パラメータ解析: LXRPIZ11) を呼び出して I-CHK-PARM をチェックする。エラーの時は、リターンコードをそのまま返し、O-NUM には 0 を返す。
4. I-LENG が W-STR-NU-1 の有効桁数より小さくても、数値変換の結果は切り捨てない。
5. I-STR-NU の中の LOW-VALUE は、半角空白と同様に扱う。

6. このサブルーチンから、3.のほかに（文字列右詰め：LXRPIA07）,（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。

LXRPIA27 数字範囲チェック／数値変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA27	項目編集	数字範囲チェック／数値変換	LXRCIA27

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(2)	長さ	IL
03	I-STR-NU	X(18)	文字列 (数字)	I
03	I-CHK-PARM	X(50)	チェック条件パラメータ	C
—	—	—	'ENT=入力モード指定'	—
—	—	—	(詳細は LXRPIZ11 および LXRPIA27 の補足説明を参照のこと)	—
03	I-RNG-PARM	X(50)	範囲パラメータ	C
—	—	—	'1:3,11:13,99'の形式で指定	—
—	—	—	(詳細は処理基準, 注意事項参照のこと)	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NUM	9(18)	数値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREA028: 範囲パラメータエラー	—
—	—	—	LXREA029: 数値が指定範囲外	—
—	—	—	(そのほかの内容は LXRPIA26 の項を参照のこと)	—

処理基準

1. 注意事項 1.と 2.に従ってチェックする。
2. I-LENG, I-STR-NU, I-CHK-PARM の値をそのまま渡して (数字チェック／数値変換: LXRPIA26) を呼び出す。
3. LXRPIA26 の出力数値 (O-NUM) を O-NUM に転送する。
4. LXRPIA26 のリターンコード (O-RTN-CD) が SPACE の時, 次の処理を行う。
 - 4.1 I-RNG-PARM の値が次の範囲パラメータの文法に合っているかをチェックする。

範囲パラメータ=範囲 [,範囲] ...

範囲=数字並び [: [数字並び]] または
: 数字並び

数字並び= 1 個以上 18 個以下の数字 (0~9) の並び

4.2 チェック結果がエラーの時, O-RTN-CD に'LXREA028'を返す。

4.3 チェック結果がエラーでない時, 次の処理を行う。

4.3.1 O-NUM の値が範囲パラメータで指定する範囲に含まれていれば O-RTN-CD に SPACE を返す。

4.3.2 そのほかの時, O-RTN-CD に'LXREA029'を返す。

5. そのほかの時, LXRPIA26 のリターンコード (O-RTN-CD) をそのまま O-RTN-CD に返す。

例 1

```
I-LENG      : 6
I-STR-NU    : ' Δ123ΔΔ'
I-CHK-PARM  : ' ENT=MENT'
I-RNG-PARM  : ' 1:200,999'
↓
O-NUM       : 123
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 2

```
I-LENG      : 2
I-STR-NU    : ' Δ123ΔΔ'
I-CHK-PARM  : ' ENT=MMENT'
I-RNG-PARM  : ' :99'
↓
O-NUM       : 123
O-RTN-CD    : ' LXREA029'
```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い, 数値でないときはリターンコード (O-RTN-CD) に 'LXREA024'を返す。O-NUM には 0 を返す。
2. $1 \leq I-LENG \leq 18$ でなければ, リターンコードに'LXREA020'を返す。O-NUM には 0 を返す。
3. 範囲パラメータで指定する範囲の例を次に示す (O-NUM の値 x とする)。
 - 3.1 I-RNG-PARM = '1:3,11:13,90'の時 $1 \leq x \leq 3$ OR $11 \leq x \leq 13$ OR $90 \leq x$
 - 3.2 I-RNG-PARM = ':5,9'の時 $x \leq 5$ OR $x = 9$
 - 3.3 I-RNG-PARM = ':9,5:'の時 $x \leq 9$ OR $5 \leq x$
4. 範囲が重複していてもエラーにはならない。
5. 範囲'a:b'は, a と b の大小関係に係わらず, 常に $a \leq x$ AND $x \leq b$ と解釈される。

6. このサブルーチンから（数字チェック／数値変換：LXRPIA26）、（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。

補足説明

1. チェック条件パラメータ

1.1 'ENT=入力モード指定'

入力必須、全桁入力の区分を指定する。

1.1.1 入力モード指定

MNENT 空白可 入力データがSPACEの時、エラーにしない。

MENT 入力必須 入力データがSPACEの時、エラーにする。

MFILL 全桁入力 入力データの有効桁数がI-LENGで指定した長さより短い場合、エラーにする。

1.2 'CHK=(文字指定 [,文字指定])'

文字種別で指定した文字だけで構成されているかチェックする。チェックの範囲は、SPACE 以外の最初の文字から SPACE 以外の最後の文字までとする。

文字指定を2つ指定した場合、1つ目の文字指定は先頭1文字に、2つ目の文字指定は2文字目以降に適用する。

文字指定を1つ指定した場合、この指定を全文字に適用する。

1.2.1 文字指定

ALNUM	英数字	A-Z, a-z, 0-9	(62文字)
ALPHA	英字	A-Z, a-z	(52文字)
CAPS	英大文字	A-Z	(26文字)
SMLS	英小文字	a-z	(26文字)
NUM	数字	0-9	(10文字)
CAPSNUM	英大文字または数字	A-Z, 0-9	(36文字)
SMLSNUM	英小文字または数字	a-z, 0-9	(36文字)

1.3 デフォルト値

'ENT=MNENT,CHK=(ALNUM,ALNUM)'

2. 編集条件パラメータ

2.1 'CHG=変換指定'

文字変換を指定する。

2.1.1 変換指定

NOCHG 変換しない

STOC 英小文字を英大文字に変換

CTOC 英大文字を英小文字に変換

2.2 'SFT=シフト指定'

左詰め、右詰めするかを指定する。

2.2.1 シフト指定

NOSFT シフトしない

LEFT 左詰めする

RIGHT 右詰めする

2.3 デフォルト値

'CHG=NOCHG,SFT=NOSFT'

注意事項

1. キーワード (CHK, ENT, CHG, SFT) の指定がない時、あるいは等号の右側の値が上記以外の場合、デフォルト値が指定されたと解釈する。
2. 各サブルーチンの入力パラメータとして必要としないキーワードが入力されても無視する。エラーとしない。
3. キーワードを重複して指定した場合、エラーとしないで次の例のように解釈する。

'CHK=ALNUM,CHK=ALPHA' → 'CHK=(ALNUM,ALPHA)' と同等

'CHK=ALNUM,CHK=(CAPS,NUM)→'CHK=(ALNUM,CAPS)' と同等

(CHK の場合、括弧の付き方に関係なく、前から 2 つが有効となる)

'SFT=(LEFT,RIGHT)' → 'SFT=LEFT' と同等

'SFT=LEFT,SFT=RIGHT'→'SFT=LEFT' と同等

(ENT, CHG, SFT の場合、括弧の付き方に関係なく、前から 1 つが有効となる)

LXRPIA28 文字列切断

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIA28	文字列処理	文字列切断	LXRCIA28

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREA024: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREA020: 入力長が範囲外	—

処理基準

PC・UNIX 版

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、エラーのときはリターンコードに'LXREA024'を返す。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ とし、それ以外はリターンコードに'LXREA020'を返す。
3. 文字データを I-LENG で指定された長さで切断する。

VOS3 版

1. PC・UNIX 版の 1.および 2.の処理を行う。
2. 文字列中に機能キャラクタが正しく配置されていることを確認する。エラーの場合は、そのままリターンコードを返す。
3. 文字データを I-LENG で指定された長さで切断する。

例 1

```
I-LENG  : 10  
I-STR   : X' 0A42A4A2A4A4A4A6A4A80A414040...'  
↓  
O-STR   : X' 0A42A4A2A4A4A4A60A414040...'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 切断点が全角文字のコードの途中になる場合は、その前で切断する。
2. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）、（漢字コードチェック：LXRPIB01）、（混在文字列チェック：LXRPIA23 VOS3 版だけ）を呼び出す。
3. EUC 対応版、Unicode 対応版で文字列に半角カナを入力する場合、文字列長は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。

LXRPIB01 漢字コードチェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB01	漢字処理	漢字コードチェック	LXRCIB01

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB001: 全角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力されたデータがすべて全角文字コードであるかチェックする (チェックする文字コードの範囲は付録 A および付録 B を参照のこと)。

例 1

```
I-STR-KJ : NC' あ'  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. VOS3 版の場合、機能キャラクタは全角コードに含まない。したがって、機能キャラクタを含む場合はエラーとなる。

3. このサブルーチンから（漢字データ有効桁数算出：LXRPIB07）を呼び出す。
4. EUC 対応版の場合，EUC-HJ（日立自治体用外字）はエラーとしない。

LXRPIB02 漢字コードチェック (含外字)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB02	漢字処理	漢字コードチェック (含外字)	LXRCIB02

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREB006: 全角文字 (含外字) コード以外あり	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力されたデータがすべて全角文字コード (外字領域を含む) であるかチェックする (チェックする文字コードの範囲は付録 A および付録 B を参照のこと)。

例 1

```
I-STR-KJ : NC' あ'  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. VOS3 版の場合、機能キャラクタは全角コードに含まない。したがって、機能キャラクタを含む場合はエラーとなる。

3. このサブルーチンから（漢字データ有効桁数算出：LXRPIB07）を呼び出す。
4. EUC 対応版の場合，EUC-HJ（日立自治体用外字）はエラーとしない。

LXRPB03 漢字シフト

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB03	漢字処理	漢字シフト	LXRCIB03

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
03	I-SHFT-LENG	P(3)	シフトする文字数	C
—	—	—	正数: 右方向にシフト	—
—	—	—	負数: 左方向にシフト	—
—	—	—	ゼロ: シフトしない	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: シフトする文字数が範囲外	—

処理基準

- 漢字データの内容を指定文字数分シフトする。
 - シフトする文字数 (I-SHFT-LENG) によって、次の処理を行う。
 - 正数: I-SHIFT-LENG の値だけ、右方向にシフトする。
 - 負数: I-SHIFT-LENG の絶対値だけ、左方向にシフトする。
 - ゼロ: 入力文字列をそのまま出力文字列とする。

例 1

```
I-STR-KJ   : 'あいうえお'  
I-SHFT-LENG : 2  
↓  
O-STR-KJ   : '△△あいうえお'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-STR-KJ   : 'あいうえお'  
I-SHFT-LENG : -2  
↓  
O-STR-KJ   : 'うえお'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. I-SHFT-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でない時はエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返し、出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
2. $-100 \leq \text{I-SHFT-LENG} \leq 100$ でなければ、I-SHFT-LENG を 100 として処理を続行し、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。
3. シフトした結果が出力文字列 N(100)の範囲からはみだす時は切り捨てる。リターンコードには、スペースを出力する。

LXRPIB04 漢字データ左詰め

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB04	漢字処理	漢字データ左詰め	LXRCIB04

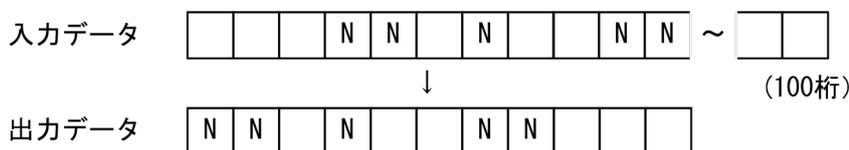
インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREB005: NUMERIC エラー	-
-	-	-	LXREB004: 入力長が範囲外	-
-	-	-	LXREB003: 入力文字列がスペース	-
-	-	-	LXREB002: 切り捨てが発生した	-

処理基準

- 漢字データを左に詰める。



例 1

```

I-STR-KJ   : '△△△あい△う△△えお'
I-LENG     : 11
↓

```

- 標準サブルーチンの仕様

0-STR-KJ	: 'あい△う△△えお△△△'
0-RTN-CD	: SPACE

注意事項

1. 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返し、出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
3. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返し、出力文字列は入力文字列をそのまま転記する。
4. 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま転記する。
5. このサブルーチンから (漢字データ有効桁数算出: LXRPIB07) を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPIB05 漢字データ右詰め

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB05	漢字処理	漢字データ右詰め	LXRCIB05

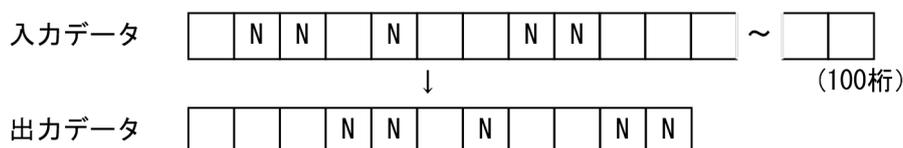
インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

- 漢字データを右に詰める。



例 1

```

I-STR-KJ   : 'あい△う△△えお△△△'
I-LENG     : 11
↓

```

O-STR-KJ	: '△△△あい△う△△えお'
O-RTN-CD	: SPACE

注意事項

1. 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。入力文字列をそのまま出力とする。
3. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。入力文字列 (I-STR-KJ) をそのまま出力文字列 (O-STR-KJ) に送る。
4. 入力文字列をすべて転送できないときは、左側を切り捨てる。リターンコード'LXREB002'を返す。
5. このサブルーチンから (漢字データ有効桁数算出: LXRPIB07) を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPB06 漢字データ中央揃え

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB06	漢字処理	漢字データ中央揃え	LXRCIB06

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力文字列をセンタリング編集する。
 - 1.1 (漢字データ有効桁数算出: LXRPB07) によって, 入力文字列の最右文字位置を求める。
 - 1.2 入力文字列の最左文字位置 (空白以外の最初の文字の位置) を求める
 - 1.3 入力文字列の最右文字位置と最左文字位置から実文字数を求め, (出力フィールドの長さ: I-LENG) に収まらなければエラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返し, 左詰めを行う。
 - 1.4 (出力フィールドの長さ-実文字数) を 2 で割り (余り切り捨て), その商で表される出力文字列上の位置に入力文字列の最左文字位置からの文字列を転送する。

例 1

```
I-STR-KJ : ' あ△い△う△え△△△△'  
I-LENG   : 11  
↓  
O-STR-KJ : ' △△あ△い△う△え△△'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 左右の空白が等しくなれないときは、左側の空白を 1 つ少なくする。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でなければエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返し、入力文字列はそのまま出力する。
3. $1 \leq I-LENG \leq 100$ でなければエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返し入力文字列をそのまま出力する。
4. 入力文字列がスペースの場合、エラーコード'LXREB003'をリターンコードとして返し、入力文字列をそのまま出力する。
5. このサブルーチンから（漢字データ有効桁数算出：LXRPIB07）を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPB07 漢字データ有効桁数算出

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB07	漢字処理	漢字データ有効桁数算出	LXRCIB07

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-LENG	P(3)	長さ	O
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

処理基準

- 漢字データの有効桁数を求める。

入力データ

N	N	N			N		N		
---	---	---	--	--	---	--	---	--	--

 ~

--	--

 (100桁)

↓

有効桁数 8桁

例

I-STR-KJ : '△あいう△△え△お'
↓
O-LENG : 9

注意事項

- 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。

2. 入力文字列（漢字）の先頭空白は有効桁数に含む。
3. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で返す。

LXRPB08 空白削除 (漢字データ)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB08	漢字処理	空白削除 (漢字データ)	LXRCIB08

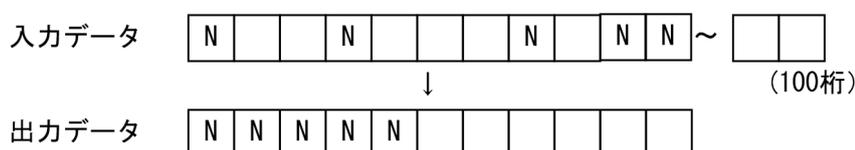
インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

- 漢字データ中の空白を削除する。



例 1

```

I-STR-KJ : 'あ△△い△△△う△えお'
I-LENG   : 11
↓

```

0-STR-KJ : 'あいうえお△△△△△△'
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. 左右の空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
3. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。処理を続行する。
4. 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。
5. このサブルーチンから (漢字データ有効桁数算出 : LXRPIB07), (全角空白→半角空白置換 : LXRPIB13) を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPB09 不要空白削除 (漢字データ)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB09	漢字処理	不要空白削除 (漢字データ)	LXRCIB09

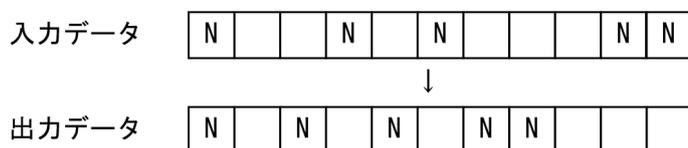
インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

- 漢字データ中の 2 個以上連続する空白の 2 個目以降を削除する。



- 先頭の空白も同様に 1 個の空白とする。

例

I-STR-KJ : ' あ△△い△う△△△えお'
I-LENG : 11

↓
0-STR-KJ : ' あ△い△う△えお△△△'
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. 左右の空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
3. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
4. 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返し、処理を続行する。出力は編集結果文字列をそのまま返す。
5. このサブルーチンから (漢字データ有効桁数算出 : LXRPIB07), (全角空白→半角空白置換 : LXRPIB13) を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPIB10 漢字交互挿入

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB10	漢字処理	漢字交互挿入	LXRCIB10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-1ST-LENG	P(3)	第一文字列長	IL
03	I-1ST-STR	N(100)	第一文字列	I
03	I-2ND-LENG	P(3)	第二文字列長	IL
03	I-2ND-STR	N(100)	第二文字列	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB001: 漢字コード範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. I-1ST-STR を (文字コードチェック (漢字): LXRPIB01) を呼びチェックする。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時, I-1ST-LENG の NUMERIC チェックを行い, I-2ND-STR と I-2ND-LENG に対しても同じ処理を行う。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時 (漢字コードチェック: LXRPIB01) のリターンコードを返す。
2. 入力データがすべて正常だった場合, 入力漢字データ 1 のスペースエリアに入力漢字データ 2 がスペースになるまで順次セットし編集する。
 - 2.1 出力する時に切り捨てが発生した時と, 入力漢字データの長さが入力漢字データ数より短かった場合は, エラーコードに 'LXREB002' を返し, 出力は編集結果文字列をそのまま返す。

例 1

```
I-1ST-LENG : 8
I-1ST-STR  : '世帯主△長男△子'
I-2ND-LENG : 3
I-2ND-STR  : 'の△の'
↓
O-STR      : '世帯主の長男の子'
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. 第一文字列長と第二文字列長が、 $1 \leq I-1ST-LENG, I-2ND-LENG \leq 100$ の範囲外だった時リターンコードに'LXREB004'を返す。
2. NUMERIC エラーが起こった時は、リターンコードに'LXREB005'を返す。
3. このサブルーチンから（漢字データ有効桁数算出：LXRPIB01）と（全角空白→半角空白置換：LXRPIB07）を呼び出す。
4. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPIB11 不当漢字コード置換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB11	漢字処理	不当漢字コード置換	LXRCIB11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
03	I-CHAR-KJ	N(1)	文字 (漢字)	C
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	出力文字列 (漢字)	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 長さの NUMERIC チェックと範囲チェックを行う。
 - リターンコードがスペースの時、一文字ずつ漢字データを (漢字コードチェック: LXRPIB01) を使ってチェックしリターンコードが'LXREB001'のとき置換する漢字を出力する。

例 1

```
I-STR-KJ : X' A0A1A2A3'  
I-LENG   : 2  
I-CHAR-KJ : X' A1A1'  
↓  
O-STR-KJ : X' A1A1A2A3'
```

0-RTN-CD : SPACE
(この例はV0S3版の例です)

注意事項

1. I-LENG に数字以外が入力された時は、リターンコードに'LXREB005'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
2. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、出力文字列にスペースをリターンコードに'LXREB004' を返す。
3. 置換の範囲は I-LENG で指定した長さの範囲だけとする。
4. このサブルーチンから（漢字コードチェック：LXRPIB01）を呼び出す。
5. 入力文字列中のスペースは、正常データとして処理する。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPB12 機能キャラクタ削除

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB12	漢字処理	機能キャラクタ削除	LXRCIB12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—
—	—	—	—	—

処理基準

PC・UNIX 版

1. I-LENG の NUMERIC チェックと範囲チェックを行う。

VOS3 版

1. I-LENG の NUMERIC チェックと範囲チェックを行う。
2. リターンコードがスペースの場合、機能キャラクタを削除する。

例 1

```
I-LENG  : 6
I-STR   : X' 0A41C3C20A42C3A10A410A42'
↓
O-STR   : X' C3C2C3A1'
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-LENG  : 3
I-STR   : X' 0A42' 1234X' 0A41'
↓
O-STR   : 1234
O-RTN-CD : 'LXREB002'
```

注意事項

1. I-LENG に数字以外が入力されたときは、出力文字列にスペース、リターンコードに'LXREB005'を返す。
2. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でない場合、出力文字列にスペース、リターンコードに'LXREB004'を返す。
3. 編集結果の有効桁数が出力フィールドの長さを超えていた場合はリターンコードに'LXREB002'を返す。
4. このサブルーチンから（文字列有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。

LXRPB13 全角空白→半角空白置換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB13	漢字処理	全角空白→半角空白置換	LXRCIB13

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力された漢字データの中の全角空白 1 個を半角空白 2 個に置換する (Unicode 対応版では全角空白 1 個を半角空白 1 個に置換する)。

例 1

```
I-STR-KJ : 'あ□い□う'  
I-LENG   : 5  
↓  
O-STR-KJ : 'あ△△い△△う'  
O-RTN-CD : SPACE  
  
□ : 全角空白1個  
△ : 半角空白1個
```

注意事項

1. 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
3. $1 \leq \text{I-LENG} \leq 100$ 以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。処理を続行する。
4. 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返す。出力は編集結果文字列をそのまま返す。
5. このサブルーチンから (漢字データ有効桁数算出: LXRPIB07) を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPB14 半角空白→全角空白置換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPB14	漢字処理	半角空白→全角空白置換	LXRCIB14

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB003: 入力文字列がスペース	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 入力された漢字データの中の半角空白 2 個を全角空白 1 個に置換する (Unicode 対応版では半角空白 1 個を全角空白 1 個に置換する)。

例

```
I-STR-KJ : 'あ△△い△△う'  
I-LENG   : 5  
↓  
O-STR-KJ : 'あ□い□う'  
O-RTN-CD : SPACE  
  
△ : 半角空白1個  
□ : 全角空白1個
```

注意事項

1. 半角空白 2 個は全角空白 1 個と見なす (Unicode 対応版では半角空白 1 個は全角空白 1 個)。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
3. $1 \leq \text{I-LENG} \leq 100$ 以外はエラーとし、エラーコード'LXREB004'をリターンコードとして返す。処理は続行する。
4. 編集結果文字列長 > 出力フィールドの長さの場合、エラーコード'LXREB002'をリターンコードとして返す。出力は編集結果文字列をそのまま返す。
5. このサブルーチンから (漢字データ有効桁数算出: LXRPIB07) を呼び出す。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPIB15 漢字交互挿入 (含外字)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIB15	漢字処理	漢字交互挿入 (含外字)	LXRCIB15

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-1ST-LENG	P(3)	第一文字列長	IL
03	I-1ST-STR	N(100)	第一文字列	I
03	I-2ND-LENG	P(3)	第二文字列長	IL
03	I-2ND-STR	N(100)	第二文字列	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	N(100)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREB002: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 注意事項 1.~3.に従ってチェックする。
2. リターンコードがスペースの場合、入力第一文字列のスペースエリアに入力第二文字列をスペースが現れるまで順次セットし編集する。
 - 2.1 出力する時に切り捨てが発生した場合、また、入力文字列の文字数が入力長より短かった場合は、エラーコード'LXREB002'をリターンコードに設定し、出力は結果文字列をそのまま返す。

例 1

```
I-1ST-LENG : 8  
I-1ST-STR  : '世帯主△長男△子'  
I-2ND-LENG : 3  
I-2ND-STR  : 'の△の'  
↓
```

0-STR	: '世帯主の長男の子'
0-RTN-CD	: SPACE

注意事項

1. I-1ST-STR, I-2ND-STR について (漢字コードチェック (含外字): LXRPIB02) を呼び出し, チェックする。
2. I-1ST-LENG, I-2ND-LENG について NUMERIC チェックを行い, エラーのときはエラーコード 'LXREB005' をリターンコードに設定する。
3. $1 \leq I-1ST-LENG \leq 100$, $1 \leq I-2ND-LENG \leq 100$ でなければエラーコード 'LXREB004' をリターンコードに設定する。
4. 文字サブルーチンから (漢字コードチェック (含外字): LXRPIB02) と (漢字データ有効桁数算出: LXRPIB07) を呼び出す。
5. Unicode 対応版では, サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRP16 不当漢字コード置換 (含外字)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRP16	漢字処理	不当漢字コード置換 (含外字)	LXRCIB16

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
03	I-CHAR-KJ	N(1)	文字 (漢字)	C
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	出力文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREB005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREB004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. 注意事項 1.と 2.に従ってチェックする。
2. リターンコードがスペースの場合, 入力文字列を1文字ずつ (漢字コードチェック (含外字): LXRP16) を呼び出してチェックし, リターンコードが'LXREB006'のとき, 置換する漢字に置き換える。

例

```
I-STR-KJ   : X' A0A1A2A3'
I-LENG     : 2
I-CHAR-KJ  : X' A1A1'
↓
O-STR-KJ   : X' A1A1A2A3'
O-RTN-CD   : SPACE
(この例はV0S3版の例です)
```

注意事項

1. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、エラーのときはエラーコード'LXREB005'をリターンコードに設定する。
2. $1 \leq I-LENG \leq 100$ でなければエラーコード'LXREB004'をリターンコードに設定する。
3. 置換の範囲は I-LENG で指定した長さの範囲だけとする。
4. このサブルーチンから（漢字コードチェック（含外字）：LXRPIB02）を呼び出す。
5. 入力文字列中のスペースは、正常データとして処理する。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。

LXRPIC01 半角→全角変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC01	コード変換	半角→全角変換	LXRCIC01

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(200)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. 半角 1 文字を全角 1 文字に変換する。
2. 濁音・半濁音は、半角 2 文字を全角 1 文字に変換する。
3. 空白文字・制御文字および未使用コードは空白 (2 バイト) に変換する。

例 1

```
I-STR   : 'ヒタチ'  
I-LENG  : 3  
↓  
O-STR-KJ: 'ヒタチ'  
O-RTN-CD: SPACE
```

例 2

```
I-STR   : 'ゼンカク'  
I-LENG  : 5  
↓  
O-STR-KJ : 'ゼンカク'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. VOS3 版の場合、機能キャラクタも通常の半角 2 バイトとして扱う。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。
3. $1 \leq I-LENG \leq 200$ でなければ、エラーコード'LXREC004'をリターンコードとして返す。出力文字列にはスペースを返す。
4. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。
5. EUC 対応版、Unicode 対応版で半角カナを変換する場合、文字数は実バイト長（EUC：2 バイト/文字、Unicode：3 バイト/文字）で指定する。
6. 特殊文字の半角文字と全角文字の対応を次の表に示す。

項番	半角文字	全角文字
1	!	!
2	"	"
3	#	#
4	\$	\$
5	%	%
6	&	&
7	'	'
8	((
9))
10	*	*
11	+	+
12	,	,
13	-	-
14	.	.
15	/	/
16	:	:
17	;	;
18	<	<
19	=	=
20	>	>
21	?	?
22	@	@
23	[[
24	¥	¥
25]]
26	^	^
27	_	_
28	`	`
29	{	{
30		
31	}	}
32	~	~
33	°	°
34	「	「
35	」	」
36	、	、

LXRPIC02 全角→半角変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC02	コード変換	全角→半角変換	LXRCIC02

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREC008: 変換できない文字がある	—
—	—	—	LXREC009: 切り捨てが発生した	—

処理基準

1. 全角 1 文字を半角 1 文字に変換する。
2. 濁音・半濁音は、全角 1 文字を半角 2 文字に変換する。

例 1

```
I-LENG   : 10
I-STR-KJ : 'ヴァイオリン'
↓
O-STR    : 'ヴァイリン'
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 対応する半角文字コードがない場合は空白文字に変換する。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
3. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
4. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。
5. 編集結果が出力文字列に入りきらないときは、リターンコードに'LXREC009'を返し、超えた分は切り捨てて出力文字列にセットする。
6. Unicode 対応版では、サロゲートペアで表現される文字は 1 ペア 2 文字で指定する。
7. 特殊文字の半角文字と全角文字の対応は、LXRPIC01「半角→全角変換」の注意事項に記載されている、特殊文字の半角／全角の対応一覧を参照のこと。

LXRPIC03 EBCDIK→JIS 変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC03	コード変換	EBCDIK→JIS 変換	LXRCIC03

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. EBCDIK コードを JIS8 単位コードに変換する。

例

```
I-STR   : X' F1F2F3F4'  
I-LENG  : 04  
↓  
O-STR   : X' 31323334'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 文字が未定義の場合、空白に変換する。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。

3. $1 \leq I\text{-LENG} \leq 200$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
4. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。

LXRPIC04 JIS→EBCDIK 変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC04	コード変換	JIS→EBCDIK 変換	LXRCIC04

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. JIS8 単位コードを EBCDIK コードに変換する。

例 1

```
I-STR   : X' 31323334'  
I-LENG  : 04  
↓  
O-STR   : X' F1F2F3F4'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 文字が未定義の場合、空白に変換する。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。

3. $1 \leq I\text{-LENG} \leq 200$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
4. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。

LXRPIC05 JIS 漢字→KEIS 変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC05	コード変換	JIS 漢字→KEIS 変換	LXRCIC05

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. JIS 漢字コードを KEIS コードに変換する。

例 1

```
I-STR-KJ : X' 234123422343'  
I-LENG   : 3  
↓  
O-STR-KJ : X' A3C1A3C2A3C3'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. KEIS コードは N タイプで出力する。
2. 変換データの長さは文字数 (バイト数/2) で指定する。

3. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。
4. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
5. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。
6. JIS 漢字コード以外の文字列を入力した場合、リターンコードは正常終了となり、入力した文字コードと同じ文字コードの文字列を返す。

LXRPIC06 KEIS→JIS 漢字変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC06	コード変換	KEIS→JIS 漢字変換	LXRCIC06

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-KJ	N(100)	文字列 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. KEIS コードを JIS 漢字コードに変換する。

例 1

```
I-STR-KJ : X' A3C1A3C2A3C3'  
I-LENG   : 3  
↓  
O-STR-KJ : X' 234123422343'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 変換データの長さは文字数 (バイト数/2) で指定する。
2. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。

3. $1 \leq I\text{-LENG} \leq 100$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
4. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。
5. KEIS コード以外の文字列を入力した場合、リターンコードは正常終了となり、出力文字列には不正なコードを返す。

LXRPIC07 16進文字列→バイナリ変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC07	コード変換	16進文字列→バイナリ変換	LXRCIC07

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-HX	X(400)	文字列 (16進)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-BNRY	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC001: 入力データ中に不当な文字がある	—
—	—	—	LXREC002: 入力データがスペース	—
—	—	—	LXREC003: 入力データが奇数桁	—

処理基準

1. 16進文字列をキャラクタ文字列に変換する。

例 1

```
I-STR-HX : 'C5C1C7D3C5'  
↓  
O-BNRY   : X'C5C1C7D3C5'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 左端から最初の空白までを変換する。
2. 入力データの長さは、400バイトとする。

3. 入力データ中に 0~9, A~F 以外の文字があった場合はリターンコードを返し, 変換は行わない。
4. 入力データが奇数桁の場合は, 最後の 1 桁を無視して変換し, リターンコードを返す。
5. 変換結果が, 200 バイトに充たない場合は, 後方に空白をセットする。
6. エラーの場合, 出力の文字列にはスペースを返す。

LXRPIC08 バイナリ→16進文字列変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC08	コード変換	バイナリ→16進文字列変換	LXRCIC08

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-BNRY	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-HX	X(400)	文字列 (16進)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. キャラクタ文字列を 16 進文字列に変換する。

例 1

```
I-BNRY   : X' C5C1C7D3C5'  
↓  
O-STR-HX : ' C5C1C7D3C5'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 200 バイトすべてを変換する。
2. キャラクタ文字以外を入力した場合、リターンコードは正常終了となり、出力文字列にスペースを返す。

LXRPIC09 2進文字列→バイナリ変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC09	コード変換	2進文字列→バイナリ変換	LXRCIC09

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STR-BN	X(64)	文字列 (2進)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-BNRY	B(18)	内部2進	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC001: 入力データ中に不当な文字がある	—
—	—	—	LXREC002: 入力データがスペース	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 2進文字列を2進数値に変換する。

例 1

```
I-STR-BN : '11000'  
↓  
O-BNRY   : +24  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 後方の空白を除いた部分を変換する。
2. 入力データ中に、1, 0以外の文字があった場合はリターンコードを返し、変換は行わない。

LXRPIC10 バイナリ→2進文字列変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC10	コード変換	バイナリ→2進文字列変換	LXRCIC10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-BNRY	B(18)	内部2進	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR-BN	X(64)	文字列(2進)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 2進数値を2進文字列に変換する。

例

```
I-BNRY   : +24
↓
O-STR-BN : '00-----0011000'
```

```
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

なし。

LXRPIC11 KEIS83→KEIS78 変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC11	コード変換	KEIS83→KEIS78 変換	LXRCIC11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. KEIS83 の漢字コードを KEIS78 に変換する。

例 1

```
I-LENG   : 3
I-STR    : X' A8A3A1A1B0B3'
↓
O-STR    : X' AFA1A1A1F2CD'
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. KEIS83 に対するコードチェックは行わない。
2. 変換データの長さは文字数 (バイト数/2) で指定する。

3. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。
4. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
5. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。
6. KEIS83 コード以外の文字列を入力した場合、リターンコードは正常終了となり、入力した文字コードと同じ文字コードを出力文字列に返す。

LXRPIC12 KEIS78→KEIS83 変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIC12	コード変換	KEIS78→KEIS83 変換	LXRCIC12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(3)	長さ	OL
03	I-STR	X(200)	文字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(200)	文字列	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREC005: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREC004: 入力長が範囲外	—

処理基準

1. KEIS78 の漢字コードを KEIS83 に変換する。

例 1

```
I-LENG   : 3
I-STR    : X' AFA1A1A1F2CD'
↓
O-STR    : X' A8A3A1A1B0B3'
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. KEIS78 に対するコードチェックは行わない。
2. 変換データの長さは文字数 (バイト数/2) で指定する。

3. I-LENG について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはリターンコード'LXREC005'を返す。
出力文字列にはスペースを返す。
4. $1 \leq I-LENG \leq 100$ 以外はエラーとし、リターンコード'LXREC004'を返す。出力文字列にはスペースを返す。
5. I-LENG で指定した長さの範囲だけが変換の対象となる。
6. KEIS78 コード以外の文字列を入力した場合、リターンコードは正常終了となり、入力した文字コードと同じ文字コードを出力文字列に返す。

LXRPID01 実在日チェック (西暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID01	日付処理	実在日チェック (西暦)	LXRCID01

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	-	年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. 次の順でチェックを行い、エラーの場合はリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年≠ZERO	LXRED001
4	月=1~12	LXRED007
5	実在する月日である	LXRED009
6	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008

2. 標準サブルーチンの仕様

例 1

```
I-YMD    : 00000229  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED001'
```

例 2

```
I-YMD    : 19901329  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED007'
```

例 3

```
I-YMD    : 19900229  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED008'
```

例 4

```
I-YMD    : 19900431  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED009'
```

例 5

```
I-YMD    : QQQQ0229  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED017'
```

注意事項

1. 年だけが 0 の場合, 'LXRED001' をリターンコードに返す。

LXRPID02 実在日チェック (和暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID02	日付処理	実在日チェック (和暦)	LXRCID02

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード (処理基準参照)	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の順でチェックを行い、エラーの場合はリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
4	年≠ZERO	LXRED001
5	月=1~12	LXRED007
6	実在する月日である	LXRED009
7	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008
8	明治: 元年9月8日~45年7月30日	LXRED006

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	チェック	リターンコード
9	大正：元年7月30日～15年12月25日	LXRED005
10	昭和：元年12月25日～64年1月7日	LXRED004
11	平成：元年1月8日～	LXRED010

2. JIS 規格版では、次の順でチェックを行い、エラーの場合はリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
4	年≠ZERO	LXRED001
5	月=1～12	LXRED007
6	実在する月日である	LXRED009
7	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008
8	明治：元年9月8日～45年7月30日	LXRED006
9	大正：元年7月31日～15年12月25日	LXRED005
10	昭和：元年12月26日～64年1月7日	LXRED004
11	平成：元年1月8日～	LXRED010

例 1

```
I-YMDWA : 1450731
↓
O-RTN-CD : 'LXRED006'
```

例 2

```
I-YMDWA : S640108
↓
O-RTN-CD : 'LXRED004'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（うるう年判定（西暦）：LXRPID25，年号コード変換（英字→数字）：LXRPID37）を呼び出す。
2. 年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.1 LXRPID02（実在日チェック（和暦））](#)」を参照のこと。

LXRPID03 年月日範囲内チェック (西暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID03	日付処理	年月日範囲内チェック (西暦)	LXRCID03

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-STT-YMD	9(8)	開始年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-END-YMD	9(8)	終了年月日 (YYYYMMDD)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 指定範囲内	—
—	—	—	LXRED012: 年月日が指定範囲外	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力された年月日, 開始年月日および終了年月日のチェックを (実在日チェック (西暦): LXRPID01) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 西暦年月日が, 指定された開始年月日と終了年月日間の年月日かチェックする。

例 1

```
I-YMD      : 19890131
I-STT-YMD  : 19890101
I-END-YMD  : 19890201
↓
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び出す。
2. 開始年月日と，終了年月日は，西暦年月日とする。
3. 開始年月日＞終了年月日と指定すると，リターンコード'LXRED012'を返す。
4. 年月日，開始年月日，終了年月日が実在日でないと，LXRPID01 のリターンコードを返す。

LXRPID04 年月日範囲内チェック (和暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID04	日付処理	年月日範囲内チェック (和暦)	LXRCID04

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-STT-YMDWA	—	開始年月日 (和暦)	I
05	I-S-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-S-YY	9(2)	年	I
05	I-S-MM	9(2)	月	I
05	I-S-DD	9(2)	日	I
03	I-END-YMDWA	—	終了年月日 (和暦)	I
05	I-E-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-E-YY	9(2)	年	I
05	I-E-MM	9(2)	月	I
05	I-E-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE：指定範囲内	-
-	-	-	LXRED012：年月日が指定範囲外	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. 和暦年月日が、指定された開始年月日と終了年月日間の年月日か（年月範囲内チェック（西暦）：LXRPID03）を用いてチェックする。

例 1

```

I-YMDWA      : 3631224
I-STT-YMDWA  : 4020101
I-END-YMDWA  : 4030101
↓
O-RTN-CD     : 'LXRED012'

```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06），（年月日範囲内チェック（西暦）：LXRPID03）を呼び出す。
2. 開始年月日と終了年月日は、和暦年月日とする。
3. 開始年月日>終了年月日と指定すると、リターンコード'LXRED012'を返す。
4. 年月日、開始年月日、終了年月日が実在日でないと、LXRPID02のリターンコードを返す。
5. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.2 LXRPID04（年月日範囲内チェック（和暦）」を参照のこと。

LXRPID05 年月日変換（西暦→和暦）

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID05	日付処理	年月日変換（西暦→和暦）	LXRCID05

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）	O
—	—	—	年号	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXRED011：和暦日付が許容範囲外	—

処理基準

1. (実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び、年月日（I-YMD）をチェックする。

1.1 リターンコードがスペースの時

年月日を年月日（和暦）に変換する。

年号の範囲は次のとおり。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年9月8日～1912年7月29日
	元年9月8日～45年7月29日
大正	1912年7月30日～1926年12月24日

2. 標準サブルーチンの仕様

年号	西暦範囲
	和暦範囲
大正	元年 7 月 30 日～15 年 12 月 24 日
昭和	1926 年 12 月 25 日～1989 年 1 月 7 日
	元年 12 月 25 日～64 年 1 月 7 日
平成	1989 年 1 月 8 日～2087 年 12 月 31 日
	元年 1 月 8 日～99 年 12 月 31 日

1.2 リターンコードがスペースでない時

(実在日チェック (西暦) : LXRPID01) のリターンコードを出力する。

2. JIS 規格版における年号の範囲は次のとおり。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868 年 9 月 8 日～1912 年 7 月 30 日
	元年 9 月 8 日～45 年 7 月 30 日
大正	1912 年 7 月 31 日～1926 年 12 月 25 日
	元年 7 月 31 日～15 年 12 月 25 日
昭和	1926 年 12 月 26 日～1989 年 1 月 7 日
	元年 12 月 26 日～64 年 1 月 7 日
平成	1989 年 1 月 8 日～2087 年 12 月 31 日
	元年 1 月 8 日～99 年 12 月 31 日

例 1

```
I-YMD      : 19661224
↓
O-YMDWA    : 3411224
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-YMD      : 18680907
↓
O-YMDWA    : 0000000
O-RTN-CD   : 'LXRED011'
```

例 3

```
I-YMD   : 20871231
↓
O-YMDWA : 4991231
O-RTN-CD : SPACE
```

例 4

```
I-YMD   : 20880101
↓
O-YMDWA : 0000000
O-RTN-CD : 'LXRED011'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び出す。
2. エラーの場合、年月日（和暦）には0を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.3 LXRPID05](#)（年月日変換（西暦→和暦））」を参照のこと。

LXRPID06 年月日変換（和暦→西暦）

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID06	日付処理	年月日変換（和暦→西暦）	LXRCID06

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (実在日チェック（和暦）：LXRPID02）を呼び、年月日（I-YMDWA）をチェックする。

1.1 リターンコードがスペースの時

次の方法で和暦年月日を西暦年月日に変換する。

入力年号	出力年月日（西暦）
'1', 'M'	入力年月日（年号除く）+ 18670000
'2', 'T'	入力年月日（年号除く）+ 19110000
'3', 'S'	入力年月日（年号除く）+ 19250000
'4', 'H'	入力年月日（年号除く）+ 19880000

2. 標準サブルーチンの仕様

入力年号	出力年月日（西暦）
その他	入力年月日（年号除く）+ 19880000

1.2 リターンコードがスペースでない時

（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YMDWA : 3411224
↓
O-YMD   : 19661224
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 誤った年号に対しては、平成（'4', 'H'）と同様の処理を行う。ただしリターンコードには'LXRED002'を返す。
2. このサブルーチンから（年号コード変換（英字→数字）：LXRPID37）、（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）を呼び出す。
3. 入力年月日（和暦）が実在日でない場合、年月日には0を返す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.4 LXRPID06（年月日変換（和暦→西暦））」を参照のこと。

LXRPID07 年月日算出 (西暦年月日±年数)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID07	日付処理	年月日算出 (西暦年月日±年数)	LXRCID07

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	-	入力西暦年月日 (YYYYMMDD)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-YEARS	P(5)	年数	I
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	出力西暦年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常	-
-	-	-	LXRED019: 年が 1~9999 の範囲外	-
-	-	-	LXRED017: 年数が数値でない	-

処理基準

1. 年数が+か-かを判断する。
 - 1.1 年数が+の場合
入力西暦年月日に年数を加算し、出力西暦年月日にセットする。
 - 1.2 年数が-の場合
入力西暦年月日から年数を減算し、出力西暦年月日にセットする。

例 1

```
I-YMD      : 19920229
I-YEARS    : -1
↓
O-YMD      : 19910228
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01），（月末日算出（西暦年月日）：LXRPID17）を呼び出す。
2. 入力年月日が実在日でないと，LXRPID01 のリターンコードを返す。
3. $1 \leq \text{入力西暦年} + \text{経過年数} \leq 9999$ の範囲外になる場合，結果は不正とする。リターンコード'LXRED019'を返す。
4. 入力年月日がうるう年の 2 月 29 日のとき，年を加減した結果が平年の場合は 2 月 28 日を返す。
5. エラーの場合，出力年月日には 0 を返す。

LXRPID08 年月日算出 (和暦年月日±年数)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID08	日付処理	年月日算出 (和暦年月日±年数)	LXRCID08

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	入力和暦年月日 (NYMMDD)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-YEARS	P(5)	年数	I

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日 (NYMMDD)	O
—	—	—	N: 年号	—
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED017: 年数が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年数が+か-かを判断する。

1.1 年数が+の場合

入力和暦年月日に年数を加算し, 出力和暦年月日にセットする。

1.2 年数が-の場合

入力和暦年月日から年数を減算し, 出力和暦年月日にセットする。

2. 標準サブルーチンの仕様

例 1

```
I-YMDWA : 3470229
I-YEARS  : +19
↓
O-YMDWA  : 4030228
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05），（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06），（年月日算出（西暦年月日±年数）：LXRPID07）を呼び出す。
2. 入力年月日が実在日でないと、LXRPID02 のリターンコードを返す。
3. 明治元年≤入力年+経過年数≤平成 99 年の範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード 'LXRED011' を返す。
4. 入力年月日がうるう年の 2 月 29 日のとき、年を加減した結果が平年の場合は 2 月 28 日を返す。
5. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.5 LXRPID08（年月日算出（和暦年月日±年数）](#)）」を参照のこと。

LXRPID09 年月日算出 (西暦年月日±月数)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID09	日付処理	年月日算出 (西暦年月日±月数)	LXRCID09

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	入力西暦年月日 (YYYYMMDD)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-MNTHS	P(6)	月数	I

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	出力西暦年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED019: 年が 1~9999 の範囲外	—
—	—	—	LXRED017: 月数が数値でない	—

処理基準

1. 月数が+か-かを判断する。

1.1 月数が+の場合

入力西暦年月日に月数を加算し、出力西暦年月日にセットする。

1.2 月数が-の場合

入力西暦年月日から月数を減算し、出力西暦年月日にセットする。

例 1

```
I-YMD      : 19890131
I-MNTHS    : +1
↓
O-YMD      : 19890228
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. 入力年月日が実在日でないと、LXRPID01 のリターンコードを返す。
2. 1 か月後とは、入力西暦年月日の月に 1 を加えた同日、1 か月前とは、入力西暦年月日の月から 1 を引いた同日とする。
3. 加減算処理の結果、月末日を超えた場合は、月末日に合わせる。
4. $1 \leq \text{年} \leq 9999$ の範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED019'を返す。
5. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）、（月末日算出（西暦年月日）：LXRPID17）を呼び出す。

LXRPID10 年月日算出 (和暦年月日±月数)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID10	日付処理	年月日算出 (和暦年月日±月数)	LXRCID10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	入力和暦年月日 (NYMMDD)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-MNTHS	P(6)	月数	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日 (NYMMDD)	O
—	—	—	N: 年号	—
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED017: 月数が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 月数が+か-かを判断する。

1.1 月数が+の場合

入力和暦年月日に月数を加算し、出力和暦年月日にセットする。

1.2 月数が-の場合

入力和暦年月日から月数を減算し、出力和暦年月日にセットする。

2. 標準サブルーチンの仕様

例 1

```
I-YMDWA : 4010131
I-MNTHS : +1
↓
O-YMDWA : 4010228
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 入力年月日が実在日でないと、LXRPID02 のリターンコードを返す。
2. 1 か月後とは、入力西暦年月日の月に 1 を加えた同日、1 か月前とは、入力西暦年月日の月から 1 を引いた同日とする。
3. 加減算処理の結果、月末日を超えた場合は、月末日に合わせる。
4. 結果が西暦年月日の許容範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED011'を返す。
5. このサブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID06）、（年月日算出（西暦年月日±月数）：LXRPID09）、（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID05）を呼び出す。
6. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.6 LXRPID10（年月日算出（西暦年月日±月数））](#)」を参照のこと。

LXRPID11 年月日算出 (西暦年月日±日数)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID11	日付処理	年月日算出 (西暦年月日±日数)	LXRCID11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	入力西暦年月日 (YYYYMMDD)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-DAYS	P(7)	日数	I

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	出力西暦年月日 (YYYYMMDD)	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED017: 日数が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 日数の NUMERIC チェックを行う。
 - リターンコードがスペースの時
(年月日 (西暦) →一貫日変更: LXRPID27) を呼び、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。
 - リターンコードがスペースでない時
リターンコードに'LXRED017'を出力する。
- リターンコードがスペースの時、算出した一貫日と入力日数を加算し、この結果を使って (一貫日→年月日 (西暦) 変換: LXRPID29) を呼ぶ。
このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

例 1

```
I-YMD   : 19890530
I-DAYS  : +1
↓
O-YMD   : 19890531
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このプログラムから（年月日（西暦）→一貫日変換：LXRPID27），（一貫日→年月日（西暦）変換：LXRPID29）を呼び出す。
2. 結果がエラーのときは，年月日には0を返す。

LXRPID12 年月日算出 (和暦年月日±日数)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID12	日付処理	年月日算出 (和暦年月日±日数)	LXRCID12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	入力和暦年月日 (NYMMDD)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-DAYS	P(8)	日数	I

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日 (NYMMDD)	O
—	—	—	N: 年号	—
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力和暦年月日を (年月日変換 (和暦→西暦): LXRPID06) によって、西暦に変換する。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。
2. リターンコードがスペースのとき、次の処理を行う。
 - 2.1 変換した西暦年月日と、入力日数を使って (年月日算出 (西暦年月日±日数): LXRPID11) を呼び、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。
3. リターンコードがスペースのとき、次の処理を行う。
 - 3.1 2.1 で得た西暦年月日を (年月日変換 (西暦→和暦): LXRPID05) によって、和暦に変換する。

このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

例 1

```
I-YMDWA : 4010131
I-DAYS   : +1
↓
O-YMDWA  : 4010201
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05），（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06），（年月日算出（西暦年月日±年数）：LXRPID11）を呼び出す。
2. 結果がエラーのときは，年月日には0を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.7 LXRPID12（年月日算出（和暦年月日±日数））](#)」を参照のこと。

LXRPID13 期間算出 (西暦年月日間日数)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID13	日付処理	期間算出 (西暦年月日間日数)	LXRCID13

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-YMD	9(8)	開始年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-END-YMD	9(8)	終了年月日 (YYYYMMDD)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED020: 比較エラー	—

処理基準

1. (年月日 (西暦) → 一貫日変換: LXRPID27) を呼び、開始年月日を一貫日に変換する。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時
終了年月日を一貫日に変換する。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時
(年月日 (西暦) → 一貫日変換: LXRPID27) のリターンコードを返す。
2. 開始年月日の一貫日と終了年月日の一貫日を比較する。
 - 2.1 終了年月日の一貫日が大きいか等しい時
終了年月日の一貫日から開始年月日の一貫日を減算し、1 を加えて出力日数に転送する。
 - 2.2 そのほかの時
0 を日数 (O-DAYS) に出力し、'LXRED020' をリターンコード (O-RTN-CD) に出力する。

例 1

```
I-STT-YMD : 19890710
```

```
I-END-YMD : 19900710
```

```
↓
```

```
O-DAYS    : 366
```

```
O-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日（西暦）→一貫日変換：LXRPID27）を呼び出す。
2. 終了年月日がエラーの時（年月日（西暦）→一貫日変換：LXRPID27）のリターンコードを返す。
3. エラーのときは、出力日数には 0 を返す。

LXRPID14 期間算出 (和暦年月日間日数)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID14	日付処理	期間算出 (和暦年月日間日数)	LXRCID14

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-YMDWA	—	開始年月日 (和暦) (NYYYMMDD)	I
05	I-S-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-S-YY	9(2)	年	I
05	I-S-MM	9(2)	月	I
05	I-S-DD	9(2)	日	I
03	I-END-YMDWA	—	終了年月日 (和暦)	I
05	I-E-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-E-YY	9(2)	年	I
05	I-E-MM	9(2)	月	I
05	I-E-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 開始年月日を (年月日変換 (和暦→西暦): LXRPID06) によって、西暦に変換し、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

2. リターンコードがスペースのとき次の処理を行う。

2.1 終了年月日を（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）によって、西暦に変換し、このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

3. リターンコードがスペースのとき次の処理を行う。

3.1 西暦に変換済みの開始年月日、終了年月日を用いて（期間算出（西暦年月日間日数）：LXRPID13）を呼び、日数を得る。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

例 1

```
I-STT-YMDWA : 4020721
I-END-YMDWA : 4020722
↓
O-DAYS      : 2
O-RTN-CD    : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）、（期間算出（西暦年月日間日数）：LXRPID13）を呼び出す。
2. エラーのときは、出力日数には 0 を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.8 LXRPID14（期間算出（和暦年月日間日数））](#)」を参照のこと。

LXRPID15 期間算出 (西暦年月日間年月日)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID15	日付処理	期間算出 (西暦年月日間年月日)	LXRCID15

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-YMD	9(8)	開始年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-END-YMD	9(8)	終了年月日 (YYYYMMDD)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-KKN	9(8)	期間 (YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREDO20: 比較エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (実在日チェック (西暦): LXRPID01) を呼び、開始年月日 (I-STT-YMD) と終了年月日 (I-END-YMD) をチェックする。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時
期間を算出する。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時
(実在日チェック (西暦): LXRPID01) のリターンコードを返す。

例 1

```
I-STT-YMD : 19850101
I-END-YMD : 19901120
↓
O-KKN      : 00051020
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び出す。
2. 期間には開始年月日，終了年月日を含む。したがって開始＝終了の時は1日となる。
3. 開始年月日＞終了年月日の時に，リターンコード'LXRED020'を返す。
4. エラーの時，期間には0を返す。

LXRPID16 期間算出 (和暦年月日間年月日)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID16	日付処理	期間算出 (和暦年月日間年月日)	LXRCID16

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-YMDWA	—	開始年月日 (和暦) (NYYYMMDD)	I
05	I-S-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-S-YY	9(2)	年	I
05	I-S-MM	9(2)	月	I
05	I-S-DD	9(2)	日	I
03	I-END-YMDWA	—	終了年月日 (和暦)	I
05	I-E-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-E-YY	9(2)	年	I
05	I-E-MM	9(2)	月	I
05	I-E-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-KKN	9(8)	期間 (年月日: YYYYMMDD)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日変換 (和暦→西暦): LXRPID06) によって, 開始年月日, 終了年月日を西暦に変換する。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

2. リターンコードがスペースのとき次の処理を行う。

2.1 西暦に変換した開始年月日，終了年月日を用いて（期間算出（西暦年月日間年月日）：LXRPID15）を呼び，期間を得る。このサブルーチンのリターンコードをリターンコードに転送する。

例 1

```
I-STT-YMDWA : 3601121
I-END-YMDWA : 4021120
↓
O-KKN       : 00050000
O-RTN-CD    : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06），（期間算出（西暦年月日間年月日）：LXRPID15）を呼び出す。
2. エラーの時，期間には0を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.9 LXRPID16（期間算出（和暦年月日間年月日））](#)」を参照のこと。

LXRPID17 月末日算出 (西暦年月日)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID17	日付処理	月末日算出 (西暦年月日)	LXRCID17

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (西暦)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. (実在日チェック (西暦): LXRPID01) を呼び、年月日 (I-YMD) をチェックする。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時
年月日 (I-YMD) に対応する月末日を求める。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時
(実在日チェック (西暦): LXRPID01) のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YMD   : 19920205
↓
O-YMD   : 19920229
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (実在日チェック (西暦): LXRPID01) を呼び出す。

LXRPID18 月末日算出 (和暦年月日)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID18	日付処理	月末日算出 (和暦年月日)	LXRCID18

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成) or	—
—	—	—	(M : 明治, T : 大正, S : 昭和, H : 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (月末)	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日変換 (和暦→西暦) : LXRPID06) を呼び、和暦年月日を西暦年月日に変換する。
 - 1.1 リターンコードがスペースまたは'LXREDO02'の時
西暦年月日に対応する月末日を算出する。
 - 1.2 そのほかの時
(年月日変換 (和暦→西暦) : LXRPID06) のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YMDWA : 4040205
↓
```

注意事項

1. 年号は明治, 大正, 昭和, 平成とし, これ以外の指定は, 平成と見なす。
2. このサブルーチンから (年月日変換 (和暦→西暦): LXRPID06), (月末日算出 (西暦年月日): LXRPID17), (年月日変換 (西暦→和暦): LXRPID05) を呼び出す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「3.4.10 LXRPID18 (月末日算出 (和暦年月日))」を参照のこと。

LXRPID19 通算週算出 (年始～西暦年月日)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID19	日付処理	通算週算出 (年始～西暦年月日)	LXRCID19

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-WKS	P(2)	通算週数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 西暦年月日のチェックを (実在日チェック (西暦): LXRPID01) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 西暦年月日が入力された西暦年の通算第何週かを求める。

例 1

```
I-YMD    : 19900908
↓
O-WKS    : 36
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (実在日チェック (西暦): LXRPID01), (期間算出 (西暦年月日間日数): LXRPID13), (年月日 (西暦) → 曜日算出: LXRPID33) を呼び出す。
2. 月曜～日曜を 1 週とする。
3. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。

LXRPID20 通算週算出 (年始～和暦年月日)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID20	日付処理	通算週算出 (年始～和暦年月日)	LXRCID20

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成) or	—
—	—	—	(M : 明治, T : 大正, S : 昭和, H : 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-WKS	P(2)	通算週数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 和暦年月日が入力された和暦年の通算第何週かを求める。

例 1

```
I-YMDWA : 4020908
↓
O-WKS   : 36
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日変換 (和暦→西暦) : LXRPID06), (通算週算出 (年始～西暦年月日) : LXRPID19) を呼び出す。

2. エラーの場合、通算週数には 0 を返す。
3. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.11 LXPID20](#) (通算週算出 (年始～和暦年月日))」を参照のこと。

LXRPID21 年月日分類 (西暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID21	日付処理	年月日分類 (西暦)	LXRCID21

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ORD-KBN	X(1)	平日・土日区分	O
—	—	—	('0': 平日, '1': 土曜, '2': 日曜)	—
—	—	—	—	—
03	O-FEST-KBN	X(1)	祝祭日区分	O
—	—	—	('0': 祝祭日ではない,	—
—	—	—	'1': 祝祭日, '2': 休日)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

- 西暦年月日を平日, 土曜, 日曜, および祝祭日に分類する。
- 各祝祭日・休日は, 2007年6月1日時点で公布されている「国民の祝日に関する法律」に基づくものとする。
 - 本法の施行年月日である1948年(昭和23年)7月20日より前の日付が入力された場合はエラーとし, 2101年1月1日より後の日付は動作保証外とする。
 - 本法に基づく各祝祭日・休日の有効期間は付録Cのとおりとする。有効期間外の場合は平日に分類する。

例 1

```
I-YMD      : 19901224
↓
O-ORD-KBN  : '0'
O-FEST-KBN : '2'
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日（西暦）→曜日算出：LXRPID33），（年月日算出（西暦年月日±日数）：LXRPID11）を呼び出す。
2. 振替休日は，平日・土日区分が'0'（平日）で，祝祭日区分が'2'（休日）となる。
3. サブルーチンを呼んでエラーとなった時は，リターンコードをそのまま返し，O-ORD-KBN,O-FEST-KBN にはスペースを返す。
4. 入力日付が 1948 年（昭和 23 年）7 月 20 日より前の日付の場合はリターンコード'LXRED012'を返す。
5. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.12 LXRPID21（年月日分類（西暦）](#)）」を参照のこと。

LXRPID22 年月日分類 (和暦)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID22	日付処理	年月日分類 (和暦)	LXRCID22

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ORD-KBN	X(1)	平日・土日区分	O
—	—	—	('0': 平日, '1': 土曜, '2': 日曜)	—
03	O-FEST-KBN	X(1)	祝祭日区分	O
—	—	—	('0': 祝祭日ではない,	—
—	—	—	'1': 祝祭日, '2': 休日)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

- 和暦年月日を平日, 土曜, 日曜, および祝祭日に分類する。
- (年月日分類 (西暦): LXRPID21) の処理基準 2.と同じ。

例 1

I-YMDWA : 4021224
↓

0-ORD-KBN : '0'
0-FEST-KBN : '2'
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）、（年月日分類（西暦）：LXRPID21）を呼び出す。
2. 振替休日は、平日・土日区分が'0'（平日）で、祝祭日区分が'2'（休日）となる。
3. （年月日分類（西暦）：LXRPID21）の注意事項 3.と同じ。
4. （年月日分類（西暦）：LXRPID21）の注意事項 4.と同じ。
5. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.13 LXRPID22（年月日分類（和暦）](#)」を参照のこと。

LXRPID23 年月日出力編集（西暦）

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID23	日付処理	年月日出力編集（西暦）	LXRCID23

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	入力年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-FORMAT	X(100)	年月日形式（入力）	C
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	X(100)	年月日形式（出力）	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月日のチェックを（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を用いて行い、エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時、I-FORMAT に対して次の順で置換処理を行う。

No.	置換規則	
1	Y Y Y Y	I-YYを全角変換
2	Z Z Z Y	I-YYをZZZ9編集，全角変換
3	Y Y	I-YY下2桁を全角変換
4	Z Y	I-YY下2桁をZ9編集，全角変換
5	Y Y Y Y	I-YY
6	Z Z Z Y	I-YYをZZZ9編集
7	Y Y	I-YY下2桁

No.	置換規則	
8	ZY	I-YY下2桁をZ9編集
9	MM	I-MMを全角変換
10	Z M	I-MMをZ9編集, 全角変換
11	MM	I-MM
12	ZM	I-MMをZ9編集
13	D D	I-DDを全角変換
14	Z D	I-DDをZ9編集, 全角変換
15	DD	I-DD
16	ZD	I-DDをZ9編集

例 1

```
I-YMD      : 19920401
I-FORMAT  : 'YY年MM月DD日'
↓
O-YMD     : '92年04月01日'
```

例 2

```
I-YMD      : 19920401
I-FORMAT  : 'YYYY-MM-DD'
↓
O-YMD     : '1992-04-01'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（半角→全角変換：LXRPIC01）、（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び出す。
2. 実在日チェックでエラーのときは、リターンコードをそのまま返し、I-FORMAT を O-YMD に転送する。

LXRPID24 年月日出力編集 (和暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID24	日付処理	年月日出力編集 (和暦)	LXRCID24

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-FORMAT	X(100)	出力形式指定のフォーマット	C
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	X(100)	出力年月日 (和暦)	O
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月日のチェックを (実在日チェック (和暦): LXRPID02) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースのとき, I-FORMAT に対して次の順で置換処理を行う。

No.	置換規則	
1	NN	I-NNGを全角変換
2	N	I-NNG上一桁を全角変換
3	YY	I-YYを全角変換

No.	置換規則	
4	Z Y	I-YYをZ9編集, 全角変換
5	MM	I-MMを全角変換
6	Z M	I-MMをZ9編集, 全角変換
7	D D	I-DDを全角変換
8	Z D	I-DDをZ9編集, 全角変換
9	N	I-NNG
10	YY	I-YY
11	ZY	I-YYをZ9編集
12	MM	I-MM
13	ZM	I-MMをZ9編集
14	DD	I-DD
15	ZD	I-DDをZ9編集

例 1

```
I-YMDWA : 4040401
I-FORMAT : ' N N Y Y 年 M M 月 D D 日'
↓
O-YMDWA : ' 平成 0 4 年 0 4 月 0 1 日'
```

例 2

```
I-YMDWA : 4040401
I-FORMAT : ' N Y Y . M M . D D '
↓
O-YMDWA : ' H 0 4 . 0 4 . 0 1 '
```

注意事項

- このサブルーチンから (実在日チェック (和暦) : LXRPID02), (年号コードチェック/編集 : LXRPID36), (半角→全角変換 : LXPIC01), (年号コード変換 (数字→英字) : LXRPID38) を呼び出す。
- 実在日チェックでエラーのときは, リターンコードをそのまま返し, I-FORMAT を O-YMDWA に転送する。
- 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「[3.4.14 LXRPID24 \(年月日出力編集 \(和暦\)\)](#)」を参照のこと。

LXRPID25 うるう年判定 (西暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID25	日付処理	うるう年判定 (西暦)	LXRCID25

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-LEAP-KBN	X(1)	うるう年区分	O
-	-	-	うるう年……1	-
-	-	-	平年 ……0	-
-	-	-	-	-
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	-	-

処理基準

1. (年 (西暦) チェック: LXRPID70) を呼び、入力年 (I-YY) をチェックする。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時
その年がうるう年か平年かをチェックする。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時
(年 (西暦) チェック: LXRPID70) のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YY      : 1992
↓
O-LEAP-KBN : '1'
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年（西暦）チェック：LXRPID70）を呼び出す。
2. 年のチェックがエラーのときは、O-LEAP-KBN にはスペースを返す。

LXRPID26 うるう年判定 (和暦)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID26	日付処理	うるう年判定 (和暦)	LXRCID26

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YYWA	—	年 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成) or	—
—	—	—	(M : 明治, T : 大正, S : 昭和, H : 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-LEAP-KBN	X(1)	うるう年判定フラグ	O
—	—	—	うるう年……1	—
—	—	—	平年 ……0	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

- その年がうるう年か平年かをチェックし、
うるう年であれば
1→O-LEAP-KBN
平年であれば
0→O-LEAP-KBN
をセットする。

例 1

I-YYWA	: 343
↓	

O-LEAP-KBN : '1'
O-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. このサブルーチンから（年変換（和暦→西暦）：LXRPID78），（うるう年判定（西暦）：LXRPID25）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーになったときは，リターンコードをそのまま返し，O-LEAP-KBN にスペースを返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.15 LXRPID26（うるう年判定（和暦））](#)」を参照のこと。

LXRPID27 年月日（西暦） → 一貫日変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID27	日付処理	年月日（西暦） → 一貫日変換	LXRCID27

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (実在日チェック（西暦）：LXRPID01）で年月日（I-YMD）をチェックする。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時
基準日（西暦 1 年 1 月 1 日）から入力年月日（西暦）までの一貫日を求める。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時
(実在日チェック（西暦）：LXRPID01）のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YMD    : 19910415
↓
O-DAYS   : 726937
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMD   : 99991231
↓
O-DAYS  : 3652059
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-YMD   : 00010101
↓
O-DAYS  : 1
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 入力年月日が実在日でない場合、日数には 0 を返す。
2. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び出す。

LXRPID28 年月日（和暦）→一貫日変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID28	日付処理	年月日（和暦）→一貫日変換	LXRCID28

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）で和暦年月日（I-YMDWA）を西暦年月日に変換する。
 - 1.1 リターンコードがスペースまたは'LXRED002'の時
基準日（西暦1年1月1日）から入力年月日（和暦）までの一貫日を求める。
 - 1.2 そのほかの時
(年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YMDWA : 4030415
↓
O-DAYS   : 726937
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMDWA : 5030415
↓
O-DAYS   : 726937
O-RTN-CD : 'LXRED002'
```

例 3

```
I-YMDWA : 1010101
↓
O-DAYS   : 0
O-RTN-CD : 'LXRED006'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）、（年月日（西暦）→一貫日変換：LXRPID27）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、日数には0を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.16 LXRPID28（年月日（和暦）→一貫日変換）](#)」を参照のこと。

LXRPID29 一貫日→年月日 (西暦) 変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID29	日付処理	一貫日→年月日 (西暦) 変換	LXRCID29

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-DAYS	P(8)	日数	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	O
-	-	-	-	-
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常	-
-	-	-	LXRED021: 一貫日が数字以外	-
-	-	-	LXRED022: 一貫日がゼロ	-
-	-	-	LXRED023: 一貫日範囲外	-
-	-	-	-	-

処理基準

- 一貫日 (I-DAYS) の NUMERIC チェックを行い、一貫日 (I-DAYS) の範囲 ($0 < \text{一貫日} < 3652060$) をチェックする。
 - エラーでない時
一貫日→年月日 (西暦) 変換を行う。
 - エラーの時
エラーに対応するリターンコードを出力する。

例 1

```
I-DAYS   : 726937
↓
O-YMD    : 19910415
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-DAYS   : 1
↓
O-YMD    : 00010101
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-DAYS   : 0
↓
O-YMD    : 00000000
O-RTN-CD : 'LXRED022'
```

注意事項

1. エラーの時は、O-YMD に 0 を返す。

LXRPID30 一貫日→年月日（和暦）変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID30	日付処理	一貫日→年月日（和暦）変換	LXRCID30

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-DAYS	P(8)	日数	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）(NYMMDD)	O
—	—	—	年号	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (一貫日→年月日（西暦）変換：LXRPID29) を呼び、リターンコードを O-RTN-CD に転送する。
2. O-RTN-CD がスペースのとき、(年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05) を呼び、結果を O-YMDWA, O-RTN-CD に転送する。

例 1

```
I-DAYS   : 726937
↓
O-YMDWA  : 4030415
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-DAYS   : 682158
↓
O-YMDWA  : 0000000
O-RTN-CD : 'LXRED011'
```

例 3

```
I-DAYS   : 762262
↓
O-YMDWA  : 0000000
O-RTN-CD : 'LXRED011'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05）、（一貫日→年月日（西暦）変換：LXRPID29）を呼び出す。
2. 日数の範囲は 682159（：明治元年 9 月 8 日） ≤ 日数 ≤ 762261（：平成 99 年 12 月 31 日）とする。範囲外の日数が入力された場合、和暦年月日に 0 を、リターンコードに'LXRED011'を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.17 LXRPID30（一貫日→年月日（和暦）変換）](#)」を参照のこと。

LXRPID31 日数算出 (西暦年月日～月末日)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID31	日付処理	日数算出 (西暦年月日～月末日)	LXRCID31

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 西暦年月日から月末日までの日数を求める。

例 1

```
I-YMD   : 19890528
↓
O-DAYS  : 3
O-RTN-CD: SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (実在日チェック (西暦): LXRPID01), (月末日算出 (西暦年月日): LXRPID17) を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し, 日数には 0 を返す。

3.当日は日数に含まない。したがって、月末日を入力すると日数は0となる。

LXRPID32 日数算出 (和暦年月日～月末日)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID32	日付処理	日数算出 (和暦年月日～月末日)	LXRCID32

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 和暦年月日から月末日までの日数を求める。

例 1

```
I-YMDWA : 4020205
↓
O-DAYS   : 23
O-RTN-CD : SPACE
```

2. 標準サブルーチンの仕様

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（和暦）：LXRPID02），（月末日算出（和暦年月日）：LXRPID18）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し，日数には0を返す。
3. 当日は日数に含まない。したがって，月末日を入力すると日数は0となる。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.18 LXRPID32（日数算出（和暦年月日～月末日））](#)」を参照のこと。

LXRPID33 年月日（西暦）→曜日算出

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID33	日付処理	年月日（西暦）→曜日算出	LXRCID33

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YB-CD	X(1)	曜日コード	O
—	—	—	(1：月曜日，2：火曜日，3：水曜日，	—
—	—	—	4：木曜日，5：金曜日，6：土曜日，	—
—	—	—	7：日曜日)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月日（西暦）の曜日を求める。

例 1

```
I-YMD    : 19910306
↓
O-YB-CD  : '3'
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日（西暦）→一貫日変換：LXRPID27）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し，曜日にはスペースを返す。

LXRPID34 年月日（和暦）→曜日算出

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID34	日付処理	年月日（和暦）→曜日算出	LXRCID34

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YB-CD	X(1)	曜日コード	O
—	—	—	(1：月曜日, 2：火曜日, 3：水曜日,	—
—	—	—	4：木曜日, 5：金曜日, 6：土曜日,	—
—	—	—	7：日曜日)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月日（和暦）の曜日を求める。

例 1

```
I-YMDWA : 4030415
↓
O-YB-CD  : '1'
O-RTN-CD : SPACE
```

2. 標準サブルーチンの仕様

注意事項

1. このサブルーチンから（年月日（和暦）→一貫日変換：LXRPID28）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、曜日にはスペースを返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.19 LXRPID34（年月日（和暦）→曜日算出）](#)」を参照のこと。

LXRPID35 曜日コードチェック／編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID35	日付処理	曜日コードチェック／編集	LXRCID35

インタフェース

入力 (区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YB-CD	X(1)	曜日コード	I
—	—	—	(1：月曜日, 2：火曜日, 3：水曜日,	—
—	—	—	4：木曜日, 5：金曜日, 6：土曜日,	—
—	—	—	7：日曜日)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YB-KJ	N(3)	曜日 (漢字)	O
03	O-YB-KN	X(3)	曜日 (半角カナ)	O
03	O-YB-AL	X(3)	曜日 (英字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXREDO13：曜日コード範囲外	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 曜日コードをチェックし, 曜日名に変換する。

例 1

```
I-YB-CD : '1'  
↓  
O-YB-KJ : '月曜日'  
O-YB-KN : 'ケツ'  
O-YB-AL : 'MON'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 曜日コードが'1'~'7'以外のときは、リターンコードに'LXRED013'を出力し、曜日（漢字）、曜日（半角カナ）、曜日（英字）にスペースを出力する。
2. 曜日（半角カナ）の属性は、EUC 対応版では X(6)、Unicode 対応版では X(9)である。

LXRPID36 年号コードチェック／編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID36	日付処理	年号コードチェック／編集	LXRCID36

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNG-KJ	N(2)	年号 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXRED014: 年号コード範囲外	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年号コードをチェックし, 年号名に変換する。

例 1

```
I-NNG      : '4'  
↓  
O-NNG-KJ  : '平成'  
O-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. 年号コードは'1', '2', '3', '4', 'M', 'T', 'S', 'H'とする。
2. 誤った年号コードが入力された場合, O-NNG-KJ にはスペースを返す。

3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.20 LXRPID36 \(年号コードチェック／編集\)](#)」を参照のこと。

LXRPID37 年号コード変換 (英字→数字)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID37	日付処理	年号コード変換 (英字→数字)	LXRCID37

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	O
—	—	—	N: 年号	—
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXRED014: 年号コード範囲外	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年号コード'M', 'T', 'S', 'H'を入力し, '1', '2', '3', '4'に変換して出力する。

入力年号	出力年号	リターンコード
'M'	1	SPACE
'T'	2	SPACE
'S'	3	SPACE
'H'	4	SPACE
'1'	1	SPACE

2. 標準サブルーチンの仕様

入力年号	出力年号	リターンコード
'2'	2	SPACE
'3'	3	SPACE
'4'	4	SPACE
その他	4	'LXRED014'

例 1

```
I-YMDWA : M150320
↓
O-YMDWA : 1150320
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMDWA : A150320
↓
O-YMDWA : 4150320
O-RTN-CD : 'LXRED014'
```

注意事項

1. 年号コードが'1', '2', '3', '4'の場合はそのまま出力する。
2. 年月日の妥当性は、チェックしない。
3. 誤った年号コードが入力された場合、出力側の年号に'4'、年月日はそのまま出力し、リターンコードに'LXRED014'を出力する。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、[「3.4.21 LXRPID37 \(年号コード変換 \(英字→数字\)\)」](#)を参照のこと。

LXRPID38 年号コード変換 (数字→英字)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID38	日付処理	年号コード変換 (数字→英字)	LXRCID38

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	—	年月日 (和暦)	O
05	O-NNG	X(1)	年号	O
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	O-YY	9(2)	年	O
05	O-MM	9(2)	月	O
05	O-DD	9(2)	日	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXRED014: 年号コード範囲外	—

処理基準

1. 入力年号コード'1', '2', '3', '4'に対し, 'M', 'T', 'S', 'H'を出力する。

入力年号	出力年号	リターンコード
'1'	'M'	SPACE
'2'	'T'	SPACE

2. 標準サブルーチンの仕様

入力年号	出力年号	リターンコード
'3'	'S'	SPACE
'4'	'H'	SPACE
'M'	'M'	SPACE
'T'	'T'	SPACE
'S'	'S'	SPACE
'H'	'H'	SPACE
その他	'H'	'LXRED014'

例 1

```
I-YMDWA : 1150320
↓
O-YMDWA : M150320
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMDWA : 0150320
↓
O-YMDWA : H150320
O-RTN-CD : 'LXRED014'
```

注意事項

1. 年号コードが'M', 'T', 'S', 'H'の場合はそのまま出力する。
2. 年月日の妥当性は、チェックしない。
3. 誤った年号コードが入力された場合、O-NNG には'H', 年月日はそのまま出力し、リターンコードに'LXRED014'を出力する。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.22 LXRPID38](#) (年号コード変換 (数字→英字))」を参照のこと。

LXRPID39 年齢計算 (慣習)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID39	日付処理	年齢計算 (慣習)	LXRCID39

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日 (YYYYMMDD)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNR	9(4)	年齢	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXRED020: 現在年月日が生年月日より前の場合	—
—	—	—	LXRED017: 年月日が数値でない	—

処理基準

1. 入力された生年月日および現在年月日から年齢を求める。

例 1

```
I-BRTH-YMD : 19671224  
I-KJN-YMD  : 19901223  
↓  
O-NNR      : 22  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-BRTH-YMD : 19671224  
I-KJN-YMD  : 19661223  
↓
```

2. 標準サブルーチンの仕様

0-NNR	: 0
0-RTN-CD	: 'LXRED020'

注意事項

1. 年齢計算は慣習による（誕生日当日に1歳増える）。
2. うるう年の2月29日が生年月日の場合、平年では2月28日に年齢が1歳増える。
3. このサブルーチンから（年月日算出（西暦年月日±日数）：LXRPID11）、（期間算出（西暦年月日間年月日）：LXRPID15）、（うるう年判定（西暦）：LXRPID25）を呼び出す。
4. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、年齢に0を返す。

LXRPID40 年齢計算 (法律)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID40	日付処理	年齢計算 (法律)	LXRCID40

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日 (YYYYMMDD)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNR	9(4)	年齢	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREDO20: 現在年月日が生年月日より前の場合	—
—	—	—	LXREDO17: 年月日が数値でない	—

処理基準

1. 入力された生年月日および現在年月日から年齢を求める。

例 1

```
I-BRTH-YMD : 19671224  
I-KJN-YMD  : 19901223  
↓  
O-NNR      : 23  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-BRTH-YMD : 19671224  
I-KJN-YMD  : 19661223  
↓
```

2. 標準サブルーチンの仕様

0-NNR	: 0
0-RTN-CD	: 'LXRED020'

注意事項

1. 年齢計算は法律による（誕生日前日に1歳増える）。
2. このサブルーチンから（期間算出（西暦年月日間年月日）：LXRPID15）を呼び出す。
3. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、年齢に0を返す。

LXRPID41 年月日（西暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID41	日付処理	年月日（西暦）過去チェック	LXRCID41

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 実在日チェックを（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）によって、次の順で行う（項番1～6）。
2. 入力年月日がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードにLXRED003'を返す（項番7）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年≠ZERO	LXRED001
4	月=1～12	LXRED007
5	実在する月日である	LXRED009
6	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008
7	年月日<=システム日付	LXRED003

例 1

```
I-YMD      : 19920331
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-YMD      : 19920401
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 3

```
I-YMD      : 19920402
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD   : 'LXRED003'
```

例 4

```
I-YMD      : 1992QQQQ
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD   : 'LXRED017'
```

注意事項

1. 入力年月日がシステム日付と等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID42 年月日（和暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID42	日付処理	年月日（和暦）過去チェック	LXRCID42

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 実在日チェックを（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）によって、次の順で行う（項番1～11）。
2. 入力年月日（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番12）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
4	年≠ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
5	月=1~12	LXRED007
6	実在する月日である	LXRED009
7	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008
8	明治：元年9月8日~45年7月30日	LXRED006
9	大正：元年7月30日~15年12月25日	LXRED005
10	昭和：元年12月25日~64年1月7日	LXRED004
11	平成：元年1月8日~	LXRED010
12	年月日<=システム日付	LXRED003

例 1

```
I-YMDWA      : H040331
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD     : SPACE
```

例 2

```
I-YMDWA      : H040401
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD     : SPACE
```

例 3

```
I-YMDWA      : H040402
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD     : 'LXRED003'
```

例 4

```
I-YMDWA      : H04QQQQ
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD     : 'LXRED017'
```

注意事項

1. 入力年月日がシステム日付と等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. システム日付との比較は、入力年月日を（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）を用いて変換し、行う。
3. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.23 LXPID42 \(年月日 \(和暦\) 過去チェック\)](#)」を参照のこと。

LXRPID43 年月日（西暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID43	日付処理	年月日（西暦）未来チェック	LXRCID43

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 実在日チェックを（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）によって、次の順で行う（項番1～6）。
2. 入力年月日がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番7）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年≠ZERO	LXRED001
4	月=1～12	LXRED007
5	実在する月日である	LXRED009
6	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008
7	年月日>=システム日付	LXRED015

例 1

```
I-YMD      : 19920331
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD   : 'LXRED015'
```

例 2

```
I-YMD      : 19920401
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 3

```
I-YMD      : 19920401
システム日付 : 920402
↓
O-RTN-CD   : 'LXRED015'
```

例 4

```
I-YMD      : 1992QQQQ
システム日付 : 920402
↓
O-RTN-CD   : 'LXRED017'
```

注意事項

1. 入力年月日がシステム日付と等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID44 年月日（和暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID44	日付処理	年月日（和暦）未来チェック	LXRCID44

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 実在日チェックを（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）によって、次の順で行う（項番1～11）。
2. 入力年月日（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番12）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年月日≠ALL ZERO	LXRED016
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
4	年≠ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
5	月=1~12	LXRED007
6	実在する月日である	LXRED009
7	月日=2月29日ならば年=うるう年	LXRED008
8	明治：元年9月8日~45年7月30日	LXRED006
9	大正：元年7月30日~15年12月25日	LXRED005
10	昭和：元年12月25日~64年1月7日	LXRED004
11	平成：元年1月8日~	LXRED010
12	年月日>=システム日付	LXRED015

例 1

```
I-YMDWA      : H040331
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD     : 'LXRED015'
```

例 2

```
I-YMDWA      : H040401
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD     : SPACE
```

例 3

```
I-YMDWA      : H040401
システム日付 : 920402
↓
O-RTN-CD     : 'LXRED015'
```

例 4

```
I-YMDWA      : H04QQQQ
システム日付 : 920402
↓
O-RTN-CD     : 'LXRED017'
```

注意事項

1. 入力年月日がシステム日付と等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. システム日付との比較は、入力年月日を（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）を用いて変換し、行う。
3. このサブルーチンから（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.24 LXRPID44](#)（年月日（和暦）未来チェック）」を参照のこと。

LXRPID45 年月日（西暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID45	日付処理	年月日（西暦）編集	LXRCID45

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	X(100)	年月日（西暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日出力編集（西暦）：LXRPID23) を呼ぶ。

No.	置換処理	
1	Y Y Y Y	I-YYを全角変換
2	Z Z Z Y	I-YYをZZZ9編集，全角変換
3	Y Y	I-YY下2桁を全角変換
4	Z Y	I-YY下2桁をZ9編集，全角変換
5	YYYY	I-YY
6	ZZZY	I-YYをZZZ9編集
7	YY	I-YY下2桁
8	ZY	I-YY下2桁をZ9編集
9	MM	I-MMを全角変換
10	Z M	I-MMをZ9編集，全角変換
11	MM	I-MM

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
12	ZM	I-MMをZ9編集
13	DD	I-DDを全角変換
14	ZD	I-DDをZ9編集, 全角変換
15	DD	I-DD
16	ZD	I-DDをZ9編集

2. VOS3 版では編集された文字列に対して次の処理を行う。

2.1 I-TYP が'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') の場合、これを削除する。

2.2 I-TYP が'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') ではない場合、先頭に機能キャラクタ (X'0A41') を付加する。

2.3 I-TYP が'N'で文字列の最後の文字が機能キャラクタ (X'0A41') の場合、これを削除する。

例 1

```
I-YMD      : 19920401
I-FORMAT   : '「YY年MM月DD日」'
I-TYP      : 'N'
↓
O-YMD      : ' 92年04月01日'
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-YMD      : 19920401
I-FORMAT   : 'YYYY-MM-DD'
I-TYP      : 'N'
↓
O-YMD      : '」1992-04-01'
O-RTN-CD   : SPACE
```

(注) 例はVOS3版の場合で、
 '「' : X'0A42',
 '」' : X'0A41'とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日出力編集 (西暦) : LXRPID23) を呼び出す。
2. リターンコードには、(年月日出力編集 (西暦) : LXRPID23) のリターンコードを出力する。
3. 2.3 で、「文字列の最後の文字」とはその文字より後方にスペースしか存在していない文字を指す。

LXRPID46 年月日（和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID46	日付処理	年月日（和暦）編集	LXRCID46

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	X(100)	年月日（和暦）	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日出力編集（和暦）：LXRPID24）を呼ぶ。

No.	置換処理	
1	NN	I-NNGを全角変換
2	N	I-NNG上一桁を全角変換
3	YY	I-YYを全角変換
4	ZY	I-YYをZ9編集, 全角変換

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
5	MM	I-MMを全角変換
6	ZM	I-MMをZ9編集, 全角変換
7	DD	I-DDを全角変換
8	ZD	I-DDをZ9編集, 全角変換
9	N	I-NNG
10	YY	I-YY
11	ZY	I-YYをZ9編集
12	MM	I-MM
13	ZM	I-MMをZ9編集
14	DD	I-DD
15	ZD	I-DDをZ9編集

2. VOS3 版では編集された文字列に対して次の処理を行う。

2.1 I-TYP が'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') の場合, これを削除する。

2.2 I-TYP が'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') ではない場合, 先頭に機能キャラクタ (X'0A41') を付加する。

2.3 I-TYP が'N'で文字列の最後の文字が機能キャラクタ (X'0A41') の場合, これを削除する。

例 1

```
I-YMDWA : 4040401
I-FORMAT : '「NNYY年MM月DD日」'
I-TYP    : 'N'
↓
O-YMDWA  : '平成04年04月01日'
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMDWA : 4040401
I-FORMAT : 'NYY.MM.DD'
I-TYP    : 'N'
↓
O-YMDWA  : '」H04.04.01'
O-RTN-CD : SPACE
```

(注) 例はVOS3版の場合で,
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41' とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日出力編集 (和暦) : LXRPID24) を呼び出す。
2. リターンコードには, (年月日出力編集 (和暦) : LXRPID24) のリターンコードを出力する。
3. 2.3 で, 「文字列の最後の文字」とはその文字より後方にスペースしか存在していない文字を指す。

4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.25 LXRPID46 \(年月日 \(和暦\) 編集\)](#)」を参照のこと。

LXRPID47 年月日変換（西暦→和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID47	日付処理	年月日変換（西暦→和暦）編集	LXRCID47

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	X(100)	年月日（和暦）	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05) を用いて、入力年月日を和暦に変換する。
2. 変換された年月日（和暦）を、年月日（和暦）編集によって編集する。

No.	置換処理	
1	NN	年号を全角変換
2	N	年号上一桁を全角変換
3	YY	年を全角変換
4	ZY	年をZ9編集，全角変換
5	MM	月を全角変換
6	ZM	月をZ9編集，全角変換
7	DD	日を全角変換

No.	置換処理	
8	ZD	日をZ9編集, 全角変換
9	N	年号コード
10	YY	年
11	ZY	年をZ9編集
12	MM	月
13	ZM	月をZ9編集
14	DD	日
15	ZD	日をZ9編集

例 1

```

I-YMD      : 19920401
I-FORMAT   : '「NNYY年MM月DD日」'
I-TYP      : 'N'
↓
O-YMDWA    : '平成04年04月01日'
O-RTN-CD   : SPACE

```

例 2

```

I-YMD      : 19920401
I-FORMAT   : 'NYY-MM-DD'
I-TYP      : 'N'
↓
O-YMDWA    : '」H04-04-01'
O-RTN-CD   : SPACE

```

(注) 例はVOS3版の場合で,
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41' とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日変換 (西暦→和暦) : LXPID05) と (年月日 (和暦) 編集 : LXPID46) を呼び出す。
2. リターンコードには, (年月日変換 (西暦→和暦) : LXPID05) のリターンコードを出力する。
3. 機能キャラクタ編集については, (年月日 (和暦) 編集 : LXPID46) に準ずる。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「[3.4.26 LXPID47 \(年月日変換 \(西暦→和暦\) 編集\)](#)」を参照のこと。

LXRPID48 年月（西暦）チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID48	日付処理	年月（西暦）チェック	LXRCID48

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YM	—	年月（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月が数字だけでない場合はリターンコードに'LXRED017'を返す（項番 1）。
2. リターンコードがスペースの時，入力年月のチェックを（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を用いて行い，エラーの場合はリターンコードを返す（項番 2～3）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年≠ZERO	LXRED001
3	月=1～12	LXRED007

例 1

```
I-YM      : 000013
↓
O-RTN-CD  : 'LXRED001'
```

例 2

```
I-YM      : 199213  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED007'
```

例 3

```
I-YM      : 000000  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED001'
```

例 4

```
I-YM      : QQQQ13  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED017'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01）を呼び出す。

LXRPID49 年月（和暦）チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID49	日付処理	年月（和暦）チェック	LXRCID49

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMWA	—	年月（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の順でチェックを行い、エラーの場合はリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	年≠ZERO	LXRED001
4	月=1～12	LXRED007
5	明治：元年9月～45年7月	LXRED006
6	大正：元年7月～15年12月	LXRED005
7	昭和：元年12月～64年1月	LXRED004

2. 標準サブルーチンの仕様

例 1

```
I-YMWA : 14508  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED006'
```

例 2

```
I-YMWA : S6402  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED004'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年号コード変換（英字→数字）：LXRPID37）を呼び出す。
2. 年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.27 LXRPID49（年月（和暦）チェック）」を参照のこと。

LXRPID50 年月（西暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID50	日付処理	年月（西暦）過去チェック	LXRCID50

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YM	—	年月（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月のチェックを（年月（西暦）チェック：LXRPID48）を用いて次の順で行う（項番1～3）。
2. 入力年月がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番4）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月が数字だけである	LXRED017
2	年≠ZERO	LXRED001
3	月=1～12	LXRED007
4	入力年月<=システム日付	LXRED003

例 1

I-YM : 199204
システム日付 : 920401

↓
0-RTN-CD : SPACE

例 2

I-YM : 199203
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD : SPACE

例 3

I-YM : 199205
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD : 'LXRED003'

注意事項

1. システム日付の年月と入力年月が等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. このサブルーチンから（年月（西暦）チェック：LXRPID48）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID51 年月（和暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID51	日付処理	年月（和暦）過去チェック	LXRCID51

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMWA	—	年月（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）を用いて、西暦年月に変換する。

1.1 リターンコードがスペースの時

システム日付と比較する。

1.2 リターンコードがスペースでない時

(年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58) のリターンコードを出力する（項番 1～7）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	年≠ZERO	LXRED001

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	チェック	リターンコード
4	月=1~12	LXRED007
5	明治：元年9月~45年7月	LXRED006
6	大正：元年7月~15年12月	LXRED005
7	昭和：元年12月~64年1月	LXRED004
8	年月<=システム日付	LXRED003

例 1

```
I-YMWA   : H0404
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMWA   : H0403
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-YMWA   : H0405
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : 'LXRED003'
```

注意事項

1. システム日付の年月と変換後の年月（西暦）が等しい場合はリターンコードにスペースを返す。
2. システム日付よりも過去でない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 8）。
3. このサブルーチンから（年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.28 LXRPID51（年月（和暦）過去チェック）」を参照のこと。

LXRPID52 年月（西暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID52	日付処理	年月（西暦）未来チェック	LXRCID52

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YM	—	年月（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年月のチェックを（年月（西暦）チェック：LXRPID48）を用いて次の順で行う（項番1～3）。
2. 入力年月がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番4）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月が数字だけである	LXRED017
2	年≠ZERO	LXRED001
3	月=1～12	LXRED007
4	入力年月>=システム日付	LXRED015

例 1

I-YM : 199204
システム日付 : 920401

↓
0-RTN-CD : SPACE

例 2

I-YM : 199203
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD : 'LXRED015'

例 3

I-YM : 199205
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. システム日付の年月と入力年月が等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. このサブルーチンから（年月（西暦）チェック：LXRPID48）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID53 年月（和暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID53	日付処理	年月（和暦）未来チェック	LXRCID53

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMWA	—	年月（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）を用いて、西暦年月に変換する。
 - 1.1 リターンコードがスペースの時
システム日付と比較する。
 - 1.2 リターンコードがスペースでない時
(年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58) のリターンコードを出力する（項番 1～7）。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	年≠ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
4	月=1~12	LXRED007
5	明治：元年9月~45年7月	LXRED006
6	大正：元年7月~15年12月	LXRED005
7	昭和：元年12月~64年1月	LXRED004
8	年月>=システム日付	LXRED015

例 1

```
I-YMWA   : H0404
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMWA   : H0403
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : 'LXRED015'
```

例 3

```
I-YMWA   : H0405
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. システム日付の年月と変換後の年月（西暦）が等しい場合はリターンコードにスペースを返す。
2. システム日付よりも未来でない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番 8）。
3. このサブルーチンから（年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.29 LXRPID53（年月（和暦）未来チェック）](#)」を参照のこと。

LXRPID54 年月（西暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID54	日付処理	年月（西暦）編集	LXRCID54

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YM	—	年月日（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YM	X(100)	年月（西暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年月が数値でない	—

処理基準

1. 入力年月の編集を次のように行う。

1.1 入力年月 → 年月

01 → 日

1.2 年月日の編集を（年月日（西暦）編集：LXRPID45）を用いて次の順で行う。

1.2.1 置換処理

No.	置換処理	
1	YYYYY	I-YYを全角変換
2	ZZZZY	I-YYをZZZ9編集，全角変換
3	YY	I-YY下2桁を全角変換
4	ZY	I-YY下2桁をZ9編集，全角変換
5	YYYY	I-YY
6	ZZZY	I-YYをZZZ9編集

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
7	YY	I-YY下2桁
8	ZY	I-YY下2桁をZ9編集
9	MM	I-MMを全角変換
10	ZM	I-MMをZ9編集, 全角変換
11	MM	I-MM
12	ZM	I-MMをZ9編集

1.2.1 機能キャラクタ処理 (LXRPID45 参照)

例 1

```

I-YM      : 199204
I-FORMAT  : '「YY年MM月」'
I-TYP     : 'N'
↓
O-YM      : ' 9 2年0 4月'
O-RTN-CD  : SPACE

```

例 2

```

I-YM      : 199204
I-FORMAT  : 'YYYY-MM'
I-TYP     : 'N'
↓
O-YM      : '」1992-04'
O-RTN-CD  : SPACE

```

(注) 例はV0S3 版の場合で、
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41'とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日 (西暦) 編集 : LXRPID45) を呼び出す。
2. リターンコードには, (年月日 (西暦) 編集 : LXRPID45) のリターンコードを返す。
3. I-FORMAT の中で「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD など) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。

LXRPID55 年月（和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID55	日付処理	年月（和暦）編集	LXRCID55

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMWA	—	年月（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMWA	X(100)	年月（和暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年月が数値でない	—

処理基準

1. 入力年月のチェックを（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）を用いて行い、リターンコードがスペースの時、次の処理を行う。

1.1 年月日（和暦）の編集を（年月日（和暦）編集：LXRPID46）を用いて次の順で行う。

1.1.1 置換処理

No.	置換処理
1	NN 年号を全角変換
2	N 年号上一桁を全角変換
3	YY I-YYを全角変換

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
4	Z Y	I-YYをZ9編集, 全角変換
5	MM	I-MMを全角変換
6	Z M	I-MMをZ9編集, 全角変換
7	N	I-NNG
8	YY	I-YY
9	ZY	I-YYをZ9編集
10	MM	I-MM
11	ZM	I-MMをZ9編集

1.1.2 機能キャラクタ処理
(LXRPID46 参照)

例 1

```
I-YMWA : 40404
I-FORMAT : '「NNYY年MM月」'
I-TYP : 'N'
↓
O-YMWA : '平成04年04月'
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMWA : 40404
I-FORMAT : 'NYY.MM'
I-TYP : 'N'
↓
O-YMWA : '」H04.04'
O-RTN-CD : SPACE
```

(注) 例はVOS3版の場合で、
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41' とする

注意事項

1. このサブルーチンから (実在日チェック (和暦) : LXRPID02), (年月日 (和暦) 編集 : LXRPID46) を呼び出す。
2. I-FORMAT の中で「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD など) を指定した場合, 不定値に置き換える。
3. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, [3.4.30 LXRPID55 (年月 (和暦) 編集)] を参照のこと。

LXRPID56 年月変換（西暦→和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID56	日付処理	年月変換（西暦→和暦）編集	LXRCID56

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YM	—	年月（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMWA	X(100)	年月（和暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年月が数値でない	—

処理基準

1. (年月変換（西暦→和暦）：LXRPID57) を呼び、和暦年月に変換する。
- 1.2 年月の編集を、(年月（和暦）編集：LXRPID55) を用いて次の順で行う。

No.	置換処理	
1	NN	年号を全角変換
2	N	年号上一桁を全角変換
3	YY	年を全角変換
4	ZY	年をZ9編集，全角変換
5	MM	月を全角変換
6	ZM	月をZ9編集，全角変換
7	N	年号コード
8	YY	年
9	ZY	年をZ9編集
10	MM	月

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
11	ZM	月をZ9編集

例 1

```

I-YM      : 199204
I-FORMAT : '「NNYY年MM月」'
I-TYP     : 'N'
↓
O-YMWA   : '平成04年04月'
O-RTN-CD : SPACE

```

例 2

```

I-YM      : 199204
I-FORMAT : 'NYY-MM'
I-TYP     : 'N'
↓
O-YMWA   : '」H04-04'
O-RTN-CD : SPACE

```

(注) 例はV0S3版の場合で、
 '「' : X'0A42',
 '」' : X'0A41'とする

注意事項

1. リターンコードは、(年月変換(西暦→和暦):LXRPID57)のリターンコードを返す。
2. このサブルーチンから(年月(和暦)編集:LXRPID55)、(年月変換(西暦→和暦):LXRPID57)を呼び出す。
3. 機能キャラクタ編集については、(年月(和暦)編集:LXRPID55)に準ずる。
4. I-FORMATの中で「日」項目(DD, ZD, DD, ZDなど)を指定した場合、01をそれぞれの形式に編集し、置換する。
5. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.31 LXRPID56 (年月変換(西暦→和暦)編集)」を参照のこと。

LXRPID57 年月変換（西暦→和暦）

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID57	日付処理	年月変換（西暦→和暦）	LXRCID57

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YM	—	年月（西暦）	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMWA	—	年月（和暦）	O
05	O-NNG	X(1)	年号	O
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	—
05	O-YY	9(2)	年	O
05	O-MM	9(2)	月	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月（西暦）チェック：LXRPID48) を呼び、年月をチェックする。

1.1 リターンコードがスペースの時

入力年月 → 年月

01 → 日

(年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05) を用いて年月日の変換を行う。

処理基準は次のとおり。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年9月8日～1912年7月29日
	元年9月8日～45年7月29日
大正	1912年7月30日～1926年12月24日
	元年7月30日～15年12月24日
昭和	1926年12月25日～1989年1月7日
	元年12月25日～64年1月7日
平成	1989年1月8日～
	元年1月8日～

1.2 リターンコードがスペースでない時

(年月 (西暦) チェック : LXPID48) のリターンコードを出力する。

例 1

```
I-YM      : 196612
↓
O-YMWA    : 34112
O-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年月 (西暦) チェック : LXPID48), (年月日変換 (西暦→和暦) : LXPID05) を呼び出す。
2. (年月日変換 (西暦→和暦) : LXPID05) で範囲外だった場合はリターンコードに'LXRED011'を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「3.4.32 LXPID57 (年月変換 (西暦→和暦))」を参照のこと。

LXRPID58 年月変換（和暦→西暦）

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID58	日付処理	年月変換（和暦→西暦）	LXRCID58

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMWA	—	年月（和暦）	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YM	—	年月（西暦）	O
05	O-YY	9(4)	年	O
05	O-MM	9(2)	月	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年月が数値でない	—

処理基準

1. 入力年月を（年月（和暦）チェック：LXRPID49）を用いて行い、エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時、年月（和暦）→年月（西暦）変換を次のように行う。

入力年号	年月（西暦）
'1', 'M'	年月（年号除く）+ 186700
'2', 'T'	年月（年号除く）+ 191100
'3', 'S'	年月（年号除く）+ 192500

入力年号	年月 (西暦)
'4', 'H'	年月 (年号除く) + 198800
その他	年月 (年号除く) + 198800

例

```
I-YMWA : 34112
↓
O-YM   : 196612
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年月 (和暦) チェック : LXRPID49), (年号コード変換 (英字→数字) : LXRPID37) を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった時は, リターンコードをそのまま返し, 年月には 0 を返す。ただし, リターンコードが'LXRED002'の場合処理を続行する。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「3.4.33 LXRPID58 (年月変換 (和暦→西暦))」を参照のこと。

LXRPID59 年度（西暦）チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID59	日付処理	年度（西暦）チェック	LXRCID59

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年度のチェックを次のように行う。

No.	チェック	リターンコード
1	年月日が数字だけである	LXRED017
2	年≠ZERO	LXRED001

例 1

```
I-NND   : QQQQ
↓
O-RTN-CD : 'LXRED017'
```

2. 標準サブルーチンの仕様

例 2

```
I-NND   : 0000  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED001'
```

例 3

```
I-NND   : 1999  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

なし。

LXRPID60 年度（和暦）チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID60	日付処理	年度（和暦）チェック	LXRCID60

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 入力年度のチェックを次のように行う。
 - （年度基準日取得：LXRPID80）を呼ぶ。
 - 入力年度（和暦） → 年号
→ 年
年度基準日 → 月日
 - 年月日（和暦）のチェックを（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）を用いて行う。

No.	チェック	リターンコード
1	年が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	年≠ZERO	LXRED001
4	明治：元年9月8日～45年7月30日	LXRED006
5	大正：元年7月30日～15年12月25日	LXRED005
6	昭和：元年12月25日～64年1月7日	LXRED004
7	平成：元年1月8日～	LXRED010

例 1

```
I-NNDWA : '100'
↓
O-RTN-CD : 'LXRED001'
```

例 2

```
I-NNDWA : 'A01'
↓
O-RTN-CD : 'LXRED002'
```

例 3

```
I-NNDWA : 'S64'
↓
O-RTN-CD : 'LXRED004'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（和暦）：LXRPID02）、（年度基準日取得：LXRPID80）を呼び出す。
2. (年度基準日取得：LXRPID80) によって取得される年度基準日とは、4月1日である。
3. 年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.34 LXRPID60（年度（和暦）チェック）」を参照のこと。

LXRPID61 年度（西暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID61	日付処理	年度（西暦）過去チェック	LXRCID61

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年度のチェックを（年度（西暦）チェック：LXRPID59）を用いて下表の順で行う（項番 1, 2）。
2. システム日付を取得し、次の処理を行う。
 - 2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から 1 を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 3）。
 - 2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 3）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年度が数字だけである	LXRED017
2	入力年度 ≠ ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
3	入力年度<=システム日付(年)	LXRED003

例 1

```
I-NND      : 1992
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 2

```
I-NND      : 1993
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD  : 'LXRED003'
```

例 3

```
I-NND      : 1992
システム日付 : 920301
↓
O-RTN-CD  : 'LXRED003'
```

例 4

```
I-NND      : 1991
システム日付 : 920301
↓
O-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. システム日付の年と入力年度が等しい場合はリターンコードにはスペースを返す（システム日付の月が '1', '2', '3' の場合を除く）。
2. このサブルーチンから（年度（西暦）チェック：LXRPID59）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID62 年度（和暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID62	日付処理	年度（和暦）過去チェック	LXRCID62

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年度のチェックを（年度（和暦）チェック：LXRPID60）を用いて下表の順で行う（項番 1～7）。
2. システム日付を取得し、次の処理を行う。
 - 2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から 1 を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに

'LXRED003'を返す（項番 8）。

2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 8）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年度が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	入力年度≠ZERO	LXRED001
4	明治：元年9月8日～45年7月30日	LXRED006
5	大正：元年7月30日～15年12月25日	LXRED005
6	昭和：元年12月25日～64年1月7日	LXRED004
7	平成：元年1月8日～	LXRED010
8	入力年度<=システム日付（年）	LXRED003

例 1

```
I-NNDWA   : 'H04'  
システム日付 : 920401  
↓  
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 2

```
I-NNDWA   : 'H04'  
システム日付 : 930301  
↓  
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 3

```
I-NNDWA   : 'H04'  
システム日付 : 920301  
↓  
O-RTN-CD  : 'LXRED003'
```

注意事項

1. システム日付の年度と変換後の年度（西暦）が等しい場合はリターンコードにスペースを返す（システム日付の月が'1', '2', '3'の場合を除く）。
2. システム日付との比較は、入力年度を（年度変換（和暦→西暦）：LXRPID69）を用いて変換し、行う。
3. このサブルーチンから（年度（和暦）チェック：LXRPID60）、（年度変換（和暦→西暦）：LXRPID69）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.35 LXRPID62（年度（和暦）過去チェック）」を参照のこと。

LXRPID63 年度（西暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID63	日付処理	年度（西暦）未来チェック	LXRCID63

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年度のチェックを（年度（西暦）チェック：LXRPID59）を用いて下表の順で行う（項番 1, 2）。
2. システム日付を取得し、次の処理を行う。
 - 2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から 1 を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番 3）。
 - 2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番 3）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年度が数字だけである	LXRED017
2	入力年度 ≠ ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
3	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015

例 1

```
I-NND      : 1992
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 2

```
I-NND      : 1992
システム日付 : 920301
↓
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 3

```
I-NND      : 1991
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD  : 'LXRED015'
```

例 4

```
I-NND      : 1991
システム日付 : 920301
↓
O-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. システム日付の年と入力年度が等しい場合はリターンコードにはスペースを返す（システム日付の月が '1', '2', '3' の場合を除く）。
2. このサブルーチンから（年度（西暦）チェック：LXRPID59）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID64 年度（和暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID64	日付処理	年度（和暦）未来チェック	LXRCID64

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年度のチェックを（年度（和暦）チェック：LXRPID60）を用いて下表の順で行う（項番 1～7）。
2. システム日付を取得し、次の処理を行う。
 - 2.1 システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から 1 を減じ、入力年度と比較する。
比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに

'LXRED015'を返す（項番 8）。

2.2 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番 8）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年度が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	入力年度≠ZERO	LXRED001
4	明治：元年9月8日～45年7月30日	LXRED006
5	大正：元年7月30日～15年12月25日	LXRED005
6	昭和：元年12月25日～64年1月7日	LXRED004
7	平成：元年1月8日～	LXRED010
8	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015

例 1

```
I-NNDWA : 'H04'  
システム日付 : 920401  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-NNDWA : 'H04'  
システム日付 : 930301  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED015'
```

例 3

```
I-NNDWA : 'H04'  
システム日付 : 930301  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. システム日付の年度と変換後の年度（西暦）が等しい場合はリターンコードにスペースを返す（システム日付の月が'1', '2', '3'の場合を除く）。
2. システム日付との比較は、入力年度を（年度変換（和暦→西暦）：LXRPID69）を用いて変換し、行う。
3. このサブルーチンから（年度（和暦）チェック：LXRPID60）、（年度変換（和暦→西暦）：LXRPID69）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.36 LXRPID64（年度（和暦）未来チェック）」を参照のこと。

LXRPID65 年度（西暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID65	日付処理	年度（西暦）編集	LXRCID65

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NND	X(100)	年度（西暦）	O
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年度が数値でない	—

処理基準

1. 入力年度の編集を次のように行う。
 - 1.1 （年度（西暦）チェック：LXRPID59）を呼ぶ。
 - 1.2 （年度基準日取得：LXRPID80）を呼ぶ。
 - 1.3 入力年度 → 年
 年度基準日 → 月日
 - 1.4 年月日の編集を（年月日（西暦）編集：LXRPID45）を用いて次の順で行う。
 - 1.4.1 置換処理

No.	置換処理	
1	YYYY	年を全角変換
2	ZZZY	年をZZZ9編集，全角変換
3	YY	年下2桁を全角変換

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
4	Z Y	年下2桁をZ9編集, 全角変換
5	YYYY	年
6	ZZZY	年をZZZ9編集
7	YY	年下2桁
8	ZY	年下2桁をZ9編集

1.4.2 機能キャラクタ処理 (LXRPID45 参照)

例 1

```
I-NND      : 1992
I-FORMAT   : '「YY年」'
I-TYP      : 'N'
↓
O-NND      : '92年'
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-NND      : 1992
I-FORMAT   : 'YYYY'
I-TYP      : 'N'
↓
O-NND      : '」1992'
O-RTN-CD   : SPACE
```

(注) 例はVOS3 版の場合で,
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41' とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日 (西暦) 編集 : LXRPID45), (年度基準日取得 : LXRPID80), (年度 (西暦) チェック : LXRPID59) を呼び出す。
2. I-FORMAT の中で「月」項目 (MM, ZM, MM, ZM など) を指定した場合, 04 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
3. I-FORMAT の中で「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD など) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
4. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。

LXRPID66 年度（和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID66	日付処理	年度（和暦）編集	LXRCID66

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNDWA	X(100)	年度（和暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年度が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 入力年度の編集を次のように行う。
 - （年度（和暦）チェック：LXRPID60）を呼ぶ。
 - （年度基準日取得：LXRPID80）を呼ぶ。
 - 入力年度 → 年
年度基準日 → 月日
 - 年月日の編集を（年月日（和暦）編集：LXRPID46）を用いて次の順で行う。

1.4.1 置換処理

No.	置換処理	
1	NN	年号を全角変換
2	N	年号上一桁を全角変換
3	YY	年を全角変換
4	ZY	年をZ9編集, 全角変換
5	N	年号コード
6	YY	年
7	ZY	年をZ9編集

1.4.2 機能キャラクタ処理

(LXRPID46 参照)

例 1

```
I-NNDWA : 'H04'  
I-FORMAT : '「NNYY年」'  
I-TYP : 'N'  
↓  
O-NNDWA : '平成04年'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-NNDWA : 'H04'  
I-FORMAT : 'NYY'  
I-TYP : 'N'  
↓  
O-NNDWA : '」H04'  
O-RTN-CD : SPACE
```

(注) 例はVOS3版の場合で,
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41' とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日 (和暦) 編集 : LXRPID46), (年度基準日取得 : LXRPID80), (年度 (和暦) チェック : LXRPID60) を呼び出す。
2. I-FORMAT の中で「月」項目 (MM, ZM, MM, ZM など) を指定した場合, 04 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
3. I-FORMAT の中で「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD など) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
4. 誤った年号を入力すると, 'NN', 'N', 'N' は入力したものをそのまま送る。
5. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。

6. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.37 LXPID66](#)（年度（和暦）編集）」を参照のこと。

LXRPID67 年度変換（西暦→和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID67	日付処理	年度変換（西暦→和暦）編集	LXRCID67

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNDWA	X(100)	年度（和暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年度が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年度の編集を次のように行う。
 - 1.1 （年度変換（西暦→和暦）：LXRPID68）を呼ぶ。
 - 1.2 年月日の編集を（年度（和暦）編集：LXRPID66）を用いて次の順で行う。
 - 1.2.1 置換処理

No.	置換処理
1	NN 年号を全角変換
2	N 年号上一桁を全角変換
3	YY 年を全角変換
4	ZY 年をZ9編集，全角変換
5	N 年号コード
6	YY 年
7	ZY 年をZ9編集

2. 標準サブルーチンの仕様

1.2.2 機能キャラクタ処理 (LXRPID66 参照)

例 1

```
I-NND      : 1992
I-FORMAT   : '「N N Y Y年」'
I-TYP      : 'N'
↓
O-NNDWA    : '平成04年'
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-NND      : 1992
I-FORMAT   : 'NY Y'
I-TYP      : 'N'
↓
O-NNDWA    : '」H04'
O-RTN-CD   : SPACE
```

(注) 例はV0S3版の場合で、
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41'とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年度変換 (西暦→和暦) : LXRPID68), (年度 (和暦) 編集 : LXRPID66) を呼び出す。
2. I-FORMAT の中で「月」項目 (MM, ZM, MM, ZM など) を指定した場合, 04 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
3. I-FORMAT の中で「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD など) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
4. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
5. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「3.4.38 LXRPID67 (年度変換 (西暦→和暦) 編集)」を参照のこと。

LXRPID68 年度変換（西暦→和暦）

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID68	日付処理	年度変換（西暦→和暦）	LXRCID68

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NND	9(4)	年度（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNDWA	9(3)	年度（和暦）	O
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	—
—	—	—	—	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年度が数値でない	—

処理基準

1. 年度（西暦）→年度（和暦）変換を次のように行う。
 - 1.1（年度（西暦）チェック：LXRPID59）を呼ぶ。

リターンコードがスペースの時、（年度基準日取得：LXRPID80）を呼ぶ。

入力年度 → 年
年度基準日 → 月日

（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05）を用いて年月日の変換を行う。

処理基準は次のとおり。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年9月8日～1912年7月29日
	元年9月8日～45年7月29日
大正	1912年7月30日～1926年12月24日
	元年7月30日～15年12月24日
昭和	1926年12月25日～1989年1月7日
	元年12月25日～64年1月7日
平成	1989年1月8日～
	元年1月8日～

リターンコードがスペースでない時、O-NNDWAに0を返し、(年度(西暦)チェック：LXRPID59)のリターンコードを返す。

例 1

```
I-NND    : 1966
↓
O-NNDWA  : 341
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日変換 (西暦→和暦)：LXRPID05)、(年度基準日取得：LXRPID80)、(年度(西暦)チェック：LXRPID59) を呼ぶ。
2. (年月日変換 (西暦→和暦)：LXRPID05) で西暦年月日が和暦年月日範囲外だった場合 (年月日変換 (西暦→和暦)：LXRPID05) のリターンコードを返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.39 LXRPID68 \(年度変換 \(西暦→和暦\)\)](#)」を参照のこと。

LXRPID69 年度変換 (和暦→西暦)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID69	日付処理	年度変換 (和暦→西暦)	LXRCID69

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)	I
—	—	—	形式 : NYY	—
—	—	—	N : 年号	—
—	—	—	YY : 年	—
—	—	—	年号 :	—
—	—	—	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成) or	—
—	—	—	(M : 明治, T : 大正, S : 昭和, H : 平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NND	9(4)	年度 (西暦)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年度 (和暦) → 年度 (西暦) 変換を次のように行う。
 - 1.1 (年度 (和暦) チェック : LXRPID60) を呼ぶ。
リターンコードがスペースまたは'LXRED002'の時, 年の変換を行う。
処理方法は次のとおり。

2. 標準サブルーチンの仕様

入力年号	年度 (西暦)
'1', 'M'	年 (年号除く) + 1867
'2', 'T'	年 (年号除く) + 1911
'3', 'S'	年 (年号除く) + 1925
'4', 'H'	年 (年号除く) + 1988
その他	年 (年号除く) + 1988

I-NNDWA の入力値に対するリターンコードがスペースと'LXRED002'以外の時, 年度 (西暦) に 0 を返し, (年度 (和暦) チェック: LXPID60) のリターンコードを返す。

例 1

```
I-NNDWA : 341
↓
O-NND   : 1966
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年度 (和暦) チェック: LXPID60), (年号コード変換 (英字→数字): LXPID37) を呼ぶ。
2. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「3.4.40 LXPID69 (年度変換 (和暦→西暦))」を参照のこと。

LXRPID70 年（西暦）チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID70	日付処理	年（西暦）チェック	LXRCID70

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年（西暦）のチェックを次のように行う。

No.	チェック	リターンコード
1	年が数字だけである	LXRED017
2	年≠ZERO	LXRED001

例 1

```
I-YY      : QQQQ
↓
O-RTN-CD : 'LXRED017'
```

2. 標準サブルーチンの仕様

例 2

```
I-YY      : 0000  
↓  
O-RTN-CD : 'LXRED001'
```

例 3

```
I-YY      : 1999  
↓  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

なし。

LXRPID71 年（和暦）チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID71	日付処理	年（和暦）チェック	LXRCID71

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YYWA	X(3)	年（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年のチェックを次のように行う。

No.	チェック	リターンコード
1	年が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	年≠ZERO	LXRED001
4	明治：元年～45年	LXRED006
5	大正：元年～15年	LXRED005

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	チェック	リターンコード
6	昭和：元年～64年	LXRED004

例 1

```
I-YYWA   : '100'
↓
O-RTN-CD : 'LXRED001'
```

例 2

```
I-YYWA   : 'A01'
↓
O-RTN-CD : 'LXRED002'
```

例 3

```
I-YYWA   : 'S65'
↓
O-RTN-CD : 'LXRED004'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年号コード変換（英字→数字）：LXRPID37）を呼び出す。
2. 年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号＝平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.41 LXRPID71（年（和暦）チェック）](#)」を参照のこと。

LXRPID72 年（西暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID72	日付処理	年（西暦）過去チェック	LXRCID72

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年のチェックを（年（西暦）チェック：LXRPID70）を用いて次の表の順で行う（項番 1, 2）。
2. システム日付を取得し，入力年と比較する。比較の結果，入力年がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 3）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年が数字だけである	LXRED017
2	入力年≠ZERO	LXRED001
3	入力年≤システム日付（年）	LXRED003

例 1

I-YY : 1992
システム日付 : 920401

↓
0-RTN-CD : SPACE

例 2

I-YY : 1993
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD : 'LXRED003'

例 3

I-YY : 1992
システム日付 : 920301
↓
0-RTN-CD : SPACE

例 4

I-YY : 1991
システム日付 : 920301
↓
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. システム日付の年と入力年が等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. このサブルーチンから（年（西暦）チェック：LXRPID70）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID73 年（和暦）過去チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID73	日付処理	年（和暦）過去チェック	LXRCID73

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YYWA	X(3)	年（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年のチェックを（年（和暦）チェック：LXRPID71）を用いて次の表の順で行う（項番1～6）。
2. システム日付を取得し、入力年と比較する。比較の結果、入力年（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番7）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	入力年≠ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
4	明治：元年～45年	LXRED006
5	大正：元年～15年	LXRED005
6	昭和：元年～64年	LXRED004
7	入力年<=システム日付（年）	LXRED003

例 1

```
I-YYWA   : 'H04'
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YYWA   : 'H04'
システム日付 : 930301
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-YYWA   : 'H04'
システム日付 : 910301
↓
O-RTN-CD : 'LXRED003'
```

注意事項

1. システム日付の年と西暦変換後の年が等しい場合はリターンコードにスペースを返す。
2. システム日付との比較は、入力年を（年変換（和暦→西暦）：LXRPID78）を用いて西暦に変換し、行う。
3. このサブルーチンから（年変換（和暦→西暦）：LXRPID78）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.42 LXRPID73（年（和暦）過去チェック）](#)」を参照のこと。

LXRPID74 年（西暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID74	日付処理	年（西暦）未来チェック	LXRCID74

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年（西暦）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年のチェックを（年（西暦）チェック：LXRPID70）を用いて次の表の順で行う（項番 1, 2）。
2. システム日付を取得し，入力年と比較する。比較の結果，入力年がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番 3）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年が数字だけである	LXRED017
2	入力年≠ZERO	LXRED001
3	入力年>=システム日付（年）	LXRED015

例 1

I-YY : 1992
システム日付 : 920401

↓
0-RTN-CD : SPACE

例 2

I-YY : 1992
システム日付 : 920301
↓
0-RTN-CD : SPACE

例 3

I-YY : 1991
システム日付 : 920401
↓
0-RTN-CD : 'LXRED015'

例 4

I-YY : 1991
システム日付 : 920301
↓
0-RTN-CD : 'LXRED015'

注意事項

1. システム日付の年と入力年が等しい場合はリターンコードにはスペースを返す。
2. このサブルーチンから（年（西暦）チェック：LXRPID70）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。

LXRPID75 年（和暦）未来チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID75	日付処理	年（和暦）未来チェック	LXRCID75

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YYWA	X(3)	年（和暦）	I
—	—	—	形式：NYY	—
—	—	—	N：年号	—
—	—	—	YY：年	—
—	—	—	年号：	—
—	—	—	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	—
—	—	—	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年のチェックを（年（和暦）チェック：LXRPID71）を用いて下表の順で行う（項番1～6）。
2. システム日付を取得し、入力年と比較する。比較の結果、入力年（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番7）。

No.	チェック	リターンコード
1	入力年が数字だけである	LXRED017
2	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002
3	入力年≠ZERO	LXRED001

No.	チェック	リターンコード
4	明治：元年～45年	LXRED006
5	大正：元年～15年	LXRED005
6	昭和：元年～64年	LXRED004
7	入力年>=システム日付（年）	LXRED015

例 1

```
I-YYWA   : 'H04'
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YYWA   : 'H05'
システム日付 : 920401
↓
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-YYWA   : 'H04'
システム日付 : 930401
↓
O-RTN-CD : 'LXRED015'
```

例 4

```
I-YYWA   : 'H04'
システム日付 : 930301
↓
O-RTN-CD : 'LXRED015'
```

注意事項

1. システム日付の年と西暦変換後の年が等しい場合はリターンコードにスペースを返す。
2. システム日付との比較は、入力年を（年変換（和暦→西暦）：LXRPID78）を用いて西暦に変換し、行う。
3. このサブルーチンから（年変換（和暦→西暦）：LXRPID78）、（システム日付取得変換（8桁）：LXRPID88）を呼び出す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.43 LXRPID75（年（和暦）未来チェック）」を参照のこと。

LXRPID76 年変換（西暦→和暦）編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID76	日付処理	年変換（西暦→和暦）編集	LXRCID76

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年（西暦）	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YYWA	X(100)	年（和暦）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力年の編集を次のように行う。
 - 1.1 （年変換（西暦→和暦）：LXRPID77）を呼ぶ。
 - 1.2 （年基準日取得：LXRPID81）を呼ぶ。
 - 1.3 入力年 → 年
年基準日 → 月日
 - 1.4 年月日の編集を、（年月日（和暦）編集：LXRPID46）を用いて次の順で行う。

No.	置換処理	
1	NN	年号を全角変換
2	N	年号上一桁を全角変換
3	YY	年を全角変換
4	ZY	年をZ9編集，全角変換
5	N	年号コード

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換処理	
6	YY	年
7	ZY	年をZ9編集

例 1

```

I-YY      : 1992
I-FORMAT  : '「NNYY年」'
I-TYP     : 'N'
↓
O-YYWA    : '平成04年'
O-RTN-CD  : SPACE

```

例 2

```

I-YY      : 1992
I-FORMAT  : 'NYY'
I-TYP     : 'N'
↓
O-YYWA    : '」H04'
O-RTN-CD  : SPACE

```

(注) 例はV0S3版の場合で、
'「' : X'0A42',
'」' : X'0A41'とする

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日 (和暦) 編集 : LXPID46), (年基準日取得 : LXPID81), (年変換 (西暦→和暦) : LXPID77) を呼び出す。
2. 機能キャラクタ編集については, (年月日 (和暦) 編集 : LXPID46) に準ずる。
3. I-FORMAT の中で「月」項目 (MM, ZM, MM, ZM など) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
4. I-FORMAT の中で「日」項目 (DD, ZD, DD, ZD など) を指定した場合, 01 をそれぞれの形式に編集し, 置換する。
5. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
6. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については, 「3.4.44 LXPID76 (年変換 (西暦→和暦) 編集)」を参照のこと。

LXRPID77 年変換 (西暦→和暦)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID77	日付処理	年変換 (西暦→和暦)	LXRCID77

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YY	9(4)	年 (西暦)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YYWA	9(3)	年 (和暦)	O
—	—	—	形式 : NY Y	—
—	—	—	N : 年号	—
—	—	—	YY : 年	—
—	—	—	年号 :	—
—	—	—	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成)	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年 (西暦) → 年 (和暦) 変換を次のように行う。

1.1 (年 (西暦) チェック : LXRPID70) を呼ぶ。

リターンコードがスペースの時, (年基準日取得 : LXRPID81) を呼ぶ。

入力年 → 年

年基準日 → 月日

(年月日変換 (西暦→和暦) : LXRPID05) を用いて年月日の変換を行う。

処理基準は次のとおり。

年号	西暦範囲
	和暦範囲
明治	1868年9月8日～1912年7月29日
	元年9月8日～45年7月29日
大正	1912年7月30日～1926年12月24日
	元年7月30日～15年12月24日
昭和	1926年12月25日～1989年1月7日
	元年12月25日～64年1月7日
平成	1989年1月8日～
	元年1月8日～

リターンコードがスペースでない時、(年(西暦)チェック:LXRPID70)のリターンコードを返し、年(和暦)には0を出力する。

例 1

```
I-YY      : 1966
↓
0-YYWA    : 341
0-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日変換 (西暦→和暦): LXRPID05), (年基準日取得: LXRPID81), (年(西暦)チェック: LXRPID70) を呼ぶ。
2. (年月日変換 (西暦→和暦): LXRPID05) で西暦年月日が和暦年月日範囲外だった場合 (年月日変換 (西暦→和暦): LXRPID05) のリターンコードを返し、年(和暦)には0を出力する。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.45 LXRPID77 \(年変換 \(西暦→和暦\)\)](#)」を参照のこと。

LXRPID78 年変換 (和暦→西暦)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID78	日付処理	年変換 (和暦→西暦)	LXRCID78

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YYWA	—	年 (和暦)	I
—	—	—	形式: NYY	—
—	—	—	N: 年号	—
—	—	—	YY: 年	—
05	I-NNG	X(1)	年号:	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	—
—	—	—	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YY	9(4)	年 (西暦)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 年 (和暦) → 年 (西暦) 変換を次のように行う。

1.1 (年 (和暦) チェック: LXRPID71) を呼ぶ。

リターンコードがスペースまたは'LXRED002'の時, 年の変換を行う。

入力年号	年 (西暦)
'1', 'M'	年 (年号除く) + 1867

2. 標準サブルーチンの仕様

入力年号	年（西暦）
'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911
'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925
'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988
その他	年（年号除く）+ 1988

I-YYWA の入力値に対するリターンコードがスペースと'LXRED002'以外の時、
 （年（和暦）チェック：LXRPID71）のリターンコードを返す。年（西暦）には0を返す。

例 1

```
I-YYWA   : 341
↓
O-YY     : 1966
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（年（和暦）チェック：LXRPID71）、（年号コード変換（英字→数字）：LXRPID37）を呼び出す。
2. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.46 LXRPID78（年変換（和暦→西暦））」を参照のこと。

LXRPID80 年度基準日取得

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID80	日付処理	年度基準日取得	LXRCID80

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NND-KJN-MM	9(2)	年度基準月	○
03	O-NND-KJN-DD	9(2)	年度基準日	○
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の処理を行う。

04 → 年度基準月

01 → 年度基準日

例

なし。

注意事項

なし。

LXRPID81 年基準日取得

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID81	日付処理	年基準日取得	LXRCID81

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NEN-KJN-MM	9(2)	年基準月	○
03	O-NEN-KJN-DD	9(2)	年基準日	○
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

処理基準

- 次の処理を行う。
 - 01 → 年基準月
 - 01 → 年基準日

例

なし。

注意事項

なし。

LXRPID88 システム日付取得変換 (8桁)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID88	日付処理	システム日付取得変換 (8桁)	LXRCID88

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SYS-YMD	-	出力システム年月日 (8桁)	O
05	O-SYS-YMD-YY	9(4)	出力システム年月日-年	O
05	O-SYS-YMD-MM	9(2)	出力システム年月日-月	O
05	O-SYS-YMD-DD	9(2)	出力システム年月日-日	O
-	-	-	-	-

処理基準

1. システム日付を取得する。
2. 取得したシステム日付の「年」が92以上である場合、19を「年」の前方に付加し、O-SYS-YMD-YYに送る。
3. 取得したシステム日付の「年」が92以上でない場合、20を「年」の前方に付加し、O-SYS-YMD-YYに送る。
4. システム日付の「月」、「日」をO-SYS-YMD-MM、O-SYS-YMD-DDにそれぞれ送る。

例 1

システム日付 : 920101 ↓ O-SYS-YMD : 19920101
--

例 2

```
システム日付 : 010101  
↓  
0-SYS-YMD : 20010101
```

注意事項

1. 本製品の 01-07 以降のバージョンでは、FUNCTION CURRENT-DATE を用いて直接 8 桁のシステム日付を取得する仕様の（システム日付取得変換（8 桁）：LXRPID88）を別ライブラリで提供している。

LXRPID90 処理期限年月日算出 (西暦)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID90	日付処理	処理期限年月日算出 (西暦)	LXRCID90

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-CLOSE-DAY	P(2)	締日	C
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	—	出力西暦処理年月日 (YYYYMMDD)	O
05	O-YY	9(4)	年	O
05	O-MM	9(2)	月	O
05	O-DD	9(2)	日	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED017: 日が数字ではない	—
—	—	—	LXRED009: 実在する日ではない	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 注意事項 1.と 2.に従ってチェックする。
- リターンコードがスペースのとき、次の処理を行う。
 - (システム日付取得変換 (8桁): LXRPID88) によって、システム日付を取得する。
 - 処理年月日を次のように設定する。
 - システム日付の「日」が締日より前の場合、その月の締日
 - システム日付の「日」が締日より後の場合、次の月の締日
 - 設定した処理年月日の実在日チェックを行う。

2.4 処理年月日が実在しない場合、その月の月末日を処理年月日とする。

例 1

```
I-CLOSE-DAY : 20
システム日付 : 19960815
↓
O-YMD       : 19960820
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 2

```
I-CLOSE-DAY : 31
システム日付 : 19960915
↓
O-YMD       : 19960930
O-RTN-CD    : SPACE
```

注意事項

1. I-CLOSE-DAY について NUMERIC チェックを行い、数値でないときはエラーコード'LXRED017'をリターンコードとして返す。
2. $1 \leq \text{I-CLOSE-DAY} \leq 31$ でなければエラーコード'LXRED009'をリターンコードとして返す。
3. このサブルーチンから (システム日付取得変換 (8桁) : LXPID88), (実在日チェック (西暦) : LXPID01), (年月日算出 (西暦年月日±月数) : LXPID09), (月末日算出 (西暦年月日) : LXPID17) を呼び出す。
4. エラーのときは、出力年月日に 0 を返す。

LXRPID91 処理期限年月日算出 (和暦)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID91	日付処理	処理期限年月日算出 (和暦)	LXRCID91

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-CLOSE-DAY	P(2)	締日	C
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	—	出力和暦処理年月日 (NYMMDD)	O
05	O-NNG	X(1)	年号	O
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
05	O-YY	9(2)	年	O
05	O-MM	9(2)	月	O
05	O-DD	9(2)	日	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXRED017: 日が数字ではない	—
—	—	—	LXRED009: 実在する日ではない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (処理期限年月日算出 (西暦): LXRPID90) を呼び、処理年月日 (西暦) を求め、このサブルーチンのリターンコードをチェックする。
2. リターンコードがスペースのとき、次の処理を行う。
 - 2.1 処理年月日 (西暦) を (年月日変換 (西暦→和暦): LXRPID05) によって、和暦に変換する。

例 1

```
I-CLOSE-DAY : 20  
システム日付 : H080815  
↓  
O-YMDWA     : 4080820  
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 2

```
I-CLOSE-DAY : 31  
システム日付 : H080915  
↓  
O-YMDWA     : 4080930  
O-RTN-CD    : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（処理期限年月日算出（西暦）：LXRPID90）、（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、出力年月日に 0 を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「3.4.47 LXRPID91（処理期限年月日算出（和暦）」を参照のこと。

LXRPID92 通算日算出 (年始～西暦年月日)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID92	日付処理	通算日算出 (年始～西暦年月日)	LXRCID92

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	—	年月日 (西暦)	I
05	I-YY	9(4)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (実在日チェック (西暦): LXRPID01) で年月日をチェックする。
2. リターンコードがスペースのとき、次の処理を行う。
 - 2.1 (年基準日取得: LXRPID81) でその年の基準日を求める。
 - 2.2 基準日から入力年月日までの通算日を (期間算出 (西暦年月日間日数): LXRPID13) によって求める。

例 1

```
I-YMD    : 19960805
↓
O-DAYS   : 218
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-YMD    : 19961231
↓
O-DAYS   : 366
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01），（期間算出（西暦年月日間日数）：LXRPID13），（年基準日取得：LXRPID81）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し，日数に 0 を返す。

LXRPID93 通算日算出 (年始～和暦年月日)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID93	日付処理	通算日算出 (年始～和暦年月日)	LXRCID93

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	—	年月日 (和暦)	I
05	I-NNG	X(1)	年号	I
—	—	—	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成) or	—
—	—	—	(M : 明治, T : 大正, S : 昭和, H : 平成)	—
05	I-YY	9(2)	年	I
05	I-MM	9(2)	月	I
05	I-DD	9(2)	日	I
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DAYS	P(8)	日数	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (年月日変換 (和暦→西暦) : LXRPID06) によって, 入力年月日を西暦に変換し, このサブルーチンのリターンコードをチェックする。
2. リターンコードがスペースのとき, 次の処理を行う。
 - 2.1 (通算日算出 (年始～西暦年月日) : LXRPID92) を呼び, 処理年月日 (西暦) を求める。

例 1

```
I-YMDWA : H080805
↓
O-DAYS   : 218
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (年月日変換 (和暦→西暦) : LXPID06), (通算日算出 (年始～西暦年月日) : LXPID92) を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、日数に 0 を返す。ただし、誤った年号に対しては、平成 ('4', 'H') と同様の処理を行い、リターンコードには'LXRED002' を返す。
3. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については、「[3.4.48 LXPID93 \(通算日算出 \(年始～和暦年月日\)\)](#)」を参照のこと。

LXRPID94 年齢（年月）算出（慣習）

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID94	日付処理	年齢（年月）算出（慣習）	LXRCID94

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日（YYYYMMDD）	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日（YYYYMMDD）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNR-YM	—	年齢（年月）	O
05	O-NNR-YY	9(4)	年齢（年）	O
05	O-NNR-MM	9(2)	年齢（月）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力された生年月日および現在年月日から年齢（年月）を求める。

例 1

```
I-BRTH-YMD : 19710216  
I-KJN-YMD  : 19960815  
↓  
O-NNR-YM   : 002505  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. 年齢計算は慣習による（誕生日当日に1歳増える）。
2. うるう年の2月29日が生年月日の場合、平年では2月28日に年齢が1歳増える。

3. このサブルーチンから（年月日算出（西暦年月日±日数）：LXRPID11）、（期間算出（西暦年月日間年月日）：LXRPID15）、（うるう年判定（西暦）：LXRPID25）を呼び出す。
4. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、年齢に0を返す。

LXRPID95 年齢（年月）算出（法律）

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPID95	日付処理	年齢（年月）算出（法律）	LXRCID95

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-BRTH-YMD	9(8)	生年月日（YYYYMMDD）	I
03	I-KJN-YMD	9(8)	現在年月日（YYYYMMDD）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NNR-YM	—	年齢（年月）	O
05	O-NNR-YY	9(4)	年齢（年）	O
05	O-NNR-MM	9(2)	年齢（月）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXRED017：年月日が数値でない	—

処理基準

1. 入力された生年月日および現在年月日から年齢（年月）を求める。

例 1

```
I-BRTH-YMD : 19900731
I-KJN-YMD  : 19970130
↓
O-NNR-YM   : 000606
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. 年齢計算は法律による（誕生日前日に 1 歳増える）。
2. このサブルーチンから（期間算出（西暦年月日間年月日）：LXRPID15）を呼び出す。

3. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し，年齢に0を返す。

LXRPIE01 時刻妥当性チェック (24 時間)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE01	時間処理	時刻妥当性チェック (24 時間)	LXRCIE01

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TIME	9(6)	時刻	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE : 正常	-
-	-	-	LXREE005 : 入力が数字以外	-
-	-	-	LXREE002 : 時が不正	-
-	-	-	LXREE003 : 分が不正	-
-	-	-	LXREE004 : 秒が不正	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. 24 時間単位の時刻の妥当性をチェックする。

1.1 時のチェック (0 ≤ 時 ≤ 23)

1.2 分のチェック (0 ≤ 分 ≤ 59)

1.3 秒のチェック (0 ≤ 秒 ≤ 59)

例 1

I-TIME : 010161 (1時1分61秒)

↓

O-RTN-CD : 'LXREE004'

注意事項

なし。

LXRPIE02 時刻妥当性チェック (12 時間)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE02	時間処理	時刻妥当性チェック (12 時間)	LXRPIE02

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分	I
—	—	—	'AM': 午前, 'PM': 午後	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREE005: 数字以外が入力された	—
—	—	—	LXREE001: 午前または午後ではない	—
—	—	—	LXREE002: 時が不正	—
—	—	—	LXREE003: 分が不正	—
—	—	—	LXREE004: 秒が不正	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 12 時間単位の時刻の妥当性をチェックする。
 - 1.1 午前・午後のチェック
 - 1.2 時のチェック ($0 \leq \text{時} \leq 11$)
 - 1.3 分のチェック ($0 \leq \text{分} \leq 59$)
 - 1.4 秒のチェック ($0 \leq \text{秒} \leq 59$)

例 1

```
I-AP-KBN : 'AM'  
I-TMAP   : 017010 (1時70分10秒)  
↓  
O-RTN-CD : 'LXREE003'
```

注意事項

1. AM・PM フラグに'AM', 'PM'以外の文字をセットした場合は, エラーとする。

LXRPIE05 24 時間単位→12 時間単位時刻変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE05	時間処理	24 時間単位→12 時間単位時刻変換	LXRCIE05

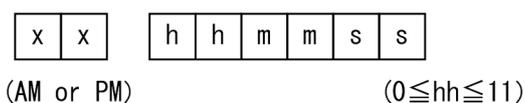
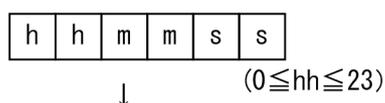
インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TIME	9(6)	時刻 (24 時制)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制)	O
03	O-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分	O
—	—	—	'AM': 午前	—
—	—	—	'PM': 午後	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREE005 : 時刻が数値でない	—

処理基準

1. 入力時刻のチェックを (時刻妥当性チェック (24 時間) : LXRPIE01) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 24 時間単位の時刻を 12 時間単位の時刻に変換する。



例 1

```
I-TIME   : 151515 (15時15分15秒)
↓
O-TMAP   : 031515 (3時15分15秒)
O-AP-KBN : 'PM'
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（時刻妥当性チェック（24 時間）：LXRPIE01）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーになった場合はリターンコードをそのまま返し，時刻に 0，AM・PM 区分にスペースを返す。

LXRPIE06 12 時間単位→24 時間単位時刻変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE06	時間処理	12 時間単位→24 時間単位時刻変換	LXRPIE06

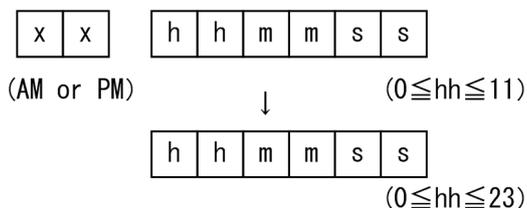
インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分	I
—	—	—	'AM': 午前	—
—	—	—	'PM': 午後	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-TIME	9(6)	時刻 (24 時制)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREE005: 時刻が数値でない	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力時刻のチェックを (時刻妥当性チェック (12 時間): LXRPIE02) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 12 時間単位の時刻を 24 時間単位の時刻に変換する。



例 1

```
I-AP-KBN : 'PM'  
I-TMAP  : 031515 (3時15分15秒)  
↓  
O-TIME  : 151515 (15時15分15秒)  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（時刻妥当性チェック（12 時間）：LXRPIE02）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーになった場合はリターンコードをそのまま返し，時刻に 0 を返す。

LXRPIE07 経過時間算出 (24 時間単位)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE07	時間処理	経過時間算出 (24 時間単位)	LXRCIE07

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-TIME	9(6)	開始時刻	I
03	I-END-TIME	9(6)	終了時刻	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	9(6)	時間	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常	—
—	—	—	LXREE008 : 開始時刻 ≤ 終了時刻でない	—
—	—	—	LXREE005 : 時刻が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力された 2 つの時刻 (24 時間単位) のチェックを (時刻妥当性チェック (24 時間) : LXRPIE01) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 入力された 2 つの時刻 (24 時間単位) の差を時分秒で求める。

例 1

```
I-STT-TIME : 013030
I-END-TIME : 134545
↓
O-HRS      : 121515
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（時刻妥当性チェック（24 時間）：LXRPIE01）を呼び出す。
2. 開始時刻>終了時刻とすると、リターンコードに'LXREE008'を返す。
3. エラーの場合、出力時間には 0 を返す。
4. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。

LXRPIE08 経過時間算出 (12 時間単位)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE08	時間処理	経過時間算出 (12 時間単位)	LXRCIE08

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-TMAP	9(6)	開始時刻 (12 時制)	I
03	I-STT-AP-KBN	X(2)	開始 AM・PM 区分	I
—	—	—	'AM' : 午前	—
—	—	—	'PM' : 午後	—
03	I-END-TMAP	9(6)	終了時刻 (12 時制)	I
03	I-END-AP-KBN	X(2)	終了 AM・PM 区分	I
—	—	—	'AM' : 午前	—
—	—	—	'PM' : 午後	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	9(6)	時間	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREE005 : 時刻が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力された 2 つの時刻 (12 時間単位) の差を時分秒で求める。

例 1

```
I-STT-TMAP   : 'AM'  
I-STT-AP-KBN : 100000  
I-END-TMAP   : 'PM'  
I-END-AP-KBN : 033000  
↓  
O-HRS        : 053000  
O-RTN-CD     : SPACE
```

2. 標準サブルーチンの仕様

注意事項

1. このサブルーチンから（12 時間単位→24 時間単位時刻変換：LXRPIE06），（経過時間算出（24 時間単位）：LXRPIE07）を呼び出す。
2. 開始時刻>終了時刻とすると，リターンコードに'LXREE008'を返す。
3. エラーの場合，出力時間には 0 を返す。
4. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合は，リターンコードをそのまま返す。

LXRPIE09 時間加算

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE09	時間処理	時間加算	LXRCIE09

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-1ST-HRS	9(8)	第一時間 (hhhhmmss)	I
03	I-2ND-HRS	9(8)	第二時間 (hhhhmmss)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	9(8)	時間 (hhhhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREE006: 桁あふれ	—
—	—	—	LXREE005: 時間が数値でない	—

処理基準

1. 入力された 2 つの時間のチェックを (時間チェック: LXRPIE16) を用いて行い、エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時、入力された 2 つの時間の加算を行う。

例 1

```
I-1ST-HRS : 00123456
I-2ND-HRS : 98765432
↓
O-HRS     : 98892928
O-RTN-CD  : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (時間チェック: LXRPIE16) を呼び出す。

2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
3. エラーの場合、出力時間には 0 を返す。

LXRPIE10 時間差算出

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE10	時間処理	時間差算出	LXRPIE10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-STT-HRS	9(8)	開始時間 (hhhhmmss)	I
03	I-END-HRS	9(8)	終了時間 (hhhhmmss)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	9(8)	時間 (hhhhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREE008: 開始時間 ≤ 終了時間でない	—
—	—	—	LXREE005: 時間が数値でない	—

処理基準

1. (時間チェック: LXRPIE16) によって、開始時間および終了時間のチェックを行う。エラーの場合、(時間チェック: LXRPIE16) のリターンコードをそのままリターンコードとする。出力時間は 0 とする。
2. 開始時間 ≤ 終了時間であることをチェックする。そうでないときはエラーコード 'LXREE008' をリターンコードとして返す。出力時間は 0 とする。
3. 入力された 2 つの時間の差を時分秒で求める。

例 1

```
I-STT-HRS : 00123456
I-END-HRS : 98765432
↓
O-HRS     : 98641936
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 2

```
I-STT-HRS : 00001000  
I-END-HRS : 00000959  
↓  
O-HRS      : 0  
O-RTN-CD   : 'LXREE008'
```

注意事項

1. このサブルーチンから（時間チェック：LXRPIE16）を呼び出す。

LXRPIE11 時刻編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE11	時間処理	時刻編集	LXRCIE11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TIME	9(6)	時刻	I
—	—	—	形式: hhmmss	—
—	—	—	hh: 時 (24 時間単位)	—
—	—	—	mm: 分	—
—	—	—	ss: 秒	—
03	I-TYP	X(1)	出力タイプ	OT
03	I-FORMAT	X(100)	出力フォーマット	C
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-TIME	X(100)	出力時刻	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREE005: 時刻が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. I-FORMAT に対して次の仕様で置換処理を行う。

No.	置換規則
1	AP
	「時」が 0~11: 'AM' 「時」12 以上: 'PM' ※1
2	O
	「時」が 0~11: 'NC'前' 「時」12 以上: 'NC'後' ※2
3	HH
	「時」を全角変換したもの

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換規則	
4	Z H	「時」を Z9 編集し、全角変換したもの
5	HH	「時」
6	ZH	「時」を Z9 編集したもの
7	M N	「分」を全角変換したもの
8	Z N	「分」を Z9 編集し、全角変換したもの
9	MN	「分」
10	ZN	「分」を Z9 編集したもの
11	S S	「秒」を全角変換したもの
12	Z S	「秒」を Z9 編集し、全角変換したもの
13	SS	「秒」
14	ZS	「秒」を Z9 編集したもの

注※1 I-FORMAT 中に'AP'があり、「時」が 12 以上の場合、
「時」 = 「時」 - 12 とする。

注※2 I-FORMAT 中に'○'があり、'AP'がなく、「時」が 12 以上の場合、
「時」 = 「時」 - 12 とする。

2. VOS3 版では、編集された文字列に対して次の処理を行う。

2.1 I-TYP が'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') の場合、これを削除する。

2.2 I-TYP が'N'で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') ではない場合、先頭に機能キャラクタ (X'0A41') を付加する。

2.3 I-TYP が'N'で、文字列の最後の文字 (その文字より後方に半角空白しかない文字) が機能キャラクタ (X'0A41') の場合、これを削除する。

例 1

```
I-TIME   : 184500
I-TYP    : 'X'
I-FORMAT : '「午○ Z H時 Z N分 Z S 秒」'
↓
O-TIME   : '「午後△ 6 時 4 5 分△ 0 秒」'
```

例 2

```
I-TIME   : 223000
I-TYP    : 'N'
I-FORMAT : ' APHH:MN:SS'
↓
O-TIME   : '」 PM10:30:00'
```

例 3

```
I-TIME   : 223000  
I-TYP    : 'N'  
I-FORMAT : 'HH:MN:SS'  
↓  
O-TIME   : 'J23:30:00'
```

注：例はV0S3版の場合で、
'「'はX'0A42'，'」'はX'0A41'を表す。

注意事項

1. 時刻の妥当性は、(時刻妥当性チェック (24 時間) : LXRPIE01) によって、チェックする。返されたリターンコードをそのままこのサブルーチンのリターンコードとする。エラーの場合は、I-FORMATをそのまま O-TIME に転記する。
2. このサブルーチンから (時刻妥当性チェック (24 時間) : LXRPIE01) および (半角→全角変換 : LXRPIE01) を呼び出す。

LXRPIE12 日時加減算 (西暦 12 時間単位)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE12	日時処理	日時加減算 (西暦 12 時間単位)	LXRPIE12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制) (hhmmss)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分	I
—	—	—	'AM': 午前, 'PM': 午後	—
03	I-KKN	9(7)	期間 (DDDDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間 (hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	I
—	—	—	'+' : 加算, '-' : 減算	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制) (hhmmss)	O
03	O-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分	O
—	—	—	'AM': 午前, 'PM': 午後	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREE005 : 年月日, 時刻, 期間, 時間が数値でない	—

処理基準

1. 入力時刻のチェックを (時刻妥当性チェック (12 時間) : LXRPIE02) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 12 時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う。

例 1

```
I-YMD      : 19890701
I-TMAP     : 012345
I-AP-KBN   : 'AM'
I-KKN      : 0000005
I-HRS      : 123456
I-SHR-KBN  : '+'
↓
O-YMD      : 19890706
O-TMAP     : 015841
O-AP-KBN   : 'PM'
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（時刻妥当性チェック（12 時間）：LXRPIE02），（24 時間単位→12 時間単位時刻変換：LXRPIE05），（12 時間単位→24 時間単位時刻変換：LXRPIE06），（日時加減算（西暦 24 時間単位）：LXRPIE13）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
3. エラーの時，年月日，時刻には 0，AM・PM 区分にはスペースを返す。

LXRPIE13 日時加減算 (西暦 24 時間単位)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE13	日時処理	日時加減算 (西暦 24 時間単位)	LXRCIE13

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	I
03	I-TIME	9(6)	時刻 (hhmmss)	I
03	I-KKN	9(7)	期間 (DDDDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間 (hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	I
—	—	—	'+' : 加算, '-' : 減算	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMD	9(8)	年月日 (YYYYMMDD)	O
03	O-TIME	9(6)	時刻 (hhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常	—
—	—	—	LXRED009 : 処理区分が '+' '-' 以外	—
—	—	—	LXREE005 : 年月日, 時刻, 期間, 時間が数値でない	—

処理基準

1. 入力年月日のチェックを (実在日チェック (西暦) : LXRPID01) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 入力時刻および入力時間のチェックを (時刻妥当性チェック (24 時間) : LXRPIE01) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
3. リターンコードがスペースの時, 24 時間単位の西暦日時と日時の加算または減算を行う。

例 1

```
I-YMD      : 19890701
I-TIME     : 123456
I-KKN      : 0000009
I-HRS      : 012345
I-SHR-KBN  : '+'
↓
O-YMD      : 19890710
O-TIME     : 135841
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（西暦）：LXRPID01），（年月日算出（西暦年月日±日数）：LXRPID11），（時刻妥当性チェック（24時間）：LXRPIE01），（時間加算：LXRPIE09），（時間差算出：LXRPIE10）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
3. エラーの時，年月日，時刻には0を返す。

LXRPIE14 日時加減算 (和暦 12 時間単位)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE14	日時処理	日時加減算 (和暦 12 時間単位)	LXRPIE14

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	I
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
03	I-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制) (hhmmss)	I
03	I-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分 (AM: 午前, PM: 午後)	I
03	I-KKN	9(7)	期間 (DDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間 (hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分 (+: 加算, -: 減算)	I
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	O
—	—	—	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	—
03	O-TMAP	9(6)	時刻 (12 時制) (hhmmss)	O
03	O-AP-KBN	X(2)	AM・PM 区分 (AM: 午前, PM: 午後)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREE005: 年月日, 時刻, 期間, 時間が数値でない	—

処理基準

1. 入力年月日のチェックを (実在日チェック (和暦): LXRPIE02) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
2. リターンコードがスペースの時, 12 時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う。

例 1

```
I-YMDWA : 3630101
I-TMAP  : 111111
I-AP-KBN : 'AM'
I-KKN   : 0000031
I-HRS   : 022222
I-SHR-KBN : '+'
↓
O-YMDWA : 3630201
O-TMAP  : 013333
O-AP-KBN : 'PM'
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（和暦）：LXRPID02），（年月日変換（西暦→和暦）：LXRPID05），（年月日変換（和暦→西暦）：LXRPID06），（日時加減算（西暦 12 時間単位）：LXRPIE12）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
3. エラーの時，年月日，時刻には 0，AM・PM 区分にはスペースを返す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.49 LXRPID14](#)（日時加減算（和暦 12 時間単位））」を参照のこと。

LXRPIE15 日時加減算 (和暦 24 時間単位)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE15	日時処理	日時加減算 (和暦 24 時間単位)	LXRCIE15

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	I
-	-	-	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	-
03	I-TIME	9(6)	時刻 (hhmmss)	I
03	I-KKN	9(7)	期間 (DDDDDDDD)	I
03	I-HRS	9(6)	時間 (hhmmss)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分 (+: 加算, -: 減算)	I
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	O
-	-	-	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	-
03	O-TIME	9(6)	時刻 (hhmmss)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREE005: 年月日, 時刻, 期間, 時間が数値でない	-

処理基準

- 入力年月日のチェックを (実在日チェック (和暦): LXRPID02) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す。
- リターンコードがスペースの時, 24 時間単位の和暦日時と日時の加算または減算を行う。

例 1

```
I-YMDWA : 3630101
I-TIME  : 111111
I-KKN   : 0000373
I-HRS   : 022222
I-SHR-KBN : '+'
```

↓
0-YMDWA : 4010108
0-TIME : 133333
0-RTN-CD : SPACE

注意事項

1. このサブルーチンから（実在日チェック（和暦）：LXPID02），（年月日変換（西暦→和暦）：LXPID05），（年月日変換（和暦→西暦）：LXPID06），（日時加減算（西暦 24 時間単位）：LXRPIE13）を呼び出す。
2. サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返す。
3. エラーの時，年月日，時刻には 0 を返す。
4. 年号情報を設定変更した場合の動作の変更点については，「[3.4.50 LXRPIE15（日時加減算（和暦 24 時間単位））](#)」を参照のこと。

LXRPIE16 時間チェック

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE16	時間処理	時間チェック	LXRPIE16

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-HRS	9(8)	入力時間	I
-	-	-	形式: hhhmmss	-
-	-	-	hhhh: 時	-
-	-	-	mm: 分	-
-	-	-	ss: 秒	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常	-
-	-	-	LXREF005: 数字以外が入力された	-
-	-	-	LXREF003: 分が不正	-
-	-	-	LXREF004: 秒が不正	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. 次の順でチェックを行い、エラーの場合はリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	時間が数字だけである	LXREE005
2	「分」 < 60	LXREE003
3	「秒」 < 60	LXREE004

例 1

```
I-HRS    : 0000QQQQ  
↓  
O-RTN-CD : 'LXREE005'
```

例 2

```
I-HRS    : 00006000  
↓  
O-RTN-CD : 'LXREE003'
```

例 3

```
I-HRS    : 00000060  
↓  
O-RTN-CD : 'LXREE004'
```

注意事項

なし。

LXRPIE17 時間 (秒) →時間変換編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE17	時間処理	時間 (秒) →時間変換編集	LXRPIE17

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
03	I-SEC	P(9)	入力時間 (秒)	I
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	X(100)	出力時間	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	-	-

処理基準

1. 次の順でチェックを行い、エラーの場合は該当するリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	時間 (秒) が数字だけである	LXREE005
2	時間 (秒) ≥ 0	LXREE007
3	時間 (秒) < 36000000	LXREE006

2. 上表項番 1 のチェックでエラーでなければ時間 (秒) を時間に変換する。

3. 上表項番 2 と 3 のチェックで、エラーであっても、変換を行う (注意事項参照)。

4. (時間編集: LXRPIE20) を用いて編集処理を行う。

4.1 置換処理

No.	置換規則	
1	HHHH	「時」を全角変換
2	ZZZZ	「時」をZZZ9編集, 全角変換
3	HHH	「時」
4	ZZZH	「時」をZ9編集
5	HH	「時」下2桁を全角変換
6	ZH	「時」下2桁をZ9編集, 全角変換

No.	置換規則	
7	HH	「時」下2桁
8	ZH	「時」下2桁をZ9編集
9	MN	「分」を全角変換
10	ZN	「分」をZ9編集, 全角変換
11	MN	「分」
12	ZN	「分」をZ9編集
13	SS	「秒」を全角変換
14	ZS	「秒」をZ9編集, 全角変換
15	SS	「秒」
16	ZS	「秒」をZ9編集

4.2 機能キャラクタ処理

(LXRPIE20 参照)

例 1

```
I-SEC      : 000003661
I-TYP      : 'N'
I-FORMAT   : '「HHHH:MN:SS」'
↓
O-HRS      : '0001:01:01'
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-SEC      : -035999999
I-TYP      : 'N'
I-FORMAT   : '「HHHH:MN:SS」'
↓
O-HRS      : '9999:59:59'
O-RTN-CD   : 'LXREE007'
```

例 3

```
I-SEC      : 036003661
I-TYP      : 'N'
I-FORMAT   : '「ZZZH:ZN:ZS」'
↓
O-HRS      : '△△△1:△1:△1'
O-RTN-CD   : 'LXREE006'
```

注意事項

1. 上表チェック項番 2 によってエラーと判定されると、入力データが正の数であるとして変換を行い、リターンコードに'LXREE007'を送る。

2. 上表チェック項番 3 によってエラーと判定されると、リターンコードに'LXREE006'を送った後に変換を行うが、その際桁あふれを生じる。
3. このサブルーチンから（時間（秒）→時間変換：LXRPIE19）、（時間編集：LXRPIE20）を呼ぶ。

LXRPIE18 時間→時間 (秒) 変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE18	時間処理	時間→時間 (秒) 変換	LXRCIE18

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-HRS	9(8,2)	入力時間	I
-	-	-	形式: hhhhhmmssvv	-
-	-	-	hhhh: 時	-
-	-	-	mm: 分	-
-	-	-	ss: 秒	-
-	-	-	vv: 1/100 秒	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SEC	P(9,2)	出力時間 (秒)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	-	-

処理基準

1. 入力時間が数字だけでない場合はリターンコードに'LXREE005'を返す (項番 1)。
2. リターンコードがスペースの時, 入力時間のチェックを (時間チェック: LXRPIE16) を用いて行い, エラーの場合はリターンコードを返す (項番 2~3)。

No.	チェック	リターンコード
1	時間が数字だけである	LXREE005
2	「分」 < 60	LXREE003
3	「秒」 < 60	LXREE004

3. エラーでなければ, 入力時間を秒に変換する。

例 1

I-HRS	: 0000QQQQ.00
↓	

```
O-SEC      : 000000000.00  
O-RTN-CD   : 'LXREE005'
```

例 2

```
I-HRS      : 00006000.00  
↓  
O-SEC      : 000000000.00  
O-RTN-CD   : 'LXREE003'
```

例 3

```
I-HRS      : 00000060.00  
↓  
O-SEC      : 000000000.00  
O-RTN-CD   : 'LXREE004'
```

例 4

```
I-HRS      : 00010101.01  
↓  
O-SEC      : 000003661.01  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（時間チェック：LXRPIE16）を呼び出す。

LXRPIE19 時間 (秒) →時間変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE19	時間処理	時間 (秒) →時間変換	LXRCIE19

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SEC	P(9,2)	入力時間 (秒)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	9(8,2)	出力時間	O
—	—	—	形式 : hhhmmssvv	—
—	—	—	hhhh : 時	—
—	—	—	mm : 分	—
—	—	—	ss : 秒	—
—	—	—	vv : 1/100 秒	—
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の順でチェックを行い、エラーの場合は該当するリターンコードを返す。

No.	チェック	リターンコード
1	時間 (秒) が数字だけである	LXREE005
2	時間 (秒) ≥ 0	LXREE007
3	時間 (秒) < 36000000.00	LXREE006

2. エラーでなければ時間(秒)を時間に変更する。

例 1

```
I-SEC    : 036003661.01
↓
O-HRS    : 00000000.00
O-RTN-CD : 'LXREE006'
```

例 2

```
I-SEC    : -035999999.99
↓
O-HRS    : 00000000.00
O-RTN-CD : 'LXREE007'
```

例 3

```
I-SEC    : 0000QQQQ.00
↓
O-HRS    : 00000000.00
O-RTN-CD : 'LXREE005'
```

例 4

```
I-SEC    : 000003661.01
↓
O-HRS    : 00010101.01
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 上表項番 2 のチェックによってエラーと判定されると、変換せずに終了し、リターンコードに 'LXREE007'を送る。出力時間には 0 を返す。
2. 上表項番 3 のチェックによってエラーと判定されると、変換せずに終了し、リターンコードに 'LXREE006'を送る。出力時間には 0 を返す。

LXRPIE20 時間編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIE20	時間処理	時間編集	LXRPIE20

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
03	I-HRS	9(8)	入力時間	I
—	—	—	形式: hhhmmss	—
—	—	—	hhhh: 時	—
—	—	—	mm: 分	—
—	—	—	ss: 秒	—
03	I-FORMAT	X(100)	フォーマット	C
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-HRS	X(100)	出力時間	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREE005: 時間が数値でない	—

処理基準

1. I-FORMAT に対して次の仕様で置換処理を行う。

No.	置換規則	
1	HHHH	「時」を全角変換
2	ZZZZ	「時」をZZZ9編集, 全角変換
3	HHH	「時」
4	ZZZ	「時」をZ9編集
5	HH	「時」下2桁を全角変換
6	ZH	「時」下2桁をZ9編集, 全角変換
7	HH	「時」下2桁
8	ZH	「時」下2桁をZ9編集

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	置換規則	
9	MN	「分」を全角変換
10	ZN	「分」をZ9編集, 全角変換
11	MN	「分」
12	ZN	「分」をZ9編集
13	SS	「秒」を全角変換
14	ZS	「秒」をZ9編集, 全角変換
15	SS	「秒」
16	ZS	「秒」をZ9編集

2. VOS3 版では、編集された文字列に対して次の処理を行う。

2.1 I-TYP が 'N' で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') の場合、これを削除する。

2.2 I-TYP が 'N' で文字列の先頭が機能キャラクタ (X'0A42') ではない場合、先頭に機能キャラクタ (X'0A41) を付加する。

2.3 I-TYP が 'N' で文字列の最後の文字が機能キャラクタ (X'0A41') の場合、これを削除する。

例 1

```
I-HRS      : 01234500
I-TYP      : 'X'
I-FORMAT   : '「 Z Z Z H : M N : S S 」'
↓
O-HRS      : '「 1 2 3 : 4 5 : 0 0 」'
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-HRS      : 00010101
I-TYP      : 'N'
I-FORMAT   : 'HHHH:MN:SS'
↓
O-HRS      : '」 0001:01:01
O-RTN-CD   : SPACE
```

注：例はVOS3版の場合で、
 '「' は X'0A42'、
 '」' は X'0A41' を表す。

注意事項

1. (時間チェック：LXRPIE16) によって、入力時間の妥当性をチェックし、リターンコードをそのままこのサブルーチンのリターンコードとする。エラーのときはフォーマットをそのまま出力時間に転記する。
2. このサブルーチンから (半角→全角変換：LXRPIE01)、(時間チェック：LXRPIE16) を呼び出す。
3. 2.3 で、「文字列の最後の文字」とはその文字より後方にスペースしか存在していない文字を指す。

LXRPIF01 氏名 (漢字) チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF01	項目処理	氏名 (漢字) チェック	LXRCIF01

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名 (漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1' : 空白を全角空白にする	—
—	—	—	その他 : 空白を半角空白にする	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常	—
—	—	—	LXREB001 : 全角文字として正しくない	—
—	—	—	LXREF001 : スペースが間にない	—
—	—	—	LXREF002 : スペースが 2 個所以上ある	—
—	—	—	LXREF005 : すべてがスペースである	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 入力した氏名 (漢字) のチェックをする。
 - I-SHMKJ を (漢字コードチェック : LXRPIB01) を呼び、チェックする。
 - リターンコードがスペースの時、I-SHMKJ 内のスペースの個所を数えてチェックする。
- エラーでなければ次の編集処理を行う。
 - 処理区分が'1'のときは、半角空白を全角空白に置換する。そのほかのときは、全角空白を半角空白に置換する。
 - 出力する氏名 (漢字) は氏と名の間を空白 1 文字 (空白の種類は処理区分に従う) にし、氏の前のスペースは左詰めにして除く。

例 1

```
I-SHMKJ : '△△山田△太郎'  
I-SHR-KBN : SPACE  
↓  
O-SHMKJ : '山田△太郎'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (漢字コードチェック：LXRPIB01), (漢字データ左詰め：LXRPIB04), (不要空白削除 (漢字データ)：LXRPIB09), (漢字データ有効桁数算出：LXRPIB07), (全角空白→半角空白置換：LXRPIB13), (半角空白→全角空白置換：LXRPIB14) を呼び出す。
2. エラーの場合, I-SHMKJ をそのまま O-SHMKJ に転記する。
3. 入力する氏名 (漢字) の空白は, 半角 2 文字・全角 1 文字のどちらでも可。

LXRPIF02 氏名（半角カナ）チェック

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF02	項目処理	氏名（半角カナ）チェック	LXRCIF02

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHMKN	X(20)	氏名（半角カナ）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHMKN	X(20)	氏名（半角カナ）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXREA007：半角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREF001：スペースが間にない	—
—	—	—	LXREF002：スペースが2個所以上ある	—
—	—	—	LXREF005：すべてがスペースである	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 入力した氏名(半角カナ)のチェックをする。
 - I-SHMKN を（文字コードチェック：LXRPIA01）を呼び、チェックする。
 - リターンコードがスペースの時、I-SHMKN 内のスペースの個所を数えてチェックする。
- エラーでなければ次の編集処理を行う。
 - 出力する氏名（半角カナ）は氏と名の間をスペース1文字にし、氏の前のスペースは左詰めにし、除く。

例 1

```
I-SHMKN : '△△ヤマダ△タロウ'  
↓  
O-SHMKN : 'ヤマダ△タロウ'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（文字コードチェック：LXRPIA01），（文字列左詰め：LXRPIA06），（不要空白削除：LXRPIA16），（有効桁数算出：LXRPIA09）を呼び出す。
2. 半角カナ以外の文字でも，半角文字として正しければエラーとはしない。
3. 氏名（半角カナ）の属性は，EUC 対応版では X(40)，Unicode 対応版では X(60)である。

LXRPIF03 氏名（漢字）分離編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF03	項目処理	氏名（漢字）分離編集	LXRCIF03

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名（漢字）	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1'：空白を全角空白にする	—
—	—	—	その他：空白を半角空白にする	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHKJ	N(10)	氏（漢字）	O
03	O-NMKJ	N(10)	名（漢字）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXREB001：全角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREF001：スペースが間にない	—
—	—	—	LXREF002：スペースが2個所以上ある	—
—	—	—	LXREF005：すべてがスペースである	—

処理基準

- I-SHMKJ を（氏名（漢字）チェック：LXRPIF01）を呼び、チェックする。
- リターンコードがスペースのとき、氏名（漢字）の分離編集をする。
 - 氏名（漢字）を氏（漢字）と名（漢字）に分離する。スペースで区切られた前半を O-SHKJ、後半を O-NMKJ に転記する。

注

- 氏名（漢字）のスペースは全角1個、半角2個のどちらでも可。
- 氏名（漢字）の左端のスペースは、左詰めする（氏と名の区切りとは見なさない）。
- 氏（漢字）、名（漢字）のスペースの種類は処理区分に従う。

例 1

```
I-SHMKJ : '△山田△太郎'  
I-SHR-KBN : SPACE  
↓  
O-SHKJ : '山田'  
O-NMKJ : '太郎'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（全角空白→半角空白置換：LXRPIB13），（半角空白→全角空白置換：LXRPIB14），（氏名（漢字）チェック：LXRPIF01）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し，氏（漢字），名（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIF04 氏名（半角カナ）分離編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF04	項目処理	氏名（半角カナ）分離編集	LXRCIF04

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHMKN	X(20)	氏名（半角カナ）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHKN	X(20)	氏（半角カナ）	O
03	O-NMKN	X(20)	名（半角カナ）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXREA007：半角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREF001：スペースが間にない	—
—	—	—	LXREF002：スペースが2か所以上ある	—
—	—	—	LXREF005：すべてがスペースである	—

処理基準

- I-SHMKN を（氏名（半角カナ）チェック：LXRPIF02）を呼び、チェックする。
 - リターンコードがスペースのとき、氏名（半角カナ）の分離編集をする。
 - 氏名（半角カナ）を氏（半角カナ）と名（半角カナ）に分離する。スペースで区切られた前半を O-SHKN，後半を O-NMKN に転記する。
- 注 氏名（半角カナ）の左端のスペースは、左詰めする（氏と名の区切りとは見なさない）。

例 1

```
I-SHMKN : '△△ヒタチ△タロウ'  
↓  
O-SHKN  : 'ヒタチ'  
O-NMKN  : 'タロウ'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（氏名（半角カナ）チェック：LXRPIF02）を呼び出す。
2. サブルーチンでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し，氏（半角カナ），名（半角カナ）にはスペースを返す。
3. 氏名（半角カナ），氏（半角カナ），名（半角カナ）の属性は，EUC 対応版では X(40)，Unicode 対応版では X(60)である。

LXRPIF05 氏名（漢字）結合編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF05	項目処理	氏名（漢字）結合編集	LXRCIF05

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHKJ	N(10)	氏（漢字）	I
03	I-NMKJ	N(10)	名（漢字）	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1'：空白を全角空白にする	—
—	—	—	その他：空白を半角空白にする	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名（漢字）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXREB001：全角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREF003：切り捨てが発生した	—
—	—	—	LXREF005：すべてがスペースである	—

処理基準

- I-SHKJ, I-NMKJ を（漢字コードチェック：LXRPIB01）を呼びチェックする。
- リターンコードがともにスペースの場合、氏名（漢字）の結合編集をする。
 - 氏（漢字）と名（漢字）を結合する。

氏名（漢字）は
氏+空白1文字+名+空白n文字
となるように編集する。
 - 氏名（漢字）の空白の種類は処理区分に従う。

注 LXREF003：氏名が長過ぎる場合は、超えた分を切り捨てて氏名（漢字）にセットする。

例 1

```
I-SHKJ   : '日立'  
I-NMKJ   : '花子'  
I-SHR-KBN : SPACE  
↓  
O-SHKJ   : '日立△花子'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-SHKJ   : '日立'  
I-NMKJ   : '花子'  
I-SHR-KBN : '1'  
↓  
O-SHKJ   : '日立▲花子'  
O-RTN-CD : SPACE  
  
△ : 半角空白 2 個  
▲ : 全角空白 1 個
```

注意事項

1. 氏（漢字）、名（漢字）のそれぞれの空白は削除する。
2. このサブルーチンから（漢字コードチェック：LXRPIB01）、（空白削除（漢字データ）：LXRPIB08）、（全角空白→半角空白置換：LXRPIB13）、（半角空白→全角空白置換：LXRPIB14）を呼び出す。
3. エラーの場合、氏名（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIF06 氏名（半角カナ）結合編集

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF06	項目処理	氏名（半角カナ）結合編集	LXRCIF06

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHKN	X(20)	氏（半角カナ）	I
03	I-NMKN	X(20)	名（半角カナ）	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHMKN	X(20)	氏名（半角カナ）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREA007: 半角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREF003: 切り捨てが発生した	—
—	—	—	LXREF005: すべてがスペースである	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. I-SHKN, I-NMKN を（文字コードチェック: LXRPIA01）を呼びチェックする。
2. リターンコードがともにスペースの場合、氏名（半角カナ）の結合編集をする。
 - 2.1 氏（半角カナ）と名（半角カナ）を結合する。

氏名（半角カナ）は

氏 + 半角空白 1 文字 + 名 + 半角空白 n 文字

となるように編集する。

注 LXREF003: 氏名が長過ぎる場合は、超えた分を切り捨てて氏名（半角カナ）にセットする。

例 1

```
I-SHKN  : 'ヒタチ'  
I-NMKN  : 'タロウ'  
↓  
O-SHMKN : 'ヒタチ△タロウ'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 氏（半角カナ），名（半角カナ）のそれぞれの空白は削除する。
2. このサブルーチンから（文字コードチェック：LXRPIA01），（空白削除：LXRPIA15）を呼び出す。
3. 氏名（半角カナ），氏（半角カナ），名（半角カナ）の属性は，EUC 対応版では X(40)，Unicode 対応版では X(60)である。

LXRPIF07 郵便番号チェック／入力編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF07	項目処理	郵便番号チェック／入力編集	LXRCIF07

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(6)	郵便番号	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(5)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREF004: 入力データの形式不正	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 郵便番号のチェックを行う。
 - 入力として正しいのは、
 - [数字 3 桁]
 - [数字 5 桁]
 - [数字 3 桁 + '-' + 数字 2 桁]
 - [数字 3 桁 + '△' + 数字 4 桁]の 4 とおりとする。
(前後のスペースはあってもよい)
- 郵便番号が正しいければ、次の編集を行う。
 - I-ZIPCD が数字 3 桁または 5 桁の場合は、左詰めする。
 - I-ZIPCD が数字の間に '-' または空白を含む場合は、それを取り除く。

例 1

```
I-ZIPCD : '102-99'  
↓  
O-ZIPCD : '10299'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（文字列左詰め：LXRPIA06）、（指定文字列削除：LXRPIA14）、（空白削除：LXRPIA15）を呼び出す。

LXRPIF08 郵便番号チェック／出力編集

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF08	項目処理	郵便番号チェック／出力編集	LXRCIF08

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(5)	郵便番号	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(6)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREF004: 入力データの形式不正	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 郵便番号のチェックを行う。
 - 入力として正しいのは、
[数字 3 桁+空白 2 桁]
[数字 5 桁]
の 2 通りとする。
 - その他はエラーとする。I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記し、エラーコード'LXREF004'をリターンコードとして返す。
- 郵便番号が正しければ、次の編集を行う。
 - I-ZIPCD が数字 3 桁の場合は、I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記する。
 - I-ZIPCD が数字 5 桁の場合は、「先頭の 3 桁」+'-'+「残りの 2 桁」となるようにする。

例 1

```
I-ZIPCD : '00101'  
↓  
O-ZIPCD : '001-01'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-ZIPCD : '123'  
↓  
O-ZIPCD : '123'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-ZIPCD : '1234'  
↓  
O-ZIPCD : '1234'  
O-RTN-CD : 'LXREF004'
```

注意事項

なし。

LXRPIF09 金額編集

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF09	項目処理	金額編集	LXRCIF09

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TYP	X(1)	タイプ	OT
—	—	—	('X', 'Z', 'N'に限定)	—
03	I-LENG	9(2)	長さ	OL
—	—	—	(タイプが'X', 'Z' : 1 以上 60 以下に限定)	—
—	—	—	タイプが'N' : 1 以上 30 以下に限定)	—
03	I-MINUS-CHR	X(6)	マイナスキャラクタ	C
03	I-KNGK	P(18)	入力金額	I
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-KNGK	X(60)	出力金額	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常	—
—	—	—	LXREF006 : NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREF009 : タイプが'X', 'Z', 'N'以外	—
—	—	—	LXREF004 : 入力データ不正	—
—	—	—	LXREF008 : 機能キャラクタ不正	—
—	—	—	LXREF007 : 頭切れが起こった	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の順でチェックを行う。

No.	チェック	リターンコード
1	長さ, 金額が数字だけである	LXREF006

2. 標準サブルーチンの仕様

No.	チェック	リターンコード
2	1 ≤ 長さ ≤ 60(30)	LXREF004
3	タイプが'X', 'Z', 'N'のどれかである	LXREF009

エラーの場合、出力金額はスペースとする。

2. タイプが'X'の場合、次の処理を行う。
 - 2.1 入力金額を ZZZ,ZZZ,ZZZ,ZZZ,ZZZ,ZZ9 に編集する。
 - 2.2 マイナスキャラクタの先頭と末尾が X'0A42', X'0A41'の場合
 入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
 入力金額が正数の場合、数値の後方に X'0A41'2 個を付加する（出力位置を揃えるため）。
 - 2.3 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが存在しない場合
 入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
 - 2.4 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが不正に存在する場合※
 リターンコードに'LXREF008'を送る。
 出力金額に SPACE を送る。
 - 2.5 （文字列右詰め：LXRPIA07）を用いて長さ（I-LENG）に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに'LXREF007'を送る。
3. タイプが'Z'の場合、次の処理を行う。
 - 3.1 入力金額を----,---,---,---,---,---9 に編集する。
 - 3.2 （文字列右詰め：LXRPIA07）を用いて長さ（I-LENG）に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに'LXREF007'を送る。
4. VOS3 版ではタイプが'N'の場合、次の処理を行う。
 - 4.1 入力金額を ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ9 に編集する。
 - 4.2 マイナスキャラクタの先頭と末尾が X'0A42', X'0A41'の場合
 入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタの中央 2 バイトを付加する。
 - 4.3 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが存在しない場合
 入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。
 入力金額が正数の場合、数値の後方に X'0A41'2 個を付加する（出力位置を揃えるため）。
 - 4.4 マイナスキャラクタ中に機能キャラクタが不正に存在する場合※
 リターンコードに'LXREF008'を送る。
 出力金額に SPACE を送る。
 - 4.5 （半角→全角変換：LXRPIA01）を用いて全角コードに変換する。
 - 4.6 （漢字データ右詰め：LXRPIB05）を用いて長さ（I-LENG）に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに'LXREF007'を送る。
5. PC・UNIX 版ではタイプが'N'の場合、次の処理を行う。
 - 5.1 入力金額を ZZZZZZZZZZZZZZZZZZZ9 に編集する。

5.2 (半角→全角変換：LXRPIC01) を用いて全角コードに変換する。

5.3 入力金額が負数の場合、数値の前方にマイナスキャラクタを付加する。

5.4 (文字列右詰め：LXRPIA07) を用いて長さ (I-LENG) に合わせて編集する。この際文字列の頭切れを起こすとリターンコードに'LXREF007'を送る。

注※ マイナスキャラクタの先頭に X'0A42'があるが後方に X'0A41'がない、または先頭に X'0A42'がないが後方に X'0A41'がある場合。

例 1

```
I-TYP      : 'X'  
I-LENG     : 5  
I-MINUS-CHR : '-'  
I-KNGK     : -123  
↓  
O-KNGK     : '△-123'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

例 2

```
I-TYP      : 'Z'  
I-LENG     : 5  
I-MINUS-CHR : '-'  
I-KNGK     : 123456  
↓  
O-KNGK     : '3,456'  
O-RTN-CD   : 'LXREF007'
```

例 3

```
I-TYP      : 'N'  
I-LENG     : 4  
I-MINUS-CHR : '▲'  
I-KNGK     : -12  
↓  
O-KNGK     : '△▲12'  
O-RTN-CD   : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (文字列右詰め：LXRPIA07), (空白削除：LXRPIA15), (半角→全角変換：LXRPIC01), (漢字データ右詰め：LXRPIB05), (空白削除 (漢字データ)：LXRPIB08) を呼び出す。
2. リターンコードがスペースでない場合、出力金額にはスペースを返す。ただし、リターンコードが'LXREF007'の場合は処理を続行し、出力金額には編集結果文字列をそのまま返す。
3. EUC 対応版, Unicode 対応版で出力金額に半角カナが含まれる場合、文字数は実バイト長 (EUC：2 バイト/文字, Unicode：3 バイト/文字) で指定する。

LXRPIF10 郵便番号チェック／入力編集 (5桁および7桁)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF10	項目処理	郵便番号チェック／入力編集 (5桁および7桁)	LXRCIF10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(8)	郵便番号	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(7)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREF004: 入力データの形式が不当	—
—	—	—	—	—

処理基準

- (郵便番号チェック／入力編集 (7桁): LXRPIF12) を呼び出して、郵便番号の7桁チェックを行う。
リターンコードがスペースなら、出力を O-ZIPCD に設定する。
- リターンコードがスペースでない場合、次の処理を行う。
 - (郵便番号チェック／入力編集: LXRPIF07) を呼び出して、リターンコードがスペースなら、出力を O-ZIPCD に設定する。
 - 2.1 の結果リターンコードがスペースでないとき、エラーコード'LXREF004'をリターンコードとして返す。

例 1

I-ZIPCD	: '123-4567'
↓	

```
O-ZIPCD : '1234567'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-ZIPCD : '123 4567'  
↓  
O-ZIPCD : '1234567'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-ZIPCD : '102-99'  
↓  
O-ZIPCD : '10299'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（郵便番号チェック／入力編集（7桁）：LXRPIF12）、（郵便番号チェック／入力編集：LXRPIF07）を呼び出す。

LXRPIF11 郵便番号チェック／出力編集 (5桁および7桁)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF11	項目処理	郵便番号チェック／出力編集 (5桁および7桁)	LXRCIF11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(7)	郵便番号	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(8)	郵便番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREF004: 入力データの形式が不当	—
—	—	—	LXREF010: 入力データの形式が不当 (郵便番号7桁)	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. (郵便番号チェック／出力編集 (7桁): LXRPIF13) を呼び出して、郵便番号の7桁チェックする。リターンコードがスペースなら、出力を O-ZIPCD に設定する。
2. リターンコードがスペースでない場合、次の処理を行う。
 - 2.1 I-ZIPCD の6, 7桁目がすべてスペースであるかチェックする。
 - 2.1.1 6, 7桁目がすべてスペースである場合

(郵便番号チェック／出力編集: LXRPIF08) を呼び出して、リターンコードがスペースなら、出力を O-ZIPCD に設定する。リターンコードがスペースでないとき、I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記し、エラーコード'LXREF004'をリターンコードとして返す。
 - 2.1.2 6, 7桁目がスペースでない場合

I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記し、エラーコード'LXREF010'をリターンコードとして

返す。

例 1

```
I-ZIPCD      : '00101'  
↓  
O-ZIPCD      : '001-01'  
O-RTN-CD     : SPACE
```

例 2

```
I-ZIPCD      : '0010101'  
↓  
O-ZIPCD      : '001-0101'  
O-RTN-CD     : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（郵便番号チェック/出力編集（7桁）：LXRPIF13）、（郵便番号チェック/出力編集：LXRPIF08）を呼び出す。

LXRPIF12 郵便番号チェック／入力編集 (7桁)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF12	項目処理	郵便番号チェック／入力編集 (7桁)	LXRCIF12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(8)	郵便番号 (7桁)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(7)	郵便番号 (7桁)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常	-
-	-	-	LXREF010: 入力データの形式不正 (郵便番号 7桁)	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. (文字列左詰め: LXRPIA06) を呼び出して、郵便番号を左詰めする。
2. 郵便番号のチェックを行う。
 - 2.1 入力が次の3とおりのとき、次の処理を行う。
 - [数字7桁 + '']
 - [数字3桁 + '-' + 数字4桁]
 - [数字3桁 + '' + 数字4桁]
 - 2.1.1 I-ZIPCD が数字の間に '-' または空白を含む場合は、それを取り除き、出力する。
 - 2.2 入力がどれにもあてはまらないとき、エラーコード 'LXREF010' をリターンコードとして返す。

例 1

```
I-ZIPCD      : '123-4567'  
↓
```

```
O-ZIPCD      : '1234567'  
O-RTN-CD    : SPACE
```

例 2

```
I-ZIPCD      : '123 4567'  
↓  
O-ZIPCD      : '1234567'  
O-RTN-CD    : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（文字列左詰め：LXRPIA06）、（指定文字列削除：LXRPIA14）、（空白削除：LXRPIA15）を呼び出す。

LXRPIF13 郵便番号チェック／出力編集 (7桁)

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF13	項目処理	郵便番号チェック／出力編集 (7桁)	LXRCIF13

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ZIPCD	X(7)	郵便番号 (7桁)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ZIPCD	X(8)	郵便番号 (7桁)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常	-
-	-	-	LXREF010: 入力データの形式不正 (郵便番号 7桁)	-
-	-	-	-	-

処理基準

- 郵便番号のチェックを行う。
 - 1.1 入力が次のとき、次の処理を行う。
 - [数字 7桁]
 - 1.1.1 I-ZIPCD を [先頭の 3桁 + '-' + 残りの 4桁] となるようにし、O-ZIPCD に設定する。
 - 1.2 入力がどれにもあてはまらないとき、I-ZIPCD をそのまま O-ZIPCD に転記し、エラーコード 'LXREF010' をリターンコードとして返す。

例 1

I-ZIPCD	: '0010101'
↓	
O-ZIPCD	: '001-0101'
O-RTN-CD	: SPACE

例 2

```
I-ZIPCD      : '12345  '  
↓  
O-ZIPCD      : '12345  '  
O-RTN-CD     : 'LXREF010'
```

注意事項

なし。

LXRPIF14 氏名 (漢字) チェック (含外字)

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF14	項目処理	氏名 (漢字) チェック (含外字)	LXRCIF14

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名 (漢字)	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1': 空白を全角空白にする	—
—	—	—	その他: 空白を半角空白にする	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常	—
—	—	—	LXREB006: 全角文字 (含外字) コード以外あり	—
—	—	—	LXREF001: スペースが間にない	—
—	—	—	LXREF002: スペースが 2 か所以上ある	—
—	—	—	LXREF005: すべてがスペースである	—
—	—	—	—	—

処理基準

- 入力した氏名 (漢字) のチェックをする。
 - I-SHMKJ を (漢字コードチェック (含外字): LXRPIB02) を呼び出し, チェックする。
 - リターンコードがスペースの時, I-SHMKJ 内のスペースの数を数えてチェックする。
- エラーでなければ次の編集処理を行う。
 - 処理区分が'1'のときは, 半角空白を全角空白に置換する。そのほかのときは, 全角空白を半角空白に置換する。
 - 出力する氏名 (漢字) は氏と名の間を空白 1 文字 (空白の種類は処理区分に従う) にし, 氏の前のスペースは左詰めにして除く。

例 1

```
I-SHMKJ : '△△山田△太郎'  
I-SHR-KBN : SPACE  
↓  
O-SHMKJ : '山田△太郎'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから (漢字コードチェック (含外字) : LXRPIB02), (漢字データ左詰め : LXRPIB04), (不要空白削除 (漢字データ) : LXRPIB09), (漢字データ有効桁数算出 : LXRPIB07), (全角空白→半角空白置換 : LXRPIB13), (半角空白→全角空白置換 : LXRPIB14) を呼び出す。
2. エラーの場合, I-SHMKJ をそのまま O-SHMKJ に転記する。
3. 入力する氏名 (漢字) の空白は, 半角 2 文字・全角 1 文字のどちらでも可。

LXRPIF15 氏名（漢字）分離編集（含外字）

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF15	項目処理	氏名（漢字）分離編集（含外字）	LXRCIF15

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHMKJ	N(10)	氏名（漢字）	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1'：空白を全角空白にする	—
—	—	—	その他：空白を半角空白にする	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHKJ	N(10)	氏（漢字）	O
03	O-NMKJ	N(10)	名（漢字）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXREB006：全角文字（含外字）コード以外あり	—
—	—	—	LXREF001：スペースが間にない	—
—	—	—	LXREF002：スペースが2か所以上ある	—
—	—	—	LXREF005：すべてがスペースである	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. I-SHMKJ を（氏名（漢字）チェック（含外字）：LXRPIF14）を呼び出しチェックする。
2. リターンコードがスペースのとき、氏名（漢字）の分離編集をする。
 - 2.1 入力した氏名（漢字）を氏（漢字）と名（漢字）に分離する。スペースで区切られた前半を O-SHKJ, 後半を O-NMKJ に転記する。

注

- ・入力する氏名（漢字）のスペースは全角1個、半角2個のどちらでも可。
- ・入力する氏名（漢字）の左端のスペースは、左詰めにする（氏と名の区切りとは見なさない）。

- ・出力する氏（漢字）と名（漢字）のスペースの種類は処理区分に従う。

例 1

```
I-SHMKJ : '△山田△太郎'  
I-SHR-KBN : SPACE  
↓  
O-SHKJ : '山田'  
O-NMKJ : '太郎'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. このサブルーチンから（全角空白→半角空白置換：LXRPIB13），（半角空白→全角空白置換：LXRPIB14），（氏名（漢字）チェック（含外字）：LXRPIF14）を呼び出す。
2. エラーの場合はリターンコードをそのまま返し，氏（漢字），名（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIF16 氏名（漢字）結合編集（含外字）

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIF16	項目処理	氏名（漢字）結合編集（含外字）	LXRCIF16

インタフェース

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SHKJ	N(10)	氏（漢字）	I
03	I-NMKJ	N(10)	名（漢字）	I
03	I-SHR-KBN	X(1)	処理区分	C
—	—	—	'1'：空白を全角空白にする	—
—	—	—	その他：空白を半角空白にする	—
—	—	—	—	—

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SHMKJ	N(10)	氏名（漢字）	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常	—
—	—	—	LXREB006：全角文字（含外字）コード以外あり	—
—	—	—	LXREF003：切り捨てが発生した	—
—	—	—	LXREF005：すべてがスペースである	—
—	—	—	—	—

処理基準

- I-SHKJ, I-NMKJ を（漢字コードチェック（含外字）：LXRPIB02）を呼びチェックする。
- リターンコードがともにスペースのとき、氏名（漢字）の結合編集をする。
 - 入力した氏（漢字）と名（漢字）を結合する。

出力する氏名（漢字）は
氏+空白1文字+名+空白n文字
となるように編集する。
 - 出力する氏名（漢字）の空白の種類は処理区分に従う。

例 1

```
I-SHKJ   : '日立'  
I-NMKJ   : '花子'  
I-SHR-KBN : SPACE  
↓  
O-SHKMJ  : '日立△花子'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-SHKJ   : '日立'  
I-NMKJ   : '花子'  
I-SHR-KBN : '1'  
↓  
O-SHKMJ  : '日立▲花子'  
O-RTN-CD : SPACE  
  
△ : 半角空白2個  
▲ : 全角空白1個
```

注意事項

1. 入力した氏（漢字）、名（漢字）のそれぞれの空白は削除する。
2. このサブルーチンから（漢字コードチェック（含外字）：LXRPIB02）、（空白削除（漢字データ）：LXRPIB08）、（全角空白→半角空白置換：LXRPIB13）、（半角空白→全角空白置換：LXRPIB14）を呼び出す。
3. エラーの場合、氏名（漢字）にはスペースを返す。
4. 氏名が長過ぎる場合は、超えた分を切り捨てて氏名（漢字）にセットする。

LXRPIG01 性別コードチェック／変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG01	コード変換	性別コードチェック／変換	LXRCIG01

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-SEX-CD	X(1)	性別コード	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-SEX-AL	X(6)	性別 (英字)	O
03	O-SEX-KJ	N(1)	性別 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREG001: コード変換エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. JIS コード表に基づいて性別コードを変換する (JIS X 0303)。

例 1

```
I-SEX-CD : '1'  
↓  
O-SEX-AL : 'MALE'  
O-SEX-KJ : '男'  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-SEX-CD : '2'  
↓
```

```
O-SEX-AL : ' FEMALE '  
O-SEX-KJ : ' 女 '  
O-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-SEX-CD : ' 3 '  
↓  
O-SEX-AL : SPACE  
O-SEX-KJ : SPACE  
O-RTN-CD : ' LXREG001 '
```

注意事項

1. エラーの場合、性別（英字）、性別（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIG02 学歴区分コードチェック／変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG02	コード変換	学歴区分コードチェック／変換	LXRCIG02

インタフェース

入力 (区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-GRKBN-CD	X(2)	学歴区分コード	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-GRKBN-NMKJ	N(30)	学歴区分名 (漢字)	O
03	O-GRKBN-NMKN	X(30)	学歴区分名 (半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE：正常終了	—
—	—	—	LXREG001：コード変換エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. JIS コード表に基づいて学歴区分コードを変換する (JIS X 0407)。

例 1

```
I-GRKBN-CD      : '2'  
↓  
O-GRKBN-NMKJ   : '短大卒'  
O-GRKBN-NMKN   : 'タンダ イツ'  
O-RTN-CD       : SPACE
```

注意事項

1. JIS X 0407 は平成 3 年 10 月 1 日で廃止となった。
2. エラーの場合、学歴区分名 (漢字)、学歴区分名 (半角カナ) にはスペースを返す。

3. 学歴区分名（半角カナ）の属性は，EUC 対応版では X(60)，Unicode 対応版では X(90)である。

LXRPIG04 地目コードチェック／変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG04	コード変換	地目コードチェック／変換	LXRCIG04

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-CTGL-CD	X(2)	地目コード	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-CTGL-NMKJ	N(30)	地目 (漢字)	O
03	O-CTGL-NMKN	X(30)	地目 (半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREG001 : コード変換エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. JIS コード表に基づいて地目コードを変換する (JIS X 0411)。

例 1

I-CTGL-CD	: '10'
↓	
O-CTGL-NMKJ	: '宅地'
O-CTGL-NMKN	: 'タチ'
O-RTN-CD	: SPACE

注意事項

1. エラーの場合、地目 (漢字)、地目 (半角カナ) にはスペースを返す。
2. 地目 (半角カナ) の属性は、EUC 対応版では X(60)、Unicode 対応版では X(90)である。

LXRPIG05 勘定科目コードチェック／変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG05	コード変換	勘定科目コードチェック／変換	LXRCIG05

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-ACCNT-CD	X(4)	勘定科目コード	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-ACCNT-NMKJ	N(30)	勘定科目名 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREG001: コード変換エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. JIS コード表に基づいて勘定科目コードを変換する (JIS X 0406)。

例 1

```
I-ACCNT-CD   : '2000'  
↓  
O-ACCNT-NMKJ : '固定資産'  
O-RTN-CD     : SPACE
```

注意事項

1. エラーの場合、勘定科目名 (漢字) にはスペースを返す。

LXRPIG09 フラグチェック／変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG09	コード変換	フラグチェック／変換	LXRCIG09

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-FLG	X(1)	入力フラグ	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-FLG-AL	X(3)	出力フラグ (英字)	O
03	O-FLG-KJ	N(1)	出力フラグ (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREG001: コード変換エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の仕様でフラグを変換する。

I-FLG	O-FLG-AL	O-FLG-KJ	O-RTN-CD
SPACE	'OFF'	'無'	SPACE
'0'	'OFF'	'無'	SPACE
'1'	'ON'	'有'	SPACE
その他	SPACE	SPACE	'LXREG001'

例 1

```
I-FLG   : '1'
↓
O-FLG-AL : 'ON'
```

2. 標準サブルーチンの仕様

```
0-FLG-KJ : '有'  
0-RTN-CD : SPACE
```

例 2

```
I-FLG    : '0'  
↓  
0-FLG-AL : 'OFF'  
0-FLG-KJ : '無'  
0-RTN-CD : SPACE
```

例 3

```
I-FLG    : '3'  
↓  
0-FLG-AL : SPACE  
0-FLG-KJ : SPACE  
0-RTN-CD : 'LXREG001'
```

注意事項

1. エラーの場合、出力フラグ（英字）、出力フラグ（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIG10 都道府県コードチェック／変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG10	コード変換	都道府県コードチェック／変換	LXRCIG10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TDFK-CD	X(2)	入力都道府県コード	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-TDFK-NMKJ	N(4)	出力都道府県名 (漢字)	O
03	O-TDFK-NMKN	X(10)	出力都道府県名 (半角カナ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREG001: コード変換エラー	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. JIS コード表に基づいて都道府県コードを変換する (JIS X 0401)。

例 1

I-TDFK-CD	: '40'
↓	
O-TDFK-NMKJ	: '福岡県'
O-TDFK-NMKN	: 'フクオケン'
O-RTN-CD	: SPACE

例 2

I-TDFK-CD	: '48'
↓	

2. 標準サブルーチンの仕様

0-TDFK-NMKJ	: SPACE
0-TDFK-NMKN	: SPACE
0-RTN-CD	: 'LXREG001'

注意事項

1. エラーの場合、出力都道府県名（漢字）、出力都道府県名（半角カナ）にはスペースを返す。
2. 出力都道府県名（半角カナ）の属性は、EUC 対応版では X(20)、Unicode 対応版では X(30)である。

LXRPIG11 有無チェック／変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG11	コード変換	有無チェック／変換	LXRCIG11

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-UM	X(1)	入力有無	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-UM-KJ	N(1)	出力有無 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREG001: コード変換エラー	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 次の仕様でフラグを変換する。

I-UM	O-UM-KJ	O-RTN-CD
SPACE	'無'	SPACE
'0'	'無'	SPACE
'1'	'有'	SPACE
その他	SPACE	'LXREG001'

例 1

```

I-UM      : '0'
↓
O-UM-KJ   : '無'
O-RTN-CD : SPACE
    
```

2. 標準サブルーチンの仕様

例 2

```
I-UM      : '1'  
↓  
O-UM-KJ   : '有'  
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 3

```
I-UM      : '3'  
↓  
O-UM-KJ   : SPACE  
O-RTN-CD  : 'LXREG001'
```

注意事項

1. エラーの場合、出力有無（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIG12 可否チェック／変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIG12	コード変換	可否チェック／変換	LXRCIG12

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-KAHI	X(1)	入力可否	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-KAHI-AL	X(2)	出力可否 (英字)	O
03	O-KAHI-KJ	N(1)	出力可否 (漢字)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREG001: コード変換エラー	—

処理基準

1. 次の仕様で可否を変換する。

I-KAHI	O-KAHI-AL	O-KAHI-KJ	O-RTN-CD
SPACE	'NG'	'否'	SPACE
'0'	'NG'	'否'	SPACE
'1'	'OK'	'可'	SPACE
その他	SPACE	SPACE	'LXREG001'

例 1

```
I-KAHI   : '1'  
↓  
O-KAHI-AL : 'OK'  
O-KAHI-KJ : '可'  
O-RTN-CD  : SPACE
```

2. 標準サブルーチンの仕様

例 2

```
I-KAHI    : '0'  
↓  
O-KAHI-AL : 'NG'  
O-KAHI-KJ : '否'  
O-RTN-CD  : SPACE
```

例 3

```
I-KAHI    : '3'  
↓  
O-KAHI-AL : SPACE  
O-KAHI-KJ : SPACE  
O-RTN-CD  : 'LXREG001'
```

注意事項

1. エラーの場合、出力可否（英字）、出力可否（漢字）にはスペースを返す。

LXRPIZ01 電話番号編集

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ01	項目処理	電話番号編集	LXRCIZ01

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-TELNO	X(13)	電話番号	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-TELNO	X(13)	電話番号	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREZ002: 電話番号なし	-
-	-	-	LXREZ003: 電話番号編集警告 1	-
-	-	-	LXREZ004: 電話番号編集警告 2	-
-	-	-	LXREZ005: 電話番号編集不能 1	-
-	-	-	LXREZ006: 電話番号編集不能 2	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. 電話番号の市外局番, 局番, 番号を '-' で編集する。
電話番号なし : SPACE
(スペースが入力された)
電話番号編集警告 1: XXXXX ※
(編集されたデータに数字部分が 1 ブロックしかない)
電話番号編集警告 2: XXXX-XXXX ※
(編集されたデータに数字部分が 2 ブロックしかない)

2. 標準サブルーチンの仕様

電話番号編集不能1：SPACE

(入力されたデータに数字部分がない)

電話番号編集不能2：

(編集されたデータに数字部分が4ブロック以上ある)

注※ 桁数は意味がない。

例 1

```
I-TELNO : '123△4567△8910'  
↓  
O-TELNO : '123-4567-8910'  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 区切りは、数字以外の文字すべてとする。
2. 編集不能の場合、O-TELNO はスペースとする。

LXRPIZ03 平方根算出

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ03	演算	平方根算出	LXRCIZ03

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-NUM	P(10,1)	数値	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-NUM	P(10,1)	数値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREZ009: NUMERIC エラー	-
-	-	-	LXREZ010: 入力数値が負である	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. 入力された数値データの平方根を求める。

例 1

```
I-NUM    : 1234567890.1
↓
O-NUM    : 35136.4
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 算出した結果は、小数第 2 位で四捨五入する。

LXRPIZ04 チェックディジット計算

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ04	項目処理	チェックディジット計算	LXRCIZ04

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-LENG	P(2)	長さ	IL
03	I-NUM	X(37)	数字列	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-STR	X(38)	文字列	O
03	O-CHK-DGT	X(1)	チェックディジット	O
03	O-RTN-CD	X(1)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREZ009: NUMERIC エラー	—
—	—	—	LXREZ011: 入力長が範囲外	—
—	—	—	LXREZ008: 入力数字列に数字以外がある	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. 入力された数値データ (最大 37 バイト) から, チェックディジット (モジュラス 11) を求め出力する。

例 1

```
I-LENG   : 5
I-NUM    : '12345'
↓
O-STR    : '123455'
O-CHK-DGT : '5'
O-RTN-CD : SPACE
```

(計算例)

2. 標準サブルーチンの仕様

データ	重み			
1	×	6	=	6
2	×	5	=	10
3	×	4	=	12
4	×	3	=	12
5	×	2	=	10
				(+)

				50
50	÷	11	=	4…6
11	-	6	=	5

注意事項

1. $1 \leq$ 入力バイト長 ≤ 37 の範囲外の場合は、結果は評価しない。
2. 重みは、最右端から上位桁に向かって 2, 3, 4, 5, 6, 7 の繰り返しとする。
3. 剰余が 0, 1 の場合、チェックディジットは 0 とする。2~10 の場合は、 $(11 - \text{剰余})$ をチェックディジットとする。

LXRPIZ05 インチ→センチメートル変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ05	単位変換	インチ→センチメートル変換	LXRCIZ05

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-DSTIN	P(6,2)	距離 (インチ)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DSTCM	P(7,4)	距離 (センチメートル)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREZ009: 距離が数値でない	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. インチ単位の数値データをセンチメートル単位の数値データに変換する。

例 1

```
I-DSTIN : 12.15
↓
O-DSTCM : 30.8610
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 1 インチ = 2.54cm として変換する。
2. 結果は、小数点以下 5 桁で四捨五入する。

LXRPIZ06 センチメートル→インチ変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ06	単位変換	センチメートル→インチ変換	LXRCIZ06

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-DSTCM	P(6,2)	距離 (センチメートル)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DSTIN	P(6,4)	距離 (インチ)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREZ009: 距離が数値でない	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. センチメートル単位の数値データをインチ単位の数値データに変換する。

例 1

```
I-DSTCM : 12.15
↓
O-DSTIN : 4.7835
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 1 インチ = 2.54cm として変換する。
2. 結果は、小数点以下 5 桁で四捨五入する。

LXRPIZ07 ヤード→メートル変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ07	単位変換	ヤード→メートル変換	LXRCIZ07

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-DSTYD	P(6,2)	距離 (ヤード)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DST	P(6,4)	距離 (メートル)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREZ009 : 距離が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

- ヤード単位の数値データをメートル単位の数値データに変換する。

例 1

```
I-DSTYD : 12.15
↓
O-DST   : 11.1097
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

- 1 ヤード = 0.91438m として変換する。
- 結果は、小数点以下 5 桁で四捨五入する。

LXRPIZ08 メートル→ヤード変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ08	単位変換	メートル→ヤード変換	LXRCIZ08

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-DST	P(6,2)	距離 (メートル)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-DSTYD	P(7,4)	距離 (ヤード)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREZ009: 距離が数値でない	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. メートル単位の数値データをヤード単位の数値データに変換する。

例 1

```
I-DST    : 12.50
↓
O-DSTYD  : 13.6705
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 1ヤード = 0.91438m として変換する。
2. 結果は、小数点以下5桁で四捨五入する。

LXRPIZ09 キログラム→ポンド変換

サブルーチンID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ09	単位変換	キログラム→ポンド変換	LXRCIZ09

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-WT	P(6,2)	重量 (キログラム)	I
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-
-	-	-	-	-

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-WTLB	P(7,4)	重量 (ポンド)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
-	-	-	SPACE: 正常終了	-
-	-	-	LXREZ009: 重量が数値でない	-
-	-	-	-	-

処理基準

1. キログラム単位の数値データをポンド単位の数値データに変換する。

例 1

```
I-WT      : 12.50  
↓  
O-WTLB   : 27.5573  
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 1 ポンド = 0.4536kg として変換する。
2. 結果は、小数点以下 5 桁で四捨五入する。

LXRPIZ10 ポンド→キログラム変換

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ10	単位変換	ポンド→キログラム変換	LXRCIZ10

インタフェース

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-WTLB	P(6,2)	重量 (ポンド)	I
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—
—	—	—	—	—

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-WT	P(6,4)	重量 (キログラム)	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE: 正常終了	—
—	—	—	LXREZ009: 重量が数値でない	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. ポンド単位の数値データをキログラム単位の数値データに変換する。

例 1

```
I-WTLB   : 12.50
↓
O-WT     : 5.67
O-RTN-CD : SPACE
```

注意事項

1. 1 ポンド = 0.4536kg として変換する。
2. 結果は、小数点以下 5 桁で四捨五入する。

LXRPIZ11 パラメータ解析

サブルーチン ID	機能分類	サブルーチン名	テーブル名
LXRPIZ11	文字列処理	パラメータ解析	LXRCIZ11

インタフェース

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	I-PARM	X(50)	入力パラメータ	I
—	—	—	—	—

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)				
レベル	項目名	属性	説明および設定値	区分
03	O-PARM-TBL	—	パラメータ (テーブル)	O
05	O-PARM	反復	OCCURS 10 TIMES.	O
—	—	—	出力パラメータ	—
07	O-NAME-1	X(10)	名前 1	O
07	O-NAME-2	X(10)	名前 2	O
07	O-NAME-3	X(10)	名前 3	O
07	O-VALUE	X(10)	値	O
03	O-RTN-CD	X(10)	リターンコード	R
—	—	—	SPACE : 正常終了	—
—	—	—	LXREZ012 : 半角文字コード以外あり	—
—	—	—	LXREZ013 : パラメータ構文誤り	—
—	—	—	—	—

処理基準

1. O-PARM-TBL, O-RTN-CD を SPACE で初期化する。
2. I-PARM を (文字コードチェック : LXRPIA01) を用いてチェックする。
 - 2.1 LXRPIA01 のリターンコードが'LXREA007'の時, O-RTN-CD に'LXREA012'を返す。
 - 2.2 そのほかの時, O-RTN-CD に SPACE を返す。
3. O-RTN-CD が SPACE で, かつ I-PARM が SPACE 以外の時, 次の処理を行う。
 - 3.1 I-PARM を, ','を区切り文字として 2 つの文字列に分割する。ただし, '('と')'で囲まれた','は区切り文字として認識しない。

3.2 分割した文字列それぞれを, '='を区切り文字としてさらに分割し, 次に従い, 名前1 (O-NAME-1), 値 (O-VALUE) に転送する。

3.2.1 分割の結果, 右辺のパラメータが1つの場合

(例: 'A=B'を分割→左辺'A', 右辺'B')

O-NAME-1(01)に左辺, O-VALUE(01)に右辺のパラメータ

3.2.2 分割の結果, 右辺のパラメータが2つの場合

(例: 'A=(B,C)'を分割→左辺'A', 右辺'(B,C)')

O-NAME-1(01)に左辺, O-VALUE(01)に右辺のパラメータ 1

O-NAME-1(02)に左辺, O-VALUE(02)に右辺のパラメータ 2

:

3.3 O-PARM の各文字列に対し (文字列左詰め: LXRPIA06) を呼び出すことによって左詰め編集を行う。

例 1

```
I-PARM      : 'A=B'  
↓  
O-NAME-1(01) : 'A'  
O-VALUE(01)  : 'B'
```

例 2

```
I-PARM      : 'A=(B,C)'  
↓  
O-NAME-1(01) : 'A'  
O-VALUE(01)  : 'B'  
O-NAME-1(02) : 'A'  
O-VALUE(02)  : 'C'
```

例 3

```
I-PARM      : 'A=(B,C),D=E'  
↓  
O-NAME-1(01) : 'A'  
O-VALUE(01)  : 'B'  
O-NAME-1(02) : 'A'  
O-VALUE(02)  : 'C'  
O-NAME-1(03) : 'D'  
O-VALUE(03)  : 'E'
```

例 4

```
I-PARM      : 'A=B, A=C'  
↓  
O-NAME-1(01) : 'A'  
O-VALUE(01)  : 'B'
```

O-NAME-1(02) : 'A'
O-VALUE(02) : 'C'

注意事項

1. 入力パラメータの構文が下記以外の場合はリターンコードに'LXREZ013'を返し、O-PARM-TBLにはSPACEを返す。
1.'A=B' 2.'A=(B,C)' 3.'A=B,C=(D,E)' 4.'A=(B,C),D=E' 5.'A=B,A=C'
(A, B, C, D, E は 1 個以上 10 個以下の英大文字並び)
2. O-NAME-1, O-VALUE の重複チェックは行わない。例 4 のように処理する。
3. このサブルーチンから (文字コードチェック : LXRPIA01), (文字列左詰め : LXRPIA06), (文字列有効桁数算出 : LXRPIA09) を呼び出す。

3

標準サブルーチンで年号および祝祭日の変更に対応する方法

この章では、年号および祝祭日の変更に対応する方法、および変更で影響を受けるサブルーチンについて説明します。

3.1 年号および祝祭日の変更で考慮する内容

年号および祝祭日の変更で考慮する内容を次に示します。

3.1.1 年号の追加

ユーザアプリケーションプログラムの動作に影響がないかを考慮する必要がある、標準サブルーチンの動作変更内容を次に示します。

(1) ユーザアプリケーションプログラムの動作に影響がないか考慮する内容

改元に伴い、変更になった設定情報を標準サブルーチンが取り込むことで、ユーザアプリケーションプログラムの動作に影響がないかを考慮する必要があります。

ユーザアプリケーションプログラムの動作に影響がないかを考慮する内容を次に示します。

- 想定外の年号コードの扱いの変更

デフォルトとなる年号は改元後の最新年号に変更になります（想定外の年号コードに対し、最新年号コードと解釈する仕様が変わりはありません）。

例えば、最新年号の年号コード（数字）が'4'（平成）の場合、年号コード（数字）に'6'を設定すると、想定外の年号コードと判断され、年号コード（数字）に'4'（平成）が設定されたと解釈して処理されます。改元によって、最新年号の年号コード（数字）が'5'になった場合、想定外の年号コードを設定すると、年号コード（数字）に'5'が設定されたと解釈して処理されます。

そのため、改元時のシステム切替の際に注意が必要です。

- 旧年号での和暦範囲の変更

過去の年号で許可していた日が禁止になります。

例えば、「平成」の場合、改元前は平成 99 年 12 月 31 日まで許可されていましたが、改元後は平成 31 年 4 月 30 日までとなります。

そのため、改元時のシステム切替の際に注意が必要です。

- リターンコードの追加・変更

新年号情報の追加に伴い、追加されるリターンコードがあります。

例えば、「平成」の次の年号を新年号情報として追加すると、リターンコード'LXRED041'が追加になり、新年号（年号コード（数字）が'5'）の範囲外の年月日を入力した場合に、このリターンコードが設定されます。

また、新年号情報の追加に伴い、変更になるリターンコードがあります。

そのため、改元時のシステム切替の際に注意が必要です。

設定情報を変更することで影響を受ける標準サブルーチンについては、「[3.3 設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンの一覧](#)」および「[3.4 設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチン](#)」を参照してください。

また、新年号情報に設定変更した場合に影響があるリターンコードについては、「[3.5 新年号情報に設定変更した場合に影響があるリターンコード](#)」を参照してください。

(2) カスタマイズ情報設定ファイルの設定情報（年号情報）を追加する際に考慮する内容

改元に伴い、カスタマイズ情報設定ファイルで、年号情報に新年号名を追加する必要があります。カスタマイズ情報設定ファイルの設定情報（年号情報）を追加する際に考慮する内容を次に示します。

- 新年号名の追加

新年号名（漢字 2 文字）の 16 進表記を追加する必要があります。16 進表記は、16 進表示可能なコマンド（Windows の場合は certutil コマンドなど、UNIX の場合は od コマンドなど）で確認してください。

（例）Windows の場合

```
certutil -encodehex 入力ファイル名 出力ファイル名
```

（例）UNIX の場合

```
od -x 入力ファイル名
```

- 新年号コード（数字）の追加

「5」を追加する必要があります。今後さらに改元が起きた場合、最大で「7」まで追加できます。

- 新年号コード（英字）の追加

新年号の漢字を英字表記にしたときに、慣例に従い先頭 1 文字など、重複しない英字 1 文字を追加する必要があります。

- 新年号の開始西暦年月日の追加

新年号の開始年月日（西暦）を追加する必要があります。

例えば、「平成」の次の年号の場合、西暦 2019 年 5 月 1 日を追加する必要があります。

今後さらに改元が起きた場合、最新年号の開始西暦年月日を追加する必要があります。

3.1.2 祝祭日の変更

各祝祭日は、2019 年 5 月 1 日に施行の「国民の祝日に関する法律」および 2018 年 6 月 20 日施行の「平成三十二年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法」に基づいているため、法改正などで祝祭日に変更になった場合は、カスタマイズ情報設定ファイルで、祝祭日区分情報を変更する必要があります。

また、毎年 2 月の官報で正式決定される翌年の「春分の日」および「秋分の日」についても、変更になった場合は、カスタマイズ情報設定ファイルで、祝祭日区分情報を変更する必要があります。

祝祭日の有効期間については、「[付録 C.1 祝祭日・休日](#)」を参照してください。また、「春分の日」および「秋分の日」については、「[付録 C.2 春分の日・秋分の日](#)」を参照してください。

3.1.3 休日の変更

追加または変更になった祝祭日が日曜日と重なった場合など、祝祭日区分情報に振替休日を追加する必要があります。

また、皇室関係の慶弔行事（即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律など）による休日を、祝祭日区分情報に追加する必要があります。

このほかに、その地方固有の祝日（都道府県民の日など）に合わせてその日を休日になっている場合や、会社の創立記念日など、一般的なカレンダーには載らない休日については、必要に応じて祝祭日区分情報に追加してください。

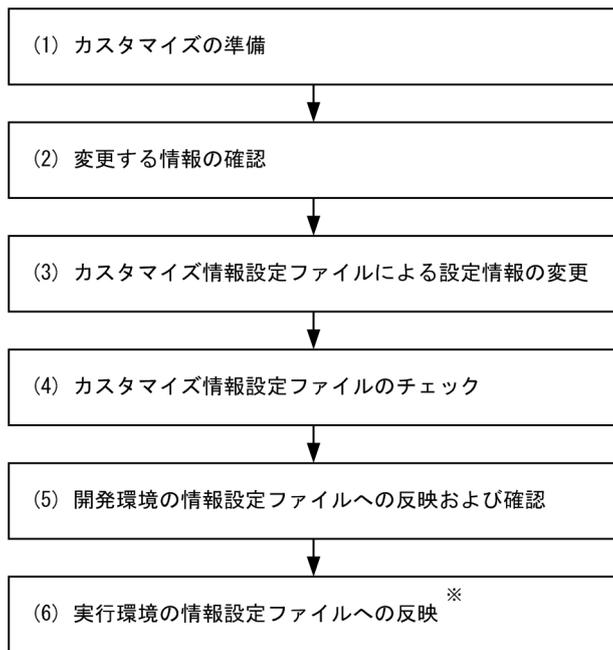
3.2 年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズ

改元によって新年号への移行および祝祭日の変更が発生する場合、年号および祝祭日区分の情報をカスタマイズすることで対応できます。

3.2.1 年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れ

年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れを次に示します。

図 3-1 年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れ



注※

プラットフォームが異なる場合でも、開発環境で作成したカスタマイズ情報設定ファイルを、アスキーモード転送で実行環境へ反映できます。

(1) カスタマイズの準備

情報設定ファイル (adsubinf.txt) をコピーし、カスタマイズ情報設定ファイル (adsubinf_custom.txt) を作成します。

カスタマイズの準備の詳細は、「[3.2.2 カスタマイズの準備](#)」を参照してください。

(2) 変更する情報の確認

年号および祝祭日区分で、追加、および削除が必要な情報を確認します。

- 年号情報を追加設定する場合

使用している文字コードで、新年号の 16 進表記を確認します。

16 進表記は、16 進表示可能なコマンド（Windows の場合は certutil コマンドなど、UNIX の場合は od コマンドなど）で確認してください。

(例) Windows の場合

```
certutil -encodehex 入力ファイル名 出力ファイル名
```

(例) UNIX の場合

```
od -x 入力ファイル名
```

- 祝祭日区分情報を変更する場合

現行の祝日の設定と、カレンダーなどの実際の祝日を比較します。

現行の祝日の設定の確認は、カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを使用します。カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの使用方法については、[\[3.2.4\(2\) チェックツールの使用方法\]](#)を参照してください。

(3) カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更

カスタマイズ情報設定ファイルに変更する情報を記載します。

- 年号情報を追加設定する場合

新年号の 16 進表記の確認結果を基に、カスタマイズ情報設定ファイルに年号の情報を追加します。

- 祝祭日区分情報を変更する場合

祝日の比較結果を基に、カスタマイズ情報設定ファイルの祝祭日区分情報を変更します。

カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更の詳細は、[\[3.2.3 カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更\]](#)を参照してください。

(4) カスタマイズ情報設定ファイルのチェック

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行し、修正に問題がないことを確認します。

カスタマイズ情報設定ファイルのチェックの詳細は、[\[3.2.4 カスタマイズ情報設定ファイルのチェック\]](#)を参照してください。

(5) 開発環境への反映および確認

開発環境の情報設定ファイルに、カスタマイズ情報設定ファイルの内容を反映し、動作確認をします。

(6) 実行環境への反映

実行環境の情報設定ファイルに、カスタマイズ情報設定ファイルの内容を反映します。

3.2.2 カスタマイズの準備

年号および祝祭日区分の設定情報は、カスタマイズ情報設定ファイルで変更できます。

カスタマイズ情報設定ファイルは、デフォルト情報設定ファイルをコピーして作成します。作成したカスタマイズ情報設定ファイルのファイル名は、adsubinf_custom.txt にしてください。格納先は、デフォルト情報設定ファイルの格納先と同じディレクトリです。デフォルト情報設定ファイルの格納先は次のとおりです。

表 3-1 デフォルト情報設定ファイルの格納ディレクトリ

形名	デフォルト情報設定ファイルの格納ディレクトリ	ファイル名
P-2451-F244 P-2651-F244 P-2951-F244 P-2951-F144	<インストールディレクトリ*>¥CONF¥	adsubinf.txt
P-1M51-FC31	/opt/SEWB3/conf/	
P-1M51-FD31	/opt/SEWB64/conf/	
P-9W51-FD31	/opt/SEWB64/conf/	

注※

デフォルトのインストールパスは次のとおりです。

P-2451-F244, P-2651-F244 の場合

- Windows (32 ビット版) の場合
<システムドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB
- Windows (64 ビット版) の場合
<システムドライブ>:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB

P-2951-F244, P-2951-F144 の場合

<システムドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB

参考

デフォルト情報設定ファイルの格納先に、adsubinf_custom.txt が既に存在する場合は、その adsubinf_custom.txt を使用できます。

3.2.3 カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更

(1) カスタマイズ情報設定ファイルの設定情報の記載順序

年号および祝祭日区分の設定情報をカスタマイズするには、カスタマイズ情報設定ファイルに、新年号設定情報と祝祭日区分設定情報を記載します。

なお、カスタマイズ情報設定ファイルには、アクセス時の確認のため、先頭と終端が分かるようにマーク ([/XXXX], [XXXX/]) を付けてください。

新年号設定情報と祝祭日区分設定情報の記載例を次に示します。

```
[/NNNGINF]
(新年号設定情報)
[NNNGINF/]
[/FESTINF]
(祝祭日区分設定情報)
[FESTINF/]
```

注 新年号設定情報は、祝祭日区分設定情報より前に記載してください。

(2) 新年号設定情報

カスタマイズ情報設定ファイルに設定する新年号設定情報について説明します。

(a) 形式

新年号設定情報のフォーマットを次に示します。

```
[/NNNGINF]
年号コード(数字), 年号コード(英字), 西暦年月日, [新年号名(SJIS 16進文字列)], [新年号名(EUC 16進文字列)], [新年号名(UTF-16BE 16進文字列)], [新年号名(UTF-8 16進文字列)]
:
(繰り返し)
:
[NNNGINF/]
```

注 行終端改行コードは、プラットフォームに依存します。使用しているプラットフォームの規則に従って設定してください。

(b) 項目の内容

新年号設定情報として設定する項目の内容を次に示します。

表 3-2 新年号設定情報として設定する項目の内容

項目	設定	属性	説明
年号コード (数字)	必須	9(1)	5 (「平成」の年号コード'4'の次) を設定します。

項目	設定	属性	説明
年号コード (数字)	必須	9(1)	さらに改元があった場合、最大7まで設定できます。 ただし、年号コードの数字がファイルの最初から昇順でない場合は、エラーになります。
年号コード (英字)	必須	X(1)	年号コード (数字) に対応する新年号の英字略称を英半角大文字 (例えば新年号が「和元 (わけん)」だとすると'W') で設定します。 ただし、年号コードの英字略称が重複すると、年号が特定できないサブルーチンがあるため、エラーになります。
西暦年月日	必須	9(8)	新年号の開始西暦年月日を YYYYMMDD 形式の8桁で設定します。 なお、年号間で、ファイルの最初から昇順となっていることが前提となります。 また、前年号の終了西暦年月日は、新年号の開始西暦年月日の前日となります。
新年号名 (SJIS 16進文字列)	任意	X(8)	新年号名の SJIS での16進表記 (漢字2文字分) を設定します。*1 例として、旧年号の設定値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 昭和: 8FBA9861 平成: 95BD90AC
新年号名 (EUC 16進文字列)	任意	X(8)	新年号名の EUC での16進表記 (漢字2文字分) を設定します。*1 例として、旧年号の設定値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 昭和: BEBCCFC2 平成: CABFC0AE
新年号名 (UTF-16BE 16進文字列) *2	任意	X(8)	新年号名の UTF-16BE での16進表記を設定します。 例として、旧年号の設定値を次に示します。*1 <ul style="list-style-type: none"> 昭和: 662D548C 平成: 5E736210 ただし、BOM は付けません。 UTF-16LE では、UTF-16BE から自動計算し、次の値になります。 <ul style="list-style-type: none"> 昭和: 2D668C54 平成: 735E1062
新年号名 (UTF-8 16進文字列) *2	任意	X(12)	新年号名の UTF-8 での16進表記 (漢字2文字分) を設定します。*1 例として、旧年号の設定値を次に示します。 <ul style="list-style-type: none"> 昭和: E698ADE5928C 平成: E5B9B3E68890 ただし、BOM は付けません。

注※1

新年号名 (漢字2文字) の16進表記は、16進表示可能なコマンド (Windows の場合は certutil コマンドなど、UNIX の場合は od コマンドなど) で確認してください。

(例) Windows の場合

```
certutil -encodehex 入力ファイル名 出力ファイル名
```

(例) UNIX の場合

```
od -x 入力ファイル名
```

注※2

新年号名 (UTF-16BE 16 進文字列) と新年号名 (UTF-8 16 進文字列) は、同時に指定してください。

(3) 祝祭日区分設定情報

カスタマイズ情報設定ファイルに設定する祝祭日区分設定情報について説明します。

(a) 形式

祝祭日区分設定情報のフォーマットを次に示します。

```
[/FESTINF]
西暦年月日, 祝祭日区分
西暦年月日, 祝祭日区分
:
(繰り返し)
:
[FESTINF/]
```

注 行終端改行コードは、プラットフォームに依存します。使用しているプラットフォームの規則に従って設定してください。

(b) 項目の内容

祝祭日区分設定情報として設定する項目の内容を次の表に示します。

表 3-3 祝祭日区分設定情報として設定する項目の内容

項目	属性	説明
西暦年月日	9(8)	祝祭日区分変更対象の西暦年月日を、YYYYMMDD 形式の 8 桁で指定します。
祝祭日区分	X(1)	変更が必要な西暦年月日の変更後の値を指定します。 0: 祝祭日でない 1: 祝祭日 (国民の祝日) 2: 休日 (振替休日, 祝日に挟まれる休日, その他政令によって随時指定されるその年限定の休日など)

(c) 注意事項

祝祭日をカスタマイズする場合、情報設定ファイルの設定状態によって、設定内容が異なります。

祝祭日区分設定情報に設定する内容の差異を次の表に示します。

表 3-4 祝祭日区分設定情報に設定する内容の差異

祝祭日の変更内容	情報設定ファイルの設定状態	祝祭日区分設定情報に設定する内容
祝祭日の追加※1	追加する日に、祝祭日区分が'0'（祝祭日でない）、または'2'（休日）の行が記載済み。	記載済みの該当日の祝祭日区分を'1'（祝祭日）にします。
	追加する日の記載なし。	追加する日に、祝祭日区分が'1'（祝祭日）の行を追加します。
休日の追加※2	追加する日に、祝祭日区分が'0'（祝祭日ではない）、または'1'（祝祭日）の行が記載済み。	記載済みの該当日の祝祭日区分を'2'（休日）にします。
	追加する日の記載なし。	追加する日に、祝祭日区分が'2'（休日）の行を追加します。
祝祭日の削除※3	削除する日に、祝祭日区分が'1'（祝祭日）の行が記載済み。	記載済みの該当日の祝祭日区分を'0'（祝祭日ではない）にします。
	削除する日の記載なし。	削除する日に、祝祭日区分が'0'（祝祭日ではない）の行を追加します。
休日の削除※4	削除する日に、祝祭日区分が'2'（休日）の行が記載済み。	記載済みの該当日の祝祭日区分を'0'（祝祭日ではない）にします。
	削除する日の記載なし。	削除する日に、祝祭日区分が'0'（祝祭日ではない）の行を追加します。

注※1

祝祭日を変更する際に追加される祝祭日を含む。

注※2

祝祭日を変更する際に追加される休日を含む。

注※3

祝祭日を変更する際に削除される祝祭日を含む。

注※4

祝祭日を変更する際に削除される休日を含む。

3.2.4 カスタマイズ情報設定ファイルのチェック

作成したカスタマイズ情報設定ファイルは、カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール（LXRPIDCK）でチェックします。

(1) チェックツールの格納ディレクトリおよび動作文字コード区分

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール（LXRPIDCK）の格納ディレクトリおよび動作する文字コード区分を次の表に示します。

表 3-5 カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール (LXRPIDCK) の格納ディレクトリ

形名	格納ディレクトリ	文字コード区分 (環境変数 LANG の設定値) ※2
P-2451-F244 P-2651-F244 P-2951-F244 P-2951-F144	<インストールディレクトリ※1>¥LITTLE¥BIN	SJIS で動作する
P-1M51-FC31	/opt/SEWB3/lib	LANG=Ja_JP で動作する
P-1M51-FD31	/opt/SEWB64/lib	
P-9W51-FD31	/opt/SEWB64/lib	LANG=ja_JP.UTF-8 で動作する

注※1

デフォルトのインストールパスは次のとおりです。

P-2451-F244, P-2651-F244 の場合

- Windows (32 ビット版) の場合
 <システムドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB
- Windows (64 ビット版) の場合
 <システムドライブ>:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB

P-2951-F244, P-2951-F144 の場合

<システムドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB

注※2

プラットフォームの文字コード区分とカスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの文字コードが異なる場合、動作は保証されません。

(2) チェックツールの使用方法

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール (LXRPIDCK) を実行する場合のコマンドの形式を次に示します。

なお、カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの格納ディレクトリを PATH 環境変数に指定しているものとして説明します。

注意事項

標準サブルーチンをチェックツールと同時に使用し、チェックツールの格納パスを PATH 環境変数に設定する場合は、チェックツールの格納パスを標準サブルーチンの格納パスより後方に指定してください。チェックツールの格納パスを前方に指定した場合、標準サブルーチンが意図しないライブラリをロードして不正な動作となります。

(a) 入力形式

- カスタマイズ情報設定ファイルをチェックする場合

```
LXRPIDCK[△/i△カスタマイズ情報設定ファイル名]  
△/o△設定情報確認リストファイルベース名[△/m△YYYY:YYYY]
```

注1 △は1文字以上の空白を示します。

注2 []は指定を省略できることを示します。

- ヘルプを表示する場合

```
LXRPIDCK または LXRPIDCK△/h
```

注 △は1文字以上の空白を示します。

(b) コマンド詳細

/i△カスタマイズ情報設定ファイル名

カスタマイズ情報設定ファイル名をフルパスで指定します。

カスタマイズ情報設定ファイルについては「[3.2.3 カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更](#)」を参照してください。

ファイル名の長さは、フルパスで255バイトまでです。

省略した場合、次に示す格納場所のカスタマイズ情報設定ファイルを仮定します。

形名	カスタマイズ情報設定ファイルの格納ディレクトリ	ファイル名
P-2451-F244 P-2651-F244 P-2951-F244 P-2951-F144	<インストールディレクトリ*>¥CONF¥	adsubinf_custom.txt
P-1M51-FC31	/opt/SEWB3/conf/	
P-1M51-FD31	/opt/SEWB64/conf/	
P-9W51-FD31	/opt/SEWB64/conf/	

注※

デフォルトのインストールパスは次のとおりです。

- P-2451-F244, P-2651-F244 の場合
< Windows (32ビット版) の場合 >
<システムドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB
< Windows (64ビット版) の場合 >
<システムドライブ>:¥Program Files (x86)¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB
- P-2951-F244, P-2951-F144 の場合
<システムドライブ>:¥Program Files¥HITACHI¥SEWB+STD_SUB

/o△設定情報確認リストファイルベース名

設定情報確認リストファイルベース名をフルパスで指定します。

相対パスで指定した場合は、動作は保証されません。

設定情報確認リストについては、「(3)(d) 設定情報確認リスト」を参照してください。

ファイルベース名の長さは、フルパスで 242 バイトまでです。

設定情報確認リストファイルベース名と同名のファイルが存在する場合は、ファイルを上書きします。

存在するディレクトリ名を指定した場合、サフィックス部だけのファイルを出力します。

/m△YYYY:YYYY

設定情報確認リストファイルに出力する祝祭日の期間の開始年と終了年を「:」（コロン）で繋げて指定します。

開始年および終了年はどちらも指定を省略できません。

指定できる年は、2013~2100の間として、開始年は終了年より前の年を指定します。

出力範囲は、期間は開始年 1 月 1 日（ただし、2013 年は 10 月 1 日）から終了年の 12 月 31 日までとします。

省略した場合は、ユーザのカスタマイズが可能な 2013/10/01 から 2100/12/31 までを表示します。

/h

コマンドラインの説明を標準出力に表示する場合に指定します。

カスタマイズ情報設定ファイルのチェックおよび設定情報確認リストの出力はしません。

(c) 入力例

- カスタマイズ情報設定ファイル名を指定してチェックする場合

```
LXRPIDCK /i d:¥work¥adsubinf_custom.txt /o d:¥work¥list¥listfile /m 2019:2020
```

d:¥work¥adsubinf_custom.txt の指定内容を出力した結果が、d:¥work¥list の下に各設定情報リストファイルとして出力されます。

- カスタマイズ情報設定ファイル名を指定を省略してチェックする場合

```
LXRPIDCK /o d:¥work¥list¥listfile /m 2019:2020
```

<インストールディレクトリ>¥conf¥adsubinf_custom.txt の指定内容を出力した結果が、d:¥work ¥list の下に各設定情報リストファイルとして出力されます。

- コマンドラインの説明を表示する場合

```
LXRPIDCK /h
```

コマンドラインの説明が表示されます。

(3) チェック結果の確認

チェック結果は、ツールが返却する終了コードおよび終了メッセージに含まれる詳細メッセージで確認します。

(a) 終了コード

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの終了コードを次に示します。

表 3-6 カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの終了コード

終了コード	説明
0	正常に実行されました。
1	カスタマイズ情報設定ファイルの不正を検知しました。
2	継続不能のエラーが発生しました。

(b) 終了メッセージ

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの終了メッセージを次に示します。

●正常終了の場合（終了コードが 0 の場合）

```
正常終了しました。
```

●カスタマイズ情報設定ファイルの不正を検知した場合（終了コードが 1 の場合）

```
line <行番号> : <詳細メッセージID>△<メッセージテキスト>  
:  
チェック処理でエラーを検知しました。
```

カスタマイズ情報設定ファイルの不正を検知した場合、不正を検知したあともチェックを継続します。チェックが終了すると詳細メッセージを出力します。

行番号には、ファイル中の行番号を 4 ケタで表示します。

詳細メッセージ ID およびメッセージテキストについては、「(c) 詳細メッセージ」を参照してください。

(出力例) 10 行目にエラーがある場合

```
c:¥>LXRPIDCK /i d:¥work¥adsubinf_custom.txt /o d:¥work¥list¥listfile /m 2019:2020  
line 0010:LXREDA21 祝祭日の西暦年月日には、実在日を指定してください。  
チェック処理でエラーを検知しました。  
  
c:¥>
```

●継続不能のエラーが発生した場合（終了コードが 2 の場合）

```
:  
<詳細メッセージID>△<メッセージテキスト>  
エラーが発生しました。処理を中止しました。
```

継続不能のエラーが発生した場合、エラーを検知した時点で処理を中止します。

詳細メッセージ ID およびメッセージテキストについては、「(c) 詳細メッセージ」を参照してください。

(出力例) 詳細メッセージ ID が LXREDA01 の場合

```
LXRPIDCK /i d:¥work¥adsubinf_custom.txt /o d:¥work¥list¥listfile /m  
LXREDA01 コマンドラインの形式に誤りがあります。  
エラーが発生しました。処理を中止しました。
```

(c) 詳細メッセージ

カスタマイズ情報設定ファイルの不正を検知した場合の詳細メッセージを表 3-7 に、継続不能のエラーが発生した場合の詳細メッセージを表 3-8 に示します。

表 3-7 詳細メッセージ (カスタマイズ情報設定ファイルの不正を検知した場合)

メッセージ ID	メッセージテキスト	出力条件	対処方法
LXREDA08	新年号のカンマの位置、個数が正しくありません。	新年号指定行のカンマの位置または個数が正しくない。	<行番号>の行のカンマの位置や個数を確認する。
LXREDA09	新年号の行の末尾に不正な文字が存在します。	新年号指定行の末尾に不正な文字が存在している。	<行番号>の行の末尾にある文字を削除する。
LXREDA11	年号コード (数字) は 5, 6, 7 の順で指定してください。	年号コード (数字) が 5, 6, 7 の順番で指定されていない。	<行番号>の行の年号コード (数字) 欄を '5', '6', '7' の順で指定する。
LXREDA12	年号コード (英字) は英大文字で指定してください。	年号コード (英字) 欄の文字列が、半角英大文字でない。	<行番号>の行の年号コード (英字) を半角英大文字にする。
LXREDA13	年号コード (英字) は、重複しないように指定してください。	<ul style="list-style-type: none"> 年号コード (英字) の文字が、M, T, S, H のどれかになっている。 追加した年号コード (英字) が重複している。 	<行番号>の行の年号コード (英字) が重複しないようにする。
LXREDA14	開始西暦年月日には、実在日を指定してください。	新年号の開始西暦年月日に指定した年月日が実在しない。	<行番号>の行の開始西暦年月日に存在する年月日を指定する。
LXREDA15	前年号の最終和暦年が 100 以上になります。	新年号西暦開始日の 1 日前が前年号の 100 年以上になっている。	<行番号>の行の新年号開始年月日を確認する。前年号の最終和暦年が 99 を超えない年を新年号西暦開始日に指定する。
LXREDA16	新年号名は 16 進文字列で指定してください。	<ul style="list-style-type: none"> 新年号名欄に指定した文字列が、0~9, A~F でない。 新年号名欄に指定した場文字列が、奇数桁で指定されている。 	<行番号>の行の新年号名に指定した 16 進文字列を訂正する。
LXREDA17	祝祭日の指定行のカンマの位置、個数が正しくありません。	祝祭日指定行のカンマの位置または個数が正しくない。	<行番号>の行の途中空白やカンマの位置や個数を確認する。
LXREDA18	祝祭日の指定行の末尾に不正な文字が存在します。	祝祭日指定行の末尾に不正な文字が存在している。	<行番号>の行の末尾にある文字を削除する。

メッセージ ID	メッセージテキスト	出力条件	対処方法
LXREDA19	祝祭日区分に 0, 1, 2 以外が指定されています。	祝祭日区分に 0, 1, 2 以外が指定されている。	<行番号>の行の祝祭日区分を訂正する。
LXREDA21	祝祭日の西暦年月日には、実在日を指定してください。	<ul style="list-style-type: none"> 祝祭日の西暦年月日に指定した年月日が実在しない。 祝祭日の西暦年月日に指定した年月日が 2100 年 12 月 31 日を超えている。 	<ul style="list-style-type: none"> <行番号>の行の開始西暦年月日に存在する年月日を指定する。 <行番号>の行の西暦年月日に西暦 2100 年 12 月 31 日を超えない実在日を指定する。
LXREDA22	祝祭日の西暦年月日が重複しています。	祝祭日の西暦年月日に指定した年月日が重複している。	<行番号>の行の西暦年月日を訂正する。
LXREDA23	祝祭日の西暦年月日は昇順に並べてください。	祝祭日の西暦年月日に指定した年月日が昇順に並んでいない。	<行番号>の行以降の西暦年月日が昇順になるように並べる。
LXREDA24	祝祭日の西暦年月日には、2013 年 10 月 1 日以降の年月日を指定してください。	祝祭日の西暦年月日に指定した年月日に、カスタマイズ機能をサポートした 2013 年 10 月 1 日より前の日付が指定されている。	<行番号>の行の西暦年月日を訂正する。または、2013 年 10 月 1 日より前の年月日の指定行は削除する。
LXREDA27	新年号の UTF-16BE での設定と UTF-8 での設定が同時に設定されていません。	UTF-16BE と UTF-8 の 16 進文字列は同時に指定する必要がある。どちらか 1 つだけの指定はできない。	UTF-16BE と UTF-8 の 16 進文字列は同時に指定する、または両方とも指定しない。
LXREDA28	新年号の西暦年月日は昇順に並べてください。	新年号の西暦年月日に指定した年月日が昇順に並んでいない。	<行番号>の行以降の西暦年月日が昇順になるように並べる。

表 3-8 詳細メッセージ（継続不能のエラーが発生した場合）

メッセージ ID	メッセージテキスト	出力条件	対処方法
LXREDA01	コマンドラインの形式に誤りがあります。	途中空白やキーワード誤りなど、コマンドラインの文法に誤りがある。*	コマンドラインを確認する。
LXREDA02	インストールディレクトリの取得に失敗しました。	【Windows 版限定】 組込み情報（レジストリ）から組込み先パスの取得する時にエラーが発生した。	<ul style="list-style-type: none"> 製品がインストールされているか確認する。 レジストリが壊れていないか確認する。
LXREDA03	カスタマイズ情報設定ファイルのオープンに失敗しました（詳細コード=%n）。	ファイルのオープンを実行してエラーとなった。	<ul style="list-style-type: none"> /i オプションで指定したファイルが存在しているか確認する。 /i オプションを省略している場合は、<インストールディレクトリ> ¥conf ¥adsubinf_custom.txt

メッセージ ID	メッセージテキスト	出力条件	対処方法
LXREDA03	カスタマイズ情報設定ファイルのオープンに失敗しました（詳細コード=%n）。	ファイルのオープンを実行してエラーとなった。	<p>が存在しているか確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 詳細コードとして出力される, COBOL の入出力状態の値に従い, 対処する。
LXREDA04	カスタマイズ情報設定ファイルの読み込みに失敗しました（詳細コード=%n）。	ファイルの読み込みを実行してエラーとなった。	<ul style="list-style-type: none"> • /i オプションで指定したファイルに読み込み権限があるか確認する。 • 詳細コードとして出力される, COBOL の入出力状態の値に従い, 対処する。
LXREDA05	[/NNNGINF][NNNGINF/]の指定がありません。	[/NNNGINF][NNNGINF/]のキーワードがない。	キーワードを入力する。
LXREDA06	[/FESTINF][FESTINF/]の指定がありません。	[/FESTINF][FESTINF/]のキーワードがない。	キーワードを入力する。
LXREDA07	[NNNGINF/]の直後に[/FESTINF]の指定がありません。	[NNNGINF/]の直後に[/FESTINF]のキーワードがない。	キーワードを入力する。
LXREDA10	新年号の記述が 4 行以上指定されています。	新年号が 4 行以上指定されている。	新年号の指定を 3 行以下にする。
LXREDA20	祝祭日の指定が 2000 行を超えています。	祝日の指定が 2000 行を超えている。	祝祭日の指定個数を 2000 行以下にする。
LXREDA25	設定情報確認リストファイルのオープンに失敗しました（詳細コード=%n）。	ファイルのオープンを実行してエラーとなった。	<ul style="list-style-type: none"> • /o オプションで指定したファイルを格納するフォルダに書き込み権限があるか確認する。 • /o オプションで指定したファイルを格納するフォルダがあるか確認する。 • 詳細コードとして出力される, COBOL の入出力状態の値に従い, 対処する。
LXREDA26	設定情報確認リストファイルの書き込みに失敗しました（詳細コード=%n）。	ファイルの書き込みを実行してエラーとなった。	<ul style="list-style-type: none"> • /o オプションで指定したファイルに書き込み権限があるか確認する。 • /o オプションで指定したファイルを格納するドライブの空き容量が不足していないか確認する。 • 詳細コードとして出力される, COBOL の入出力状態の値に従い, 対処する。

3. 標準サブルーチンで年号および祝祭日の変更に対応する方法

メッセージID	メッセージテキスト	出力条件	対処方法
LXREDA26	設定情報確認リストファイルの書き込みに失敗しました（詳細コード=%n）。	ファイルの書き込みを実行してエラーとなった。	力状態の値に従い、対処する。

(凡例)

%n : COBOL でのファイルアクセス時の入出力状態の値。

入出力状態の値については、マニュアル「COBOL2002 ユーザーズガイド」を参照してください。

注※

コマンドラインの形式は次の内容をチェックします。なお、8つ目までの引数に/h オプションがある場合は次のチェックをしないで、コマンドラインの説明を出力します。

- ・オプションの指定値があるか
- ・/i オプション、/o オプションのパス長が最大値を超えていないか
- ・/m オプションの期間が 2013~2100 の範囲を超えていないか
- ・オプションの指定ではない文字列が指定されていないか
- ・同一オプションを二重に指定していないか

(d) 設定情報確認リスト

設定情報確認リストは、新年号と祝祭日を別々のファイルに出力します。

設定情報確認リストのファイル名を次の表に示します。

表 3-9 設定情報確認リストのファイル名

ファイル名※	内容
設定情報確認リストファイルベース名 + "_SJIS.txt"	新年号 (SJIS コード) の設定情報確認リスト
設定情報確認リストファイルベース名 + "_EUC.txt"	新年号 (EUC コード) の設定情報確認リスト
設定情報確認リストファイルベース名 + "_UTF16-BE.txt"	新年号 (UTF-16BE コード) の設定情報確認リスト
設定情報確認リストファイルベース名 + "_UTF-8.txt"	新年号 (UTF-8 コード) の設定情報確認リスト
設定情報確認リストファイルベース名 + ".txt"	祝祭日の設定情報確認リスト

注※

「」で囲んだ部分は、サフィックス部を表します。

次のコマンドを実行した場合の設定情報確認リストの出力結果を示します。

```
LXRPIDCK /o C:¥tmp¥kakunin_list
```

<出力結果>

- ・新年号 (SJIS コード) の設定情報確認リストの場合
C:¥tmp¥kakunin_list_SJIS.txt

- 新年号（EUC コード）の設定情報確認リストの場合
C:¥tmp¥kakunin_list_EUC.txt
- 新年号（UTF16BE コード）の設定情報確認リストの場合
C:¥tmp¥kakunin_list_UTF-16BE.txt
- 新年号（UTF-8 コード）の情報設定リストの場合
C:¥tmp¥kakunin_list_UTF-8.txt
- 祝祭日の設定情報確認リストの場合
C:¥tmp¥kakunin_list.txt

注意事項

- 該当する文字コードによる新年号の指定がない場合は、該当する文字コードの設定情報確認リストは作成されません。
- 新年号の指定行がない場合は、新年号の設定情報確認リストは作成されません。
- 設定情報確認リストは、各行の末尾に空白が出力されます。
設定情報確認リストを表示する画面の表示幅が小さい場合、1行が折り返され、空行が入ることがあります。この場合、画面の表示幅を大きくすると、1行で表示できます。

●新年号の設定情報確認リストの出力フォーマット

1. ファイルの先頭行に次に示す内容のヘッダ行を出力します。

年号コード（数字）, 年号コード（英字）, 西暦年月日, 新年号名

2. ファイルの2行目からは、カスタマイズ情報ファイルに指定した次の項目を、項目ごとに「,」（カンマ）で区切って出力します。

出力項目	内容
年号コード（数字）	カスタマイズ情報設定ファイルに指定された年号コード（数字）を出力します。
年号コード（英字）	カスタマイズ情報設定ファイルに指定された年号コード（英字）を出力します。
西暦年月日	カスタマイズ情報設定ファイルに指定された新年号の開始西暦年月日（YYYY/MM/DD）を出力します。
新年号名	カスタマイズ情報設定ファイルに指定された新年号 16 進文字列をバイナリ変換して出力します。

<例>

- カスタマイズ情報設定ファイルの内容
「〇〇」「△△」を新年号として登録します。ただし、UTF-16BE および UTF-8 は未指定とします。

```
[/NNNGINF]
5, X, 20190501, 819B819B, A1FBA1FB, ,
```

6, Y, 20510101, 81A281A2, A2A4A2A4, ,
[NNNGINF/]

- 出力結果（指定ファイル名_SJIS.txt（SJIS の環境で参照する）の場合）

年号コード（数字）, 年号コード（英字）, 西暦年月日, 新年号名
5, X, 2019/05/01, ○○
6, Y, 2051/01/01, △△

- 出力結果（指定ファイル名_EUC.txt（EUC の環境で参照する）の場合）

年号コード（数字）, 年号コード（英字）, 西暦年月日, 新年号名
5, X, 2019/05/01, ○○
6, Y, 2051/01/01, △△

UTF-16BE および UTF-8 は指定がないため、ファイルは出力されません。

●祝祭日の設定情報確認リストの出力フォーマット

1. ファイルの先頭行に次に示す内容のヘッダ行を出力します。

西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分

2. ファイルの 2 行目からは、カスタマイズ情報ファイルに指定した次の項目を、項目ごとに「,」（カンマ）で区切って出力します。

出力項目	内容
西暦年月日	祝祭日が設定されている年月日（YYYY/MM/DD）を出力します。
曜日	年月日に対する曜日（月、火、水、木、金、土、日）を出力します。
祝祭日区分	指定されたカスタマイズ情報設定ファイルを使用した場合の祝祭日区分を出力します。 祝祭日（祝祭日区分の指定が 1）：「祝祭日」 休日（祝祭日区分の指定が 2）：「休日」

参考

標準サブルーチン内部で保持している祝祭日情報とカスタマイズ情報設定ファイルの祝祭日情報をマージして表示します。祝祭日でも休日でもない日は出力しません。

<使用例>

次の場合を例に、使用例を示します。

「2019 年 11 月 3 日（日）が祝日ではなくなり、それに伴い、2019 年 11 月 4 日（月）が振替休日ではなくなる。また、2020 年 6 月 21 日（日）が祝日になり、それに伴い、2020 年 6 月 22 日（月）が振替休日になる。」

・ カスタマイズ情報設定ファイルの内容

```
[/FESTINF]
:
20190811, 1
20190812, 2
20191103, 0
20191104, 0
20191223, 1
20200223, 1
20200224, 2
20200621, 1
20200622, 2
20200811, 1
20201223, 0
:
[FESTINF/]
```

「20191103, 1」 から「20191103, 1」に変更（祝日の削除）
 「20191104, 2」 から「20191104, 0」に変更（振替休日の削除）

「20200621, 1」 を追加（祝日の追加）
 「20200622, 2」 を追加（振替休日の追加）

・ 祝祭日の設定情報確認リストの内容

```
西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分
:
2019/08/11, 日, 祝祭日
2019/08/12, 月, 休日
2019/09/16, 月, 祝祭日
2019/09/23, 月, 祝祭日
2019/10/14, 月, 祝祭日
2019/11/23, 土, 祝祭日
2020/01/01, 水, 祝祭日
2020/01/13, 月, 祝祭日
2020/02/11, 火, 祝祭日
2020/02/23, 日, 祝祭日
2020/02/24, 月, 休日
2020/03/20, 金, 祝祭日
2020/04/29, 水, 祝祭日
2020/05/03, 日, 祝祭日
2020/05/04, 月, 祝祭日
2020/05/05, 火, 祝祭日
2020/05/06, 水, 休日
2020/06/21, 日, 祝祭日
2020/06/22, 月, 休日
2020/07/20, 月, 祝祭日
2020/08/11, 火, 祝祭日
2020/09/21, 月, 祝祭日
2020/09/22, 火, 祝祭日
2020/10/12, 月, 祝祭日
2020/11/03, 火, 祝祭日
2020/11/23, 月, 祝祭日
2021/01/01, 金, 祝祭日
:
```

2019年11月03日（日）が祝祭日ではなくなり、
 2019年11月04日（月）が振替休日ではなくなったため、
 表示されなくなります。

2020年6月21日（日）の祝祭日、2020年6月22日（月）の休日が
 追加されています。

3.2.5 カスタマイズ情報設定ファイルの設定例

カスタマイズ情報設定ファイルの設定例として、次の4つの内容を説明します。

- ・ 年号の追加
- ・ 祝日の追加
- ・ 祝日の削除
- ・ 祝日の変更

なお、各設定例では、カスタマイズ情報設定ファイルチェックツール (LXRPIDCK) の格納ディレクトリを PATH 環境変数に指定しているものとして説明します。

(1) 年号の追加

年号が追加された場合に、その年号を標準サブルーチンで使用できるようにするための設定例を示す。

(例)

2019年5月1日から年号が「〇〇」となる場合 (アルファベット1字での表記は「X」とする)

設定手順

1. 情報設定ファイル (adsubinf.txt) をコピーし、カスタマイズ情報設定ファイル (adsubinf_custom.txt) を作成する。

2. 使用している文字コードで、新年号の16進表記を確認する。

「〇〇」のそれぞれの文字コードでの16進表記は次のとおりです。

- SJIS : 819B819B
- EUC : A1FBA1FB
- UTF-16BE : 25CB25CB
- UTF-8 : E2978BE2978B

注

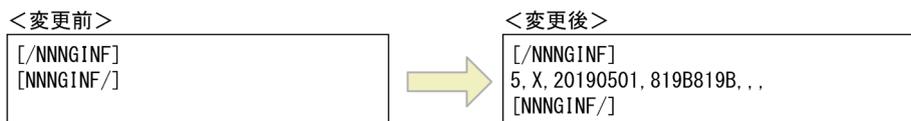
文字コードが UTF-16BE の場合は、UTF-16BE と UTF-8 の文字コードでの16進表記を確認し、UTF-16LE の場合は、UTF-16BE と UTF-8 の文字コードでの16進表記を確認してください。

3. カスタマイズ情報設定ファイルに年号の情報を追加する。

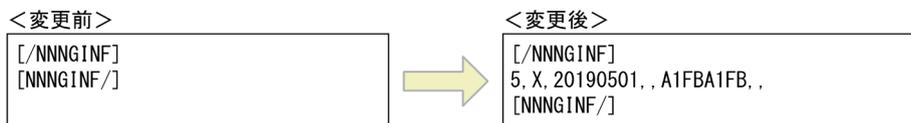
[/NNNGINF]と[NNNGINF/]の間に新年号の16進表記を記載します。

カスタマイズ情報設定ファイルの記入例 (年号の追加) を次に示します。

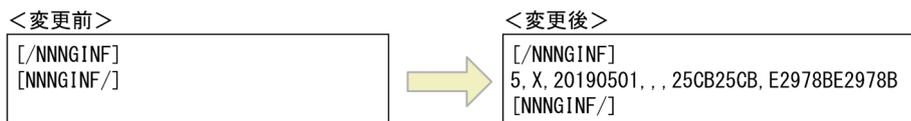
・SJISの場合



・EUCの場合



・UTF-16BE (UTF-16LE) の場合



年号を複数追加する場合は最大3行まで記入できます。カスタマイズ情報設定ファイルの記入例（年号の複数追加）を次に示します。

(例)

2019年5月1日から年号「〇〇」を追加し、2051年1月1日から年号「△△」を追加する場合

<変更前>

```
[/NNNGINF]
[NNNGINF/]
```



<変更後>

```
[/NNNGINF]
5, X, 20190501, 819B819B, ..
6, Y, 20510101, 81A281A2, ..
[NNNGINF/]
```

4. カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行し、カスタマイズ情報設定ファイルをチェックする。

次のコマンドを実行してください。

```
LXRPIDCK /o 設定情報確認リストファイルベース名
```

注

情報設定ファイルの格納ディレクトリ以外でカスタマイズ情報設定ファイルを作成している場合は、/i オプションを指定すること。

カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールの詳細は、「[3.2.4 カスタマイズ情報設定ファイルのチェック](#)」を参照してください。

チェック結果に問題がなければ、手順5に進んでください。

チェック結果に問題がある場合は、カスタマイズ情報設定ファイルの情報を修正し、再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行してください。

5. 開発環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

開発環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

6. 実行環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

実行環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

(2) 祝日の追加

祝日が追加となる場合に、その祝日を追加するための設定例を次に示します。

(例)

2020年6月21日に祝日が追加となる場合

設定手順

1. 情報設定ファイル (adsubinf.txt) をコピーし、カスタマイズ情報設定ファイル (adsubinf_custom.txt) を作成する。

2. カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを使用し、現行の祝日の設定を確認する。

ここでは、2020年の祝祭日および休日の設定を確認する場合とします。

次のコマンドを実行してください。

```
LXRPIDCK /o 設定情報確認リストファイルベース名 /m 2020:2020
```

注

情報設定ファイルの格納ディレクトリ以外でカスタマイズ情報設定ファイルを作成している場合は、/i オプションを指定すること。

祝日追加前の設定情報確認リストファイルが出力されます。

```
西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分
:
2020/02/11, 火, 祝祭日
2020/02/23, 日, 祝祭日
2020/02/24, 月, 休日
2020/03/20, 金, 祝祭日
2020/04/29, 水, 祝祭日
2020/05/03, 日, 祝祭日
2020/05/04, 月, 祝祭日
2020/05/05, 火, 祝祭日
2020/05/06, 水, 休日
2020/07/20, 月, 祝祭日
2020/08/11, 火, 祝祭日
2020/09/21, 月, 祝祭日
2020/09/22, 火, 祝祭日
2020/10/12, 月, 祝祭日
2020/11/03, 火, 祝祭日
:
```

3. 「設定情報確認リストファイル」に出力された内容と、カレンダーなどの実際の祝日を比較する。

比較すると、6月21日（日）を祝日、6月22日（月）を振替休日として追加する必要があることがわかります。

4. カスタマイズ情報設定ファイルに手順3の確認結果を反映する。

<pre><変更前> [/FESTINF] : 20191223,0 20200223,1 20200224,2 20200811,1 20201223,0 20210223,1 : [FESTINF /]</pre>		<pre><変更後> [/FESTINF] : 20191223,0 20200223,1 20200224,2 20200621,1 20200622,2 20200811,1 20201223,0 20210223,1 : [FESTINF /]</pre>	<p>「20200621,1」を追加（祝日の追加） 「20200622,2」を追加（振替休日の追加）</p>
---	---	---	--

5. 再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行し、修正に問題がないことを確認する。

実行するコマンドの形式は手順2と同じです。

西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分
:
2020/02/11, 火, 祝祭日
2020/02/23, 日, 祝祭日
2020/02/24, 月, 休日
2020/03/20, 金, 祝祭日
2020/04/29, 水, 祝祭日
2020/05/03, 日, 祝祭日
2020/05/04, 月, 祝祭日
2020/05/05, 火, 祝祭日
2020/05/06, 水, 休日
2020/06/21, 日, 祝祭日
2020/06/22, 月, 休日
2020/07/20, 月, 祝祭日
2020/08/11, 火, 祝祭日
2020/09/21, 月, 祝祭日
2020/09/22, 火, 祝祭日
2020/10/12, 月, 祝祭日
2020/11/03, 火, 祝祭日
:

「2020/06/21, 日, 祝祭日」と
「2020/06/22, 月, 休日」の行が追加されます。

チェック結果に問題がなければ、手順6に進んでください。

チェック結果に問題がある場合は、カスタマイズ情報設定ファイルの情報を修正し、再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行してください。

6. 開発環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

開発環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

7. 実行環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

実行環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

(3) 祝日の削除

祝日が削除となる場合に、その祝日を削除するための設定例を次に示します。

(例)

2019年11月3日および8月11日が祝日ではなくなる場合

設定手順

1. 情報設定ファイル (adsubinf.txt) をコピーし、カスタマイズ情報設定ファイル (adsubinf_custom.txt) を作成する。
2. カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを使用し、現行の祝日の設定を確認する。

ここでは、2019年の祝祭日および休日の設定を確認する場合とします。

次のコマンドを実行してください。

```
LXRPIDCK /o 設定情報確認リストファイルベース名 /m 2019:2019
```

注

情報設定ファイルの格納ディレクトリ以外でカスタマイズ情報設定ファイルを作成している場合は、/i オプションを指定すること。

祝日削除前の設定情報確認リストファイルが出力されます。

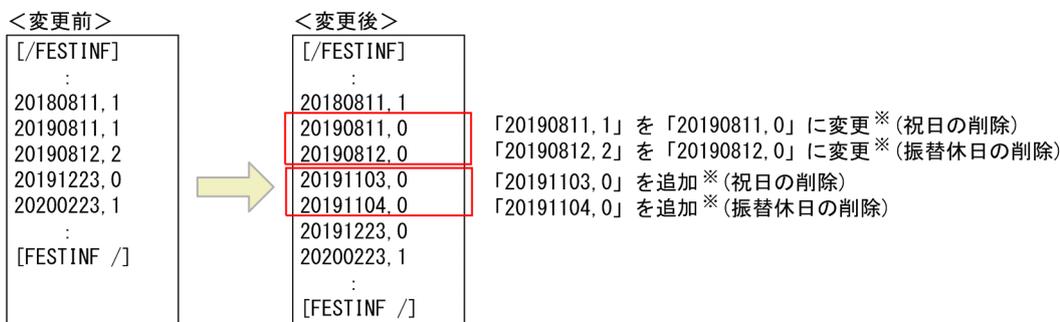
```
西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分
:
2019/02/11, 月, 祝祭日
2019/02/23, 土, 祝祭日
2019/03/21, 木, 祝祭日
2019/04/29, 月, 祝祭日
2019/05/03, 金, 祝祭日
2019/05/04, 土, 祝祭日
2019/05/05, 日, 祝祭日
2019/05/06, 月, 休日
2019/07/22, 月, 祝祭日
2019/08/11, 日, 祝祭日
2019/08/12, 月, 休日
2019/09/16, 月, 祝祭日
2019/09/23, 月, 祝祭日
2019/10/14, 月, 祝祭日
2019/11/03, 日, 祝祭日
2019/11/04, 月, 休日
2019/11/25, 月, 祝祭日
```

3. 「設定情報確認リストファイル」に出力された内容と、カレンダーなどの実際の祝日を比較する。

比較すると、次のことが分かります。

- 8月11日(日)と11月3日(日)を祝日ではない日に変更する必要がある。
- 振替休日の8月12日(月)と11月4日(月)を休日ではない日に変更する必要がある。

4. カスタマイズ情報設定ファイルに手順3の確認結果を反映する。



注※

変更前の記載のあるものは設定を変更、変更前に設定がないものは設定を追加する。

5. 再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行し、修正に問題がないことを確認する。

実行するコマンドの形式は手順2と同じです。

西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分	
2019/02/11, 月, 祝祭日	
2019/02/23, 土, 祝祭日	
2019/03/21, 木, 祝祭日	
2019/04/29, 月, 祝祭日	
2019/05/03, 金, 祝祭日	
2019/05/04, 土, 祝祭日	
2019/05/05, 日, 祝祭日	
2019/05/06, 月, 休日	
2019/07/22, 月, 祝祭日	
2019/09/16, 月, 祝祭日	
2019/09/23, 月, 祝祭日	
2019/10/14, 月, 祝祭日	
2019/11/25, 月, 祝祭日	

「2019/08/11, 日, 祝祭日」,
「2019/08/12, 月, 休日」,
「2019/11/03, 日, 祝祭日」,
「2019/11/04, 月, 休日」が表示されなくなります。

チェック結果に問題がなければ、手順6に進んでください。

チェック結果に問題がある場合は、カスタマイズ情報設定ファイルの情報を修正し、再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行してください。

6. 開発環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

開発環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

7. 実行環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

実行環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

(4) 祝日の変更

祝日に変更となる場合に、その祝日を変更するための設定例を次に示します。

(例)

2019年の山の日を8月11日から8月12日に、文化の日を11月3日から11月5日に、それぞれ変更する場合

設定手順

1. 情報設定ファイル (adsubinf.txt) をコピーし、カスタマイズ情報設定ファイル (adsubinf_custom.txt) を作成する。
2. カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを使用し、現行の祝日の設定を確認する。
ここでは、2020年の祝祭日および休日の設定を確認する場合とします。
次のコマンドを実行してください。

```
LXRPIDCK /o 設定情報確認リストファイルベース名 /m 2020:2020
```

注

情報設定ファイルの格納ディレクトリ以外でカスタマイズ情報設定ファイルを作成している場合は、/i オプションを指定すること。

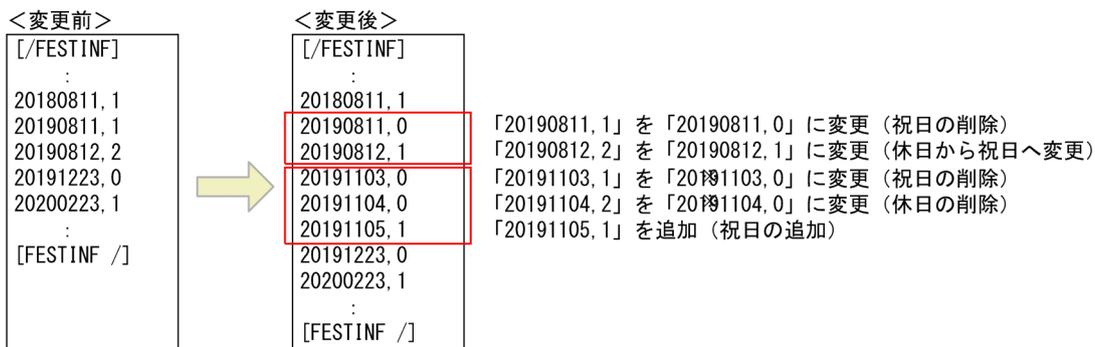
祝日削除前の設定情報確認リストファイルが出力されます。

```
西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分
:
2019/02/11, 月, 祝祭日
2019/02/23, 土, 祝祭日
2019/03/21, 木, 祝祭日
2019/04/29, 月, 祝祭日
2019/05/03, 金, 祝祭日
2019/05/04, 土, 祝祭日
2019/05/05, 日, 祝祭日
2019/05/06, 月, 休日
2019/07/22, 月, 祝祭日
2019/08/11, 日, 祝祭日
2019/08/12, 月, 休日
2019/09/16, 月, 祝祭日
2019/09/23, 月, 祝祭日
2019/10/14, 月, 祝祭日
2019/11/03, 日, 祝祭日
2019/11/04, 月, 休日
2019/11/25, 月, 祝祭日
```

3. 「設定情報確認リストファイル」に出力された内容と、カレンダーなどの実際の祝日を比較する。
比較すると、次のことが分かります。

- 8月10日(月), および11月5日(火)を祝日として追加する必要がある
- 8月11日(火), および11月3日(日)を祝日ではない日に変更する必要がある
- 11月4日(月)を休日ではない日に変更する必要がある

4. カスタマイズ情報設定ファイルに手順3の確認結果を反映する。



5. 再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行し、修正に問題がないことを確認する。
実行するコマンドの形式は手順2と同じです。

西暦年月日, 曜日, 祝祭日区分	
2019/02/11, 月, 祝祭日	
2019/02/23, 土, 祝祭日	
2019/03/21, 木, 祝祭日	
2019/04/29, 月, 祝祭日	
2019/05/03, 金, 祝祭日	
2019/05/04, 土, 祝祭日	
2019/05/05, 日, 祝祭日	
2019/05/06, 月, 休日	
2019/07/22, 月, 祝祭日	
2019/08/12, 月, 祝祭日	「2019/08/11, 火, 祝祭日」の行が出力されなくなり, 「2019/08/12, 月, 祝祭日」の行が追加されます。
2019/09/16, 月, 祝祭日	
2019/09/23, 月, 祝祭日	
2019/10/14, 月, 祝祭日	「2019/11/03, 日, 祝祭日」,
2019/11/05, 火, 祝祭日	「2019/11/04, 月, 休日」の行が出力されなくなり, 「2019/11/05, 火, 祝祭日」の行が追加されます。
2019/11/25, 月, 祝祭日	

チェック結果に問題がなければ、手順6に進んでください。

チェック結果に問題がある場合は、カスタマイズ情報設定ファイルの情報を修正し、再度カスタマイズ情報設定ファイルチェックツールを実行してください。

6. 開発環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

開発環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

7. 実行環境の情報設定ファイルに新年号設定情報を反映する。

実行環境の情報設定ファイルの格納ディレクトリに、カスタマイズ情報設定ファイルをコピーしてください。

3.3 設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンの一覧

設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンを次に示します。

3.3.1 入力項目に和暦新年号コード（数字および英字）が追加されるサブルーチン

入力項目に和暦新年号コード（数字および英字）が追加されるサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-10 入力項目に和暦新年号コード（数字および英字）が追加されるサブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID02	実在日チェック（和暦）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID04	年月日範囲内チェック（和暦）	05	I-NNG	X(1)	年号
		05	I-S-NNG	X(1)	年号
		05	I-E-NNG	X(1)	年号
LXRPID06	年月日変換（和暦→西暦）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID08	年月日算出（和暦年月日±年数）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID10	年月日算出（和暦年月日±月数）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID12	年月日算出（和暦年月日±日数）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID14	期間算出（和暦年月日間日数）	05	I-S-NNG	X(1)	年号
		05	I-E-NNG	X(1)	年号
LXRPID16	期間算出（和暦年月日間年月日）	05	I-S-NNG	X(1)	年号
		05	I-E-NNG	X(1)	年号
LXRPID18	月末日算出（和暦年月日）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID20	通算週算出（年始～和暦年月日）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID22	年月日分類（和暦）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID24	年月日出力編集（和暦）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID26	うるう年判定（和暦）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID28	年月日（和暦）→一貫日変換	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID32	日数算出（和暦年月日～月末日）	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID34	年月日（和暦）→曜日算出	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID36	年号コードチェック／編集	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID37	年号コード変換（英字→数字）	05	I-NNG	X(1)	年号

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID38	年号コード変換 (数字→英字)	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID42	年月日 (和暦) 過去チェック	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID44	年月日 (和暦) 未来チェック	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID46	年月日 (和暦) 編集	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID49	年月 (和暦) チェック	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID51	年月 (和暦) 過去チェック	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID53	年月 (和暦) 未来チェック	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID55	年月 (和暦) 編集	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID58	年月変換 (和暦→西暦)	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID60	年度 (和暦) チェック	03	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID62	年度 (和暦) 過去チェック	03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)
LXRPID64	年度 (和暦) 未来チェック	03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)
LXRPID66	年度 (和暦) 編集	03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)
LXRPID69	年度変換 (和暦→西暦)	03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)
LXRPID71	年 (和暦) チェック	03	I-YYWA	X(3)	年 (和暦)
LXRPID73	年 (和暦) 過去チェック	03	I-YYWA	X(3)	年 (和暦)
LXRPID75	年 (和暦) 未来チェック	03	I-YYWA	X(3)	年 (和暦)
LXRPID78	年変換 (和暦→西暦)	05	I-NNG	X(1)	年号
LXRPID93	通算日算出 (年始～和暦年月日)	03	I-NNG	X(1)	年号

3.3.2 入力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチン

入力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-11 入力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPIE14	日時加減算 (和暦 12 時間単位)	03	I-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦)
LXRPIE15	日時加減算 (和暦 24 時間単位)	03	I-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦)

3.3.3 出力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチン

出力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-12 出力項目に和暦年号コード（数字）が追加されるサブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID05	年月日変換（西暦→和暦）	03	O-MDWA	9(7)	年月日（和暦）
LXRPID08	年月日算出（和暦年月日±年数）	03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）
LXRPID10	年月日算出（和暦年月日±月数）	03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日
LXRPID12	年月日算出（和暦年月日±日数）	03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日
LXRPID18	月末日算出（和暦年月日）	03	O-YMDWA	9(7)	年月日（月末）
LXRPID30	一貫日→年月日（和暦）変換	03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）
LXRPID37	年号コード変換（英字→数字）	03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）
LXRPID57	年月変換（西暦→和暦）	05	O-NNG	X(1)	年月日（和暦）
LXRPID68	年度変換（西暦→和暦）	03	O-NNDWA	9(3)	年度（和暦）
LXRPID77	年変換（西暦→和暦）	03	O-YYWA	9(3)	年（和暦）
LXRPID91	処理期限年月日算出（和暦）	03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦処理年月日
LXRPIE14	日時加減算（和暦 12 時間単位）	03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）
LXRPIE15	日時加減算（和暦 24 時間単位）	03	O-YMDWA	9(7)	年月日（和暦）

3.3.4 出力項目に和暦年号コード（英字）が追加されるサブルーチン

出力項目に和暦年号コード（英字）が追加されるサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-13 出力項目に和暦年号コード（英字）が追加されるサブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID38	年号コード変換（数字→英字）	05	I-NNG	X(1)	年号

3.3.5 出力項目に年号（漢字）が追加されるサブルーチン

出力項目に年号（漢字）が追加されるサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-14 出力項目に年号（漢字）が追加されるサブルーチンの一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID36	年号コードチェック／編集	03	O-NNG-KJ	N(2)	年号（漢字）

3.3.6 出力用項目の年号（漢字）または年号コードをユーザが選択出力できるサブルーチン

出力用項目の年号（漢字）または年号コードをユーザが選択出力できるサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-15 出力用項目の年号（漢字）または年号コードをユーザが選択出力できるサブルーチン
の一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID24	年月日出力編集（和暦）	03	O-YMDWA	X(100)	出力年月日
LXRPID46	年月日（和暦）編集	03	O-YMDWA	X(100)	年月日（和暦）
LXRPID47	年月日変換（西暦→和暦）編集	03	O-YMDWA	X(100)	年月日（和暦）
LXRPID55	年月（和暦）編集	03	O-YMWA	X(100)	年月（和暦）
LXRPID56	年月変換（西暦→和暦）編集	03	O-YMWA	X(100)	年月（和暦）
LXRPID66	年度（和暦）編集	03	O-NNDWA	X(100)	年度（和暦）
LXRPID67	年度変換（西暦→和暦）編集	03	O-NNDWA	X(100)	年度（和暦）
LXRPID76	年変換（西暦→和暦）編集	03	O-YYWA	X(100)	年（和暦）

3.3.7 祝祭日区分を出力するサブルーチン

祝祭日区分を出力するサブルーチンの一覧を次に示します。

表 3-16 祝祭日区分を出力するサブルーチン

サブルーチン ID	サブルーチン名	レベル	項目名	属性	説明
LXRPID21	年月日分類（西暦）	03	O-FEST-KBN	X(1)	祝祭日区分
LXRPID22	年月日分類（和暦）	03	O-FEST-KBN	X(1)	祝祭日区分

3.4 設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチン

設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンを次に示します。

なお、この節で示す変更点は、「平成」から新年号（年号コード（数字）では'5'）に変わることを前提にしています。今後さらに改元が起きた場合、新年号はさらに2つ（年号コード（数字）では'7'）まで追加できますので、「平成」から新年号が変わるときと同様に読み替えてください。また、さらに新年号を追加した場合は、リターンコードなども置き換えてください。

(変更点の記載例)

●インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

注

変更点の説明の中では、追加する新年号を「和元」（年号コード（英字）は「W」）と仮定しています。新年号が決定した時点で、斜体の文字の部分新年号（年号コード（英字）も同様）に置き換えてください。

3.4.1 LXPID02（実在日チェック（和暦））

和暦日付の妥当性をチェックする「LXPID02（実在日チェック（和暦））」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年月日範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード（'5'または'W'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID02 (実在日チェック (和暦))」のインタフェース、処理基準、および注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(a) 標準版

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
3	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
11	平成: 元年 1 月 8 日 ~	LXRED010	11	平成: 元年 1 月 8 日 ~ 31 年 4 月 30 日	LXRED010
-	-	-	12	和元: 元年 5 月 1 日 ~*	LXRED041

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99 年 12 月 31 日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99 年 12 月 31 日に該当する日までとなります。

(b) JIS 規格版

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
3	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
11	平成: 元年 1 月 8 日 ~	LXRED010	11	平成: 元年 1 月 8 日 ~ 31 年 4 月 30 日	LXRED010

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
—	—	—	12	和元：元年5月1日～※	LXRED041

(凡例)

—：該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

(3) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。	年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=和元を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。

3.4.2 LXPID04 (年月日範囲内チェック (和暦))

和暦日付が指定された開始日付と終了日付の間の日付かをチェックする「LXPID04 (年月日範囲内チェック (和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID04 (年月日範囲内チェック (和暦))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治，2：大正，3：昭和，4：平成) or	(1：明治，2：大正，3：昭和，4：平成，5：和元) or	

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	I
:	:	:	:	:	:
05	I-S-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	
:	:	:	:	:	:
05	I-E-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.3 LXPID05 (年月日変換 (西暦→和暦))

西暦日付を和暦日付に変換する「LXPID05 (年月日変換 (西暦→和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年月日範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年月日範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の西暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID05 (年月日変換 (西暦→和暦))」のインタフェース、処理基準、および例の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦)	年月日 (和暦)	O
			年号	年号	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(a) 標準版

リターンコードがスペースのときの、年号の範囲の変更点は次のとおりです。

(変更前)		(変更後)	
年号	西暦範囲	年号	西暦範囲
	和暦範囲		和暦範囲
平成	1989年1月8日~2087年12月31日	平成	1989年1月8日~2019年4月30日
	元年1月8日~99年12月31日		平成: 元年1月8日~31年4月30日
-	-	和元	2019年5月1日~2117年12月31日*
	-		元年5月1日~99年12月31日*

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

注※

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

(b) JIS 規格版

リターンコードがスペースのときの、年号の範囲の変更点は次のとおりです。

(変更前)		(変更後)	
年号	西暦範囲	年号	西暦範囲
	和暦範囲		和暦範囲
平成	1989年1月8日~2087年12月31日	平成	1989年1月8日~2019年4月30日
	元年1月8日~99年12月31日		平成: 元年1月8日~31年4月30日

(変更前)		(変更後)	
年号	西暦範囲	年号	西暦範囲
	和暦範囲		和暦範囲
-	-	和元	2019年5月1日~2117年12月31日*
	-		元年5月1日~99年12月31日*

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

注※

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

(3) 例の変更点

(変更前)	(変更後)
例 3 I-YMD : 20871231 ↓ O-YMDWA : 4991231 O-RTN-CD : SPACE	例 3 I-YMD : 20871231 ↓ O-YMDWA : 5691231 O-RTN-CD : SPACE
例 4 I-YMD : 20880101 ↓ O-YMDWA : 0000000 O-RTN-CD : 'LXRED011'	例 4 I-YMD : 21180101 ↓ O-YMDWA : 0000000 O-RTN-CD : 'LXRED011'
-	例 5 I-YMD : 20191231 ↓ O-YMDWA : 5011231 O-RTN-CD : SPACE

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

3.4.4 LXPID06 (年月日変換 (和暦→西暦))

和暦日付を西暦日付に変換する「LXPID06 (年月日変換 (和暦→西暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード（'5'または'W'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID06（年月日変換（和暦→西暦）」のインタフェース、処理基準、および注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)		(変更後)	
入力年号	出力年月日（西暦）	入力年号	出力年月日（西暦）
'1', 'M'	入力年月日（年号除く）+ 18670000	'1', 'M'	入力年月日（年号除く）+ 18670000
'2', 'T'	入力年月日（年号除く）+ 19110000	'2', 'T'	入力年月日（年号除く）+ 19110000
'3', 'S'	入力年月日（年号除く）+ 19250000	'3', 'S'	入力年月日（年号除く）+ 19250000
'4', 'H'	入力年月日（年号除く）+ 19880000	'4', 'H'	入力年月日（年号除く）+ 19880000
—	—	'5', 'W'	入力年月日（年号除く）+ 20180000
その他	入力年月日（年号除く）+ 19880000	その他	入力年月日（年号除く）+ 20180000

(凡例)

—：該当する内容はありません。

(3) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
誤った年号に対しては、平成 ('4', 'H') と同様の処理を行う。ただしリターンコードには'LXRED002'を返す。	誤った年号に対しては、 <i>和元</i> ('5', 'W') と同様の処理を行う。ただしリターンコードには'LXRED002'を返す。

3.4.5 LXPID08 (年月日算出 (和暦年月日±年数))

和暦年月日に年数を加算または減算し、和暦日付を返す「LXPID08 (年月日算出 (和暦年月日±年数))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「*和元*」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID08 (年月日算出 (和暦年月日±年数))」のインタフェースおよび注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: <i>和元</i>) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: <i>和元</i>)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日 (NYYMMDD)	出力和暦年月日 (NYYMMDD)	O
			N: 年号	N: 年号	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	O

(2) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
明治元年 ≤ 入力年 + 経過年数 ≤ 平成 99 年の範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED011'を返す。	明治元年 ≤ 入力年 + 経過年数 ≤ 和元 99 年の範囲外になる場合、結果は不正とする。リターンコード'LXRED011'を返す。

3.4.6 LXPID10 (年月日算出 (和暦年月日±月数))

和暦年月日に月数を加算または減算し、和暦日付を返す「LXPID10 (年月日算出 (和暦年月日±月数))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID10 (年月日算出 (和暦年月日±月数))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日 (NYYMMDD)	出力和暦年月日 (NYYMMDD)	O
			N: 年号	N: 年号	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

3.4.7 LXPID12 (年月日算出 (和暦年月日±日数))

和暦年月日に日数を加算または減算し、和暦日付を返す「LXPID12 (年月日算出 (和暦年月日±日数))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID12 (年月日算出 (和暦年月日±日数))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	出力和暦年月日 (NYYMMDD)	出力和暦年月日 (NYYMMDD)	O
			N: 年号	N: 年号	

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元)	○

3.4.8 LXPID14 (期間算出 (和暦年月日間日数))

2つの和暦日付の期間を日数で求める「LXPID14 (期間算出 (和暦年月日間日数))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID14 (期間算出 (和暦年月日間日数))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-S-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	
:	:	:	:	:	:
05	I-E-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

3.4.9 LXPID16 (期間算出 (和暦年月日間年月日))

2つの和暦日付の期間を年月日で求める「LXPID16 (期間算出 (和暦年月日間年月日))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「**和元**」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID16 (期間算出 (和暦年月日間年月日))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-S-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	
:	:	:	:	:	:
05	I-E-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.10 LXPID18 (月末日算出 (和暦年月日))

和暦年月の月末日を求める「LXPID18 (月末日算出 (和暦年月日))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。
例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード('4'または'H')を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード('5'または'W')を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID18 (月末日算出 (和暦年月日))」のインタフェースおよび注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号は明治, 大正, 昭和, 平成とし, これ以外の指定は, 平成と見なす。	年号は明治, 大正, 昭和, 平成, 和元とし, これ以外の指定は, 和元と見なす。

3.4.11 LXRPID20 (通算週算出 (年始～和暦年月日))

和暦日付が入力された和暦年の通算第何週かを求める「LXRPID20 (通算週算出 (年始～和暦年月日))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPID20 (通算週算出 (年始～和暦年月日))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.12 LXRPID21 (年月日分類 (西暦))

西暦日付を平日, 土曜, 日曜および祝祭日に分類する「LXRPID21 (年月日分類 (西暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 各祝祭日・休日は、2019年5月1日に施行の「国民の祝日に関する法律」および2018年6月20日施行の「平成三十二年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法」に基づくものに変更になります。

次に「LXRPID21 (年月日分類 (西暦))」の処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(変更前)	(変更後)
各祝祭日・休日は、2007年6月1日時点で公布されている「国民の祝日に関する法律」に基づくものとする。	各祝祭日・休日は、2019年5月1日に施行の「国民の祝日に関する法律」および2018年6月20日施行の「平成三十二年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法」に基づくものとする。

3.4.13 LXRPID22 (年月日分類 (和暦))

和暦日付を平日, 土曜, 日曜および祝祭日に分類する「LXRPID22 (年月日分類 (和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPID22（年月日分類（和暦）」）のインターフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

3.4.14 LXRPID24（年月日出力編集（和暦））

和暦日付を指定された処理形式に従い編集する「LXRPID24（年月日出力編集（和暦）」）の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPID24（年月日出力編集（和暦）」）のインターフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	X(100)	出力年月日 (和暦)	出力年月日 (和暦)	O
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.15 LXPID26 (うるう年判定 (和暦))

その年がうるう年か平年かをチェックする「LXPID26 (うるう年判定 (和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年範囲チェックに加え、「和元」の和暦年範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID26 (うるう年判定 (和暦))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.16 LXPID28 (年月日 (和暦) →一貫日変換)

西暦1年1月1日から和暦日付までの一貫日を求める「LXPID28 (年月日 (和暦) →一貫日変換)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年月日範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード（'5'または'W'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID28（年月日（和暦）→一貫日変換）」のインタフェース、および例の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

(2) 例の変更点

(変更前)	(変更後)
例 2 I-YMDWA : 5030415 ↓ O-DAYS : 726937 O-RTN-CD : 'LXRED002'	例 2 I-YMDWA : 5030415 ↓ O-DAYS : 737894 O-RTN-CD : SPACE
-	例 3 I-YMDWA : 6030415 ↓ O-DAYS : 737894 O-RTN-CD : 'LXRED002'
例 3 I-YMDWA : 1010101 ↓	例 4 I-YMDWA : 1010101 ↓

(変更前)	(変更後)
O-DAYS : 0 O-RTN-CD : 'LXRED006'	O-DAYS : 0 O-RTN-CD : 'LXRED006'

3.4.17 LXPID30 (一貫日→年月日 (和暦) 変換)

指定された一貫日に対応する和暦年月日を求める「LXPID30 (一貫日→年月日 (和暦) 変換)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「*和元*」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID30 (一貫日→年月日 (和暦) 変換)」のインタフェース、注意事項、および例の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	○
			年号	年号	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: <i>和元</i>)	

(2) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
日数の範囲は 682159 (: 明治元年 9 月 8 日) ≤ 日数 ≤ 762261 (: 平成 99 年 12 月 31 日) とする。範囲外の日数が入力された場合、和暦年月日に 0 を、リターンコードに 'LXRED011' を返す。	日数の範囲は 682159 (: 明治元年 9 月 8 日) ≤ 日数 ≤ 773218 (: <i>和元</i> 99 年 12 月 31 日) とする。範囲外の日数が入力された場合、和暦年月日に 0 を、リターンコードに 'LXRED011' を返す。

(3) 例の変更点

(変更前)	(変更後)
例 3 I-DAYS : 762262 ↓ O-YMDWA : 0000000 O-RTN-CD : 'LXRED011'	例 3 I-DAYS : 773219 ↓ O-YMDWA : 0000000 O-RTN-CD : 'LXRED011'

3.4.18 LXPID32 (日数算出 (和暦年月日～月末日))

和暦日付から月末日までの日数を求める「LXPID32 (日数算出 (和暦年月日～月末日))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
 例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID32 (日数算出 (和暦年月日～月末日))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.19 LXPID34 (年月日 (和暦) → 曜日算出)

和暦日付に対応する曜日を求める「LXPID34 (年月日 (和暦) → 曜日算出)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPID34（年月日（和暦）→曜日算出）」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

3.4.20 LXRPID36（年号コードチェック／編集）

年号コードをチェックし、年号名に変換する「LXRPID36（年号コードチェック／編集）」の変更点は、次のとおりです。

- 「明治」～「平成」の年号コードチェックに加え、「和元」の年号コードチェックが追加になります。

次に「LXRPID36（年号コードチェック／編集）」のインタフェースおよび注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

(2) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号コードは'1', '2', '3', '4', 'M', 'T', 'S', 'H'とする。	年号コードは'1', '2', '3', '4', '5', 'M', 'T', 'S', 'H', 'W'とする。

3.4.21 LXPID37 (年号コード変換 (英字→数字))

年号コード (英字) を年号コード (数字) に変換する「LXPID37 (年号コード変換 (英字→数字))」の変更点は、次のとおりです。

- 「明治」～「平成」の年号コードチェックに加え、「和元」の年号コードチェックが追加になります。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED014'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID37 (年号コード変換 (英字→数字))」のインタフェース、処理基準、例、および注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	O
			N: 年号	N: 年号	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
年号コード'M', 'T', 'S', 'H'を入力し, '1', '2', '3', '4'に変換して出力する。	年号コード'M', 'T', 'S', 'H', 'W'を入力し, '1', '2', '3', '4', '5'に変換して出力する。

(変更前)			(変更後)		
入力年号	出力年号	リターンコード	入力年号	出力年号	リターンコード
'M'	1	SPACE	'M'	1	SPACE
'T'	2	SPACE	'T'	2	SPACE
'S'	3	SPACE	'S'	3	SPACE
'H'	4	SPACE	'H'	4	SPACE
—	—	—	'W'	5	SPACE
'1'	1	SPACE	'1'	1	SPACE
'2'	2	SPACE	'2'	2	SPACE
'3'	3	SPACE	'3'	3	SPACE
'4'	4	SPACE	'4'	4	SPACE
—	—	—	'5'	5	SPACE
その他	4	'LXRED014'	その他	5	'LXRED014'

(凡例)

—：該当する内容はありません。

(3) 例の変更点

(変更前)	(変更後)
例 2 I-YMDWA : A150320 ↓ O-YMDWA : 4150320 O-RTN-CD : 'LXRED014'	例 2 I-YMDWA : A150320 ↓ O-YMDWA : 5150320 O-RTN-CD : 'LXRED014'

(4) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号コードが'1', '2', '3', '4'の場合はそのまま出力する。	年号コードが'1', '2', '3', '4', '5'の場合はそのまま出力する。

(変更前)	(変更後)
誤った年号コードが入力された場合、出力側の年号に'4'、年月日はそのまま出力し、リターンコードに'LXRED014'を出力する。	誤った年号コードが入力された場合、出力側の年号に'5'、年月日はそのまま出力し、リターンコードに'LXRED014'を出力する。

3.4.22 LXPID38 (年号コード変換 (数字→英字))

年号コード (数字) を年号コード (英字) に変換する「LXPID38 (年号コード変換 (数字→英字))」の変更点は、次のとおりです。

- 「明治」～「平成」の年号コードチェックに加え、「和元」の年号コードチェックが追加になります。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED014'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID38 (年号コード変換 (数字→英字))」のインタフェース、処理基準、例、および注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	O-NNG	X(1)	年号	年号	O
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
入力年号コード'1', '2', '3', '4'に対し, 'M', 'T', 'S', 'H'を出力する。	入力年号コード'1', '2', '3', '4', '5'に対し, 'M', 'T', 'S', 'H', 'W'を出力する。

(変更前)			(変更後)		
入力年号	出力年号	リターンコード	入力年号	出力年号	リターンコード
'1'	'M'	SPACE	'1'	'M'	SPACE
'2'	'T'	SPACE	'2'	'T'	SPACE
'3'	'S'	SPACE	'3'	'S'	SPACE
'4'	'H'	SPACE	'4'	'H'	SPACE
—	—	—	'5'	'W'	SPACE
'M'	'M'	SPACE	'M'	'M'	SPACE
'T'	'T'	SPACE	'T'	'T'	SPACE
'S'	'S'	SPACE	'S'	'S'	SPACE
'H'	'H'	SPACE	'H'	'H'	SPACE
—	—	—	'W'	'W'	SPACE
その他	'H'	'LXRED014'	その他	'W'	'LXRED014'

(凡例)

—：該当する内容はありません。

(3) 例の変更点

(変更前)	(変更後)
例 2 I-YMDWA : 0150320 ↓ O-YMDWA : H150320 O-RTN-CD : 'LXRED014'	例 2 I-YMDWA : 0150320 ↓ O-YMDWA : W150320 O-RTN-CD : 'LXRED014'

(4) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号コードが'M', 'T', 'S', 'H'の場合はそのまま出力する。	年号コードが'M', 'T', 'S', 'H', 'W'の場合はそのまま出力する。

(変更前)	(変更後)
誤った年号コードが入力された場合、O-NNG には'H', 年月日はそのまま出力し、リターンコードに'LXRED014'を出力する。	誤った年号コードが入力された場合、O-NNG には'W', 年月日はそのまま出力し、リターンコードに'LXRED014'を出力する。

3.4.23 LXPID42 (年月日 (和暦) 過去チェック)

システム日付と比較し、過去の日付かどうかをチェックする「LXPID42 (年月日 (和暦) 過去チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「**和元**」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID42 (年月日 (和暦) 過去チェック)」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
実在日チェックを (実在日チェック (和暦): LXPID02) によって、次の順で行う (項番 1~11)。	実在日チェックを (実在日チェック (和暦): LXPID02) によって、次の順で行う (項番 1~12)。
入力年月日 (和暦) がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す (項番 12)。	入力年月日 (和暦) がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す (項番 13)。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
3	年号= 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年号= 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
11	平成：元年1月8日～	LXRED010	11	平成：元年1月8日～31年4月30日	LXRED010
—	—	—	12	和元：元年5月1日～*	LXRED041
12	年月日<=システム日付	LXRED003	13	年月日<=システム日付	LXRED003

(凡例)

—：該当する内容はあります。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.24 LXPID44 (年月日 (和暦) 未来チェック)

システム日付と比較し、未来の日付かどうかをチェックする「LXPID44 (年月日 (和暦) 未来チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID44 (年月日 (和暦) 未来チェック)」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	(M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成)	(M:明治, T:大正, S:昭和, H:平成, W:和元)	I

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
実在日チェックを(実在日チェック(和暦):LXRPID02)によって、次の順で行う(項番1~11)。	実在日チェックを(実在日チェック(和暦):LXRPID02)によって、次の順で行う(項番1~12)。
入力年月日(和暦)がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す(項番12)。	入力年月日(和暦)がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す(項番13)。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
3	年号=1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	3	年号=1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
11	平成:元年1月8日~	LXRED010	11	平成:元年1月8日~31年4月30日	LXRED010
-	-	-	12	和元:元年5月1日~*	LXRED041
12	年月日>=システム日付	LXRED015	13	年月日>=システム日付	LXRED015

(凡例)

-:該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.25 LXRPID46 (年月日(和暦)編集)

和暦日付を指定された処理形式に従い編集する「LXRPID46(年月日(和暦)編集)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「*和元*」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPID46（年月日（和暦）編集）」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			（変更前）	（変更後）	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5： <i>和元</i>) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W： <i>和元</i>)	

3.4.26 LXRPID47（年月日変換（西暦→和暦）編集）

西暦を和暦に変換し、指定された処理形式に従い編集する「LXRPID47（年月日変換（西暦→和暦）編集）」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年月日範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年月日範囲チェックに加え、「*和元*」の西暦年月日範囲チェックが追加になります。

3.4.27 LXRPID49（年月（和暦）チェック）

年月（和暦）の妥当性をチェックする「LXRPID49（年月（和暦）チェック）」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年月日範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「*和元*」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。「*和元*」の和暦年月日範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。

- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード（'5'または'W'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID49（年月（和暦）チェック）」のインタフェース、処理基準、および注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
—	—	—	8	平成：元年1月～31年4月	LXRED010
—	—	—	9	和元：元年5月～※	LXRED041

(凡例)

—：該当する内容はあります。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

(3) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続	年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=和元を仮定してチェックを続

(変更前)	(変更後)
行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。	行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。

3.4.28 LXPID51 (年月 (和暦) 過去チェック)

システム日付と比較し、過去の日付かどうかをチェックする「LXPID51 (年月 (和暦) 過去チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年月範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。

- 「明治」～「平成」の和暦年月範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年月範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID51 (年月 (和暦) 過去チェック)」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
(年月変換 (和暦→西暦) : LXRPID58) を用いて、西暦年月に変換する。 ・ リターンコードがスペースの時 システム日付と比較する。 ・ リターンコードがスペースでない時 (年月変換 (和暦→西暦) : LXRPID58) のリターンコードを出力する (項番 1~7)。	(年月変換 (和暦→西暦) : LXRPID58) を用いて、西暦年月に変換する。 ・ リターンコードがスペースの時 システム日付と比較する。 ・ リターンコードがスペースでない時 (年月変換 (和暦→西暦) : LXRPID58) のリターンコードを出力する (項番 1~9)。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
—	—	—	8	平成 : 元年 1 月 ~ 31 年 4 月	LXRED010
—	—	—	9	和元 : 元年 5 月 ~ ※	LXRED041
8	年月 <= システム日付	LXRED003	10	年月 <= システム日付	LXRED003

(凡例)

— : 該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99 年 12 月 31 日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99 年 12 月 31 日に該当する日までとなります。

3.4.29 LXRPID53 (年月 (和暦) 未来チェック)

システム日付と比較し、未来の日付かどうかをチェックする「LXRPID53 (年月 (和暦) 未来チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- ・ 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年月範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。

- ・ 「明治」 ~ 「平成」の和暦年月範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年月範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- ・ 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード（'5'または'W'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID53（年月（和暦）未来チェック）」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
(年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）を用いて、西暦年月に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> リターンコードがスペースの時 システム日付と比較する。 リターンコードがスペースでない時 (年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）のリターンコードを出力する（項番1～7）。 	(年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）を用いて、西暦年月に変換する。 <ul style="list-style-type: none"> リターンコードがスペースの時 システム日付と比較する。 リターンコードがスペースでない時 (年月変換（和暦→西暦）：LXRPID58）のリターンコードを出力する（項番1～9）。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号= 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号= 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
—	—	—	8	平成：元年1月～31年4月	LXRED010
—	—	—	9	和元：元年5月～※	LXRED041
8	年月>=システム日付	LXRED015	10	年月>=システム日付	LXRED015

(凡例)

—：該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.30 LXPID55 (年月 (和暦) 編集)

年月 (和暦) を編集する「LXPID55 (年月 (和暦) 編集)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID55 (年月 (和暦) 編集)」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる箇所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.31 LXPID56 (年月変換 (西暦→和暦) 編集)

西暦年月を和暦年月に変換し、指定された処理形式に従い編集する「LXPID56 (年月変換 (西暦→和暦) 編集)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年月範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年月範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年月範囲チェックに加え、「和元」の西暦年月範囲チェックが追加になります。

3.4.32 LXPID57 (年月変換 (西暦→和暦))

西暦の年月を和暦に変換する「LXPID57 (年月変換 (西暦→和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年月範囲チェックが変更になります。
例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年月範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年月範囲チェックに加え、「*和元*」の西暦年月範囲チェックが追加になります。なお、「*和元*」の西暦開始年月は、「平成」の終了西暦年月の翌月からとなります。

次に「LXPID57 (年月変換 (西暦→和暦))」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	O-NNG	X(1)	年号	年号	○
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5： <i>和元</i>)	

(2) 処理基準の変更点

リターンコードがスペースのときの、年号の範囲の変更点は次のとおりです。

(変更前)		(変更後)	
年号	西暦範囲	年号	西暦範囲
	和暦範囲		和暦範囲
平成	1989年1月8日～ 元年1月8日～	平成	1989年1月8日～2019年4月30日 平成：元年1月8日～31年4月30日
—	—	<i>和元</i>	2019年5月1日～*
	—		元年5月1日～*

(凡例)

—：該当する内容はありません。

注※

最新年号は、和暦の99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「*和元*」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.33 LXPID58 (年月変換 (和暦→西暦))

和暦の年月を西暦に変換する「LXPID58 (年月変換 (和暦→西暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月範囲チェックが変更になります。
例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年月範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。
- 「明治」～「平成」の和暦年月範囲チェックに加え、「*和元*」の和暦年月範囲チェックが追加になります。「*和元*」の和暦年月範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。
例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「*和元*」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID58 (年月変換 (和暦→西暦))」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: <i>和元</i>) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: <i>和元</i>)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)		(変更後)	
入力年号	出力年月日 (西暦)	入力年号	出力年月日 (西暦)
'1', 'M'	入力年月日 (年号除く) + 18670000	'1', 'M'	入力年月日 (年号除く) + 18670000
'2', 'T'	入力年月日 (年号除く) + 19110000	'2', 'T'	入力年月日 (年号除く) + 19110000
'3', 'S'	入力年月日 (年号除く) + 19250000	'3', 'S'	入力年月日 (年号除く) + 19250000
'4', 'H'	入力年月日 (年号除く) + 19880000	'4', 'H'	入力年月日 (年号除く) + 19880000

(変更前)		(変更後)	
入力年号	出力年月日 (西暦)	入力年号	出力年月日 (西暦)
—	—	'5', 'W'	入力年月日 (年号除く) + 20180000
その他	入力年月日 (年号除く) + 19880000	その他	入力年月日 (年号除く) + 20180000

(凡例)

— : 該当する内容はあります。

3.4.34 LXPID60 (年度 (和暦) チェック)

年度 (和暦) の妥当性をチェックする「LXPID60 (年度 (和暦) チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年度範囲チェックが変更になります。

例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年度範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年度範囲エラー時は、リターンコードに'XRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。

- 「明治」～「平成」の和暦年度範囲チェックに加え、「**和元**」の和暦年度範囲チェックが追加になります。「**和元**」の和暦年度範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「**和元**」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID60 (年度 (和暦) チェック)」のインタフェース、処理基準、および注意事項の変更点を示します。ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)	年度 (和暦)	I
			形式: NYY	形式: NYY	
			N: 年号	N: 年号	
			YY: 年	YY: 年	

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	年号:	年号:	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号= 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号= 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
7	平成: 元年 1 月 8 日~	LXRED010	7	平成: 元年 1 月 8 日~31 年 4 月 30 日	LXRED010
-	-	-	8	和元: 元年 5 月 1 日~*	LXRED041

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99 年 12 月 31 日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99 年 12 月 31 日に該当する日までとなります。

(3) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。	年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=和元を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。

3.4.35 LXPID62 (年度 (和暦) 過去チェック)

システム日付と比較し、過去の年度かどうかをチェックする「LXPID62 (年度 (和暦) 過去チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年度範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年度範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年度範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。

- 「明治」～「平成」の和暦年度範囲チェックに加え、「和元」の和暦年度範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年度範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID62 (年度 (和暦) 過去チェック)」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)	年度 (和暦)	I
			形式: NYY	形式: NYY	
			N: 年号	N: 年号	
			YY: 年	YY: 年	
			年号:	年号:	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
入力年度のチェックを (年度 (和暦) チェック: LXRPID60) を用いて下表の順で行う (項番 1~7)。	入力年度のチェックを (年度 (和暦) チェック: LXRPID60) を用いて下表の順で行う (項番 1~8)。
システム日付を取得し、次の処理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> • システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年 	システム日付を取得し、次の処理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> • システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年

(変更前)	(変更後)
<p>度（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 8）。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 8）。 	<p>度（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 9）。</p> <ul style="list-style-type: none"> システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに'LXRED003'を返す（項番 9）。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
7	平成：元年 1 月 8 日～	LXRED010	7	平成：元年 1 月 8 日～31 年 4 月 30 日	LXRED010
—	—	—	8	和元：元年 5 月 1 日～※	LXRED041
8	入力年度 ≤ システム日付 (年)	LXRED003	9	入力年度 ≤ システム日付 (年)	LXRED003

(凡例)

—：該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99 年 12 月 31 日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99 年 12 月 31 日に該当する日までとなります。

3.4.36 LXPID64（年度（和暦）未来チェック）

システム日付と比較し、未来の年度かどうかをチェックする「LXPID64（年度（和暦）未来チェック）」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年度範囲チェックが変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年度範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年度範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。
- 「明治」～「平成」の和暦年度範囲チェックに加え、「和元」の和暦年度範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年度範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード（'5'または'W'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID64（年度（和暦）未来チェック）」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	年度（和暦）	I
			形式：NYY	形式：NYY	
			N：年号	N：年号	
			YY：年	YY：年	
			年号：	年号：	
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)				

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
入力年度のチェックを（年度（和暦）チェック：LXRPID60）を用いて下表の順で行う（項番1～7）。	入力年度のチェックを（年度（和暦）チェック：LXRPID60）を用いて下表の順で行う（項番1～8）。
システム日付を取得し、次の処理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番8）。 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番8）。 	システム日付を取得し、次の処理を行う。 <ul style="list-style-type: none"> システム日付の月が'1', '2', '3'の場合、システム日付の年から1を減じ、入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番9）。 システム日付の月が'1', '2', '3'以外の場合、システム日付の年を入力年度と比較する。比較の結果、入力年度（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番9）。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号= 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号= 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
7	平成：元年1月8日～	LXRED010	7	平成：元年1月8日～31年4月30日	LXRED010
—	—	—	8	和元：元年5月1日～*	LXRED041
8	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015	9	入力年度>=システム日付(年)	LXRED015

(凡例)

—：該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.37 LXPID66 (年度 (和暦) 編集)

年度 (和暦) を編集する「LXPID66 (年度 (和暦) 編集)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年度範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年度範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年度範囲チェックに加え、「和元」の和暦年度範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID66 (年度 (和暦) 編集)」のインターフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	年度 (和暦)	年度 (和暦)	I
			形式: NYY	形式: NYY	
			N: 年号	N: 年号	
			YY: 年	YY: 年	
			年号:	年号:	

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	I
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

3.4.38 LXPID67 (年度変換 (西暦→和暦) 編集)

西暦年度を和暦年度に変換し、指定された処理形式に従い編集する「LXPID67 (年度変換 (西暦→和暦) 編集)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年度範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年度範囲チェックが変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年度範囲チェックに加え、「和元」の西暦年度範囲チェックが追加になります。

3.4.39 LXPID68 (年度変換 (西暦→和暦))

西暦年度を和暦年度に変換する「LXPID68 (年度変換 (西暦→和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年度範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年度範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年度範囲チェックに加え、「和元」の西暦年度範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID68 (年度変換 (西暦→和暦))」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-NNDWA	9(3)	年度 (和暦)	年度 (和暦)	O

出力 (区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-NNDWA	9(3)	形式：NY Y	形式：NY Y	O
			N：年号	N：年号	
			YY：年	YY：年	
			年号：	年号：	
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)		(変更後)	
年号	西暦範囲	年号	西暦範囲
	和暦範囲		和暦範囲
平成	1989年1月8日～	平成	1989年1月8日～2019年4月30日
	元年1月8日～		平成：元年1月8日～31年4月30日
-	-	和元	2019年5月1日～*
	-		元年5月1日～*

(凡例)

-：該当する内容はありません。

注※

最新年号は、和暦の99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.40 LXPID69 (年度変換 (和暦→西暦))

和暦年度を西暦年度に変換する「LXPID69 (年度変換 (和暦→西暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年度範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年度範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年度範囲チェックに加え、「和元」の和暦年度範囲チェックが追加になります。

- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード（'4'または'H'）を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「*和元*」に相当する年号コード（'5'または'*W*'）を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID69（年度変換（和暦→西暦）」）のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-NNDWA	X(3)	年度（和暦）	年度（和暦）	I
			形式：NY \bar{Y}	形式：NY \bar{Y}	
			N：年号	N：年号	
			YY：年	YY：年	
			年号：	年号：	
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5： <i>和元</i>) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, <i>W</i> ： <i>和元</i>)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)		(変更後)	
入力年号	出力年月日（西暦）	入力年号	出力年月日（西暦）
'1', 'M'	年（年号除く）+ 1867	'1', 'M'	年（年号除く）+ 1867
'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911	'2', 'T'	年（年号除く）+ 1911
'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925	'3', 'S'	年（年号除く）+ 1925
'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988	'4', 'H'	年（年号除く）+ 1988
—	—	'5', ' <i>W</i> '	年（年号除く）+ 2018
その他	年（年号除く）+ 1988	その他	年（年号除く）+ 2018

(凡例)

—：該当する内容はありません。

3.4.41 LXRPID71 (年 (和暦) チェック)

年 (和暦) の妥当性をチェックする「LXRPID71 (年 (和暦) チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年範囲チェックが変更になります。
 例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。
- 「明治」～「平成」の和暦年範囲チェックに加え、「和元」の和暦年範囲チェックが追加になります。ただし、「和元」の和暦年範囲は1年～99年であるため、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W')を指定した場合はエラーが発生しません。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。
 例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H')を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W')を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID71 (年 (和暦) チェック)」のインタフェース、処理基準、および注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-YYWA	X(3)	年 (和暦)	年 (和暦)	I
			形式: NYY	形式: NYY	
			N: 年号	N: 年号	
			YY: 年	YY: 年	
			年号:	年号:	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号= 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号= 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
—	—	—	7	平成：元年～31年	LXRED010

(凡例)

—：該当する内容はありません。

(3) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=平成を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。	年号がエラーのときは、リターンコードに'LXRED002'を設定するが処理を終わらせず、年号=和元を仮定してチェックを続行する。年号以外のエラーがある場合は、そのリターンコードを返す。

3.4.42 LXPID73 (年 (和暦) 過去チェック)

システム日付と比較し、過去の年かどうかをチェックする「LXPID73 (年 (和暦) 過去チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年範囲チェックが変更になります。「平成」の和暦年範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。
- 「明治」～「平成」の和暦年範囲チェックに加え、「和元」の和暦年範囲チェックが追加になります。「和元」の和暦年範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。
例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID73 (年 (和暦) 過去チェック)」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-YYWA	X(3)	年 (和暦)	年 (和暦)	I
			形式: NYY	形式: NYY	
			N: 年号	N: 年号	
			YY: 年	YY: 年	
			年号:	年号:	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
入力年のチェックを (年 (和暦) チェック: LXRPID71) を用いて次の表の順で行う (項番 1~6)。	入力年のチェックを (年 (和暦) チェック: LXRPID71) を用いて次の表の順で行う (項番 1~7)。
システム日付を取得し, 入力年と比較する。比較の結果, 入力年 (和暦) がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに 'LXRED003' を返す (項番 7)。	システム日付を取得し, 入力年と比較する。比較の結果, 入力年 (和暦) がシステム日付よりも過去ではない場合はリターンコードに 'LXRED003' を返す (項番 8)。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
-	-	-	7	平成: 元年~31年	LXRED010
7	入力年 <= システム日付 (年)	LXRED003	8	入力年 <= システム日付 (年)	LXRED003

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

注※

「和元」は, 99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合, 「和元」の終了年月日は, 最新年号の開始年月日の前日となり, 最新年号の範囲は, 99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.43 LXRPID75 (年 (和暦) 未来チェック)

システム日付と比較し、未来の年かどうかをチェックする「LXRPID75 (年 (和暦) 未来チェック)」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年範囲チェックが変更になります。

例えば、「*和元*」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年範囲チェックが変更になります。平成」の和暦年範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED010'を設定します。なお、改元前は、リターンコードに'LXRED010'が設定されることはありません。

- 「明治」～「平成」の和暦年範囲チェックに加え、「*和元*」の和暦年範囲チェックが追加になります。「*和元*」の和暦年範囲エラー時は、リターンコードに'LXRED041'を設定します。

- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「*和元*」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID75 (年 (和暦) 未来チェック)」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-YYWA	X(3)	年 (和暦)	年 (和暦)	I
			形式: NYY	形式: NYY	
			N: 年号	N: 年号	
			YY: 年	YY: 年	
			年号:	年号:	
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: <i>和元</i>) or	
(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: <i>和元</i>)				

(2) 処理基準の変更点

(変更前)	(変更後)
入力年のチェックを（年（和暦）チェック：LXRPID71）を用いて次の表の順で行う（項番1～6）。	入力年のチェックを（年（和暦）チェック：LXRPID71）を用いて次の表の順で行う（項番1～7）。
システム日付を取得し、入力年と比較する。比較の結果、入力年（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番7）。	システム日付を取得し、入力年と比較する。比較の結果、入力年（和暦）がシステム日付よりも未来ではない場合はリターンコードに'LXRED015'を返す（項番8）。

(変更前)			(変更後)		
No.	チェック	リターンコード	No.	チェック	リターンコード
2	年号 = 1, 2, 3, 4, M, T, S, H	LXRED002	2	年号 = 1, 2, 3, 4, 5, M, T, S, H, W	LXRED002
—	—	—	7	平成：元年～31年	LXRED010
7	入力年 ≥ システム日付（年）	LXRED015	8	入力年 ≥ システム日付（年）	LXRED015

(凡例)

—：該当する内容はありません。

注※

「和元」は、99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.44 LXRPID76（年変換（西暦→和暦）編集）

西暦年を和暦年に変換し、指定された処理形式に従い編集する「LXRPID76（年変換（西暦→和暦）編集）」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年範囲チェックが変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年範囲チェックが変更になります。
- 「平成」の終了日が規定されることによって、「平成」の西暦年範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年範囲チェックに加え、「和元」の西暦年範囲チェックが追加になります。

3.4.45 LXRPID77（年変換（西暦→和暦））

西暦の年を和暦に変換する「LXRPID77（年変換（西暦→和暦））」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の西暦年範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の西暦年範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の西暦年範囲チェックに加え、「和元」の西暦年範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPID77（年変換（西暦→和暦）」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

出力（区分：OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YYWA	9(3)	年（和暦）	年（和暦）	O
			形式：NYY	形式：NYY	
			N：年号	N：年号	
			YY：年	YY：年	
			年号：	年号：	
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成)	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)		(変更後)	
年号	西暦範囲	年号	西暦範囲
	和暦範囲		和暦範囲
平成	1989年1月8日～ 元年1月8日～	平成	1989年1月8日～2019年4月30日 元年1月8日～31年4月30日
—	—	和元	2019年5月1日～* 元年5月1日～*

(凡例)

—：該当する内容はあります。

注※

最新年号は、和暦の99年12月31日に該当する日までの範囲となります。

さらに改元が起きた場合、「和元」の終了年月日は、最新年号の開始年月日の前日となり、最新年号の範囲は、99年12月31日に該当する日までとなります。

3.4.46 LXPID78 (年変換 (和暦→西暦))

和暦の年を西暦に変換する「LXPID78 (年変換 (和暦→西暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年範囲が変更になります。
例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年範囲チェックに加え、「**和元**」の和暦年範囲チェックが追加になります。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。
例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード ('4'または'H') を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「**和元**」に相当する年号コード ('5'または'W') を仮定してチェックを続行します。

次に「LXPID78 (年変換 (和暦→西暦))」のインタフェースおよび処理基準の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号:	年号:	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成) or	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元) or	
			(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成)	(M: 明治, T: 大正, S: 昭和, H: 平成, W: 和元)	

(2) 処理基準の変更点

(変更前)		(変更後)	
入力年号	出力年月日 (西暦)	入力年号	出力年月日 (西暦)
'1', 'M'	年 (年号除く) + 1867	'1', 'M'	年 (年号除く) + 1867
'2', 'T'	年 (年号除く) + 1911	'2', 'T'	年 (年号除く) + 1911
'3', 'S'	年 (年号除く) + 1925	'3', 'S'	年 (年号除く) + 1925
'4', 'H'	年 (年号除く) + 1988	'4', 'H'	年 (年号除く) + 1988
—	—	'5', 'W'	年 (年号除く) + 2018

(変更前)		(変更後)	
入力年号	出力年月日 (西暦)	入力年号	出力年月日 (西暦)
その他	年 (年号除く) + 1988	その他	年 (年号除く) + 2018

(凡例)

- : 該当する内容はありません。

3.4.47 LXPID91 (処理期限年月日算出 (和暦))

入力された締日から次の締日を和暦年月日で取得する「LXPID91 (処理期限年月日算出 (和暦))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。
例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「**和元**」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXPID91 (処理期限年月日算出 (和暦))」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	O-NNG	X(1)	年号	年号	○
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

3.4.48 LXPID93 (通算日算出 (年始～和暦年月日))

1月1日から入力した和暦年月日までの通算日を算出する「LXPID93 (通算日算出 (年始～和暦年月日))」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲チェックが変更になります。
例えば、「**和元**」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲チェックが変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。
- 年号コードが想定外の値のときは、リターンコードに'LXRED002'を設定しますが、最新年の年号コードを仮定してチェックを続行します。

例えば、新年号情報を追加していない場合、「平成」に相当する年号コード('4'または'H')を仮定してチェックを続行しますが、新年号情報を追加した場合、「和元」に相当する年号コード('5'または'W')を仮定してチェックを続行します。

次に「LXRPID93（通算日算出（年始～和暦年月日）」のインタフェースおよび注意事項の変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

(1) インタフェースの変更点

入力（区分：INPUT-PARM=I, CONSTANT=C）					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
05	I-NNG	X(1)	年号	年号	I
			(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成) or	(1：明治, 2：大正, 3：昭和, 4：平成, 5：和元) or	
			(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成)	(M：明治, T：大正, S：昭和, H：平成, W：和元)	

(2) 注意事項の変更点

(変更前)	(変更後)
サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、日数に0を返す。ただし、誤った年号に対しては、平成('4', 'H')と同様の処理を行い、リターンコードには'LXRED002'を返す。	サブルーチン呼び出しでエラーとなった場合はリターンコードをそのまま返し、日数に0を返す。ただし、誤った年号に対しては、和元('5', 'W')と同様の処理を行い、リターンコードには'LXRED002'を返す。

3.4.49 LXRP14（日時加減算（和暦12時間単位））

12時間単位の和暦日時と日時の加算または減算をする「LXRP14（日時加減算（和暦12時間単位）」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。

例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。

- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPIE14（日時加減算（和暦 12 時間単位）」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	I
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

出力 (区分: OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	O
			(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成)	(1: 明治, 2: 大正, 3: 昭和, 4: 平成, 5: 和元)	

3.4.50 LXRPIE15（日時加減算（和暦 24 時間単位））

24 時間単位の和暦日時と日時の加算または減算をする「LXRPIE15（日時加減算（和暦 24 時間単位）」の変更点は、次のとおりです。

- 新年号の開始日が規定されることによって、改元前の年号の終了日が決まり、改元前の年号の和暦年月日範囲が変更になります。
例えば、「和元」の開始日が規定されることによって、「平成」の終了日が決まるため、「平成」の和暦年月日範囲が変更になります。
- 「明治」～「平成」の和暦年月日範囲チェックに加え、「和元」の和暦年月日範囲チェックが追加になります。

次に「LXRPIE15（日時加減算（和暦 24 時間単位）」のインタフェースの変更点を示します。なお、ここでは、変更になる個所だけを示します。

入力 (区分: INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	年月日 (和暦) (NYMMDD)	I

入力 (区分 : INPUT-PARM=I, CONSTANT=C)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	I-YMDWA	9(7)	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成)	(1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成, 5 : 和元)	I

出力 (区分 : OUTPUT-PARM=O, RTN-CODE=R)					
レベル	項目名	属性	説明および設定値		区分
			(変更前)	(変更後)	
03	O-YMDWA	9(7)	年月日 (和暦) (NYMMDD) (1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成)	年月日 (和暦) (NYMMDD) (1 : 明治, 2 : 大正, 3 : 昭和, 4 : 平成, 5 : 和元)	O

3.5 新年号情報に設定変更した場合に影響があるリターンコード

新年号情報に設定変更した場合に影響があるリターンコードを次に示します。

3.5.1 新年号情報に設定変更した場合に追加および変更になるリターンコード

新年号情報に設定変更した場合に追加および変更になるリターンコードを次に示します。

(1) 追加になるリターンコード

表 3-17 新年号情報に設定変更した場合に追加になるリターンコード

リターンコード	意味	説明
LXRED041	新年号（年号コード（数字）が'5'）の年月日入力範囲に誤りがある。	新年号（年号コード（数字）が'5'）の範囲外の年月日を入力している。
LXRED042	新年号（年号コード（数字）が'6'）の年月日入力範囲に誤りがある。	新年号（年号コード（数字）が'6'）の範囲外の年月日を入力している。
LXRED043	新年号（年号コード（数字）が'7'）の年月日入力範囲に誤りがある。	新年号（年号コード（数字）が'7'）の範囲外の年月日を入力している。

(2) 変更になるリターンコード

表 3-18 新年号情報に設定変更した場合に変更になるリターンコード

リターンコード	意味	説明	
		変更前	変更後
LXRED002	年号コードの指定に誤りがある。	和暦サブルーチンの入力年号コードに'1', '2', '3', '4'/'M', 'T', 'S', 'H'以外を入力している。	和暦サブルーチンの入力年号コードに'1', '2', '3', '4', '5'/'M', 'T', 'S', 'H', 'W'*以外を入力している。
LXRED010	平成の和暦年月日入力範囲に誤りがある。	平成元年1月1日～平成元年1月7日を入力している。	平成元年1月1日～平成元年1月7日、および平成31年5月1日～平成99年12月31日を入力している。
LXRED011	西暦→和暦変換時の西暦日付許容範囲外を指定している。	～1868年9月7日または2088年1月1日～を指定している。	～1868年9月7日または2118年1月1日～を指定している。
LXRED014	年号コードの指定に誤りがある。	和暦サブルーチンの入力年号コードに'1', '2', '3', '4'/'M', 'T', 'S', 'H'以外を入力している。	和暦サブルーチンの入力年号コードに'1', '2', '3', '4', '5'/'M', 'T', 'S', 'H', 'W'*以外を入力している。

注※

ここでは新年号を「*和元*」（年号コード（英字）は'*W*'）と仮定して説明します。新年号が決定した時点で、斜体の文字の部分で新年号（年号コード（英字）も同様）に置き換えてください。

3.5.2 情報設定ファイルに起因するエラーリターンコード

情報設定ファイルのアクセスに失敗した場合や情報設定ファイルの内容が誤っている場合などに返されるエラーリターンコードを次に示します。

なお、情報設定ファイルに起因するエラーリターンコードを返す標準サブルーチンについては、「[3.3 設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンの一覧](#)」を参照してください。

表 3-19 情報設定ファイルに起因するエラーリターンコード

エラーリターンコード	意味	説明
LXRED051	情報設定ファイルの読み取りに失敗した。	<ul style="list-style-type: none">情報設定ファイルが指定ディレクトリパスに存在しない。ファイルのアクセスに失敗した。
LXRED052	情報設定ファイルの内容に誤りがある。	ファイルのフォーマットが誤っている（内容が妥当でない、指定した和暦開始日が実在しないなど）。

付録

付録 A EUC 対応版の仕様

EUC (Extended Unix Code) 対応版の標準サブルーチンでは、文字列に対するチェックおよび編集を EUC のコード体系に基づいて行います。このため、SJIS 対応版と出力結果が異なることがあります。

また、EUC では半角カナを 2 バイトで表現するため、半角カナを含む文字列を取り扱う場合には注意が必要です。詳細は、マニュアル「COBOL2002 言語 標準仕様編」および「COBOL2002 言語 拡張仕様編」を参照してください。

EUC 対応版の標準サブルーチンの仕様について、次に示します。

付録 A.1 SJIS 対応版との処理の違い

(1) 文字コードチェックの違い

次の表に示すサブルーチンでは、EUC のコード体系でチェックを行います。

表 A-1 文字コードチェックの範囲

サブルーチン ID	サブルーチン名	SJIS	EUC	KEIS
LXRPIA01	文字コードチェック	(20~7E) (A1~DF)	(20~7E) (8E : A1~DF)	—
LXRPIB01	漢字コードチェック (漢字)	(81~9F : 40~FC) (E0~EF : 40~FC)	(A1~FE : 21~7E) (A1~FE : A1~FE)	(A1~FE : A1~FE)
LXRPIB02	漢字コードチェック (含外字)	(81~9F : 40~FC) (E0~EF : 40~FC) (F0~FC : 40~7E) (F0~FC : 80~FC)	(A1~FE : 21~7E) (A1~FE : A1~FE)	(A1~FE : A1~FE) (41~A0 : A1~FE)

(凡例)

(上位 1 バイトの範囲 : 下位 1 バイトの範囲) で示しています。

(2) 半角カナ文字の違い

半角文字列を扱うサブルーチンで、文字列の長さを指定する場合の単位はバイト数です。このため、表 A-2 に示すサブルーチンで入力文字列中に半角カナ文字を含む場合は、半角カナ 1 文字につき 2 バイトとして長さを指定してください。同様に、表 A-3 が示すサブルーチンでは、半角カナ 1 文字につき 2 バイトとして長さを出力します。

これによって、SJIS 対応版と処理結果が異なる場合があります。

表 A-2 長さを入力するサブルーチン

サブルーチン ID	サブルーチン名	長さを指定する項目
LXRPIA05	文字列シフト	I-SHFT-LENG
LXRPIA06	文字列左詰め	I-LENG
LXRPIA07	文字列右詰め	I-LENG
LXRPIA08	文字列中央揃え	I-LENG
LXRPIA13	文字列前後反転	I-LENG
LXRPIA14	指定文字削除	I-LENG I-DEL-LENG
LXRPIA15	空白削除	I-LENG
LXRPIA16	不要空白削除	I-LENG
LXRPIA17	第 1 文字列取得	I-LENG
LXRPIA19	文字列交互挿入	I-1ST-LENG I-2ND-LENG
LXRPIA28	文字列切断	I-LENG
LXRPIC01	半角→全角変換	I-LENG

表 A-3 長さを出力するサブルーチン

サブルーチン ID	サブルーチン名	長さが返される項目
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	O-LENG
LXRPIA17	第 1 文字列取得	O-LENG

EUC 対応版と SJIS 対応版で処理が異なる例を次に示します。

(例 1) 文字列シフト (LXRPIA05)

入力文字列		出力文字列
'アウヱ'		'ウヱ' (SJIS対応版)
シフトする文字列	→	'ウヱ' (EUC対応版)
-2		

(例 2) 文字列右詰め (LXRPIA07)

入力文字列	出力文字列	
'アウ△△カキ'	'△△△アウ△△カキ'	(SJIS対応版)
	→ 'ウ△△カキ'	(EUC対応版)
出力フィールドの長さ	リターンコード	
12	SPACE	(SJIS対応版)
	'LXREA018'	(EUC対応版)

(例 3) 文字列有効桁数算出 (LXRPIA09)

入力文字列	有効桁数	
'△△アウ△△カキ△△'	→ 11	(SJIS対応版)
	18	(EUC対応版)

付録 A.2 インタフェーステーブルの変更

次の表に示すサブルーチンでは、インタフェーステーブルの項目のうち半角カナ文字専用のものについては、項目長を 2 倍に拡張しています。

表 A-4 インタフェーステーブルを変更したサブルーチン

サブルーチン ID	サブルーチン名	項目名	SJIS 対応版の属性	EUC 対応版の属性
LXRPID35	曜日コードチェック／編集	O-YB-KN	X(3)	X(6)
LXRPIF02	氏名 (半角カナ) チェック	I-SHMKN O-SHMKN	X(20) X(20)	X(40) X(40)
LXRPIF04	氏名 (半角カナ) 分離編集	I-SHMKN O-SHKN O-NMKN	X(20) X(20) X(20)	X(40) X(40) X(40)
LXRPIF06	氏名 (半角カナ) 結合編集	I-SHKN I-NMKN O-SHMKN	X(20) X(20) X(20)	X(40) X(40) X(40)
LXRPIG02	学歴区分コードチェック／変換	O-GRKBN- NMKN	X(30)	X(60)
LXRPIG04	地目コードチェック／変換	O-CTGL-NMKN	X(30)	X(60)
LXRPIG10	都道府県コードチェック／変換	O-TDFK-NMKN	X(10)	X(20)

付録 A.3 注意事項

(1) 文字列前後反転 (LXRPIA13)

文字列は文字単位で反転します（半角カナ文字の上位バイト，下位バイトは反転しません）。

(2) 全角→半角変換 (LXRPIC02)

編集結果が出力文字列に入りきらない場合，リターンコードに'LXREC009'を返し，超えた分を切り捨てて出力します。

付録 B Unicode 対応版の仕様

Unicode 対応版の標準サブルーチンでは、文字列に対するチェックおよび編集を Unicode のコード体系に基づいて行います。このため、SJIS 対応版と出力結果が異なることがあります。

また、Unicode(UTF-8)では半角カナを 3 バイトで表現するため、半角カナを含む文字列を取り扱う場合には注意が必要です。詳細は、マニュアル「COBOL2002 ユーザーズガイド」を参照してください。

Unicode 対応版の標準サブルーチンの仕様について、次に示します。

付録 B.1 SJIS 対応版との処理の違い

(1) X, N タイプインタフェースの符号化方式

インタフェース項目のうち属性が X, および N タイプのものについては、次の表に示す符号化方式でエンコードして使用してください。それ以外の符号化方式として扱った場合の動作は保証しません。

表 B-1 属性別の符号化方式

属性	符号化方式	備考
X タイプ	UTF-8	ASCII は 1 バイト/文字 それ以外は可変
N タイプ	UTF-16	2 バイト/文字, または 4 バイト/文字

(2) 文字コードチェックの違い

次の表に示すサブルーチンでは、Unicode 体系でチェックを行います。

表 B-2 文字コードチェックの範囲

サブルーチン ID	サブルーチン名	SJIS	Unicode
LXRPIA01	文字コードチェック	(20~7E) (A1~DF)	(20~7E) (EFBDA1~EFBDBF) (EFBE80~EFBE9F)
LXRPIB01	漢字コードチェック (漢字)	(81~9F: 40~FC) (E0~EF: 40~FC)	JIS X 0213:2004 で定義された 11233 文字。ASCII(U+0020~ U+007E)および半角カナ(U +FF61~U+FF9F)は含まれませ ん。
LXRPIB02	漢字コードチェック (含外字)	(81~9F: 40~FC) (E0~EF: 40~FC)	LXRPIB01 の範囲に UCS-2 にお ける私用領域(U+E000~U

サブルーチン ID	サブルーチン名	SJIS	Unicode
LXRPIB02	漢字コードチェック (含外字)	(F0~FC:40~7E) (F0~FC:80~FC)	+F8FF)と第 15 面および第 16 面 を加えた範囲

(凡例)

(上位 1 バイトの範囲：下位 1 バイトの範囲) を示しています。

(3) 半角カナ文字の違い

半角文字列を扱うサブルーチンで、文字列の長さを指定する場合の単位はバイト数です。このため表 B-3 に示すサブルーチンで入力文字列中に半角カナ文字を含む場合は、半角カナ 1 文字につき 3 バイトとして長さを指定してください。同様に、表 B-4 に示すサブルーチンでは、半角カナ 1 文字につき 3 バイトとして長さを出力します。

これによって、SJIS 対応版と処理結果が異なる場合があります。

表 B-3 長さを入力するサブルーチン

サブルーチン ID	サブルーチン名	長さを指定する項目
LXRPIA05	文字列シフト	I-SHFT-LENG
LXRPIA06	文字列左詰め	I-LENG
LXRPIA07	文字列右詰め	I-LENG
LXRPIA08	文字列中央揃え	I-LENG
LXRPIA13	文字列前後反転	I-LENG
LXRPIA14	指定文字削除	I-LENG, I-DEL-LENG
LXRPIA15	空白削除	I-LENG
LXRPIA16	不要空白削除	I-LENG
LXRPIA17	第 1 文字列取得	I-LENG
LXRPIA19	文字列交互挿入	I-1ST-LENG, I-2ND-LENG
LXRPIA28	文字列切断	I-LENG
LXRPIA01	半角→全角変換	I-LENG

表 B-4 長さを出力するサブルーチン

サブルーチン ID	サブルーチン名	長さが返される項目
LXRPIA09	文字列有効桁数算出	O-LENG
LXRPIA17	第 1 文字列取得	O-LENG

Unicode 対応版と SJIS 対応版で処理が異なる例を次に示します。

(例 1) 文字列シフト (LXRPIA05)

入力文字列		出力文字列	
'アイオ'		'イ'	(SJIS対応版)
シフトする文字列	→	'イオ'	(Unicode対応版)
-3			

(例 2) 文字列右詰め (LXRPIA07)

入力文字列		出力文字列	
'アイ△イ△オ'		'△△△△アイ△イ△オ'	(SJIS対応版)
	→	'イ△オ'	(Unicode対応版)
出力フィールドの長さ		リターンコード	
13		SPACE	(SJIS対応版)
		'LXREA018'	(Unicode対応版)

(例 3) 文字列有効桁数算出 (LXRPIA09)

入力文字列		有効桁数	
'△△アイ△イ△オ△△'	→	11	(SJIS対応版)
		25	(Unicode対応版)

付録 B.2 インタフェーステーブルの変更

次の表に示すサブルーチンでは、インタフェーステーブルの項目のうち半角カナ文字専用のものについては、項目長を3倍に拡張しています。

表 B-5 インタフェーステーブルを変更したサブルーチン

項番	サブルーチン ID	サブルーチン名	項目名	SJIS 対応版の属性	Unicode 対応版の属性
1	LXRPID35	曜日コードチェック／編集	O-YB-KN	X(3)	X(9)
2	LXRPIF02	氏名 (半角カナ) チェック	I-SHMKN O-SHMKN	X(20) X(20)	X(60) X(60)
3	LXRPIF04	氏名 (半角カナ) 分離編集	I-SHMKN O-SHKN O-NMKN	X(20) X(20) X(20)	X(60) X(60) X(60)
4	LXRPIF06	氏名 (半角カナ) 結合編集	I-SHKN I-NMKN O-SHMKN	X(20) X(20) X(20)	X(60) X(60) X(60)
5	LXRPIG02	学歴区分コードチェック／変換	O-GRKBN- NMKN	X(30)	X(90)

項番	サブルーチン ID	サブルーチン名	項目名	SJIS 対応版の属性	Unicode 対応版の属性
6	LXRPIG04	地目コードチェック／変換	O-CTGL-NMKN	X(30)	X(90)
7	LXRPIG10	都道府県コードチェック／変換	O-TDFK-NMKN	X(10)	X(30)

付録 B.3 注意事項

(1) 文字列前後反転 (LXRPIA13)

文字列は文字単位で反転します（半角カナ文字内のバイトの並びは反転しません）。

(2) 全角→半角変換 (LXRPIA02)

編集結果が出力文字列に入りきらない場合、リターンコードに'LXREC009'を返し、超えた分を切り捨てて出力します。

付録 C 祝祭日・休日の有効期間

付録 C.1 祝祭日・休日

各祝祭日・休日は、2019年5月1日に施行の「国民の祝日に関する法律」および2018年6月20日施行の「平成三十二年東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会特別措置法」に基づくものとし、その有効期間は次の表のとおりとします。

表 C-1 祝祭日・休日の有効期間

日付	種別	有効期間
1月1日	元日	1949年(昭和24年)～
1月15日	成人の日	1949年(昭和24年)～ 1999年(平成11年)
1月第2月曜日		2000年(平成12年)～
2月11日	建国記念の日	1949年(昭和24年)～
2月23日	天皇誕生日	2020年～
春分日	春分の日	1949年(昭和24年)～
4月29日	天皇誕生日	1949年(昭和24年)～ 1988年(昭和63年)
	みどりの日	1989年(平成元年)～ 2006年(平成18年)
	昭和の日	2007年(平成19年)～
5月3日	憲法記念日	1949年(昭和24年)～
5月4日	国民の休日	1986年(昭和61年)～ 2006年(平成18年)
	みどりの日	2007年(平成19年)～
5月5日	こどもの日	1949年(昭和24年)～
7月20日	海の日	1996年(平成8年)～ 2002年(平成14年)
7月第3月曜日		2003年(平成15年)～2019年 2021年～
7月23日		2020年
7月24日	スポーツの日	2020年
8月10日	山の日	2020年
8月11日		2016年(平成28年)～2019年

日付	種別	有効期間
8月11日	山の日	2021年～
9月15日	敬老の日	1966年(昭和41年)～ 2002年(平成14年)
9月第3月曜日		2003年(平成15年)～
秋分日	秋分の日	1948年(昭和23年)～
10月10日	体育の日	1966年(昭和41年)～ 1999年(平成11年)
10月第2月曜日		2000年(平成12年)～2019年
10月第2月曜日	スポーツの日	2021年～
11月3日	文化の日	1948年(昭和23年)～
11月23日	勤労感謝の日	1948年(昭和23年)～
12月23日	天皇誕生日	1989年(平成元年)～ 2018年(平成30年)
—	振替休日	1973年(昭和48年) 4月12日～

- ・上記一覧表の「振替休日」は、「国民の祝日に関する法律」の第3条第2項の定義に準じます。「国民の休日」については、第3条第3項の定義に準じます。
- ・上記一覧表のうち、振替休日を除く日については祝祭日区分（O-FEST-KBN）として祝祭日（'1'）を返します。1986年～2006年における5月4日の「国民の休日」についても、日曜日や5月3日の「憲法記念日」の振替休日であっても祝祭日として判定します。
- ・振替休日については祝祭日区分（O-FEST-KBN）として休日（'2'）を返します。

付録 C.2 春分の日・秋分の日

「春分の日」・「秋分の日」については、毎年2月の官報で正式決定されますが、このサブルーチンでは計算から算出した仮の値を保持しています。保持している値はそれぞれ表 C-2、表 C-3 のとおりです。

表 C-2 サブルーチンが保持する春分の日

—	19490321	19500321	19510321	19520321	19530321
19540321	19550321	19560321	19570321	19580321	19590321
19600320	19610321	19620321	19630321	19640320	19650321
19660321	19670321	19680320	19690321	19700321	19710321
19720320	19730321	19740321	19750321	19760320	19770321
19780321	19790321	19800320	19810321	19820321	19830321

19840320	19850321	19860321	19870321	19880320	19890321
19900321	19910321	19920320	19930320	19940321	19950321
19960320	19970320	19980321	19990321	20000320	20010320
20020321	20030321	20040320	20050320	20060321	20070321
20080320	20090320	20100321	20110321	20120320	20130320
20140321	20150321	20160320	20170320	20180321	20190321
20200320	20210320	20220321	20230321	20240320	20250320
20260320	20270321	20280320	20290320	20300320	20310321
20320320	20330320	20340320	20350321	20360320	20370320
20380320	20390321	20400320	20410320	20420320	20430321
20440320	20450320	20460320	20470321	20480320	20490320
20500320	20510321	20520320	20530320	20540320	20550321
20560320	20570320	20580320	20590320	20600320	20610320
20620320	20630320	20640320	20650320	20660320	20670320
20680320	20690320	20700320	20710320	20720320	20730320
20740320	20750320	20760320	20770320	20780320	20790320
20800320	20810320	20820320	20830320	20840320	20850320
20860320	20870320	20880320	20890320	20900320	20910320
20920319	20930320	20940320	20950320	20960319	20970320
20980320	20990320	21000320	—	—	—

表 C-3 サブルーチンが保持する秋分の日

19480923	19490923	19500923	19510924	19520923	19530923
19540923	19550924	19560923	19570923	19580923	19590924
19600923	19610923	19620923	19630924	19640923	19650923
19660923	19670924	19680923	19690923	19700923	19710924
19720923	19730923	19740923	19750924	19760923	19770923
19780923	19790924	19800923	19810923	19820923	19830923
19840923	19850923	19860923	19870923	19880923	19890923
19900923	19910923	19920923	19930923	19940923	19950923
19960923	19970923	19980923	19990923	20000923	20010923
20020923	20030923	20040923	20050923	20060923	20070923

20080923	20090923	20100923	20110923	20120922	20130923
20140923	20150923	20160922	20170923	20180923	20190923
20200922	20210923	20220923	20230923	20240922	20250923
20260923	20270923	20280922	20290923	20300923	20310923
20320922	20330923	20340923	20350923	20360922	20370923
20380923	20390923	20400922	20410923	20420923	20430923
20440922	20450922	20460923	20470923	20480922	20490922
20500923	20510923	20520922	20530922	20540923	20550923
20560922	20570922	20580923	20590923	20600922	20610922
20620923	20630923	20640922	20650922	20660923	20670923
20680922	20690922	20700923	20710923	20720922	20730922
20740923	20750923	20760922	20770922	20780922	20790923
20800922	20810922	20820922	20830923	20840922	20850922
20860922	20870923	20880922	20890922	20900922	20910923
20920922	20930922	20940922	20950923	20960922	20970922
20980922	20990923	21000923	—	—	—

付録 C.3 国民の休日

「国民の休日」に関しては、この Ver 完成時点では祝日と公布されていない秋分の日が関連して休日となる見込みの場合も、表 C-3 で示した秋分の日に基づいて休日として判定します。9月の「国民の休日」として見込まれる日は次の表に示すとおりで、祝祭日区分（O-FEST-KBN）として休日（'2'）を返します。

表 C-4 9月の「国民の休日」

20090922	20150922	20260922	20320921	20370922	20430922
20490921	20540922	20600921	20710922	20770921	20880921
20940921	20990922	—	—	—	—

付録 C.4 山の日

「山の日」に関しては、毎年8月11日となります。「山の日」として見込まれる日は次の表に示すとおりで、祝祭日区分（O-FEST-KBN）として祝休日（'1'）を返します。

表 C-5 「山の日」

20160811	20170811	20180811	20190811 (20190812) ※	20200810	20210811
20220811	20230811	20240811 (20240812) ※	20250811	20260811	20270811
20280811	20290811	20300811 (20300812) ※	20310811	20320811	20330811
20340811	20350811	20360811	20370811	20380811	20390811
20400811	20410811 (20410812) ※	20420811	20430811	20440811	20450811
20460811	20470811 (20470812) ※	20480811	20490811	20500811	20510811
20520811 (20520812) ※	20530811	20540811	20550811	20560811	20570811
20580811 (20580812) ※	20590811	20600811	20610811	20620811	20630811
20640811	20650811	20660811	20670811	20680811	20690811 (2069081) ※
20700811	20710811	20720811	20730811	20740811	20750811 (20750812) ※
20760811	20770811	20780811	20790811	20800811 (20800812) ※	20810811
20820811	20830811	20840811	20850811	20860811 (20860812) ※	20870811
20880811	20890811	20900811	20910811	20920811	20930811
20940811	20950811	20960811	20970811 (20970812) ※	20980811	20990811
21000811	—	—	—	—	—

注※

() 内は振替休日を示しています。

付録 C.5 そのほかの休日

次の表に示す日については、休日とします。

表 C-6 そのほかの休日

日付	もとなる法律
1959年(昭和34年)4月10日	皇太子明仁親王の結婚の儀の行われる日を休日とする法律
1989年(平成元年)2月24日	昭和天皇の大喪の礼の行われる日を休日とする法律
1990年(平成2年)11月12日	即位礼正殿の儀の行われる日を休日とする法律
1993年(平成5年)6月9日	皇太子徳仁親王の結婚の儀の行われる日を休日とする法律

付録 D 一部製品に含まれる旧仕様ライブラリ

AIX (32 ビットモード) 用標準サブルーチン製品に含まれる一部ライブラリでは、サブルーチン LXRPID88 (システム日付取得変換 (8 桁)) で、現在西暦年を 2 桁で取得し、取得値により 4 桁の西暦年に変換しています。

実際には西暦年が 92 以上では 1900 年代、91 以下では 2000 年代として扱うため、2092 年では誤って 1992 年として処理します。

これらのライブラリを使用している場合は同じ格納場所に含まれる移行先ライブラリへの変更をご検討をお願いします。

付録 D.1 各製品に含まれる旧仕様ライブラリ

表 D-1 AIX (32 ビットモード) 用標準サブルーチン製品の旧仕様ライブラリ

旧仕様ライブラリ	スレッド種別 格納場所	文字コード形式	ライブラリ形式	移行先ライブラリ
libLx.a	シングルスレッド対応 /opt/SEWB3/lib	SJIS 対応版	アーカイブ形式	libLx2000.a
libLx_sh.a			共用ライブラリ形式	libLx2000_sh.a
libLxeuc.a	マルチスレッド対応 /opt/SEWB3/ mthread/lib	EUC 対応版	アーカイブ形式	libLxeuc2000.a
libLxeuc_sh.a			共用ライブラリ形式	libLxeuc2000_sh.a

付録 D.2 現在システム日付を扱うサブルーチン一覧

表 D-2 現在システム日付を扱うサブルーチン一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	サブルーチン ID	サブルーチン名
LXRPID41	年月日 (西暦) 過去チェック	LXRPID63	年度 (西暦) 未来チェック
LXRPID42	年月日 (和暦) 過去チェック	LXRPID64	年度 (和暦) 未来チェック
LXRPID43	年月日 (西暦) 未来チェック	LXRPID72	年 (西暦) 過去チェック
LXRPID44	年月日 (和暦) 未来チェック	LXRPID73	年 (和暦) 過去チェック
LXRPID50	年月 (西暦) 過去チェック	LXRPID74	年 (西暦) 未来チェック
LXRPID51	年月 (和暦) 過去チェック	LXRPID75	年 (和暦) 未来チェック
LXRPID52	年月 (西暦) 未来チェック	LXRPID88	システム日付取得変換 (8 桁)
LXRPID53	年月 (和暦) 未来チェック	LXRPID90	処理期限年月日算出 (西暦)
LXRPID61	年度 (西暦) 過去チェック	LXRPID91	処理期限年月日算出 (和暦)

サブルーチン ID	サブルーチン名	サブルーチン ID	サブルーチン名
LXRPID62	年度（和暦）過去チェック		

付録 E ファイルおよびエラーコード追加

表 E-1 の形名・VRS 以降の製品では、インストールディレクトリにディレクトリとファイルを追加しています。

本ディレクトリおよびファイル（以下「情報設定ファイル」と記載）は標準サブルーチンの動作上必須ですので、削除したり更新したりしないようにお願いします。

情報設定ファイルにアクセスできない場合は一部のサブルーチンで「LXRED051」、誤って不当に更新した場合は一部のサブルーチンで「LXRED052」をそれぞれリターンコードとして返却するか、サブルーチンが不当な出力結果となり、正常な出力が行えません。

表 E-1 製品への追加ディレクトリと追加ファイル（情報設定ファイル）

形名	VRS	インストールディレクトリ	追加ディレクトリ	追加ファイル
P-2451-F244 P-2651-F244 P-2951-F244	0402～	標準では <システムドライブ>:\Program Files\Hitachi\SEWB+STD_SUB	¥CONF¥	adsubinf.txt
P-2951-F144	0403～			
P-1M51-FC31	0301～	/opt/SEWB3	/conf/	
P-1M51-FD31	0302～	/opt/SEWB64	/conf/	
P-9W51-FD31	0301～	/opt/SEWB64	/conf/	

表 E-2 追加されるエラーコード

エラーコード	意味
LXRED051	情報設定ファイルの読み取りに失敗した
LXRED052	情報設定ファイルの内容に誤りがある

表 E-3 エラーコード追加対象サブルーチン一覧

サブルーチン ID	サブルーチン名	サブルーチン ID	サブルーチン名
LXRPID02	実在日チェック（和暦）	LXRPID47	年月日変換（西暦→和暦）編集
LXRPID04	年月日範囲内チェック（和暦）	LXRPID49	年月（和暦）チェック
LXRPID05	年月日変換（西暦→和暦）	LXRPID51	年月（和暦）過去チェック
LXRPID06	年月日変換（和暦→西暦）	LXRPID53	年月（和暦）未来チェック
LXRPID08	年月日算出（和暦年月日±年数）	LXRPID55	年月（和暦）編集
LXRPID10	年月日算出（和暦年月日±月数）	LXRPID56	年月変換（西暦→和暦）編集
LXRPID12	年月日算出（和暦年月日±日数）	LXRPID57	年月変換（西暦→和暦）
LXRPID14	期間算出（和暦年月日間日数）	LXRPID58	年月変換（和暦→西暦）

サブブルーチン ID	サブブルーチン名	サブブルーチン ID	サブブルーチン名
LXRPID16	期間算出 (和暦年月日間年月日)	LXRPID60	年度 (和暦) チェック
LXRPID18	月末日算出 (和暦年月日)	LXRPID62	年度 (和暦) 過去チェック
LXRPID20	通算週算出 (年始～和暦年月日)	LXRPID64	年度 (和暦) 未来チェック
LXRPID21	年月日分類 (西暦)	LXRPID66	年度 (和暦) 編集
LXRPID22	年月日分類 (和暦)	LXRPID67	年度変換 (西暦→和暦) 編集
LXRPID24	年月日出力編集 (和暦)	LXRPID68	年度変換 (西暦→和暦)
LXRPID26	うるう年判定 (和暦)	LXRPID69	年度変換 (和暦→西暦)
LXRPID28	年月日 (和暦) →一貫日変換	LXRPID71	年 (和暦) チェック
LXRPID30	一貫日→年月日 (和暦) 変換	LXRPID73	年 (和暦) 過去チェック
LXRPID32	日数算出 (和暦年月日～月末日)	LXRPID75	年 (和暦) 未来チェック
LXRPID34	年月日 (和暦) →曜日算出	LXRPID76	年変換 (西暦→和暦) 編集
LXRPID36	年号コードチェック/編集	LXRPID77	年変換 (西暦→和暦)
LXRPID37	年号コード変換 (英字→数字)	LXRPID78	年変換 (和暦→西暦)
LXRPID38	年号コード変換 (数字→英字)	LXRPID91	処理期限年月日算出 (和暦)
LXRPID42	年月日 (和暦) 過去チェック	LXRPID93	通算日算出 (年始～和暦年月日)
LXRPID44	年月日 (和暦) 未来チェック	LXRPID14	日時加減算 (和暦 12 時間単位)
LXRPID46	年月日 (和暦) 編集	LXRPID15	日時加減算 (和暦 24 時間単位)

付録 F このマニュアルの参考情報

このマニュアルを読むに当たっての参考情報を示します。

付録 F.1 関連マニュアル

関連マニュアルを次に示します。必要に応じてお読みください。

- COBOL2002 操作入門 (3020-3-D46)
- COBOL2002 操作ガイド (3020-3-D41)
- COBOL2002 言語 標準仕様編 (3020-3-D44)
- COBOL2002 言語 拡張仕様編 (3020-3-D45)
- COBOL2002 操作ガイド (3020-3-D47)
- COBOL2002 ユーザーズガイド (3020-3-D48)
- COBOL2002 操作ガイド (3020-3-D61)
- COBOL2002 ユーザーズガイド (3020-3-D62)
- COBOL2002 使用の手引 手引編 (3000-3-D42)
- COBOL2002 使用の手引 手引編 (3000-3-D08)
- COBOL2002 ユーザーズガイド (3021-3-600)
- COBOL2002 操作ガイド (3021-3-601)
- COBOL2002 使用の手引 手引編 (3021-3-602)
- COBOL2002 言語 標準仕様編 (3021-3-604)
- COBOL2002 言語 拡張仕様編 (3021-3-605)

付録 F.2 このマニュアルでの表記

このマニュアルでは、製品名を次のように表記しています。

表記	製品名
AIX※	AIX 7.2
	AIX 7.1
	AIX 6.1
	AIX 5L V5.3
COBOL2002 または COBOL	COBOL2002 Net Client Suite

表記			製品名
COBOL2002 または COBOL			COBOL2002 Net Client Runtime
			COBOL2002 Net Developer
			COBOL2002 Net Server Suite
			COBOL2002 Net Server Runtime
Linux (EM64T)	RHEL (EM64T)	RHEL 7 (EM64T)	Red Hat Enterprise Linux Server 7 (64-bit x86_64)
		RHEL 6 (EM64T)	Red Hat Enterprise Linux Server 6 (64-bit x86_64)
		RHEL 5 AP (EM64T)	Red Hat Enterprise Linux 5 Advanced Platform (AMD/Intel 64)
		RHEL 5 (EM64T)	Red Hat Enterprise Linux 5 (AMD/Intel 64)

注※

32 ビットモード，64 ビットモードの両方を示します。区別が必要な場合，AIX（32 ビットモード）のように表記します。

付録 F.3 KB（キロバイト）などの単位表記について

1KB（キロバイト），1MB（メガバイト），1GB（ギガバイト），1TB（テラバイト）はそれぞれ 1,024 バイト，1,024² バイト，1,024³ バイト，1,024⁴ バイトです。

索引

数字

- 12 時間単位→24 時間単位時刻変換 339
- 16 進文字列→バイナリ変換 150
- 24 時間単位→12 時間単位時刻変換 337
- 2 進文字列→バイナリ変換 153

A

- AIX 用標準サブルーチンの適用方法 24

C

- COBOL 外部サブルーチン 17

E

- EBCDIK/KEIS 混在文字列出力編集 84
- EBCDIK→JIS 変換 142
- EUC 17
- EUC 対応版の仕様 524

J

- JIS 漢字→KEIS 変換 146
- JIS→EBCDIK 変換 144

K

- KEIS 17
- KEIS78→KEIS83 変換 157
- KEIS83→KEIS78 変換 155
- KEIS→JIS 漢字変換 148

L

- Linux(EM64T)用標準サブルーチンの適用方法 28
- LXRPIA01 52
- LXRPIA03 54
- LXRPIA05 56
- LXRPIA06 58
- LXRPIA07 60
- LXRPIA08 62
- LXRPIA09 64

- LXRPIA10 66
- LXRPIA11 68
- LXRPIA12 70
- LXRPIA13 72
- LXRPIA14 74
- LXRPIA15 76
- LXRPIA16 78
- LXRPIA17 80
- LXRPIA19 82
- LXRPIA20 84
- LXRPIA21 86
- LXRPIA22 88
- LXRPIA23 90
- LXRPIA24 92
- LXRPIA25 94
- LXRPIA26 96
- LXRPIA27 99
- LXRPIA28 103
- LXRPIB01 105
- LXRPIB02 107
- LXRPIB03 109
- LXRPIB04 111
- LXRPIB05 113
- LXRPIB06 115
- LXRPIB07 117
- LXRPIB08 119
- LXRPIB09 121
- LXRPIB10 123
- LXRPIB11 125
- LXRPIB12 127
- LXRPIB13 129
- LXRPIB14 131
- LXRPIB15 133
- LXRPIB16 135
- LXRPIC01 137
- LXRPIC02 140
- LXRPIC03 142

LXPIC04	144	LXPID31	218
LXPIC05	146	LXPID32	220, 484
LXPIC06	148	LXPID33	222
LXPIC07	150	LXPID34	223, 484
LXPIC08	152	LXPID35	225
LXPIC09	153	LXPID36	227, 485
LXPIC10	154	LXPID37	229, 486
LXPIC11	155	LXPID38	231, 488
LXPIC12	157	LXPID39	233
LXPID01	159	LXPID40	235
LXPID02	161, 466	LXPID41	237
LXPID03	163	LXPID42	239, 490
LXPID04	165, 468	LXPID43	242
LXPID05	167, 469	LXPID44	244, 491
LXPID06	170, 471	LXPID45	247
LXPID07	172	LXPID46	249, 492
LXPID08	174, 473	LXPID47	252, 493
LXPID09	176	LXPID48	254
LXPID10	178, 474	LXPID49	256, 493
LXPID11	180	LXPID50	258
LXPID12	182, 475	LXPID51	260, 495
LXPID13	184	LXPID52	262
LXPID14	186, 476	LXPID53	264, 496
LXPID15	188	LXPID54	266
LXPID16	190, 477	LXPID55	268, 498
LXPID17	192	LXPID56	270, 498
LXPID18	193, 477	LXPID57	272, 499
LXPID19	195	LXPID58	274, 500
LXPID20	196, 478	LXPID59	276
LXPID21	198, 479	LXPID60	278, 501
LXPID22	200, 479	LXPID61	280
LXPID23	202	LXPID62	282, 502
LXPID24	204, 480	LXPID63	284
LXPID25	206	LXPID64	286, 504
LXPID26	208, 481	LXPID65	288
LXPID27	210	LXPID66	290, 506
LXPID28	212, 481	LXPID67	293, 507
LXPID29	214	LXPID68	295, 507
LXPID30	216, 483	LXPID69	297, 508

LXRPID70 299
LXRPID71 301, 510
LXRPID72 303
LXRPID73 305, 511
LXRPID74 307
LXRPID75 309, 513
LXRPID76 311, 514
LXRPID77 313, 514
LXRPID78 315, 516
LXRPID80 317
LXRPID81 318
LXRPID88 319
LXRPID90 321
LXRPID91 323, 517
LXRPID92 325
LXRPID93 327, 517
LXRPID94 329
LXRPID95 331
LXRPIE01 333
LXRPIE02 335
LXRPIE05 337
LXRPIE06 339
LXRPIE07 341
LXRPIE08 343
LXRPIE09 345
LXRPIE10 347
LXRPIE11 349
LXRPIE12 352
LXRPIE13 354
LXRPIE14 356, 518
LXRPIE15 358, 519
LXRPIE16 360
LXRPIE17 362
LXRPIE18 365
LXRPIE19 367
LXRPIE20 369
LXRPIF01 371
LXRPIF02 373
LXRPIF03 375

LXRPIF04 377
LXRPIF05 379
LXRPIF06 381
LXRPIF07 383
LXRPIF08 385
LXRPIF09 387
LXRPIF10 390
LXRPIF11 392
LXRPIF12 394
LXRPIF13 396
LXRPIF14 398
LXRPIF15 400
LXRPIF16 402
LXRPIG01 404
LXRPIG02 406
LXRPIG04 408
LXRPIG05 409
LXRPIG09 410
LXRPIG10 412
LXRPIG11 414
LXRPIG12 416
LXRPIZ01 418
LXRPIZ03 420
LXRPIZ04 421
LXRPIZ05 423
LXRPIZ06 424
LXRPIZ07 425
LXRPIZ08 426
LXRPIZ09 427
LXRPIZ10 428
LXRPIZ11 429

S

SJIS 17

U

Unicode 17

Unicode 対応版の仕様 528

W

Windows 用標準サブルーチンの適用方法 19

い

一部製品に含まれる旧仕様ライブラリ 538

一貫日→年月日 (西暦) 変換 214

一貫日→年月日 (和暦) 変換 216

インタフェーステーブルの変更 530

インチ→センチメートル変換 423

う

有無チェック/変換 414

うるう年判定 (西暦) 206

うるう年判定 (和暦) 208

え

英数字チェック/編集 94

か

学歴区分コードチェック/変換 406

カスタマイズ情報設定ファイルによる設定情報の変更
439

カスタマイズ情報設定ファイルの設定情報の記載順序
439

カスタマイズ情報設定ファイルの設定例 453

カスタマイズ情報設定ファイルのチェック 442

カスタマイズ情報設定ファイルのチェックの概要 40

可否チェック/変換 416

漢字交互挿入 123

漢字交互挿入 (含外字) 133

漢字コードチェック 105

漢字コードチェック (含外字) 107

漢字シフト 109

漢字チェック/編集サブルーチンの一覧 43

漢字データ中央揃え 115

漢字データ左詰め 111

漢字データ右詰め 113

漢字データ有効桁数算出 117

勘定科目コードチェック/変換 409

き

期間算出 (西暦年月日間日数) 184

期間算出 (西暦年月日間年月日) 188

期間算出 (和暦年月日間日数) 186

期間算出 (和暦年月日間年月日) 190

機能キャラクタ削除 127

休日の変更 435

キログラム→ポンド変換 427

金額編集 387

く

空白削除 76

空白削除 (漢字データ) 119

け

経過時間算出 (12 時間単位) 343

経過時間算出 (24 時間単位) 341

月末日算出 (西暦年月日) 192

月末日算出 (和暦年月日) 193

こ

後方スペース機能キャラクタ置換 86

項目チェック/編集サブルーチンの一覧 48

コードチェック/編集サブルーチンの一覧 48

互換性のあるサブルーチンの提供 17

混在文字列チェック 90

混在文字列チェック (含外字) 92

し

時間 (秒) →時間変換 367

時間 (秒) →時間変換編集 362

時間加算 345

時間差算出 347

時間チェック 360

時間チェック/編集サブルーチンの一覧 47

時間編集 369

時間→時間 (秒) 変換 365

時刻妥当性チェック (12 時間) 335

時刻妥当性チェック (24 時間) 333

時刻編集 349
システム日付取得変換 (8桁) 319
実在日チェック (西暦) 159
実在日チェック (和暦) 161
指定文字削除 74
氏名 (漢字) 結合編集 379
氏名 (漢字) 結合編集 (含外字) 402
氏名 (漢字) チェック 371
氏名 (漢字) チェック (含外字) 398
氏名 (漢字) 分離編集 375
氏名 (漢字) 分離編集 (含外字) 400
氏名 (半角カナ) 結合編集 381
氏名 (半角カナ) チェック 373
氏名 (半角カナ) 分離編集 377
祝祭日区分設定情報 441
祝祭日区分を出力するサブルーチン 465
祝祭日の変更 434
祝祭日・休日の有効期間 532
出力項目に年号 (漢字) が追加されるサブルーチン 464
出力項目に和暦年号コード (英字) が追加されるサブルーチン 464
出力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチン 463
出力用項目の年号 (漢字) または年号コードをユーザが選択出力できるサブルーチン 465
情報設定ファイルに起因するエラーリターンコード 522
処理期限年月日算出 (西暦) 321
処理期限年月日算出 (和暦) 323
新年号情報に設定変更した場合に影響があるリターンコード 521
新年号情報に設定変更した場合に追加および変更になるリターンコード 521
新年号設定情報 439

す

数字チェック/数値変換 96
数字チェック/右詰め編集 68
数字範囲チェック/数値変換 99

数字文字列コンマ挿入 70
数字文字列チェック/入力編集 66

せ

性別コードチェック/変換 404
設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチン 466
設定情報を変更した場合に影響を受ける標準サブルーチンの一覧 462
全角空白→半角空白置換 129
全角→半角変換 140
センチメートル→インチ変換 424

そ

そのほかの変換編集サブルーチンの一覧 49

た

第1文字列取得 80

ち

チェック結果の確認 445
チェックツールの格納ディレクトリおよび動作文字コード区分 442
チェックツールの使用方法 443
チェックディジット計算 421
地目コードチェック/変換 408

つ

通算週算出 (年始～西暦年月日) 195
通算週算出 (年始～和暦年月日) 196
通算日算出 (年始～西暦年月日) 325
通算日算出 (年始～和暦年月日) 327

て

データ中心アプローチ 18
電話番号編集 418

と

都道府県コードチェック/変換 412

に

日時加減算 (西暦 12 時間単位)	352
日時加減算 (西暦 24 時間単位)	354
日時加減算 (和暦 12 時間単位)	356
日時加減算 (和暦 24 時間単位)	358
日数算出 (西暦年月日～月末日)	218
日数算出 (和暦年月日～月末日)	220
入力項目に和暦新年号コード (数字および英字) が追加されるサブルーチン	462
入力項目に和暦年号コード (数字) が追加されるサブルーチン	463

ね

年 (西暦) 過去チェック	303
年 (西暦) チェック	299
年 (西暦) 未来チェック	307
年 (和暦) 過去チェック	305
年 (和暦) チェック	301
年 (和暦) 未来チェック	309
年月日 (西暦) 過去チェック	237
年月日 (西暦) 編集	247
年月日 (西暦) 未来チェック	242
年月日 (西暦) →一貫日変換	210
年月日 (西暦) →曜日算出	222
年月日 (和暦) 過去チェック	239
年月日 (和暦) 編集	249
年月日 (和暦) 未来チェック	244
年月日 (和暦) →一貫日変換	212
年月日 (和暦) →曜日算出	223
年月日算出 (西暦年月日±月数)	176
年月日算出 (西暦年月日±日数)	180
年月日算出 (西暦年月日±年数)	172
年月日算出 (和暦年月日±月数)	178
年月日算出 (和暦年月日±日数)	182
年月日算出 (和暦年月日±年数)	174
年月日出力編集 (西暦)	202
年月日出力編集 (和暦)	204
年月日範囲内チェック (西暦)	163
年月日範囲内チェック (和暦)	165

年月日分類 (西暦)	198
年月日分類 (和暦)	200
年月日変換 (西暦→和暦)	167
年月日変換 (西暦→和暦) 編集	252
年月日変換 (和暦→西暦)	170
年基準日取得	318
年月 (西暦) 過去チェック	258
年月 (西暦) チェック	254
年月 (西暦) 編集	266
年月 (西暦) 未来チェック	262
年月 (和暦) 過去チェック	260
年月 (和暦) チェック	256
年月 (和暦) 編集	268
年月 (和暦) 未来チェック	264
年月変換 (西暦→和暦)	272
年月変換 (西暦→和暦) 編集	270
年月変換 (和暦→西暦)	274
年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズ	436
年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの概要	38
年号および祝祭日の設定情報のカスタマイズの流れ	436
年号および祝祭日の変更で考慮する内容	433
年号コードチェック/編集	227
年号コード変換 (英字→数字)	229
年号コード変換 (数字→英字)	231
年号の追加	433
年度 (西暦) 過去チェック	280
年度 (西暦) チェック	276
年度 (西暦) 編集	288
年度 (西暦) 未来チェック	284
年度 (和暦) 過去チェック	282
年度 (和暦) チェック	278
年度 (和暦) 編集	290
年度 (和暦) 未来チェック	286
年度基準日取得	317
年度変換 (西暦→和暦)	295
年度変換 (西暦→和暦) 編集	293
年度変換 (和暦→西暦)	297
年変換 (西暦→和暦)	313

年変換（西暦→和暦）編集 311
年変換（和暦→西暦） 315
年齢（年月）算出（慣習） 329
年齢（年月）算出（法律） 331
年齢計算（慣習） 233
年齢計算（法律） 235

は

バイナリ→16進文字列変換 152
バイナリ→2進文字列変換 154
パラメータ解析 429
半角カナ文字入力チェック 88
半角空白→全角空白置換 131
半角→全角変換 137

ひ

日付チェック／編集サブルーチンの一覧 44
標準サブルーチン 17
標準サブルーチンがサポートする文字コード 17
標準サブルーチンが取り込む設定情報の変更に必要なファイル 37
標準サブルーチン仕様書 50
標準サブルーチン仕様書の記載内容 50
標準サブルーチンで年号および祝祭日の変更に対応する方法 432
標準サブルーチンの一覧 42
標準サブルーチンの仕様 41
標準サブルーチンの適用方法 19
標準サブルーチンの特徴 17
標準サブルーチンの年号および祝祭日区分の変更への対応 37
標準サブルーチンの分類 36
標準サブルーチンの命名基準 36
標準サブルーチンの呼び出し方法 34

ふ

ファイルおよびエラーコード追加 540
不当漢字コード置換 125
不当漢字コード置換（含外字） 135
不要空白削除 78

不要空白削除（漢字データ） 121
フラグチェック／変換 410

へ

平方根算出 420

ほ

ポンド→キログラム変換 428

め

メートル→ヤード変換 426

も

文字コードチェック 52
文字属性チェック 54
文字列交互挿入 82
文字列コード変換サブルーチンの一覧 43
文字列シフト 56
文字列切断 103
文字列前後反転 72
文字列チェック／編集サブルーチンの一覧 42
文字列中央揃え 62
文字列左詰め 58
文字列右詰め 60
文字列有効桁数算出 64

や

ヤード→メートル変換 425

ゆ

郵便番号チェック／出力編集 385
郵便番号チェック／出力編集（5桁および7桁） 392
郵便番号チェック／出力編集（7桁） 396
郵便番号チェック／入力編集 383
郵便番号チェック／入力編集（5桁および7桁） 390
郵便番号チェック／入力編集（7桁） 394

よ

曜日コードチェック／編集 225